

資料 4 - 3

泊発電所 3 号炉審査資料	
資料番号	SAT111-9 r.5.0
提出年月日	令和5年4月18日

泊発電所 3 号炉

「実用発電用原子炉に係る発電用原子炉設置者の
重大事故の発生及び拡大の防止に必要な措置を
実施するために必要な技術的能力に係る審査基準」
に係る適合状況説明資料
比較表

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

令和 5 年 4 月
北海道電力株式会社

枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
比較結果等を取りまとめた資料			
1. 先行審査実績を踏まえた泊3号炉まとめ資料の変更状況(2017年3月以降)			
1-1) 設計方針・運用・体制等を変更し、まとめ資料を修正した箇所と理由			
a. 大飯3/4号炉まとめ資料と比較した結果、変更したもの : なし b. 他社審査会合の指摘事項等を確認した結果、変更したもの : なし c. 当社が自主的に変更したもの : 下記3件 ・屋外に設置していた自主対策設備の淡水源である「代替屋外給水タンク」を溢水対策に伴い撤去し、新たに「代替給水ピット」を設置するため、関連する資料を修正した。【例：比較表p 1.11-13】 ・屋外に設置する自主対策設備であるろ過水タンク及び2次系純水タンクの溢水対策に伴い、タンクの耐震化、タンク容量の見直しに伴う2次系純水タンクの設置数の見直し（4基⇒2基）等の変更を行ったため、関連する資料を修正した。【添付資料1.11.3】 ・防潮堤変更に伴うアクセスルート見直しによる可搬型設備の屋外ホース敷設ルート図の変更。【例：比較表p 1.11-105】			
1-2) 設計方針・運用・体制を変更するものではないが、まとめ資料の記載の充実を行った箇所と理由			
a. 大飯3/4号炉まとめ資料と比較した結果、変更したもの : なし b. 女川2号炉まとめ資料と比較した結果、変更したもの : 下記1件 ・資料構成は、炉型が同じである大飯3/4号炉の対応手段及び操作手順の参照を基本とした上で、配管・弁の流路等を含めた設備の選定方針、文章構成や記載表現については、女川2号炉の審査実績を反映している。また、各図面においても、女川2号炉の審査実績を踏まえた資料構成や記載の充実化等の見直しを行っている。 c. 他社審査会合の指摘事項等を確認した結果、変更したもの : なし d. 当社が自主的に変更したもの : なし			
1-3) バックフィット関連事項			
a. 技術的能力審査基準1.11 解釈変更に伴う適合方針は、「添付資料1.11.21 使用済燃料貯蔵槽から発生する水蒸気による悪影響を防止するための対策」にて整理している（KK6/7 審査知見反映）。			
技術的能力審査基準1.11 解釈変更内容抜粋 【解釈】2 b) 想定事故1及び想定事故2が発生した場合において発生する水蒸気が重大事故等対処設備に悪影響を及ぼす可能性がある場合は、当該悪影響を防止するために必要な手順等を整備すること。			
・使用済燃料ピット（以下「SFP」という。）を設置している燃料取扱棟は、周辺の建屋と区画されていることから、SFPから発生した水蒸気の影響範囲は燃料取扱棟内となる。 ・燃料取扱棟内に設置されている重大事故等対処設備は、SFP監視設備であるが、高温及び高湿度の環境での使用にも耐えられる構造及び環境条件（温度100℃、湿度100%）で設計することとしている。 ・さらに、想定事故1、2の有効性評価において、SFP水が沸騰状態となる前に注水準備が完了することを確認しており、水蒸気の発生を抑制でき、短時間に大量の水蒸気が発生する状況にはならない。			

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>2. 大飯3/4号炉まとめ資料との比較結果の概要</p> <p>2-1) 設備の相違（以下については、相違理由欄にNo.を記載する）</p>			
No.	大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由
①	<p>【常用設備による使用済燃料ピットへの注水に使用する設備（淡水）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・No. 3淡水タンク 	<p>【常用設備による使用済燃料ピットへの注水に使用する設備（淡水）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2次系純水タンク ・2次系補給水ポンプ 	<p>【設計方針の相違（自主対策設備）】（例：比較表 p 1.11-12）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大飯3/4号炉は、No. 3淡水タンクの淡水をポンプを使用せず重力注水により使用済燃料ピットへ注水する。 ・泊3号炉は、2次系純水タンクの淡水を2次系補給水ポンプを起動して使用済燃料ピットへ注水する。（高浜3/4号炉と同様） ・設備は相違するが、淡水を使用済燃料ピットへ注水する機能に相違はなく、自主対策設備による対応手段の相違。
②	<p>【常用設備による使用済燃料ピットへの注水に使用する設備（淡水）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・No. 2淡水タンク（屋内消火栓又は屋外消火栓を使用） 	<p>【常用設備による使用済燃料ピットへの注水に使用する設備（淡水）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ろ過水タンク（屋内消火栓を使用） ・電動機駆動消火ポンプ ・ディーゼル駆動消火ポンプ 	<p>【設計方針の相違（自主対策設備）】（例：比較表 p 1.11-12）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大飯3/4号炉は、No. 2淡水タンクの淡水を屋内消火栓又は屋外消火栓から重力注水により使用済燃料ピットへ注水する。 ・泊3号炉は、ろ過水タンクを水源として消火ポンプを起動して屋内消火栓から使用済燃料ピットへ注水する。 ・設備は相違するが、淡水を使用済燃料ピットへ注水する機能に相違はなく、自主対策設備による対応手段の相違。 ・ろ過水タンクを水源として消火ポンプを起動し、消火栓を用いて使用済燃料ピットへ注水する設計方針は、高浜3/4号炉と同様である（高浜3/4号炉は、「1,2号機淡水タンクから使用済燃料ピットへの注水」の手順を整備している。）。
③	<p>【可搬型設備による使用済燃料ピットへの注水に使用する設備（淡水）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポンプ車 ・No. 3淡水タンク ・No. 2淡水タンク 	<p>【可搬型設備による使用済燃料ピットへの注水に使用する設備（淡水）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可搬型大型送水ポンプ車 ・代替給水ピット ・原水槽 ・ろ過水タンク ・2次系純水タンク 	<p>【設計方針の相違（重大事故等対処設備又は自主対策設備）】（例：比較表 p 1.11-13）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大飯3/4号炉は、No. 3淡水タンク又はNo. 2淡水タンクの淡水をポンプ車により使用済燃料ピットへ注水し、海水を注水する場合は送水車を用いる。 ・泊3号炉は、淡水である代替給水ピット及び原水槽を注水する場合と海水を注水する場合はいずれも可搬型大型送水ポンプ車を使用する。なお、淡水である2次系純水タンク及びろ過水タンクは、原水槽への補給に使用する。 ・設備は相違するが、淡水又は海水を使用済燃料ピットへ注水する機能に相違はなく、淡水を注水する手段を自主対策設備、海水を注水する手段を重大事故等対処設備による対応手段として整備する設計方針は大飯3/4号炉と相違なし。 ・淡水又は海水を可搬型大型送水ポンプ車により使用済燃料ピットへ注水する設計方針は、伊方3号炉と同様である（伊方3号炉は、淡水タンク又は海を水源とした中型ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水手段を整備している。）。
	<p>【可搬型設備による使用済燃料ピットへの注水に使用する設備（海水）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・送水車 	<p>【可搬型設備による使用済燃料ピットへの注水に使用する設備（海水）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可搬型大型送水ポンプ車 	
<p>※ 相違点を強調する箇所を下線部にて示す。</p> <p>※ 本比較結果の概要において、設備を比較する場合は、女川2号炉の審査実績により追加した配管・弁等の記載は省略している。</p>			

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉		女川原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉		相違理由	
<p>2-1) 設備の相違（以下については、相違理由欄にNo.を記載する）</p>							
No.	大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由				
④	<p>【使用済燃料ピットからの大量の水の漏えい発生時の使用済燃料ピット又は原子炉周辺建屋（貯蔵槽内燃料体等）へのスプレイ及び放水に使用する重大事故等対処設備（海水）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・送水車 ・スプレイヘッダ 	<p>【海を水源とした使用済燃料ピットへの注水／スプレイで使用する重大事故等対処設備（海水）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可搬型大型送水ポンプ車 ・可搬型スプレイノズル 	<p>【設計方針の相違（重大事故等対処設備及び自主対策設備）】（例：比較表 p 1.11-16, 17）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大飯 3/4 号炉は、送水車及びスプレイヘッダによる使用済燃料ピットへのスプレイ、原子炉周辺建屋（貯蔵槽内燃料体等）へのスプレイ及び放水を実施する手順を整備している。 ・泊 3 号炉は、可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレイノズルにより建屋内部から使用済燃料ピットへのスプレイを実施する手順を整備している。建屋外部からの放水を行う場合は、大流量かつ広範囲に放水できる可搬型大容量海水送水ポンプ車及び放水砲を使用する手順を整備しており、設計方針は伊方 3 号炉及び玄海 3/4 号炉と同様である。 ・泊 3 号炉は、水源切替えによる使用済燃料ピットへのスプレイの中断が発生しない海を水源とする手段を重大事故等対処設備による対応手段とし、淡水である代替給水ピット及び原水槽は耐震性が確保されていないため、自主対策設備と位置付けている。原水槽は 2 次系純水タンク又はろ過水タンクから水頭圧による重力注水により補給する。 ・設計方針は異なるが、自主対策設備による対応手段の相違であり、海を水源として使用済燃料ピットへスプレイする手段を重大事故等対処設備による対応手段として整備する設計方針に相違なし。 				
	— (泊3号炉との比較対象なし)	<p>【使用済燃料ピットへのスプレイに使用する自主対策設備（淡水）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可搬型大型送水ポンプ車 ・可搬型スプレイノズル ・代替給水ピット ・原水槽 ・2次系純水タンク ・ろ過水タンク 					
⑤	<p>【1.11.2.1 (1) 「燃料取替用水ピットから使用済燃料ピットへの注水」の手順着手の判断基準】</p> <p>「計画外に使用済燃料ピットポンプの全台停止等により冷却機能が喪失した場合若しくは使用済燃料ピット温度が 50℃を超える場合、又は使用済燃料ピット水位が計画外に E.L. +33.06m 以下まで低下している場合。」</p>	<p>【1.11.2.1 (1) a. 「燃料取替用水ポンプによる使用済燃料ピットへの注水」の手順着手の判断基準】</p> <p>「計画外に使用済燃料ピットポンプの全台停止等により冷却機能が喪失した場合若しくは使用済燃料ピット温度が 60℃を超える場合、又は使用済燃料ピット水位が計画外に T.P. 32.58m 以下まで低下している場合。」</p>	<p>【設計方針の相違（使用済燃料ピット警報設定値）】（例：比較表 p 1.11-29）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手順着手の判断基準に用いる水位の違いは、プラント固有の使用済燃料ピット設置レベルの相違による水位低警報設定値の相違。 ・大飯 3/4 号炉は、使用済燃料ピットの熱負荷が使用済燃料ピット冷却器における除熱量を上回ることが考えられる水温を管理の目標値として設定している。 ・泊 3 号炉は使用済燃料ピットのコンクリート保護の制限値の観点から設定している保安規定制限値 65℃に対して、保守性を持たせた 60℃（温度高警報設定値）を作業着手の判断基準としている。コンクリート保護の観点から手順着手の判断基準を設定している点では、65℃を管理の目標値としている伊方 3 号炉及び玄海 3/4 号炉も同様。 ・女川 2 号炉は、泊 3 号炉と温度高警報設定値は異なるものの、泊 3 号炉と同様の考え方で使用済燃料プールの保安規定制限値 65℃に対して、保守性を持たせた 57℃（温度高警報設定値）を作業着手の判断基準にしている。 ・手順着手の判断基準に用いる水位及び水温の設定値はプラントごとに異なるものの、有効性評価「想定事故 1」及び「想定事故 2」において、使用済燃料ピット水位が放射線の遮蔽を維持できる最低水位まで低下するまでに十分な時間余裕を持って重大事故等対処設備である可搬型大型送水ポンプ車により使用済燃料ピットへ海水を注水することが可能であることを示している点では各プラント同様である。 				

※ 相違点を強調する箇所を下線部にて示す。

※ 本比較結果の概要において、設備を比較する場合は、女川 2 号炉の審査実績により追加した配管・弁等の記載は省略している。

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉		女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
2-1) 設備の相違（以下については、相違理由欄に No.を記載する）				
No.	大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由	
⑥	【使用済燃料ピットからの漏えい緩和に使用する資機材】 ・ ゴムシート ・ 鋼板 ・ 防水テープ ・ 吸水性ポリマー ・ 補修材 ・ ロープ（吊り降ろし用）	【使用済燃料ピット漏えい緩和に使用する資機材】 ・ ガasket材 ・ ガasket接着剤 ・ ステンレス鋼板 ・ 吊り下ろしロープ	【設計方針の相違（自主対策設備）】（例：比較表 p 1.11-18） ・ 大飯3/4号炉は、使用済燃料ピット漏えい緩和対策として、鋼板による使用済燃料ピット内側からの漏えい緩和を行う手段に加えて、防水テープ、吸水性ポリマー及び補修材による使用済燃料ピット冷却配管からの漏えい緩和の資機材を配備している。 ・ 泊3号炉の鋼板による対応手段を使用済燃料ピット漏えい緩和対策とする方針は、伊方3号炉、川内1/2号炉、玄海3/4号炉及び女川2号炉と相違はなく、自主対策設備による対応手段の相違。なお、使用済燃料ピット冷却配管からの漏えいに対して、使用済燃料ピット水浄化冷却設備出口配管側はサイフォンプレーカの機能により、使用済燃料ピット水浄化冷却設備入口配管側は配管の設置位置により使用済燃料等の遮へいに十分な必要な水位で漏えいが停止する設計である。	
※ 相違点を強調する箇所を下線部にて示す。				

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉		女川原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉		相違理由	
2-2) 運用の相違（以下については、相違理由欄に No.を記載する）							
No.	大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由				
①	【使用済燃料ピットへの注水の優先順位】 ・1次系純水タンクを水源とした使用済燃料ピットへの注水は 第7優先	【使用済燃料ピットへの注水の優先順位】 ・1次系純水タンクを水源とした使用済燃料ピットへの注水は 第3優先	【設計方針の相違（自主対策設備）】 （例：比較表 p 1.11-32） ・使用済燃料ピットへの注水は、設計基準対象施設の水源による注水手段が可能であれば、燃料取替用水ピット、2次系純水タンク（大飯3/4号炉は「No. 3淡水タンク」）の順で注水する手順に相違はないが、第3優先以降の水源の選択に相違がある。 ・大飯3/4号炉の第3優先以降の水源は、容量の大きい淡水タンクからの注水を優先し、複数ある淡水タンクの注水手段のうち準備時間の早い手段から注水する手順であり、容量の小さい1次系純水タンクの優先順位は第7優先としている。 ・泊3号炉は、準備時間が早い水源から優先する手順であり、1次系純水タンクからの注水は第3優先としている。1次系純水タンクの容量は少ないものの、約2時間の連続注水が可能である。 ・優先順位の考え方は相違するが、いずれも自主対策設備による対応手段の相違であり、重大事故等対処設備である可搬型大型送水ポンプ車（大飯3/4号炉は「送水車」）により継続して使用済燃料ピットへ海水を注水する手段を整備していることに相違なし。				
②	【「海水から使用済燃料ピットへの注水」の手順着手の判断基準】 ・「計画外に使用済燃料ピットポンプの全台停止等により冷却機能が喪失した場合若しくは使用済燃料ピット温度が50℃を超える場合、又は使用済燃料ピット水位が計画外に E. L. +33.06m 以下まで低下している場合であって、かつ燃料取替用水ピット及びNo. 3淡水タンクの機能が喪失した場合又は燃料取替用水ピット及びNo. 3淡水タンクからの注水を実施しても水位低下が継続する場合。」	【「海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水」の手順着手の判断基準】 ・「計画外に使用済燃料ピットポンプの全台停止等により冷却機能が喪失した場合若しくは使用済燃料ピット温度が60℃を超える場合、又は使用済燃料ピット水位が計画外に T. P. 32.58m 以下まで低下している場合。」	【設計方針の相違（重大事故等対処設備）】 （例：比較表 p 1.11-37） ・泊3号炉の有効性評価「想定事故1」及び「想定事故2」で考慮する対応手段である「海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水」の手順は、使用準備に時間を要することから、先行PWRの実績を踏まえて、使用済燃料ピットが沸騰するまでに余裕をもって注水開始できるよう、設計基準対象施設である燃料取替用水ポンプ等を用いた対応手段と同時に作業準備に着手する。 ・大飯3/4号炉の同じ有効性評価で考慮する対応手段である「海水から使用済燃料ピットへの注水」については、設計基準対象施設である燃料取替用水ピット及びNo. 3淡水タンクによる注水に失敗した場合に作業準備に着手する。 ・設計基準対象施設である燃料取替用水ポンプ等を用いた対応手段と同時に可搬型ポンプによる対応手段に作業着手する運用は泊3号炉固有であるが、使用済燃料ピットが沸騰するまでに時間余裕をもって海水を注水開始できる点では、先行PWRプラントと同様である。なお、使用済燃料ピットが沸騰するまでの時間余裕については高浜3/4号炉と同等である。（想定事故2において、100℃到達時間と可搬型ポンプによる使用済燃料ピットへの注水開始までの時間の差は高浜3/4号炉約1時間、泊3号炉約1.4時間）				

※ 相違点を強調する箇所を下線部にて示す。

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉		女川原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉		相違理由	
<p>2-3) 記載方針の相違（以下については、相違理由欄に No.を記載する）</p>							
No.	大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由				
①	<p>【「1.11.1 (2) d. 手順等」の記載】</p> <p>これらの手順は、<u>発電所対策本部長</u>^{*2}、<u>当直課長</u>、<u>運転員等</u>^{*3}及び<u>緊急安全対策要員</u>^{*4}の対応として、使用済燃料ピットの冷却機能が喪失した場合の手順等に定める（第1.11.1表～第1.11.3表）。</p> <p>※ 2 発電所対策本部長：重大事故等発生時における発電所原子力防災管理者及び代行者をいう。</p> <p>※ 3 運転員等：運転員及び重大事故等対策要員のうち当直課長の指示に基づき運転対応を実施する要員をいう。</p> <p>※ 4 緊急安全対策要員：重大事故等対策要員のうち発電所対策本部長の指示に基づき対応する運転員等以外の要員をいう。</p>	<p>【「1.11.1 (2) d. 手順等」の記載】</p> <p>これらの手順は、<u>発電課長</u>（当直）、<u>運転員</u>、<u>災害対策要員</u>及び<u>災害対策要員（支援）</u>の対応として、使用済燃料ピット水浄化冷却設備の異常時における対応手順等に定める（第1.11.1表）。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大飯3/4号炉は、技術的能力1.0にて整理する要員の名称以外に「運転員等」という名称を使用していることから、要員名称の定義を記載している。（例：比較表p1.11-24） 泊3号炉は、技術的能力1.0にて整理する要員の名称を記載している場合、改めて要員名称の定義は記載しないこととしている。この記載方針は伊方3号炉、女川2号炉、柏崎6/7号炉及び島根2号炉と同様。 				
②	<p>【燃料補給手順の記載箇所】</p> <p>・送水車及び大容量ポンプ（放水砲用）への燃料補給の手順は、<u>技術的能力1.6</u>で整備する。</p>	<p>【燃料補給手順の記載箇所】</p> <p>・可搬型大型送水ポンプ車への燃料補給の手順は、<u>技術的能力1.14</u>で整備する。</p> <p>・可搬型大容量海水送水ポンプ車への燃料補給の手順は、<u>技術的能力1.14</u>で整備する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大飯3/4号炉の送水車及び大容量ポンプは、代替格納容器スプレイや格納容器内自然対流冷却で使用する重大事故等対処設備でもあることから、技術的能力1.6にて燃料補給の手順を整備している。（例：比較表p1.11-71） 泊3号炉は女川2号炉の審査実績を反映し、燃料補給に関する手順は技術的能力1.14に記載する方針のため、大飯とは手順の参照先が相違する。（例：比較表p1.11-71） 大飯3/4号炉と手順の記載条文は異なるが、燃料補給が必要な重大事故等対処設備に対して燃料補給の手順を整備していることに相違なし。 				
③	<p>【可搬式使用済燃料ピット区域周辺エリアモニタによる使用済燃料ピット区域の空間線量率の推定】</p> <p>「複数の設置場所での線量率の相関（減衰率）関係进行评估し、各設置場所間での関係性を把握し、指示値の傾向を確認することで使用済燃料ピット区域の空間線量率を推定する。」</p>	<p>【使用済燃料ピット可搬型エリアモニタによる使用済燃料ピット区域の空間線量率の推定】</p> <p>「使用済燃料ピット可搬型エリアモニタは、取り付けを想定する複数の場所の線量率と使用済燃料ピット区域の空間線量率の相関（減衰率）をあらかじめ評価しておくことで使用済燃料ピット区域の空間線量率を推定する。」</p>	<p>【記載方針の相違（重大事故等対処設備）】（例：比較表p1.11-65）</p> <ul style="list-style-type: none"> 可搬型エリアモニタの設置場所での線量率を評価しておき、その線量率と指示値を比較して空間線量率を推定する手順であることに相違なし。 泊の使用済燃料ピット可搬型エリアモニタによる使用済燃料ピット区域の空間線量率の推定手順は、SA54条のまとめ資料において記載する手順を引用しており、内容は伊方3号炉SA54条まとめ資料記載手順と同様である。 				

※ 相違点を強調する箇所を下線部にて示す。

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
2-4) 記載表現、設備名称等の相違（以下については、相違理由を省略する）			
大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由	
・多様性拡張設備	・自主対策設備	・記載表現の相違（例：比較表 p 1.11-10） ・女川審査実績の反映	
・使用済燃料ピット内の燃料体又は使用済燃料（以下「貯蔵槽内燃料体等」という。）	・使用済燃料プール内の燃料体又は使用済燃料（以下「使用済燃料ピット内の燃料体等」という。）	・記載表現の相違（例：比較表 p 1.11-8） ・女川審査実績の反映	
・原子炉周辺建屋（貯蔵槽内燃料体等）	・燃料取扱棟（使用済燃料ピット内の燃料体等）	・設備名称の相違（例：比較表 p 1.11-9） ・使用済燃料ピットを設置し、周辺建屋と区画したエリアであることに相違ないため、「設備名称の相違」に分類する。	
・ポンプ車	・可搬型大型送水ポンプ車	・設備名称の相違（例：比較表 p 1.11-13） ・大飯3/4号炉のポンプ車は淡水を水源とした手段に使用する多様性拡張設備。設備の仕様は異なるが、設備が持つ機能に相違はないため、「設備名称の相違」に分類する。	
・送水車	・可搬型大型送水ポンプ車	・設備名称の相違（例：比較表 p 1.11-13） ・大飯3/4号炉のポンプ車は海水を水源とした手段に使用する重大事故等対処設備。設備の仕様は異なるが、設備が持つ機能に相違はないため、「設備名称の相違」に分類する。	
・大容量ポンプ（放水砲用）	・可搬型大容量海水送水ポンプ車	・設備名称の相違（例：比較表 p 1.11-19）	
・ゴムシート	・ガスケット材、ガスケット接着剤	・設備名称の相違（例：比較表 p 1.11-18）	
・鋼板	・ステンレス鋼板	・資機材の仕様は異なるが、機能に相違はないため、「設備名称の相違」に分類する	
・ロープ（吊り降ろし用）	・吊り下ろしロープ		
・可搬式使用済燃料ピット水位	・使用済燃料ピット水位（可搬型）	・設備名称の相違（例：比較表 p 1.11-21）	
・可搬式使用済燃料ピット区域周辺エリアモニタ	・使用済燃料ピット可搬型エリアモニタ	・設備名称の相違（例：比較表 p 1.11-21）	
・使用済燃料ピット監視カメラ	・使用済燃料ピット監視カメラ（使用済燃料ピット監視カメラ空冷装置を含む。）	・設備名称の相違（例：比較表 p 1.11-21）	
・使用済燃料ピット監視カメラ冷却装置			
・使用済燃料ピット区域エリアモニタ	・使用済燃料ピットエリアモニタ	・設備名称の相違（例：比較表 p 1.11-21）	
・可搬型ホース	・消防ホース	・設備名称の相違（例：比較表 p 1.11-35） ・泊の消防ホースは消火栓を使用する場合に使うホースの名称。	
【使用済燃料ピットへの注水の手順名称】 ・燃料取替用水ピットから使用済燃料ピットへの注水 ・1次系純水タンクから使用済燃料ピットへの注水 ・海水から使用済燃料ピットへの注水	【使用済燃料ピットへの注水の手順名称】 ・燃料取替用水ポンプによる使用済燃料ピットへの注水 ・1次系補給水ポンプによる使用済燃料ピットへの注水 ・海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水	・記載表現の相違（例：比較表 p 1.11-11～13） ・大飯3/4号炉と手順に相違はないが、手順項目の名称の記載方針に相違がある。 ・大飯3/4号炉は、使用済燃料ピットへ注水するための水源に着目とした名称。（～タンクによる～への注水） ・泊3号炉は、他条文と記載を統一するため、使用済燃料ピットへ注水するためのポンプに着目した名称としている。（～ポンプによる～への注水）	

※ 相違点を強調する箇所を下線部にて示す。

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
2-4) 記載表現、設備名称等の相違（以下については、相違理由を省略する）			
大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由	
・使用済燃料ピットの冷却機能が喪失した場合の手順	・使用済燃料ピット水浄化冷却設備の異常時における対応手順	・手順名称の相違（例：比較表 p 1.11-24）	
・定期検査	・定期事業者検査	・記載表現の相違（例：比較表 p 1.11-15）	
・使用済燃料ピット出口配管	・使用済燃料ピット水浄化冷却設備入口配管	・設備名称の相違（例：比較表 p 1.11-53） ・泊3号炉では、使用済燃料ピットからの出口配管ではなく、使用済燃料ピット水浄化冷却設備としての入口配管で記載。そのため大飯とは出口と入口が逆の記載となる。	
・携帯型水位、水温計	・携帯型水位・水温計	・設備名称の相違（例：比較表 p 1.11-21） ・泊の名称は高浜3/4号炉と同じ。	
※ 相違点を強調する箇所を下線部にて示す。			
2-5) 相違識別の省略（以下については、各対応手順の共通の相違理由のため、本文中の相違識別と相違理由は省略する）			
大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	相違理由	
【「操作手順」の対応要員】 ・当直課長 ・運転員等 ・発電所対策本部長 ・緊急安全対策要員	【「操作手順」の対応要員】 ・発電課長（当直） ・運転員 ・災害対策要員 ・災害対策要員（支援）	・対応要員、要員名称の相違（例：比較表 p 1.11-38） ・泊3号炉の本審査項目で整理する操作手順は、発電課長（当直）の指示により運転員、災害対策要員及び災害対策要員（支援）にて対応するため、発電所対策本部長へ依頼する作業はない。また、可搬型設備を取り扱う災害対策要員は、運転班の要員であることから、運転員と災害対策要員は連携して対応が可能である。 ・大飯3/4号炉の要員名称の定義については「記載方針の相違①」にて整理する。 ・大飯3/4号炉の本審査項目で整理する操作手順は、当直課長の指示により運転員等が対応するとともに、発電所対策本部長の指示により緊急安全対策要員が対応する。なお、手順着手は当直課長が判断し、運転員等と発電所対策本部長へ作業開始を指示する。 ・操作手順の比較において、これら要員名称の相違、作業開始指示及び完了報告に関する事項の相違識別は省略する。	
【「操作の成立性」の対応要員と所要時間】 「上記の対応は中央制御室にて1ユニット当たり運転員等〇名、現場にて1ユニット当たり運転員等〇名により作業を実施し、所要時間は約〇分と想定する。」	【「操作の成立性」の対応要員と所要時間】 「上記の操作は、運転員（中央制御室）〇名、運転員（現場）〇名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから〇〇開始まで〇分以内で可能である。」	・泊3号炉は複数号炉の審査ではないため、「1ユニット当たり」の記載は必要ない。（例：比較表 p 1.11-30） ・対応要員・操作対象機器の配置場所等の相違により、各対応手段の所要時間は相違することから、対応要員数と所要時間の相違識別は省略する。（例：比較表 p 1.11-30） ・なお、第1.11.1表「機能喪失を想定する設計基準対象施設と整備する手順」の「設備分類b（37条に適合する重大事故等対処設備）」に該当する対応手段については、重大事故対策の有効性評価における各事故シーケンスにおいて、重大事故等対策の成立性を確認しており、各対応手段が要求される時間までに実施可能であることに相違はない。	
※ 相違点を強調する箇所を下線部にて示す。			

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
3. 女川2号炉まとめ資料との比較結果の概要 3-1) 設備の相違（以下については、相違理由欄にNo.を記載する）			
No.	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
①	【常設配管を使用した可搬型設備による使用済燃料プールへの注水（スプレー）】 ・燃料プール代替注水系（常設配管）による使用済燃料プールへの注水 ・燃料プール代替注水系（常設配管）による使用済燃料プールへのスプレー	— （女川2号炉と比較対象なし）	【設計方針の相違（重大事故等対処設備）】（例：比較表 p 1.11-11, 16） ・女川2号炉は、想定事故2の「評価条件の不確かさの影響評価」において、事象発生直後から沸騰による燃料プール水の低下が開始すると想定した場合に、遮蔽が維持される最低水位までの時間約10時間に対し、屋外から燃料プール代替注水系（常設配管）により注水可能となる時間を約13時間後としている。約10時間後から原子炉建屋燃料取替床の線量率が10mSv/hを超えることから、その現場における長時間の作業は困難となるため、燃料プール周辺の線量率上昇を考慮して常設配管による燃料プール代替注水設備を重大事故等対処設備として位置付けている。 ・泊3号炉は、想定事故2の「評価条件の不確かさの影響評価」において仮に事象発生直後から沸騰が開始するとした場合に、遮蔽が維持される最低水位までの約0.7日に対し、有効性評価で注水可能となる時間を約5.7時間後としており、使用済燃料ピットへの注水操作は高線量環境下での作業とならないため、常設配管による対応は不要である。（大飯3/4号炉と同様）
②	【燃料プール代替注水系（可搬型）による使用済燃料プールへの注水（スプレー）で使用する主な設備】 ・大容量送水ポンプ（タイプI） ・淡水貯水槽（No.1） ・淡水貯水槽（No.2） ・ホース・注水用ヘッド・接続口 ・スプレーノズル	【可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水（スプレー）で使用する主な設備】 ・可搬型大型送水ポンプ車 ・可搬型スプレーノズル ・代替給水ピット ・原水槽	【設計方針の相違（重大事故等対処設備及び自主対策設備）】（例：比較表 p 1.11-13, 16, 17） ・女川2号炉は、淡水である淡水貯水槽を水源として大容量送水ポンプ（タイプI）から注水用ヘッドを経由して使用済燃料プールへ注水（スプレー）する。また、水源として淡水貯水槽だけではなく、ろ過水タンクの淡水又は海水も利用できる。 ・泊3号炉は、海を水源として可搬型大型送水ポンプ車から可搬型ホースにより使用済燃料ピットへ送水する手順であり、注水用ヘッドは使用しない（大飯3/4号炉と同様）。また、淡水である代替給水ピット又は原水槽を水源とした手順を自主対策の手順として整備している。 ・設備は異なるが、使用済燃料ピット（プール）へ注水（スプレー）する機能に相違なし。
③	【消防車による使用済燃料プールへのスプレー】 ・化学消防自動車及び大型化学高所放水車による燃料プールスプレー系（常設配管）を用いた使用済燃料プールへのスプレー	— （女川2号炉と比較対象なし）	【設計方針の相違（自主対策設備）】（例：比較表 p 1.11-18） ・泊3号炉は、重大事故等対処設備である可搬型大型送水ポンプ車により海水を使用済燃料ピットへスプレーする手順であり、消防車は火災に備えて待機させる観点から使用済燃料ピットへのスプレーの手段として使用しない。自主対策設備の相違であり、消防車を使用しない方針は大飯3/4号と相違なし。

※ 相違点を強調する箇所を下線部にて示す。

※ 本比較結果の概要において、設備を比較する場合は、女川2号炉の審査実績により追加した配管・弁等の記載は省略している。

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉		女川原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉		相違理由	
<p>3-1) 設備の相違（以下については、相違理由欄にNo.を記載する）</p>							
No.	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由				
④	<p>【使用済燃料プールの状態監視に使用する常設設備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 使用済燃料プール水位/温度（ガイドパルス式） 使用済燃料プール上部空間放射線モニタ（高線量、低線量） 	<p>【使用済燃料ピットの状態監視に使用する可搬設備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 使用済燃料ピット水位（可搬型） 使用済燃料ピット可搬型エリアモニタ 使用済燃料ピット監視カメラ空冷装置 	<p>【設計方針の相違（重大事故等対処設備）】（例：比較表 p 1.11-21）</p> <ul style="list-style-type: none"> 女川2号炉の使用済燃料プール水位/温度（ガイドパルス式）及び使用済燃料プール上部空間放射線モニタ（高線量、低線量）は常設設備であり、重大事故等時において設置作業が不要。 泊3号炉の使用済燃料ピット水位（可搬型）、使用済燃料ピット可搬型エリアモニタ及び使用済燃料ピット監視カメラ空冷装置はすべて可搬設備であり、重大事故等時に設置等を行う。これら設備は有効性評価「想定事故1」及び「想定事故2」において可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットの注水を開始するまでに設置が完了できるとともに、設置が完了するまでの間は、常設の重大事故等対処設備である使用済燃料ピット水位（AM用）、使用済燃料ピット温度（AM用）及び使用済燃料ピット監視カメラにより使用済燃料ピットの状態監視が可能である。 常設設備と可搬設備により使用済燃料ピットの状態監視を行う設計方針はPWR各社と相違なし。 				
⑤	<p>【使用済燃料プールの状態監視に使用する常用設備】</p> <ul style="list-style-type: none"> FPCポンプ入口温度 原子炉建屋原子炉棟排気放射線モニタ 燃料取替エリア放射線モニタ 	<p>— （女川2号炉と比較対象なし）</p>	<p>【設計方針の相違（設計基準対象施設）】（例：比較表 p 1.11-64）</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊3号炉では、設置許可基準規則第十六条第3項の要求に対応する使用済燃料ピット監視設備は、使用済燃料ピット水位、使用済燃料ピット温度及び使用済燃料ピットエリアモニタの3点としており、これら設備により要求事項を満足できる。（漏えい又は崩壊熱の除去能力の喪失に至る状態を監視するものとしても、上記3点の設備で対応可能である） 女川2号炉は、燃料交換フロア放射線モニタのほかに2種類のモニタを設置しているが、泊3号炉（大飯3/4号炉も同じ）では設置許可基準規則第十六条第3項の要求への対応として使用済燃料ピットエリアモニタを設置しており、本エリアモニタで要求事項（放射線監視、中央制御室への警報）へ対応している。 				
⑥	<p>【代替淡水源（措置）】</p> <p>「淡水貯水槽（No.1）及び淡水貯水槽（No.2）は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1b) 項を満足するための代替淡水源（措置）として位置付ける。」</p>	<p>— （女川2号炉と比較対象なし）</p>	<p>【設計方針の相違（自主対策設備）】（例：比較表 p 1.11-14）</p> <ul style="list-style-type: none"> 女川2号炉は、自主対策設備である淡水貯水槽の淡水を優先して注水する設計方針であり、有効性評価「想定事故1」及び「想定事故2」においては大容量送水ポンプ（タイプ1）により淡水貯水槽を水源として使用済燃料プールへ注水し7日間運転継続する手順である。 泊3号炉は、有効性評価「想定事故1」及び「想定事故2」において期待する水源は海であり、重大事故等対処設備である可搬型大型送水ポンプにより海水を使用済燃料ピットへ注水し運転を継続する手順であることから、自主対策設備である代替給水ピット、原水槽等の代替淡水源は期待していないため「代替淡水源（措置）」として位置付けていない。 				
<p>※ 相違点を強調する箇所を下線部にて示す。</p>							

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉		女川原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉		相違理由	
3-1) 設備の相違（以下については、相違理由欄にNo.を記載する）							
No.	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由				
⑦	【大気への放射性物質の拡散抑制で使用する設備】 ・大容量送水ポンプ（タイプⅡ） ・放水砲 ・ホース延長回収車 ・ホース	【大気への放射性物質の拡散抑制で使用する設備】 ・可搬型大容量海水送水ポンプ車 ・放水砲 ・可搬型ホース	【設計方針の相違（重大事故等対処設備）】 （例：比較表p 1.11-19） ・女川2号炉は、原子炉補機代替冷却、原子炉格納容器代替スプレイ冷却等の有効性評価で期待するホース延長回収車を重大事故等対処設備としており、大気拡散抑制時の放水砲、航空機燃料火災でも同一の設備を使用することから、ここでもホース延長回収車を重大事故等対処設備と整理しているものと考えられる。 ・泊3号炉でも有効性評価で期待するホース延長・回収車（送水車用）は重大事故等対処設備であるが、大気拡散抑制のために使用するホース延長・回収車（放水砲用）はこれとは別の設備であり、後者は有効性評価にて期待する設備ではないことから、ホース、放水砲及び泡混合設備を運搬するための資機材として整理する。大気拡散抑制のために使用するホース延長・回収車を資機材と整理する考え方は、島根2号炉、柏崎刈羽6/7号炉、東海第二、伊方3号炉、玄海3/4号炉、高浜1/2/3/4号炉及び大飯3/4号炉と同様である。				
※ 相違点を強調する箇所を下線部にて示す。 ※ 上記比較において説明の対象外となる設備（水源、流路、燃料補給設備）の記載は除く。							

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
3-2) 記載表現、設備名称等の相違（以下については、相違理由を省略する）			
女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由	
・使用済燃料プール	・使用済燃料ピット	・設備名称の相違（例：比較表 p 1.11-8）	
・燃料プール代替注水	・使用済燃料ピットへの注水	・記載表現の相違（例：比較表 p 1.11-10）	
・燃料プールのスプレイ	・使用済燃料ピットへのスプレイ	・記載表現の相違（例：比較表 p 1.11-16）	
・燃料プール冷却浄化系 ・残留熱除去系（燃料プール水の冷却）	・使用済燃料ピットポンプ ・使用済燃料ピット冷却器等の使用済燃料ピット水浄化冷却設備	・設備名称の相違（例：比較表 p 1.11-9） ・設備構成は相違するものの、使用済燃料ピット（女川：使用済燃料プール）を浄化・冷却する機能に相違はないため、「設備名称の相違」に分類する。	
・残留熱除去系（燃料プール水の補給） ・復水補給水系	・燃料取替用水ポンプ、燃料取替用水ピット ・2次系補給水ポンプ、2次系純水タンク	・設備名称の相違（例：比較表 p 1.11-9） ・設備構成は相違するものの、使用済燃料ピット（女川：使用済燃料プール）へ水を補給する機能に相違はないため、「設備名称の相違」に分類する。	
・ろ過水ポンプ ・ろ過水タンク	・電動機駆動消火ポンプ ・ディーゼル駆動消火ポンプ ・ろ過水タンク	・設備名称の相違（例：比較表 p 1.11-12） ・設備構成は相違するものの、使用済燃料ピット（女川：使用済燃料プール）へ常設の設備にて淡水を補給する機能に相違はないため、「設備名称の相違」に分類する。	
・シール材 ・接着剤	・ガスケット材 ・ガスケット接着剤	・設備名称の相違（例：比較表 p 1.11-18）	
・使用済燃料プール監視カメラ	・使用済燃料ピット監視カメラ	・設備名称の相違（例：比較表 p 1.11-21）	
・燃料貯蔵プール水位	・使用済燃料ピット水位	・設備名称の相違（例：比較表 p 1.11-64）	
・燃料貯蔵プール水温度	・使用済燃料ピット温度	・設備名称の相違（例：比較表 p 1.11-64）	
・燃料交換フロア放射線モニタ	・使用済燃料ピットエリアモニタ	・設備名称の相違（例：比較表 p 1.11-64）	
・使用済燃料プール水位/温度（ヒートサーモ式）	・使用済燃料ピット水位（AM用） ・使用済燃料ピット温度（AM用）	・設備名称の相違（例：比較表 p 1.11-21） ・泊3号炉は水位計と温度計を各々設置しているが、機能に相違はないため、「設備名称の相違」に分類する。	
・貯留堰 ・取水口 ・取水路 ・海水ポンプ室	・非常用取水設備	・設備名称・記載表現の相違（例：比較表 p 1.11-19）	
・ホース延長回収車	・ホース延長・回収車（送水車用）	・設備名称の相違（例：比較表 p 1.11-13）	

※ 相違点を強調する箇所を下線部にて示す。

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等	1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等	1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等	
<目次>	<目次>	<目次>	
1.11.1 対応手段と設備の選定	1.11.1 対応手段と設備の選定	1.11.1 対応手段と設備の選定	
(1) 対応手段と設備の選定の考え方	(1) 対応手段と設備の選定の考え方	(1) 対応手段と設備の選定の考え方	
(2) 対応手段と設備の選定の結果	(2) 対応手段と設備の選定の結果	(2) 対応手段と設備の選定の結果	【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)
a. 使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能の喪失時、使用済燃料ピット水の小規模な漏えい発生時の対応手段と設備	a. 使用済燃料プールの冷却機能又は注水機能の喪失時、又は使用済燃料プール水の小規模な漏えい発生時の対応手段及び設備	a. 使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能の喪失時、又は使用済燃料ピット水の小規模な漏えい発生時の対応手段及び設備	【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)
	(a) 燃料プール代替注水	(a) 使用済燃料ピットへの注水	【大飯】 記載方針の相違(女川審査実績の反映)
	(b) 漏えい抑制	(b) 漏えい抑制	
	(c) 重大事故等対処設備と自主対策設備	(c) 重大事故等対処設備と自主対策設備	
b. 使用済燃料ピットからの大量の水の漏えい発生時の対応手段と設備	b. 使用済燃料プールからの大量の水の漏えい発生時の対応手段及び設備	b. 使用済燃料ピットからの大量の水の漏えい発生時の対応手段及び設備	【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)
	(a) 燃料プールのスプレイ	(a) 使用済燃料ピットへのスプレイ	【大飯】 記載方針の相違(女川審査実績の反映)
	(b) 漏えい緩和	(b) 漏えい緩和	
	(c) 大気への放射性物質の拡散抑制	(c) 大気への放射性物質の拡散抑制	
	(d) 重大事故等対処設備と自主対策設備	(d) 重大事故等対処設備と自主対策設備	
c. 重大事故等時における使用済燃料ピットの監視のための対応手段と設備	c. 重大事故等時における使用済燃料プールの監視のための対応手段及び設備	c. 重大事故等時における使用済燃料ピットの監視のための対応手段及び設備	【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)
	(a) 使用済燃料プールの監視	(a) 使用済燃料ピットの監視	【大飯】 記載方針の相違(女川審査実績の反映)
	(b) 代替電源による給電	(b) 代替電源による給電	【女川】 記載方針の相違 ・泊は自主対策設備を整備している。
	(c) 重大事故等対処設備	(c) 重大事故等対処設備と自主対策設備	【女川】 BWR固有の対応手段(KK6/7 審査知見の反映)
d. 手順等	d. 使用済燃料プールから発生する水蒸気による悪影響を防止するための対応手段及び設備	d. 手順等	
	(a) 燃料プール冷却浄化系による使用済燃料プールの除熱		
	(b) 重大事故等対処設備		
	e. 手順等		
1.11.2 重大事故等時の手順等	1.11.2 重大事故等時の手順	1.11.2 重大事故等時の手順	【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)
1.11.2.1 使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能の喪失時、使用済燃料ピット水の小規模な漏えい発生時の手順等	1.11.2.1 使用済燃料プールの冷却機能又は注水機能の喪失時、又は使用済燃料プール水の小規模な漏えい発生時の対応手順	1.11.2.1 使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能の喪失時、又は使用済燃料ピット水の小規模な漏えい発生時の対応手順	【大飯】 記載方針の相違(女川審査実績の反映)
	(1) 燃料プール代替注水	(1) 使用済燃料ピットへの注水	

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(1) 燃料取替用水ピットから使用済燃料ピットへの注水</p> <p>(2) No. 3 淡水タンクから使用済燃料ピットへの注水</p> <p>(3) No. 2 淡水タンクから使用済燃料ピットへの注水（屋内消火栓）</p> <p>(4) No. 2 淡水タンクから使用済燃料ピットへの注水（屋外消火栓）</p> <p>(5) ポンプ車によるNo. 3 淡水タンクから使用済燃料ピットへの注水</p> <p>(6) ポンプ車によるNo. 2 淡水タンクから使用済燃料ピットへの注水</p> <p>(7) 1次系純水タンクから使用済燃料ピットへの注水</p> <p>(8) 海水から使用済燃料ピットへの注水</p> <p>(9) その他の手順項目にて考慮する手順</p> <p>(10) 優先順位</p>	<p>a. 燃料プール代替注水系（常設配管）による使用済燃料プールへの注水</p> <p>b. 燃料プール代替注水系（可搬型）による使用済燃料プールへの注水</p> <p>c. ろ過水ポンプによる使用済燃料プールへの注水</p>	<p>a. 燃料取替用水ポンプによる使用済燃料ピットへの注水</p> <p>b. 2次系補給水ポンプによる使用済燃料ピットへの注水</p> <p>c. 1次系補給水ポンプによる使用済燃料ピットへの注水</p> <p>d. 電動機駆動消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプによる使用済燃料ピットへの注水</p> <p>e. 海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水</p> <p>f. 代替給水ピットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水</p> <p>g. 原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水</p>	<p>【女川】設備の相違（相違理由①）</p> <p>【大飯】設備の相違（相違理由①）</p> <p>【大飯】運用の相違（相違理由①）</p> <p>【大飯】設備の相違（相違理由②）</p> <p>【大飯】設備の相違（相違理由②）</p> <p>【大飯】設備の相違（相違理由③）</p> <p>【大飯】設備の相違（相違理由③）</p> <p>【大飯】運用の相違（相違理由①）</p> <p>【大飯、女川】記載表現の相違 ・泊の可搬型大型送水ポンプ車は、海水と淡水が選択可能なため「海水を用いた」と記載し手段を識別している。</p> <p>【大飯】設備の相違（相違理由③）</p> <p>【大飯】設備の相違（相違理由③）</p> <p>【大飯】 記載方針の相違(女川審査実績の反映) ・泊は1.11.2.4にて整理しており、泊の記載場所以て比較する。</p> <p>【大飯】 記載方針の相違(女川審査実績の反映) ・泊は1.11.2.5にて整理しており、泊の記載場所以て比較する。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>1.11.2.2 使用済燃料ピットからの大量の水の漏えい発生時の手順等</p> <p>(1) 送水車による使用済燃料ピットへのスプレー</p> <p>(2) 大容量ポンプ（放水砲用）及び放水砲による原子炉周辺建屋（貯蔵槽内燃料体等）への放水</p> <p>(3) 使用済燃料ピットからの漏えい緩和</p> <p>(4) その他の手順項目にて考慮する手順</p>	<p>1.11.2.2 使用済燃料プールからの大量の水の漏えい発生時の対応手順</p> <p>(1) 燃料プールのスプレー</p> <p>a. 燃料プールのスプレー系（常設配管）による使用済燃料プールへのスプレー</p> <p>b. 燃料プールのスプレー系（可搬型）による使用済燃料プールへのスプレー</p> <p>c. 化学消防自動車及び大型化学高所放水車による燃料プールのスプレー系（常設配管）を用いた使用済燃料プールへのスプレー</p> <p>(2) 漏えい緩和</p> <p>a. 使用済燃料プール漏えい緩和</p>	<p>1.11.2.2 使用済燃料ピットからの大量の水の漏えい発生時の対応手順</p> <p>(1) 使用済燃料ピットへのスプレー</p> <p>a. 海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレーノズルによる使用済燃料ピットへのスプレー</p> <p>b. 代替給水ピットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレーノズルによる使用済燃料ピットへのスプレー</p> <p>c. 原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレーノズルによる使用済燃料ピットへのスプレー</p> <p>d. 可搬型大容量海水送水ポンプ車及び放水砲による燃料取扱棟（使用済燃料ピット内の燃料体等）への放水</p> <p>(2) 漏えい緩和</p> <p>a. 使用済燃料ピット漏えい緩和</p>	<p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】 記載方針の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【女川】設備の相違（相違理由①）</p> <p>【大飯、女川】記載表現の相違 ・泊の可搬型大型送水ポンプ車は、海水と淡水が選択可能なため「海水を用いた」と記載し手段を識別している。</p> <p>【大飯】設備の相違（相違理由④）</p> <p>【大飯】設備の相違（相違理由④）</p> <p>【女川】設備の相違（相違理由③）</p> <p>【女川】記載方針の相違 ・女川は「1.11.2.5 その他の手順項目について考慮する手順」にて大気への拡散抑制の手順を技術的能力1.12へリンクさせる記載としている。 ・泊は手順着手の判断基準までを本審査項目に記載し操作手順を技術的能力1.12へリンクさせる構成としており、技術的能力1.12でも手順着手の判断基準を含めて手順を整理している。(大飯3/4号炉と同様)</p> <p>【大飯】 記載方針の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】 記載方針の相違(女川審査実績の反映) ・泊は1.11.2.4にて整理しており、泊の記載場所で比較する。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(5) 優先順位</p> <p>1.11.2.3 重大事故等時における使用済燃料ピットの監視時の手順等</p> <p>(1) 常設設備による使用済燃料ピットの状態監視 (2) 可搬型設備による使用済燃料ピットの状態監視</p> <p>1.11.2.4 使用済燃料ピット監視計器の電源（交流又は直流）を代替電源設備から給電する手順等</p>	<p>1.11.2.3 重大事故等時における使用済燃料プールの監視のための対応手順</p> <p>(1) 使用済燃料プールの状態監視</p> <p>a. 代替電源による給電</p> <p>1.11.2.4 使用済燃料プールから発生する水蒸気による悪影響を防止するための対応手順</p> <p>(1) 燃料プール冷却浄化系による使用済燃料プールの除熱</p> <p>1.11.2.5 その他の手順項目について考慮する手順</p> <p>1.11.2.6 重大事故等時の対応手段の選択</p> <p>添付資料 1.11.1 審査基準、基準規則と対処設備との対応表</p> <p>添付資料 1.11.2 対応手段として選定した設備の電源構成図</p>	<p>1.11.2.3 重大事故等時における使用済燃料ピットの監視のための対応手順</p> <p>(1) 使用済燃料ピットの状態監視</p> <p>a. 常設設備による使用済燃料ピットの状態監視 b. 可搬型設備による使用済燃料ピットの状態監視</p> <p>c. 代替電源による給電</p> <p>1.11.2.4 その他の手順項目について考慮する手順</p> <p>1.11.2.5 重大事故等時の対応手段の選択</p> <p>添付資料 1.11.1 審査基準、基準規則と対処設備との対応表</p> <p>添付資料 1.11.2 対応手段として選定した設備の電源構成図</p> <p>添付資料 1.11.3 自主対策設備仕様</p> <p>添付資料 1.11.4 使用済燃料ピットの水位低下及び遮蔽に関する評価について</p>	<p>【大飯】 記載方針の相違(女川審査実績の反映) ・泊は1.11.2.5にて整理しており、泊の記載場所と比較する。</p> <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】 記載方針の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【女川】設備の相違(相違理由④) ・泊は常設と可搬による状態監視の手段を整備しているため、項目を分けて手順を整理している。(大飯3/4号炉と同様)</p> <p>【大飯】 記載方針の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【女川】 BWR固有の対応手段(KK6/7 審査知見の反映)</p> <p>【大飯】 記載方針の相違(女川審査実績の反映) ・大飯は1.11.2.1(9)及び1.11.2.2(4)にて同等の内容を整理している。</p> <p>【大飯】 記載方針の相違(女川審査実績の反映) ・大飯は1.11.2.1(10)及び1.11.2.2(5)にて同等の内容を整理している。</p> <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】 記載方針の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【女川】 記載方針の相違</p> <p>【大飯】 記載方針の相違(資料名称の相違) ・泊の添付資料1.11.4は、有効性評価まとめ資料の添付資料7.3.1.2と同じであるため、有効性評価まとめ資料と名称を統一している。</p>
<p>添付資料 1.11.1 重大事故等対処設備及び多様性拡張設備整理表</p> <p>添付資料 1.11.2 多様性拡張設備仕様</p> <p>添付資料 1.11.3 使用済燃料ピット水位低下時間評価</p>	<p>添付資料 1.11.1 審査基準、基準規則と対処設備との対応表</p> <p>添付資料 1.11.2 対応手段として選定した設備の電源構成図</p>	<p>添付資料 1.11.1 審査基準、基準規則と対処設備との対応表</p> <p>添付資料 1.11.2 対応手段として選定した設備の電源構成図</p> <p>添付資料 1.11.3 自主対策設備仕様</p> <p>添付資料 1.11.4 使用済燃料ピットの水位低下及び遮蔽に関する評価について</p>	<p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】 記載方針の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【女川】 記載方針の相違</p> <p>【大飯】 記載方針の相違(資料名称の相違) ・泊の添付資料1.11.4は、有効性評価まとめ資料の添付資料7.3.1.2と同じであるため、有効性評価まとめ資料と名称を統一している。</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
添付資料 1.11.4 燃料取替用水ピットから使用済燃料ピットへの注水	添付資料 1.11.3 重大事故等対策の成立性	添付資料 1.11.5 燃料取替用水ポンプによる使用済燃料ピットへの注水	<p>【女川】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女川と泊では対応手段は相違するが、女川審査実績を踏まえて、操作場所の項目を追加する等の記載の充実化を図った。 <p>【大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> 記載箇所の相違 ・運用の相違（相違理由①）による掲載順序の相違。（大飯の添付資料 1.11.10 に相当） <p>【大飯】 設備の相違（相違理由②）</p> <p>【大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> 記載箇所の相違 ・比較対象は泊の添付資料 1.11.7 参照 <p>【大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> 記載箇所の相違 ・比較対象は泊の添付資料 1.11.9 参照 <p>【大飯】 記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊の可搬型大型送水ポンプ車は、海水と淡水が選択可能なため「海水を用いた」と記載し手段を識別している。 <p>【大飯】 設備の相違（相違理由④）</p>
添付資料 1.11.5 No. 3 淡水タンクから使用済燃料ピットへの注水	1. 燃料プール代替注水系（常設配管）による使用済燃料プールへの注水	添付資料 1.11.6 2次系補給水ポンプによる使用済燃料ピットへの注水	
【比較のため下段の記載より再掲】	2. 燃料プール代替注水系（可搬型）による使用済燃料プールへの注水	添付資料 1.11.7 1次系補給水ポンプによる使用済燃料ピットへの注水	
添付資料 1.11.10 1次系純水タンクから使用済燃料ピットへの注水	3. ろ過水ポンプによる使用済燃料プールへの注水	添付資料 1.11.8 電動機駆動消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプによる使用済燃料ピットへの注水	
添付資料 1.11.6 No. 2 淡水タンクから使用済燃料ピットへの注水（屋内消火栓）	4. 燃料プールスプレイ系（常設配管）による使用済燃料プールへのスプレイ	添付資料 1.11.9 海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水	
添付資料 1.11.7 No. 2 淡水タンクから使用済燃料ピットへの注水（屋外消火栓）	5. 燃料プールスプレイ系（可搬型）による使用済燃料プールへのスプレイ	添付資料 1.11.10 代替給水ピットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水	
【比較のため下段の記載より再掲】	6. 化学消防自動車及び大型化学高所放水車による燃料プールスプレイ系（常設配管）を用いた使用済燃料プールへのスプレイ	添付資料 1.11.11 原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水	
添付資料 1.11.11 海水から使用済燃料ピットへの注水		添付資料 1.11.12 使用済燃料ピットへの注水方法について	
添付資料 1.11.8 ポンプ車によるNo. 3 淡水タンクから使用済燃料ピットへの注水		添付資料 1.11.13 使用済燃料ピットへのスプレイ手順の妥当性について	
添付資料 1.11.9 ポンプ車によるNo. 2 淡水タンクから使用済燃料ピットへの注水		添付資料 1.11.14 海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレイノズルによる使用済燃料ピットへのスプレイ	
添付資料 1.11.10 1次系純水タンクから使用済燃料ピットへの注水		添付資料 1.11.15 代替給水ピットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレイノズルによる使用済燃料ピットへのスプレイ	
添付資料 1.11.11 海水から使用済燃料ピットへの注水			
添付資料 1.11.12 使用済燃料ピットへの注水方法について			
添付資料 1.11.13 使用済燃料ピットへのスプレイ手順の妥当性について			
添付資料 1.11.14 送水車による使用済燃料ピットへのスプレイ			

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
添付資料 1.11.15 使用済燃料ピットからの漏えい緩和		添付資料 1.11.16 原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレインゾルによる使用済燃料ピットへのスプレイ 添付資料 1.11.17 使用済燃料ピット漏えい緩和	【大飯】設備の相違（相違理由④）
添付資料 1.11.16 重大事故等時における使用済燃料ピットの監視対応フロー			【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映) ・泊の手順名称と記載を統一。
添付資料 1.11.17 使用済燃料ピット事故時環境下での監視計器の健全性について	【比較のため、伊方3号炉技術的能力 1.11 まとめ資料より引用】		【大飯】 記載方針の相違（内容に相違なし）
添付資料 1.11.18 使用済燃料ピット監視設備（重大事故等対処設備）	添付資料 1.11.12 使用済燃料ピット監視設備（重大事故等対処設備）	添付資料 1.11.18 使用済燃料ピット監視設備（重大事故等対処設備）	・泊の添付資料 1.11.18 の内容は、大飯の添付資料 1.11.16～1.11.18 の内容をすべて網羅している。本資料はDB16 条まとめ資料より重大事故等対処設備の監視計器の内容を抜粋した資料であり、泊は抜粋箇所をそのまま本審査項目の資料として掲載している。説明内容に相違はなく、泊の資料構成は伊方3号炉と同様。
添付資料 1.11.19 重大事故等時における使用済燃料ピットの監視		添付資料 1.11.19 可搬型設備による使用済燃料ピットの状態監視	【大飯】 記載表現の相違 ・可搬型の監視計器の現場作業の成立性を示す資料に相違はなく、泊は手順名称と記載を統一。
添付資料 1.11.20 携帯型水温計、携帯型水位計及び携帯型水位、水温計について 添付資料 1.11.21 手順のリンク先について		添付資料 1.11.20 携帯型水温計、携帯型水位計及び携帯型水位・水温計について	【大飯】 記載方針の相違（女川審査実績の反映） ・泊は 1.11.2.4 項に手順のリンク先を記載する。
		添付資料 1.11.21 使用済燃料貯蔵槽から発生する水蒸気による悪影響を防止するための対策	【大飯】 資料構成の相違 ・KK6/7 審査知見の反映（比較結果等ととりまとめた資料 1-3 参照）
	添付資料 1.11.4 解釈一覧 1. 判断基準の解釈一覧 2. 操作手順の解釈一覧 3. 弁番号及び弁名称一覧	添付資料 1.11.22 解釈一覧 1. 操作手順の解釈一覧 2. 弁番号及び弁名称一覧	【大飯】 記載方針の相違(女川審査実績の反映) 【女川】記載方針の相違 ・泊は本審査項目の判断基準に解釈一覧記載対象なし。

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

br>

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等</p> <p><要求事項></p> <p>1 発電用原子炉設置者において、使用済燃料貯蔵槽の冷却機能又は注水機能が喪失し、又は使用済燃料貯蔵槽からの水の漏えいその他の要因により当該使用済燃料貯蔵槽の水が低下した場合において使用済燃料貯蔵槽内の燃料体又は使用済燃料（以下「貯蔵槽内燃料体等」という。）を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止するために必要な手順等が適切に整備されているか、又は整備される方針が適切に示されていること。</p> <p>2 発電用原子炉設置者は、使用済燃料貯蔵槽からの大量の水の漏えいその他の要因により当該使用済燃料貯蔵槽の水が異常に低下した場合において貯蔵槽内燃料体等の著しい損傷の進行を緩和し、及び臨界を防止するために必要な手順等が適切に整備されているか、又は整備される方針が適切に示されていること。</p> <p>【解釈】</p> <p>1 第1項に規定する「使用済燃料貯蔵槽の冷却機能又は注水機能が喪失し、又は使用済燃料貯蔵槽からの水の漏えいその他の要因により当該使用済燃料貯蔵槽の水が低下した場合」とは、実用発電用原子炉及びその附属施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則の解釈（原規技発第1306193号（平成25年6月19日原子力規制委員会決定）第37条3-1(a)及び(b)で定義する想定事故1及び想定事故2において想定する使用済燃料貯蔵槽の水位の低下をいう。</p> <p>2 第1項に規定する「貯蔵槽内燃料体等を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止するために必要な手順等」とは、以下に掲げる措置又はこれと同等以上の効果を有する措置を行うための手順等をいう。</p> <p>a) 想定事故1及び想定事故2が発生した場合において、代替注水設備により、使用済燃料貯蔵槽内燃料体等を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止するために必要な手順等を整備すること。</p> <p>3 第2項に規定する「貯蔵槽内燃料体等の著しい損傷の進行を緩和し、及び臨界を防止するために必要な手順等」とは、以下に掲げる措置又はこれらと同等以上の効果を有する措置を行うための手順等をいう。</p> <p>a) 使用済燃料貯蔵槽の水が維持できない場合において、スプレイ設備により、燃料損傷を緩和し、臨界を</p>	<p>1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等</p> <p>【要求事項】</p> <p>1 発電用原子炉設置者において、使用済燃料貯蔵槽の冷却機能又は注水機能が喪失し、又は使用済燃料貯蔵槽からの水の漏えいその他の要因により当該使用済燃料貯蔵槽の水が低下した場合において使用済燃料貯蔵槽内の燃料体又は使用済燃料（以下「貯蔵槽内燃料体等」という。）を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止するために必要な手順等が適切に整備されているか、又は整備される方針が適切に示されていること。</p> <p>2 発電用原子炉設置者は、使用済燃料貯蔵槽からの大量の水の漏えいその他の要因により当該使用済燃料貯蔵槽の水が異常に低下した場合において貯蔵槽内燃料体等の著しい損傷の進行を緩和し、及び臨界を防止するために必要な手順等が適切に整備されているか、又は整備される方針が適切に示されていること。</p> <p>【解釈】</p> <p>1 第1項に規定する「使用済燃料貯蔵槽の冷却機能又は注水機能が喪失し、又は使用済燃料貯蔵槽からの水の漏えいその他の要因により当該使用済燃料貯蔵槽の水が低下した場合」とは、実用発電用原子炉及びその附属施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則の解釈（原規技発第1306193号（平成25年6月19日原子力規制委員会決定）第37条3-1(a)及び(b)で定義する想定事故1及び想定事故2において想定する使用済燃料貯蔵槽の水位の低下をいう。</p> <p>2 第1項に規定する「貯蔵槽内燃料体等を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止するために必要な手順等」とは、以下に掲げる措置又はこれと同等以上の効果を有する措置を行うための手順等をいう。</p> <p>a) 想定事故1及び想定事故2が発生した場合において、代替注水設備により、使用済燃料貯蔵槽内燃料体等を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止するために必要な手順等を整備すること。</p> <p>b) 想定事故1及び想定事故2が発生した場合において発生する水蒸気が重大事故等対処設備に悪影響を及ぼす可能性がある場合は、当該悪影響を防止するために必要な手順等を整備すること。</p> <p>3 第2項に規定する「貯蔵槽内燃料体等の著しい損傷の進行を緩和し、及び臨界を防止するために必要な手順等」とは、以下に掲げる措置又はこれらと同等以上の効果を有する措置を行うための手順等をいう。</p> <p>a) 使用済燃料貯蔵槽の水が維持できない場合において、スプレイ設備により、燃料損傷を緩和し、臨界を</p>	<p>1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等</p> <p>【要求事項】</p> <p>1 発電用原子炉設置者において、使用済燃料貯蔵槽の冷却機能又は注水機能が喪失し、又は使用済燃料貯蔵槽からの水の漏えいその他の要因により当該使用済燃料貯蔵槽の水が低下した場合において使用済燃料貯蔵槽内の燃料体又は使用済燃料（以下「貯蔵槽内燃料体等」という。）を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止するために必要な手順等が適切に整備されているか、又は整備される方針が適切に示されていること。</p> <p>2 発電用原子炉設置者は、使用済燃料貯蔵槽からの大量の水の漏えいその他の要因により当該使用済燃料貯蔵槽の水が異常に低下した場合において貯蔵槽内燃料体等の著しい損傷の進行を緩和し、及び臨界を防止するために必要な手順等が適切に整備されているか、又は整備される方針が適切に示されていること。</p> <p>【解釈】</p> <p>1 第1項に規定する「使用済燃料貯蔵槽の冷却機能又は注水機能が喪失し、又は使用済燃料貯蔵槽からの水の漏えいその他の要因により当該使用済燃料貯蔵槽の水が低下した場合」とは、実用発電用原子炉及びその附属施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則の解釈（原規技発第1306193号（平成25年6月19日原子力規制委員会決定）第37条3-1(a)及び(b)で定義する想定事故1及び想定事故2において想定する使用済燃料貯蔵槽の水位の低下をいう。</p> <p>2 第1項に規定する「貯蔵槽内燃料体等を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止するために必要な手順等」とは、以下に掲げる措置又はこれと同等以上の効果を有する措置を行うための手順等をいう。</p> <p>a) 想定事故1及び想定事故2が発生した場合において、代替注水設備により、使用済燃料貯蔵槽内燃料体等を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止するために必要な手順等を整備すること。</p> <p>b) 想定事故1及び想定事故2が発生した場合において発生する水蒸気が重大事故等対処設備に悪影響を及ぼす可能性がある場合は、当該悪影響を防止するために必要な手順等を整備すること。</p> <p>3 第2項に規定する「貯蔵槽内燃料体等の著しい損傷の進行を緩和し、及び臨界を防止するために必要な手順等」とは、以下に掲げる措置又はこれらと同等以上の効果を有する措置を行うための手順等をいう。</p> <p>a) 使用済燃料貯蔵槽の水が維持できない場合において、スプレイ設備により、燃料損傷を緩和し、臨界を</p>	<p>相違理由</p> <p>【大飯】 審査基準改正に伴う相違</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>防止するために必要な手順等を整備すること。</p> <p>b) 燃料損傷時に、できる限り環境への放射性物質の放出を低減するための手順等を整備すること。</p> <p>4 第1項及び第2項の手順等として、使用済燃料貯蔵槽の監視は、以下によること。</p> <p>a) 使用済燃料貯蔵槽の水位、水温及び上部の空間線量率について、燃料貯蔵設備に係る重大事故等により変動する可能性のある範囲にわたり測定できること。</p> <p>b) 使用済燃料貯蔵槽の計測設備が、交流又は直流電源が必要な場合には、代替電源設備からの給電を可能とすること。</p>	<p>防止するために必要な手順等を整備すること。</p> <p>b) 燃料損傷時に、できる限り環境への放射性物質の放出を低減するための手順等を整備すること。</p> <p>4 第1項及び第2項の手順等として、使用済燃料貯蔵槽の監視は、以下によること。</p> <p>a) 使用済燃料貯蔵槽の水位、水温及び上部の空間線量率について、燃料貯蔵設備に係る重大事故等により変動する可能性のある範囲にわたり測定できること。</p> <p>b) 使用済燃料貯蔵槽の計測設備が、交流又は直流電源が必要な場合には、代替電源設備からの給電を可能とすること。</p>	<p>防止するために必要な手順等を整備すること。</p> <p>b) 燃料損傷時に、できる限り環境への放射性物質の放出を低減するための手順等を整備すること。</p> <p>4 第1項及び第2項の手順等として、使用済燃料貯蔵槽の監視は、以下によること。</p> <p>a) 使用済燃料貯蔵槽の水位、水温及び上部の空間線量率について、燃料貯蔵設備に係る重大事故等により変動する可能性のある範囲にわたり測定できること。</p> <p>b) 使用済燃料貯蔵槽の計測設備が、交流又は直流電源が必要な場合には、代替電源設備からの給電を可能とすること。</p>	<p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【女川】 PWR固有の対応手段(KK6/7 審査知見の反映)</p> <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】 記載表現の相違 ・泊は審査中プラントのため「整備する」と表現</p> <p>【女川】 記載表現の相違</p> <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p>
<p>使用済燃料貯蔵槽（以下「使用済燃料ピット」という。）の冷却機能又は注水機能が喪失し、又は使用済燃料ピットからの水の漏えいその他の要因により当該使用済燃料ピットの水位が低下した場合において使用済燃料ピット内の燃料体又は使用済燃料（以下「貯蔵槽内燃料体等」という。）を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止するための対処設備を整備しており、ここでは、それらの対処設備を活用した手順等について説明する。</p> <p>【大飯発電所 発電用原子炉設置許可申請書（3/4号炉完本）令和2年12月現在 より引用】</p> <p>なお、使用済燃料ピットから発生する水蒸気が重大事故等対処設備に悪影響を及ぼす可能性がある場合は、当該悪影響を防止するための手順等を整備する必要がある。使用済燃料ピットが設置されている使用済燃料ピット区域は隣接する他の区域とは区画されていることから、影響範囲は使用済燃料ピット区域に設置する使用済燃料ピットの監視に用いる設備となり、これらの設備は、使用済燃料ピットから発生する水蒸気による高温、高湿度の環境で使用設計とし、「1.11.2.3 重大事故等時における使用済燃料ピットの監視時の手順等」に示す手順を整備している。</p> <p>使用済燃料ピットからの大量の水の漏えいその他の要因により当該使用済燃料ピットの水位が異常に低下した場合において貯蔵槽内燃料体等の著しい損傷の進行を緩和し、臨界を防止し、放射性物質の放出を低減するための対処設備を整備しており、ここでは、この対処設備を活用した手順等について説明する。</p>	<p>使用済燃料貯蔵槽（以下「使用済燃料プール」という。）の冷却機能又は注水機能が喪失し、又は使用済燃料プールからの水の漏えいその他の要因により当該使用済燃料プールの水位が低下した場合において、使用済燃料プール内の燃料体又は使用済燃料（以下「使用済燃料プール内の燃料体等」という。）を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止するための対処設備を整備する。</p> <p>また、使用済燃料プールからの大量の水の漏えいその他の要因により当該使用済燃料プールの水位が異常に低下した場合において、使用済燃料プール内の燃料体等の著しい損傷の進行を緩和し、臨界を防止し、放射性物質の放出を低減するための対処設備を整備する。ここでは、これらの対処設備を活用した手順等について説明する。</p>	<p>使用済燃料貯蔵槽（以下「使用済燃料ピット」という。）の冷却機能又は注水機能が喪失し、又は使用済燃料ピットからの水の漏えいその他の要因により当該使用済燃料ピットの水位が低下した場合において、使用済燃料ピット内の燃料体又は使用済燃料（以下「使用済燃料ピット内の燃料体等」という。）を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止するための対処設備を整備する。</p> <p>また、使用済燃料ピットから発生する水蒸気が重大事故等対処設備に悪影響を及ぼす可能性がある場合は、当該悪影響を防止するための手順等を整備する必要がある。使用済燃料ピットが設置されている使用済燃料ピット区域は隣接する他の区域とは区画されていることから、影響範囲は使用済燃料ピット区域に設置する使用済燃料ピットの監視に用いる設備となり、これらの設備は、使用済燃料ピットから発生する水蒸気による高温、高湿度の環境で使用設計とし、「1.11.2.3 重大事故等時における使用済燃料ピットの監視時の手順等」に示す手順を整備する。</p> <p>使用済燃料ピットからの大量の水の漏えいその他の要因により当該使用済燃料ピットの水位が異常に低下した場合において、使用済燃料ピット内の燃料体等の著しい損傷の進行を緩和し、臨界を防止し、放射性物質の放出を低減するための対処設備を整備する。ここでは、これらの対処設備を活用した手順等について説明する。</p>	

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>1.11.1 対応手段と設備の選定 (1) 対応手段と設備の選定の考え方</p> <p>使用済燃料ピットを冷却するための設計基準対象施設の冷却設備として、使用済燃料ピットポンプ及び使用済燃料ピット冷却器等の使用済燃料ピット水浄化冷却設備を設置している。また、使用済燃料ピットへ注水するための設計基準対象施設の注水設備として、燃料取替用水ピット、燃料取替用水ポンプ及びN₀、3淡水タンクを設置している。</p> <p>これらの冷却又は注水を行うための設計基準対象施設の冷却設備又は注水設備の機能が喪失し、又は使用済燃料ピットからの漏えいが発生した場合は、その機能を代替するために、各設計基準対象施設の冷却設備又は注水設備が有する機能、相互関係を明確にした上で、想定する故障に対応できる対応手段及び重大事故等対処設備を選定する（第1.11.1図、第1.11.2図）。(以下「機能喪失原因対策分析」という。)</p> <p>使用済燃料ピットから大量の水が漏えいし使用済燃料ピットの水位が維持できない場合を想定し、使用済燃料ピットへのスプレイ又は原子炉周辺建屋（貯蔵槽内燃料体等）への放水により貯蔵槽内燃料体等の著しい損傷を緩和し、臨界を防止するための対応手段及び重大事故等対処設備を選定する。</p> <p>【比較のため、大飯3/4号炉S A54 条まとめ資料 2.11.1(2)より引用】</p> <p>使用済燃料ピットの冷却等のための設備のうち、・・・燃料損傷の進行を緩和し、臨界にならないよう配慮したラック形状及び燃料配置において、スプレイや蒸気条件においても未臨界を維持できることにより臨界を防止し、・・・</p>	<p>1.11.1 対応手段と設備の選定 (1) 対応手段と設備の選定の考え方</p> <p>使用済燃料プールの冷却機能を有する設計基準対象施設として、燃料プール冷却浄化系及び残留熱除去系（燃料プール水の冷却）を設置している。また、使用済燃料プールの注水機能を有する設備として、残留熱除去系（燃料プール水の補給）及び復水補給水系を設置している。</p> <p>これらの冷却及び注水機能が故障等により喪失した場合、又は使用済燃料プールに接続する配管の破断等による使用済燃料プールの小規模な水の漏えいにより水位の低下が発生した場合は、その機能を代替するために、各設計基準対象施設が有する機能、相互関係を明確にした（以下「機能喪失原因対策分析」という。）上で、想定する故障に対応できる対応手段及び重大事故等対処設備を選定する（第1.11-1図）。</p> <p>使用済燃料プールの冷却機能又は注水機能喪失時、又は使用済燃料プールの小規模な漏えい発生時において、発生する水蒸気による重大事故等対処設備への悪影響を防止するための対応手段及び重大事故等対処設備を選定する。</p> <p>使用済燃料プールから大量の水が漏えいし、使用済燃料プールへのスプレイにより使用済燃料プール内の燃料体等の著しい損傷を緩和するための対応手段及び重大事故等対処設備を選定する。</p> <p>なお、使用済燃料プール内の燃料体等をボロン添加ステンレス鋼製ラックセルに貯蔵することにより、未臨界は維持される。</p>	<p>1.11.1 対応手段と設備の選定 (1) 対応手段と設備の選定の考え方</p> <p>使用済燃料ピットの冷却機能を有する設計基準対象施設として、使用済燃料ピットポンプ、使用済燃料ピット冷却器等の使用済燃料ピット水浄化冷却設備を設置している。また、使用済燃料ピットの注水機能を有する設備として、燃料取替用水ピット、燃料取替用水ポンプ、2次系補給水ポンプ及び2次系純水タンクを設置している。</p> <p>これらの冷却又は注水機能が故障等により喪失した場合、又は使用済燃料ピットに接続する配管の破断等による使用済燃料ピットの小規模な水の漏えいにより水位の低下が発生した場合は、その機能を代替するために、各設計基準対象施設が有する機能、相互関係を明確にした（以下「機能喪失原因対策分析」という。）上で、想定する故障に対応できる対応手段及び重大事故等対処設備を選定する（第1.11.1図）。</p> <p>使用済燃料ピットから大量の水が漏えいし、使用済燃料ピットの水位が維持できない場合を想定し、使用済燃料ピットへのスプレイ又は燃料取扱棟（使用済燃料ピット内の燃料体等）への放水により使用済燃料ピット内の燃料体等の著しい損傷を緩和し、臨界を防止するための対応手段及び重大事故等対処設備を選定する。</p> <p>なお、使用済燃料ピット内の燃料体等をボロン添加ステンレス鋼製ラックセルに配置制限し貯蔵することにより、未臨界は維持される。</p>	<p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】設備の相違（相違理由①）</p> <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【女川】設計方針の相違 ・泊は冷却機能喪失 or 注水機能喪失であり、冷却機能喪失時のみ場合は設計基準対象施設による注水機能を使用する方針であり、大飯 3/4号炉と相違なし。</p> <p>【大飯】記載方針の相違 ・泊は女川の審査実績を反映して機能喪失原因対策分析を第1.11.1図にまとめて記載している。 ・大飯は使用済燃料ピット水の小規模な漏えいの発生時の機能喪失原因対策分析を第1.11.1図、使用済燃料ピット水の大量の水の漏えいの発生に関する機能喪失原因対策分析を第1.11.2図に記載している。</p> <p>【女川】 BWR 固有の対応手段(KK6/7 審査知見の反映)</p> <p>【女川】 記載方針の相違（大飯審査実績の反映）</p> <p>【女川】 記載表現の相違 ・泊は「臨界を防止」を記載し以降の記載表現と統一。(大飯 3/4号炉と同様)</p> <p>【大飯】 記載方針の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【女川】 ・泊は臨界防止のためピット内での配置制限が必要。(燃料の配置制限が必要なのは大飯 3/4号炉と同様)</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能が喪失し、又は使用済燃料ピット水の小規模な漏えい発生時に、使用済燃料ピットへの注水により貯蔵槽内燃料体等を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止する手段がある。</p> <p>燃料取替用水ピットから使用済燃料ピットへの注水で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃料取替用水ピット ・燃料取替用水ポンプ 	<p>使用済燃料プールの冷却機能又は注水機能が喪失し、又は使用済燃料プールからの小規模な水の漏えい発生時に、使用済燃料プールへの注水により使用済燃料プール内の燃料体等を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止する手段がある。</p> <p>i. 燃料プール代替注水系（常設配管）による使用済燃料プールへの注水</p> <p>燃料プール代替注水系（常設配管）による使用済燃料プールへの注水で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大容量送水ポンプ（タイプI） ・淡水貯水槽（No.1） ・淡水貯水槽（No.2） ・ホース延長回収車 ・ホース・注水用ヘッダ・接続口 ・燃料プール冷却浄化系配管・弁 ・使用済燃料プール ・燃料補給設備 <p>なお、燃料プール代替注水系（常設配管）による使用済燃料プールへの注水は、代替淡水源（淡水貯水槽（No.1）及び淡水貯水槽（No.2））の淡水だけでなく、ろ過水タンクの淡水又は海水も利用できる。</p> <p>ii. 燃料プール代替注水系（可搬型）による使用済燃料プールへの注水</p> <p>燃料プール代替注水系（可搬型）による使用済燃料プールへの注水で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大容量送水ポンプ（タイプI） ・淡水貯水槽（No.1） ・淡水貯水槽（No.2） ・ホース延長回収車 ・ホース・注水用ヘッダ ・使用済燃料プール ・燃料補給設備 <p>なお、燃料プール代替注水系（可搬型）による使用済燃料プールへの注水は、代替淡水源（淡水貯水槽（No.1）及び淡水貯水槽（No.2））の淡水だけでなく、ろ過水タンクの淡水又は海水も利用できる。</p>	<p>使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能が喪失し、又は使用済燃料ピットからの小規模な水の漏えい発生時に、使用済燃料ピットへの注水により使用済燃料ピット内の燃料体等を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止する手段がある。</p> <p>i. 燃料取替用水ポンプによる使用済燃料ピットへの注水</p> <p>燃料取替用水ポンプによる使用済燃料ピットへの注水で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃料取替用水ポンプ ・燃料取替用水ピット 	<p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【女川】設備の相違（相違理由①）</p> <p>【女川】記載箇所の相違 ・泊との比較は後段の「海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水」にて実施する。</p> <p>【大飯】 記載方針の相違(女川審査実績の反映)</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>No. 3淡水タンクから使用済燃料ビットへの注水で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ No. 3淡水タンク <p>【比較のため後段の記載より再掲】</p> <p>1次系純水タンクから使用済燃料ビットへの注水で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1次系純水タンク ・ 1次系補給水ポンプ <p>No. 2淡水タンクから使用済燃料ビットへの注水で使用する設備（屋内消火栓又は屋外消火栓を使用する。）は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ No. 2淡水タンク 	<p>ii. 2次系補給水ポンプによる使用済燃料ビットへの注水</p> <p>2次系補給水ポンプによる使用済燃料ビットへの注水で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2次系補給水ポンプ ・ 2次系純水タンク ・ 使用済燃料ビット ・ 給水処理設備 配管・弁 ・ 燃料取扱設備及び貯蔵設備 配管・弁 ・ 常用電源設備 <p>iii. 1次系補給水ポンプによる使用済燃料ビットへの注水</p> <p>1次系補給水ポンプによる使用済燃料ビットへの注水で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1次系補給水ポンプ ・ 1次系純水タンク ・ 使用済燃料ビット ・ 化学体積制御設備 配管・弁 ・ 燃料取扱設備及び貯蔵設備 配管・弁 ・ 給水処理設備 配管・弁 ・ 常用電源設備 <p>iii. ろ過水ポンプによる使用済燃料プールへの注水</p> <p>ろ過水ポンプによる使用済燃料プールへの注水で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ろ過水ポンプ ・ ろ過水タンク ・ ろ過水系配管・弁 ・ 補給水系配管・弁 ・ 残留熱除去系配管・弁 ・ 燃料プール冷却浄化系配管・弁 ・ 使用済燃料プール ・ 常設代替交流電源設備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 使用済燃料ビット ・ 非常用炉心冷却設備 配管・弁 ・ 燃料取扱設備及び貯蔵設備 配管・弁 ・ 非常用交流電源設備 <p>ii. 2次系補給水ポンプによる使用済燃料ビットへの注水</p> <p>2次系補給水ポンプによる使用済燃料ビットへの注水で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2次系補給水ポンプ ・ 2次系純水タンク ・ 使用済燃料ビット ・ 給水処理設備 配管・弁 ・ 燃料取扱設備及び貯蔵設備 配管・弁 ・ 常用電源設備 <p>iii. 1次系補給水ポンプによる使用済燃料ビットへの注水</p> <p>1次系補給水ポンプによる使用済燃料ビットへの注水で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1次系補給水ポンプ ・ 1次系純水タンク ・ 使用済燃料ビット ・ 化学体積制御設備 配管・弁 ・ 燃料取扱設備及び貯蔵設備 配管・弁 ・ 給水処理設備 配管・弁 ・ 常用電源設備 <p>iv. 電動機駆動消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプによる使用済燃料ビットへの注水</p> <p>電動機駆動消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプによる使用済燃料ビットへの注水で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電動機駆動消火ポンプ ・ ディーゼル駆動消火ポンプ ・ 使用済燃料ビット ・ ろ過水タンク ・ 火災防護設備（消火栓設備）配管・弁 ・ 給水処理設備 配管・弁 ・ 消防ホース ・ 常用電源設備 	<p>【大飯】 記載方針の相違(女川審査実績の反映) ・ 流路と給電に使用する設備の記載</p> <p>【大飯】 記載方針の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】 設備の相違(相違理由①)</p> <p>【大飯】 記載方針の相違(女川審査実績の反映) ・ 流路と給電に使用する設備の記載</p> <p>【大飯】 記載方針の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】 運用の相違(相違理由①) ・ 優先順位の相違による記載順序の相違。</p> <p>【大飯】 記載方針の相違(女川審査実績の反映) ・ 流路と給電に使用する設備の記載</p> <p>【大飯】 記載方針の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】 設備の相違(相違理由②)</p> <p>【大飯】 記載方針の相違(女川審査実績の反映) ・ 流路と給電に使用する設備の記載</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>【比較のため後段の記載より再掲】</p> <p>海水から使用済燃料ビットへの注水で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・送水車 <p>・軽油ドラム缶</p> <p>ポンプ車によるNo. 3淡水タンクから使用済燃料ビットへの注水で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・No. 3淡水タンク ・ポンプ車 <p>ポンプ車によるNo. 2淡水タンクから使用済燃料ビットへの注水で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・No. 2淡水タンク ・ポンプ車 	<p>【比較のため再掲（比較表p.11-11より）】</p> <p>ii. 燃料プール代替注水系（可搬型）による使用済燃料プールへの注水</p> <p>燃料プール代替注水系（可搬型）による使用済燃料プールへの注水で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大容量送水ポンプ（タイプ1） ・淡水貯水槽（No.1） ・淡水貯水槽（No.2） <ul style="list-style-type: none"> ・ホース延長回収車 ・ホース・注水用ヘッダ ・使用済燃料プール <ul style="list-style-type: none"> ・燃料補給設備 <p>なお、燃料プール代替注水系（可搬型）による使用済燃料プールへの注水は、代替淡水源（淡水貯水槽（No.1）及び淡水貯水槽（No.2）の淡水だけでなく、ろ過水タンクの淡水又は海水も利用できる。</p>	<p>v. 海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ビットへの注水</p> <p>海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ビットへの注水で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可搬型大型送水ポンプ車 <ul style="list-style-type: none"> ・可搬型ホース ・ホース延長・回収車（送水車用） <ul style="list-style-type: none"> ・使用済燃料ビット ・非常用取水設備 ・燃料補給設備 <p>vi. 代替給水ビットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ビットへの注水</p> <p>代替給水ビットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ビットへの注水で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可搬型大型送水ポンプ車 ・可搬型ホース ・代替給水ビット ・ホース延長・回収車（送水車用） ・使用済燃料ビット ・燃料補給設備 <p>vii. 原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ビットへの注水</p> <p>原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ビットへの注水で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可搬型大型送水ポンプ車 ・可搬型ホース ・原水槽 ・2次系純水タンク ・ろ過水タンク ・ホース延長・回収車（送水車用） ・使用済燃料ビット ・燃料補給設備 	<p>【大飯】 記載方針の相違（女川審査実績の反映） ・流路と燃料補給に使用する設備の記載 ・泊は可搬型大型送水ポンプ車への燃料補給に使用する可搬型タンクローリーやディーゼル発電機燃料油貯油槽等の設備を「燃料補給設備」と総称して載している。</p> <p>【女川】設備の相違（相違理由⑥）</p> <p>【大飯】 記載方針の相違（女川審査実績の反映） 【大飯】設備の相違（相違理由③） 【女川】設備の相違（相違理由②）</p> <p>【大飯】 記載方針の相違（女川審査実績の反映） ・流路と燃料補給に使用する設備の記載 【大飯】設備の相違（相違理由③）</p> <p>【大飯】 記載方針の相違（女川審査実績の反映） 【大飯】設備の相違（相違理由③） 【女川】設備の相違（相違理由②）</p> <p>【大飯】 記載方針の相違（女川審査実績の反映） ・流路と燃料補給に使用する設備の記載 【大飯】設備の相違（相違理由③）</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>1次系純水タンクから使用済燃料ピットへの注水で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1次系純水タンク ・1次系補給水ポンプ <p>海水から使用済燃料ピットへの注水で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・送水車 ・軽油ドラム缶 <p>(b) 重大事故等対処設備と多様性拡張設備 機能喪失原因対策分析の結果により選定した、使用済燃料ピットへの注水に使用する設備のうち送水車、軽油ドラム缶はいずれも重大事故等対処設備と位置づける。</p> <p>これらの機能喪失原因対策分析の結果により選定した設備は、審査基準及び基準規則に要求される設備をすべて網羅している。</p> <p>以上の重大事故等対処設備により、貯蔵槽内燃料体等の冷却、放射線の遮蔽、及び臨界を防止することが可能である。</p>	<p>(b) 漏えい抑制 使用済燃料プールに接続する配管の破断等により、燃料プール冷却浄化系戻り配管からサイフォン現象による使用済燃料プール水漏えいが発生した場合に、使用済燃料プールのサイフォン防止機能を有するサイフォンブレイク孔により、サイフォン現象の継続を防止することで、漏えいを停止する手段がある。 漏えい抑制で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイフォン防止機能 <p>(c) 重大事故等対処設備と自主対策設備 燃料プール代替注水で使用する設備のうち、大容量送水ポンプ（タイプ1）、ホース延長回収車、ホース・注水用ヘッド・接続口、燃料プール冷却浄化系配管・弁、使用済燃料プール及び燃料補給設備を重大事故等対処設備として位置付ける。</p> <p>淡水貯水槽（No.1）及び淡水貯水槽（No.2）は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1b)項を満足するための代替淡水源（措置）として位置付ける。 漏えい抑制で使用する設備のうち、サイフォン防止機能は重大事故等対処設備として位置付ける。</p> <p>これらの機能喪失原因対策分析の結果により選定した設備は、「審査基準」及び「基準規則」に要求される設備が全て網羅されている。 （添付資料1.11.1）</p> <p>以上の重大事故等対処設備により、使用済燃料プール内の燃料体等を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止することができる。</p>	<p>(b) 漏えい抑制 使用済燃料ピットに接続する配管の破断等により、使用済燃料ピット水浄化冷却設備出口配管からサイフォン現象による使用済燃料ピット水漏えいが発生した場合に、使用済燃料ピットのサイフォン防止機能を有するサイフォンブレイク孔により、サイフォン現象の継続を防止することで、漏えいを停止する手段がある。 漏えい抑制で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイフォン防止機能 <p>(c) 重大事故等対処設備と自主対策設備 使用済燃料ピットへの注水で使用する設備のうち、海水を用いる場合の可搬型大型送水ポンプ車、可搬型ホース、ホース延長・回収車（送水車用）、使用済燃料ピット、非常用取水設備及び燃料補給設備は重大事故等対処設備として位置付ける。</p> <p>漏えい抑制で使用する設備のうち、サイフォン防止機能は重大事故等対処設備として位置付ける。</p> <p>これらの機能喪失原因対策分析の結果により選定した設備は、「審査基準」及び「基準規則」に要求される設備がすべて網羅されている。 （添付資料1.11.1）</p> <p>以上の重大事故等対処設備により、使用済燃料ピット内の燃料体等を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止することができる。</p>	<p>【大飯】 記載箇所の相違 ・優先順位の相違による記載順序の相違。 前段の泊の記載箇所にて大飯を再掲し比較している。運用の相違（相違理由①、②参照）</p> <p>【大飯】 記載方針の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【女川】 設備名称の相違 ・泊⇄女川 使用済燃料ピット水浄化冷却設備出口配管⇄燃料プール冷却浄化系戻り配管 サイフォンブレイク⇄サイフォンブレイク孔</p> <p>【女川】 設備の相違（相違理由②）</p> <p>【大飯】 記載表現の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【大飯】 記載方針の相違（女川審査実績の反映） ・流路と燃料補給に使用する設備の記載 ・泊は可搬型大型送水ポンプ車への燃料補給に使用する可搬型タンクローリーやディーゼル発電機燃料油貯油槽等の設備を「燃料補給設備」と総称して記載している。</p> <p>【女川】 設備の相違（相違理由⑥）</p> <p>【大飯】 記載方針の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【女川】 記載表現の相違</p> <p>【大飯】 記載表現の相違（女川審査実績の反映）</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>また、以下の設備はそれぞれに示す理由から多様性拡張設備と位置づける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 燃料取替用水ピット、燃料取替用水ポンプ 燃料取替用水ピットは、事故時に原子炉等へ注水する必要がある場合に水源として使用すること、定期検査時において燃料取替時の原子炉キャビティへの水張りに使用することから、必要な水量が確保できない場合があるが、使用済燃料ピットへ注水するためには有効である。 N o. 3 淡水タンク 耐震性がないものの、健全であれば使用済燃料ピットへの注水を行う代替手段として有効である。 <p>【比較のため次頁より再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1次系純水タンク、1次系補給水ポンプ 耐震性がないものの、健全であれば使用済燃料ピットへの注水を行う代替手段として有効である。 <ul style="list-style-type: none"> N o. 2 淡水タンク 消火を目的として配備しているが、火災が発生していなければ使用済燃料ピットへの注水を行う代替手段として有効である。 <ul style="list-style-type: none"> N o. 3 淡水タンク、ポンプ車 N o. 3 淡水タンクは耐震性がないものの、健全であればポンプ車を使用して、使用済燃料ピットへの注水を行う代替手段として有効である。 <ul style="list-style-type: none"> N o. 2 淡水タンク、ポンプ車 N o. 2 淡水タンクは消火を目的として配備しているが、火災が発生していなければポンプ車を使用して、使用済燃料ピットへの注水を行う代替手段として有効である。 	<p>また、以下の設備はプラント状況によっては事故対応に有効な設備であるため、自主対策設備と位置付ける。あわせて、その理由を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ろ過水ポンプ、ろ過水タンク、ろ過水系配管・弁 耐震性は確保されておらず、大容量送水ポンプ（タイプ1）に比べ、注水量が少ないが、重大事故等へ対処するために使用できれば使用済燃料プール内の燃料体等を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止する手段として有効であるため、使用済燃料プールへの注水を確保するための手段となり得る。 	<p>また、以下の設備はプラント状況によっては事故対応に有効な設備であるため、自主対策設備と位置付ける。あわせて、その理由を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 燃料取替用水ピット、燃料取替用水ポンプ 燃料取替用水ピットは、事故時に原子炉容器等へ注水する必要がある場合に水源として使用すること、定期事業者検査時において燃料取替時の原子炉キャビティへの水張りに使用することから、必要な水量が確保できない場合があるが、使用済燃料ピットへ注水するためには有効である。 2次系補給水ポンプ、2次系純水タンク 耐震性がないものの、健全であれば使用済燃料ピット内の燃料体等を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止する手段として有効であるため、使用済燃料ピットへの注水を確保するための手段となり得る。 1次系補給水ポンプ、1次系純水タンク 耐震性がないものの、健全であれば使用済燃料ピット内の燃料体等を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止する手段として有効であるため、使用済燃料ピットへの注水を確保するための手段となり得る。 電動機駆動消火ポンプ、ディーゼル駆動消火ポンプ、ろ過水タンク 消火を目的として配備しているが、火災が発生していなければ使用済燃料ピット内の燃料体等を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止する手段として有効であるため、使用済燃料ピットへの注水を確保するための手段となり得る。 可搬型大型送水ポンプ車、代替給水ピット 代替給水ピットは耐震性がないものの、健全であれば可搬型大型送水ポンプ車を使用して、使用済燃料ピット内の燃料体等を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止する手段として有効であるため、使用済燃料ピットへの注水を確保するための手段となり得る。 可搬型大型送水ポンプ車、原水槽、2次系純水タンク、ろ過水タンク 原水槽は耐震性がないものの、健全であれば可搬型大型送水ポンプ車を使用して、使用済燃料ピット内の燃料体等を冷却し、放射線を遮蔽し、及び臨界を防止する手段として有効であるため、使用済燃料ピットへの注水を確保するための手段となり得る。 	<p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】設備の相違(相違理由①)</p> <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】設備の相違(相違理由②)</p> <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】設備の相違(相違理由③)</p> <p>・今後設置予定の代替給水ピットについては、構造上耐震性の評価が困難であるため、耐震性が確保できない自主対策設備として扱う。</p> <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】設備の相違(相違理由③)</p> <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>・1次系純水タンク、1次系補給水ポンプ 耐震性がないものの、健全であれば使用済燃料ピットへの注水を行う代替手段として有効である。</p> <p>b. 使用済燃料ピットからの大量の水の漏えい発生時の対応手段と設備 (a) 対応手段</p> <p>使用済燃料ピットからの大量の水の漏えい発生時、使用済燃料ピットへのスプレーにより燃料損傷を緩和し、臨界を防止し、燃料損傷時にできる限り環境への放射性物質の放出を低減する手段がある。</p> <p>使用済燃料ピットへのスプレーで使用する設備は以下のとおり。</p> <p>・送水車</p>	<p>b. 使用済燃料プールからの大量の水の漏えい発生時の対応手段及び設備 (a) 燃料プールのスプレー</p> <p>使用済燃料プールからの大量の水の漏えい発生時、使用済燃料プールへのスプレーにより、燃料損傷を緩和し、臨界を防止し、放射性物質の放出を低減する手段がある。</p> <p>i. 燃料プールのスプレー系（常設配管）による使用済燃料プールへのスプレー 燃料プールのスプレー系（常設配管）による使用済燃料プールへのスプレーで使用する設備は以下のとおり。 ・大容量送水ポンプ（タイプI） ・淡水貯水槽（No.1） ・淡水貯水槽（No.2） ・ホース延長回収車 ・ホース・注水用ヘッダ・接続口 ・燃料プール冷却浄化系配管・弁 ・スプレインノズル ・使用済燃料プール ・燃料補給設備 なお、燃料プールのスプレー系（常設配管）による使用済燃料プールへのスプレーは、代替淡水源（淡水貯水槽（No.1）及び淡水貯水槽（No.2）の淡水だけでなく、ろ過水タンクの淡水又は海水も利用できる。</p> <p>ii. 燃料プールのスプレー系（可搬型）による使用済燃料プールへのスプレー 燃料プールのスプレー系（可搬型）による使用済燃料プールへのスプレーで使用する設備は以下のとおり。 ・大容量送水ポンプ（タイプI） ・淡水貯水槽（No.1） ・淡水貯水槽（No.2） ・ホース延長回収車 ・ホース・注水用ヘッダ</p>	<p>b. 使用済燃料ピットからの大量の水の漏えい発生時の対応手段及び設備 (a) 使用済燃料ピットへのスプレー</p> <p>使用済燃料ピットからの大量の水の漏えい発生時、使用済燃料ピットへのスプレーにより、燃料損傷を緩和し、臨界を防止し、放射性物質の放出を低減する手段がある。</p> <p>i. 海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへのスプレー 海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへのスプレーで使用する設備は以下のとおり。 ・可搬型大型送水ポンプ車 ・可搬型ホース ・ホース延長・回収車（送水車用）</p>	<p>【大飯】記載箇所の相違 ・優先順位の相違による記載箇所の相違。 前段の泊の記載箇所にて大飯を再掲し比較する。（適用の相違（相違理由①）参照）</p> <p>【大飯】記載表現の相違（女川審査実績の反映） 【大飯】記載表現の相違（女川審査実績の反映） 【女川】設備の相違（相違理由①）</p> <p>【大飯】記載方針の相違（女川審査実績の反映） 【女川】設備の相違（相違理由②）</p> <p>【大飯】記載方針の相違（女川審査実績の反映） ・流路と燃料補給に使用する設備の記載。</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<ul style="list-style-type: none"> ・ スプレイヘッド ・ 軽油ドラム缶 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スプレイノズル ・ 使用済燃料プール ・ 燃料補給設備 <p>なお、燃料プールスプレイ系による使用済燃料プールへのスプレイは、代替淡水源（淡水貯水槽（No.1）及び淡水貯水槽（No.2））の淡水だけでなく、ろ過水タンクの淡水又は海水も利用できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 可搬型スプレイノズル ・ 使用済燃料ビット ・ 非常用取水設備 ・ 燃料補給設備 <p>ii. 代替給水ビットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ビットへのスプレイ 代替給水ビットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ビットへのスプレイで使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 可搬型大型送水ポンプ車 ・ 可搬型ホース ・ ホース延長・回収車（送水車用） ・ 代替給水ビット ・ 可搬型スプレイノズル ・ 使用済燃料ビット ・ 燃料補給設備 <p>iii. 原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ビットへのスプレイ 原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ビットへのスプレイで使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 可搬型大型送水ポンプ車 ・ 可搬型ホース ・ ホース延長・回収車（送水車用） ・ 原水槽 ・ 2次系純水タンク ・ ろ過水タンク ・ 可搬型スプレイノズル ・ 使用済燃料ビット ・ 燃料補給設備 	<p>【大飯】設備の相違（相違理由④）</p> <p>【大飯】 記載方針の相違（女川審査実績の反映）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 流路と燃料補給に使用する設備の記載 ・ 泊は可搬型大型送水ポンプ車への燃料補給に使用する可搬型タンクローリーやディーゼル発電機燃料油貯油槽等の設備を「燃料補給設備」と総称して記載している。 <p>【女川】設備の相違（相違理由⑥）</p> <p>【大飯】設備の相違（相違理由④）</p> <p>【大飯】設備の相違（相違理由④）</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>使用済燃料ビットからの大量の水の漏えいが発生し、燃料が損傷した場合に、原子炉周辺建屋（貯蔵槽内燃料体等）への放水によりできる限り環境への放射性物質の放出を低減する手段がある。</p> <p>原子炉周辺建屋（貯蔵槽内燃料体等）への放水で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大容量ポンプ（放水砲用） ・放水砲 ・燃料油貯蔵タンク ・重油タンク ・タンクローリー <p>使用済燃料ビット内側から漏えいしている場合に、設備を用いて漏えいを緩和する手段がある。</p> <p>使用済燃料ビットからの漏えい緩和で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴムシート ・鋼板 ・防水テープ ・吸水性ポリマー ・補修材 ・ロープ（吊り降ろし用） 	<p>iii. 化学消防自動車及び大型化学高所放水車による燃料プールスプレイ系（常設配管）を用いた使用済燃料プールへのスプレイ</p> <p>化学消防自動車及び大型化学高所放水車による燃料プールスプレイ系（常設配管）を用いた使用済燃料プールへのスプレイで使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型化学高所放水車 ・化学消防自動車 ・ろ過水タンク ・ホース・接続口 ・燃料プール冷却浄化系配管・弁 ・スプレイノズル ・使用済燃料プール <p>(b) 漏えい緩和</p> <p>使用済燃料プール内側から漏えいしている場合に、シーリング材を張り付けたステンレス鋼板を使用済燃料プール開口部付近までロープで吊り下ろし、漏えいするプール水の流れやプールによる水圧を利用して開口部を塞ぐことで漏えいを緩和する手段がある。</p> <p>この手段では、漏えいを緩和できない場合があること、重いステンレス鋼板を使用するため作業効率が悪いことから、今後得られた知見を参考に、より効果的な漏えい緩和策を取り入れていく。</p> <p>漏えい緩和で使用する資機材は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シーリング材 ・接着剤 ・ステンレス鋼板 ・吊り下ろしロープ 	<p>(b) 漏えい緩和</p> <p>使用済燃料ビット内側から漏えいしている場合に、ガスケット材を張り付けたステンレス鋼板を使用済燃料ビット開口部付近までロープで吊り下ろし、漏えいするビット水の流れやビットによる水圧を利用して開口部を塞ぐことで漏えいを緩和する手段がある。</p> <p>この手段では、漏えいを緩和できない場合があること、重いステンレス鋼板を使用するため作業効率が悪いことから、今後得られた知見を参考に、より効果的な漏えい緩和策を取り入れていく。</p> <p>漏えい緩和で使用する資機材は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガスケット材 ・ガスケット接着剤 ・ステンレス鋼板 ・吊り下ろしロープ 	<p>【女川】設備の相違（相違理由③）</p> <p>【大飯】 記載方針の相違（女川審査実績の反映） ・泊は下段の「(c) 大気への放射性物質の拡散抑制」にて整理する。</p> <p>【大飯】 記載方針の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【大飯】 記載表現の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【大飯】 記載方針の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【大飯】 記載表現の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【大飯】設備の相違（相違理由⑤）</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>【比較のため前段からの記載を再掲】</p> <p>使用済燃料ビットからの大量の水の漏えいが発生し、燃料が損傷した場合に、原子炉周辺建屋（貯蔵槽内燃料体等）への放水によりできる限り環境への放射性物質の放出を低減する手段がある。</p> <p>原子炉周辺建屋（貯蔵槽内燃料体等）への放水で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大容量ポンプ（放水砲用） ・放水砲 ・燃料油貯蔵タンク ・重油タンク ・タンクローリー <p>(b) 重大事故等対処設備と多様性拡張設備</p> <p>機能喪失原因対策分析の結果により選定した、使用済燃料ビットへのスプレイ及び原子炉周辺建屋（貯蔵槽内燃料体等）への放水に使用する設備のうち、送水車、スプレイヘッド、軽油ドラム缶、</p> <p>大容量ポンプ（放水砲用）、放水砲、燃料油貯蔵タンク、重油タンク及びタンクローリーはいずれも重大事故等対処設備と位置づける。</p>	<p>(c) 大気への放射性物質の拡散抑制</p> <p>重大事故等により、使用済燃料プール内の燃料体等の著しい損傷に至った場合において、大気へ放射性物質が拡散するおそれがある場合は、放水設備により大気への放射性物質の拡散を抑制する手段がある。</p> <p>大気への放射性物質の拡散抑制で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大容量送水ポンプ（タイプⅡ） ・ホース ・放水砲 ・ホース延長回収車 ・燃料補給設備 ・貯留堰 ・取水口 ・取水路 ・海水ポンプ室 <p>なお、大気への放射性物質の拡散抑制の操作手順については、「1.12 発電所外への放射性物質の拡散を抑制するための手順等」にて整備する。</p> <p>(d) 重大事故等対処設備と自主対策設備</p> <p>燃料プールのスプレイで使用する設備のうち、大容量送水ポンプ（タイプⅠ）、ホース延長回収車、ホース・注水用ヘッド・接続口、燃料プール冷却浄化系配管・弁、スプレイノズル、使用済燃料プール及び燃料補給設備は重大事故等対処設備として位置付ける</p> <p>淡水貯水槽（No.1）及び淡水貯水槽（No.2）は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1b)項を満足するための代替淡水源（措置）として位置付ける。</p> <p>大気への放射性物質の拡散抑制で使用する設備のうち、大容量送水ポンプ（タイプⅡ）、ホース、放水砲、ホース延長回収車、燃料補給設備、貯留堰、取水口、取水路及び海水ポンプ室は重大事故等対処設備として位置付ける。</p>	<p>(c) 大気への放射性物質の拡散抑制</p> <p>重大事故等により、使用済燃料ビット内の燃料体等の著しい損傷に至った場合において、大気へ放射性物質が拡散するおそれがある場合は、放水設備により大気への放射性物質の拡散を抑制する手段がある。</p> <p>大気への放射性物質の拡散抑制で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可搬型大容量海水送水ポンプ車 ・可搬型ホース ・放水砲 ・非常用取水設備 ・燃料補給設備 <p>なお、大気への放射性物質の拡散抑制の操作手順については、「1.12 発電所外への放射性物質の拡散を抑制するための手順等」にて整備する。</p> <p>(d) 重大事故等対処設備と自主対策設備</p> <p>使用済燃料ビットへのスプレイで使用する設備のうち、海水を用いる場合の可搬型大型送水ポンプ車、可搬型ホース、ホース延長・回収車（送水車用）、可搬型スプレイノズル、使用済燃料ビット、非常用取水設備及び燃料補給設備は重大事故等対処設備として位置付ける。</p> <p>大気への放射性物質の拡散抑制で使用する設備のうち、可搬型大容量海水送水ポンプ車、可搬型ホース、放水砲、非常用取水設備及び燃料補給設備は重大事故等対処設備として位置付ける。</p>	<p>【大飯】 記載方針の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【大飯】 記載表現の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【大飯】 記載表現の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【女川】設備の相違（相違理由⑦）</p> <p>【大飯】 記載方針の相違（女川審査実績の反映） ・流路と燃料補給に使用する設備の記載 ・泊は可搬型大型送水ポンプ車への燃料補給に使用する可搬型タンクローリーやディーゼル発電機燃料油貯槽等の設備を「燃料補給設備」と総称して記載している。</p> <p>【大飯】 記載方針の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【大飯】 記載表現の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【大飯】設備の相違（相違理由④） 【女川】設備の相違（相違理由②）</p> <p>【大飯】 記載方針の相違（女川審査実績の反映） ・流路と燃料補給に使用する設備の記載</p> <p>【女川】設備の相違（相違理由⑥）</p> <p>【女川】設備の相違（相違理由⑦）</p> <p>【大飯】 記載方針の相違（女川審査実績の反映） ・泊は可搬型大型送水ポンプ車への燃料補給に使用する可搬型タンクローリーやディーゼル発電機燃料油貯槽等の設備を「燃料補給設備」と総称して記載している。</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>これらの機能喪失原因対策分析の結果により選定した設備は、審査基準及び基準規則に要求される設備をすべて網羅している。</p> <p>以上の重大事故等対処設備により、燃料の著しい損傷の進行の緩和、臨界の防止及び燃料損傷時にできる限り環境への放射性物質の放出を低減することが可能である。</p> <p>また、以下の設備は多様性拡張設備と位置づける。あわせて、その理由を示す。</p> <p>・ゴムシート、銅板、防水テープ、吸水性ポリマー、補修材、ロープ（吊り降ろし用）</p> <p>漏えい箇所により漏えいを緩和できない場合があり、また、プラントの状況によって使用済燃料ビットへ近づけない場合があるが、使用できれば漏えい緩和として有効である。</p>	<p>これらの機能喪失原因対策分析の結果により選定した設備は、「審査基準」及び「基準規則」に要求される設備が全て網羅されている。</p> <p>(添付資料 1.11.1)</p> <p>以上の重大事故等対処設備により、使用済燃料プール内の燃料体等の著しい損傷を緩和し、臨界を防止すること及び放射性物質の放出を低減することができる。</p> <p>また、以下の設備はプラント状況によっては事故対応に有効な設備であるため、自主対策設備と位置付ける。あわせて、その理由を示す。</p> <p>【比較のため後段より再掲】</p> <p>・化学消防自動車、大型化学高所放水車及びびろ過水タンク</p> <p>化学消防自動車、大型化学高所放水車及びびろ過水タンクについては、耐震性は確保されていないが、重大事故等へ対処するために使用できれば使用済燃料プール内の燃料体等の著しい損傷の進行を緩和し、臨界を防止する手段として有効であるため、使用済燃料プールへのスプレイの代替手段となり得る。</p> <p>・シール材、接着剤、ステンレス鋼板及び吊り下ろしロープ</p> <p>プラントの状況によって使用済燃料プールへのアクセスができない場合があり、また、漏えい箇所により漏えいを緩和できない場合があるため効果に不確実さはあるものの、大量の水の漏えいを緩和する手段となり得るため、使用できれば漏えいを抑制する手段として有効である。</p> <p>・化学消防自動車、大型化学高所放水車及びびろ過水タンク</p> <p>化学消防自動車、大型化学高所放水車及びびろ過水タンクについては、耐震性は確保されていないが、重大事故等へ対処するために使用できれば使用済燃料プール内の燃料体等の著しい損傷の進行を緩和し、臨界を防止する手段として有効であるため、使用済燃料プールへのスプレイの代替手段となり得る。</p>	<p>これらの機能喪失原因対策分析の結果により選定した設備は、「審査基準」及び「基準規則」に要求される設備がすべて網羅されている。</p> <p>(添付資料 1.11.1)</p> <p>以上の重大事故等対処設備により、使用済燃料ビット内の燃料体等の著しい損傷を緩和し、臨界を防止すること及び放射性物質の放出を低減することができる。</p> <p>また、以下の設備はプラント状況によっては事故対応に有効な設備であるため、自主対策設備と位置付ける。あわせて、その理由を示す。</p> <p>・可搬型大型送水ポンプ車、代替給水ビット</p> <p>代替給水ビットは耐震性がないものの、健全であれば使用済燃料ビット内の燃料体等の著しい損傷の進行を緩和し、臨界を防止する手段として有効であるため、使用済燃料ビットへのスプレイの代替手段となり得る。</p> <p>・可搬型大型送水ポンプ車、原水槽、2次系純水タンク、ろ過水タンク</p> <p>原水槽は耐震性がないものの、健全であれば使用済燃料ビット内の燃料体等の著しい損傷の進行を緩和し、臨界を防止する手段として有効であるため、使用済燃料ビットへのスプレイの代替手段となり得る。</p> <p>・ガスケット材、ガスケット接着剤、ステンレス鋼板及び吊り下ろしロープ</p> <p>プラントの状況によって使用済燃料ビットへのアクセスができない場合があり、また、漏えい箇所により漏えいを緩和できない場合があるため効果に不確実さはあるものの、大量の水の漏えいを緩和する手段となり得るため、使用できれば漏えいを抑制する手段として有効である。</p>	<p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】設備の相違（相違理由④）</p> <p>・今後設置予定の代替給水ビットについては、構造上耐震性の評価が困難であるため、耐震性が確保できない自主対策設備として扱う。</p> <p>【大飯】設備の相違（相違理由④）</p> <p>【大飯】設備の相違（相違理由⑥）</p> <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【女川】設備の相違（相違理由③）</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>c. 重大事故等時における使用済燃料ピットの監視のための対応手段と設備</p> <p>(a) 対応手段</p> <p>重大事故等時において、使用済燃料ピットの水位、水温及び上部の空間線量率について変動する可能性にわたり測定するための下記に対応手段として使用済燃料ピットの監視設備がある。</p> <p>使用済燃料ピットの監視で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用済燃料ピット水位（AM用） ・可搬式使用済燃料ピット水位 ・使用済燃料ピット温度（AM用） ・可搬式使用済燃料ピット区域周辺エアモニタ <ul style="list-style-type: none"> ・使用済燃料ピット監視カメラ ・使用済燃料ピット監視カメラ冷却装置 <ul style="list-style-type: none"> ・使用済燃料ピット水位 ・使用済燃料ピット温度 ・使用済燃料ピット区域エアモニタ <ul style="list-style-type: none"> ・携帯型水温計 ・携帯型水位計 ・携帯型水位、水温計 <p>代替電源からの給電の確保で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空冷式非常用発電装置 ・燃料油貯蔵タンク ・重油タンク ・タンクローリー 	<p>c. 重大事故等時における使用済燃料プールの監視のための対応手段及び設備</p> <p>(a) 使用済燃料プールの監視</p> <p>重大事故等時において、使用済燃料プールの水位、水温及び上部の空間線量率について変動する可能性のある範囲にわたり測定するための手段がある。</p> <p>使用済燃料プールの監視で使用する設備（監視計器）は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用済燃料プール水位／温度（ヒートサーモ式） ・使用済燃料プール水位／温度（ガイドバルブ式） ・使用済燃料プール上部空間放射線モニタ（高線量、低線量） ・使用済燃料プール監視カメラ <p>(b) 代替電源による給電</p> <p>全交流動力電源又は直流電源が喪失した場合において、使用済燃料プールの状態を監視するため、代替電源設備により使用済燃料プール監視計器へ給電する手段がある。</p> <p>代替電源による給電で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常設代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・所内常設蓄電式直流電源設備 	<p>c. 重大事故等時における使用済燃料ピットの監視のための対応手段及び設備</p> <p>(a) 使用済燃料ピットの監視</p> <p>重大事故等時において、使用済燃料ピットの水位、水温及び上部の空間線量率について変動する可能性のある範囲にわたり測定するための手段がある。</p> <p>使用済燃料ピットの監視で使用する設備（監視計器）は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用済燃料ピット水位（AM用） ・使用済燃料ピット水位（可搬型） ・使用済燃料ピット温度（AM用） ・使用済燃料ピット可搬型エアモニタ <ul style="list-style-type: none"> ・使用済燃料ピット監視カメラ（使用済燃料ピット監視カメラ空冷装置を含む。） <ul style="list-style-type: none"> ・使用済燃料ピット水位 ・使用済燃料ピット温度 ・使用済燃料ピットエアモニタ <ul style="list-style-type: none"> ・携帯型水温計 ・携帯型水位計 ・携帯型水位・水温計 <p>(b) 代替電源による給電</p> <p>全交流動力電源又は直流電源が喪失した場合において、使用済燃料ピットの状態を監視するため、代替電源設備により使用済燃料ピット監視計器へ給電する手段がある。</p> <p>代替電源による給電で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常設代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・所内常設蓄電式直流電源設備 	<p>【大飯】 記載表現の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【大飯】 記載方針の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【大飯】 記載表現の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【大飯】 記載表現の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【女川】設備の相違（相違理由④）</p> <p>【女川】設備の相違（相違理由④）</p> <p>【女川】設備の相違（相違理由④）</p> <p>【女川】 記載方針の相違 ・泊は通常時の使用済燃料ピットの状態監視に使用する監視計器を自主対策設備として整理している。（大飯 3/4号炉と同様）</p> <p>【大飯】 記載方針の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【大飯】 記載表現の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【大飯】 記載方針の相違（女川実績の反映） ・泊は可搬型タンクローリーによる燃料補給に使用するディーゼル発電機燃料油貯槽、ディーゼル発電機燃料油移送ポンプを含め「〇〇電源設備」として整理している。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(b) 重大事故等対処設備と多様性拡張設備</p> <p>審査基準及び基準規則に要求される使用済燃料ピットの監視に使用する設備のうち、使用済燃料ピット水位（AM用）、可搬式使用済燃料ピット水位、使用済燃料ピット温度（AM用）、可搬式使用済燃料ピット区域周辺エリアモニタ、使用済燃料ピット監視カメラ、使用済燃料ピット監視カメラ冷却装置、空冷式非常用発電装置、燃料油貯蔵タンク、重油タンク及びタンクローリーは、いずれも重大事故等対処設備と位置づける。</p> <p>以上の重大事故等対処設備を用いて、使用済燃料ピットにかかる重大事故等により変動する可能性のある範囲にわたり、使用済燃料ピットの水位、水温、上部の空間線量率の測定を行うことで、使用済燃料ピットの継続的な状態監視を行うことが可能である。</p>	<p>・常設代替直流電源設備</p> <p>・可搬型代替直流電源設備</p> <p>(c) 重大事故等対処設備</p> <p>使用済燃料プールの監視に使用する設備（監視計器）のうち、使用済燃料プール水位／温度（ヒートサーモ式）、使用済燃料プール水位／温度（ガイドパルス式）、使用済燃料プール上部空間放射線モニタ（高線量、低線量）及び使用済燃料プール監視カメラは重大事故等対処設備として位置付ける。</p> <p>代替電源による給電に使用する設備のうち、常設代替交流電源設備、可搬型代替交流電源設備、所内常設蓄電式直流電源設備、常設代替直流電源設備及び可搬型代替直流電源設備は重大事故等対処設備として位置付ける。</p> <p>これらの機能喪失原因対策分析の結果により選定した設備は、「審査基準」及び「基準規則」に要求される設備が全て網羅されている。</p> <p>(添付資料1.11.1)</p> <p>以上の重大事故等対処設備により、使用済燃料プールの水位、水温及び上部の空間線量率について変動する可能性のある範囲にわたり測定することが可能である。</p>	<p>・可搬型代替直流電源設備</p> <p>(c) 重大事故等対処設備と自主対策設備</p> <p>使用済燃料ピットの監視に使用する設備（監視計器）のうち、使用済燃料ピット水位（AM用）、使用済燃料ピット水位（可搬型）、使用済燃料ピット温度（AM用）、使用済燃料ピット可搬型エリアモニタ及び使用済燃料ピット監視カメラ（使用済燃料ピット監視カメラ空冷装置を含む。）は重大事故等対処設備として位置付ける。</p> <p>代替電源による給電に使用する設備のうち、常設代替交流電源設備、可搬型代替交流電源設備、所内常設蓄電式直流電源設備及び可搬型代替直流電源設備は重大事故等対処設備として位置付ける。</p> <p>これらの機能喪失原因対策分析の結果により選定した設備は、「審査基準」及び「基準規則」に要求される設備がすべて網羅されている。</p> <p>(添付資料1.11.1)</p> <p>以上の重大事故等対処設備により、使用済燃料ピットの水位、水温及び上部の空間線量率について変動する可能性のある範囲にわたり測定することが可能である。</p>	<p>【女川】設備の相違</p> <p>・女川は125V蓄電池を「所内常設蓄電式直流電源設備」、125V代替蓄電池及び250V蓄電池を「常設代替直流電源設備」と位置付けている。</p> <p>・泊は蓄電池（非常用）と後備蓄電池を併せて「所内常設蓄電式直流電源設備」と位置付けている（詳細はSA基準適合性57条にて整理している）。</p> <p>【大飯】</p> <p>記載表現の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【女川】設備の相違（相違理由④）</p> <p>【大飯】</p> <p>記載方針の相違（女川実績の反映）</p> <p>・泊は可搬型タンクローリーによる燃料補給に使用するディーゼル発電機燃料油貯油槽、ディーゼル発電機燃料油移送ポンプを含め「常設代替交流電源設備」として整理している。</p> <p>【女川】設備の相違</p> <p>・女川は125V蓄電池を「所内常設蓄電式直流電源設備」、125V代替蓄電池及び250V蓄電池を「常設代替直流電源設備」と位置付けている。</p> <p>・泊は蓄電池（非常用）と後備蓄電池を併せて「所内常設蓄電式直流電源設備」と位置付けている（詳細はSA基準適合性57条にて整理している）。</p> <p>【大飯】</p> <p>記載方針の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【女川】記載表現の相違</p> <p>【大飯】</p> <p>記載表現の相違（女川審査実績の反映）</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>また、以下の設備はそれぞれに示す理由から多様性拡張設備と位置づける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 使用済燃料ピット水位、使用済燃料ピット温度、使用済燃料ピット区域エリアモニタ 使用済燃料ピット水位、使用済燃料ピット温度及び使用済燃料ピット区域エリアモニタは、耐震性を有していないものの、使用済燃料ピットの状態を把握する手段として有効である。 携帯型水温計、携帯型水位計及び携帯型水位、水温計 携帯型水温計、携帯型水位計及び携帯型水位、水温計は、計測者が使用済燃料ピット近傍へ接近しないと使用できないが、使用済燃料ピットの状態を把握する手段として有効である。 	<p>【比較のため参考とした記載を1.11.1b.(d)より再掲】 また、以下の設備はプラント状況によっては事故対応に有効な設備であるため、自主対策設備と位置付ける。あわせて、その理由を示す。</p> <p>d. 使用済燃料プールから発生する水蒸気による悪影響を防止するための対応手段及び設備 (a) 燃料プール冷却浄化系による使用済燃料プールの除熱 燃料プール冷却浄化系が全交流動力電源喪失及び原子炉補機冷却水系（原子炉補機冷却海水系を含む）の機能喪失により起動できず、使用済燃料プールから発生する水蒸気が重大事故等対処設備に悪影響を及ぼす可能性がある場合は、常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備を用いて非常用所内電気設備へ電源を供給することで燃料プール冷却浄化系の電源を確保し、原子炉補機代替冷却水系により冷却水を確保することで燃料プール冷却浄化系を起動し、使用済燃料プールを除熱する手段がある。 燃料プール冷却浄化系による使用済燃料プールの除熱で使用する設備は以下のとおり。 ・燃料プール冷却浄化系ポンプ ・使用済燃料プール ・燃料プール冷却浄化系熱交換器 ・燃料プール冷却浄化系配管・弁・スキマサージタンク・ディフューザ ・原子炉補機代替冷却水系 ・常設代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備</p> <p>(b) 重大事故等対処設備 燃料プール冷却浄化系による使用済燃料プールの除熱に使用する設備のうち燃料プール冷却浄化系ポンプ、使用済燃料プール、燃料プール冷却浄化系熱交換器、燃料プー</p>	<p>また、以下の設備はプラント状況によっては事故対応に有効な設備であるため、自主対策設備と位置付ける。あわせて、その理由を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 使用済燃料ピット水位、使用済燃料ピット温度、使用済燃料ピット区域エリアモニタ 使用済燃料ピット水位、使用済燃料ピット温度及び使用済燃料ピット区域エリアモニタは、耐震性を有していないものの、使用済燃料ピットの状態を把握する手段として有効である。 携帯型水温計、携帯型水位計、携帯型水位・水温計 携帯型水温計、携帯型水位計及び携帯型水位・水温計は、計測者が使用済燃料ピット近傍へ接近しないと使用できないが、使用済燃料ピットの状態を把握する手段として有効である。 	<p>【大阪】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【女川】 記載方針の相違 ・泊は通常時の使用済燃料ピットの状態監視に使用する監視計器を自主対策設備として整理している。(大阪 3/4号炉 と同様)</p> <p>【女川】 BWR 固有の対応手段(KK6/7 審査知見の反映)</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>d. 手順等</p> <p>上記の a.、b. 及び c. により選定した対応手段にかかる手順を整備する。</p> <p>また、事故時に監視が必要となる計器及び給電が必要となる設備についても整備する（第1.11.4表）。</p> <p>また、使用済燃料ピットの計測設備については、全交流動力電源喪失時に、代替電源から給電する手順を整備する（第1.11.5表）。</p> <p>これらの手順は、発電所対策本部長^{*2}、当直課長、運転員等^{*3}及び緊急安全対策要員^{*4}の対応として、使用済燃料ピットの冷却機能が喪失した場合の手順等に定める（第1.11.1表～第1.11.3表）。</p> <p>※ 2 発電所対策本部長：重大事故等発生時における発電所原子力防災管理者及び代行者をいう。</p> <p>※ 3 運転員等：運転員及び重大事故等対策要員のうち当直課長の指示に基づき運転対応を実施する要員をいう。</p> <p>※ 4 緊急安全対策要員：重大事故等対策要員のうち発電所対策本部長の指示に基づき対応する運転員等以外の要員をいう。</p>	<p>ル冷却浄化系配管・弁・スキマサージタンク・ディフューザ、原子炉補機代替冷却水系、常設代替交流電源設備及び可搬型代替 交流電源設備は重大事故等対処設備として位置付ける。</p> <p>これらの機能喪失原因対策分析の結果により選定した設備は、「審査基準」及び「基準規則」に要求される設備が全て網羅されている。</p> <p style="text-align: center;">(添付資料 1.11.1)</p> <p>以上の重大事故等対処設備により、燃料プール冷却浄化系が全交流動力 電源喪失により起動できない場合においても、燃料プール冷却浄化系の電 源を確保し、使用済燃料プールを除熱することができる。</p> <p>e. 手順等</p> <p>上記「a. 使用済燃料プールの冷却機能又は注水機能の喪失時、又は使用済燃料プール水の小規模な漏えい発生時の対応手段及び設備」、「b. 使用済燃料プールからの大量の水の漏えい発生時の対応手段及び設備」、「c. 重大事故等時における使用済燃料プールの監視のための対応手段及び設備」及び「d. 使用済燃料プールから発生する水蒸気による悪影響を防止するための対応手段及び設備」により選定した対応手段に係る手順を整備する。</p> <p>これらの手順は、運転員及び重大事故等対応要員の対応として非常時操作手順書(徴候ベース)、非常時操作手順書(プラント停止中)、非常時操作手順書(設備別)及び重大事故等対応要領書に定める（第1.11-1表）。</p>	<p>d. 手順等</p> <p>上記「a. 使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能の喪失時、又は使用済燃料ピット水の小規模な漏えい発生時の対応手段及び設備」、「b. 使用済燃料ピットからの大量の水の漏えい発生時の対応手段及び設備」及び「c. 重大事故等時における使用済燃料ピットの監視のための対応手段及び設備」により選定した対応手段に係る手順を整備する。</p> <p>これらの手順は、発電課長（当直）、運転員、災害対策要員及び災害対策要員（支援）の対応として、使用済燃料ピット水浄化冷却設備の異常時における対応手順等に定める（第1.11.1表）。</p>	<p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【女川】 BWR 固有の対応手段(KK6/7 審査知見の反映)</p> <p>【大飯】 記載箇所の相違(女川審査実績の反映) ・後段の泊の記載箇所に比較する</p> <p>【大飯】 記載箇所の相違(女川審査実績の反映) ・泊は上段の「c.」に左記の記載が含まれる。</p> <p>【大飯】記載方針の相違(相違理由①) 【大飯】手順書名称の相違</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>【比較のため前段の記載より再掲】</p> <p>また、事故時に監視が必要となる計器及び給電が必要となる設備についても整備する（第1.11.4表）。</p>	<p>また、重大事故等時に監視が必要となる計器及び給電が必要となる設備についても整理する（第1.11-2表、第1.11-3表）。</p> <p>(添付資料1.11.2)</p>	<p>また、重大事故等時に監視が必要となる計器及び給電が必要となる設備についても整理する（第1.11.2表、第1.11.3表）。</p> <p>(添付資料1.11.2)</p>	<p>【大阪】 記載表現の相違(女川審査実績の反映) 【大阪】記載方針の相違</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>1.11.2 重大事故等時の手順等</p> <p>1.11.2.1 使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能の喪失時、使用済燃料ピット水の小規模な漏えい発生時の手順等</p>	<p>1.11.2 重大事故等時の手順</p> <p>1.11.2.1 使用済燃料プールの冷却機能又は注水機能の喪失時、又は使用済燃料プール水の小規模な漏えい発生時の対応手順</p> <p>(1) 燃料プール代替注水</p> <p>a. 燃料プール代替注水系（常設配管）による使用済燃料プールへの注水</p> <p>使用済燃料プールの冷却機能又は注水機能の喪失、又は使用済燃料プールの小規模な水の漏えいが発生した場合に、代替淡水源（淡水貯水槽（No. 1）及び淡水貯水槽（No. 2））を水源として燃料プール代替注水系（常設配管）を使用した大容量送水ポンプ（タイプ I）により使用済燃料プールへ注水する。</p> <p>(a) 手順着手の判断基準</p> <p>以下のいずれかの状況に至った場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> 燃料プール水位低警報又は燃料プール温度高警報が発生した場合。 使用済燃料プールの冷却機能又は注水機能が喪失し、復旧が見込めない場合。 <p>(b) 操作手順</p> <p>燃料プール代替注水系（常設配管）による使用済燃料プールへの注水手順の概要は以下のとおり。（燃料プール注水接続口（北）を使用する場合の手順は、燃料プール注水接続口（東）を使用する場合の手順と同様）。</p> <p>手順の対応フローを第 1.11-2 図、第 1.11-3 図及び第 1.11-4 図に、概要図を第 1.11-5 図に、タイムチャートを第 1.11-6 図、第 1.11-7 図及び第 1.11-8 図に示す。</p> <p>① 発電課長は、手順着手の判断基準に基づき、発電所対策本部に燃料プール代替注水系（常設配管）による使用済燃料プールへの注水の準備開始を依頼する。</p> <p>②^a 燃料プール注水接続口（東）を使用する場合</p> <p>発電課長は、運転員に燃料プール代替注水系（常設配管）を使用した使用済燃料プールへの注水準備開始を指示する。</p> <p>②^b 燃料プール注水接続口（建屋内）を使用する場合</p> <p>発電課長は、運転員に燃料プール代替注水系（常設配管）を使用した使用済燃料プールへの注水準備開始を指示する。また、運転員にホース敷設のために必要な扉の開放を指示する。</p> <p>②^c 燃料プール注水接続口（建屋内）を使用する場合（故意による大型航空機の衝突その他のテロリズムによる影響がある場合）</p> <p>発電課長は、運転員に燃料プール代替注水系（常設配管）</p>	<p>1.11.2 重大事故等時の手順</p> <p>1.11.2.1 使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能の喪失時、又は使用済燃料ピット水の小規模な漏えい発生時の対応手順</p> <p>(1) 使用済燃料ピットへの注水</p>	<p>【大飯】 記載表現の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【大飯】 記載方針の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【女川】設備の相違（相違理由①）</p> <p>・泊は常設配管を使用しない手順であるため比較対象なし。女川と同等の対応手段の比較については、後段の女川「b. 燃料プール代替注水系（可搬型）による使用済燃料プールへの注水」と泊「^c。海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水」にて実施する。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>を使用した使用済燃料プールへの注水準備開始を指示する。また、運転員にホース敷設のために必要な扉の開放及びホース敷設を指示する。</p> <p>③ 運転員（中央制御室）Aは、中央制御室にて燃料プール代替注水系（常設配管）を使用した使用済燃料プールへの注水に必要な監視計器の電源が確保されていることを状態表示にて確認する。</p> <p>④^a 燃料プール注水接続口（東）を使用する場合 重大事故等対応要員は、現場にて大容量送水ポンプ（タイプI）の設置、ホースの敷設及び接続を行い、発電所対策本部へ報告する。また、発電所対策本部は、発電課長へ連絡する。</p> <p>④^b 燃料プール注水接続口（建屋内）を使用する場合 運転員（現場）B及びCは、ホース敷設のために必要な扉の開放を実施し、発電課長に報告する。重大事故等対応要員は、現場にて大容量送水ポンプ（タイプI）の設置、ホースの敷設及び接続を行い、発電所対策本部へ報告する。また、発電所対策本部は、発電課長へ連絡する。</p> <p>④^c 燃料プール注水接続口（建屋内）を使用する場合（故意による大型航空機の衝突その他のテロリズムによる影響がある場合） 運転員（現場）B及びCは、ホース敷設のために必要な扉の開放を実施する。運転員（現場）B及びC並びに重大事故等対応要員は、現場にて大容量送水ポンプ（タイプI）の設置、ホースの敷設及び接続を行い、発電所対策本部へ報告する。また、発電所対策本部は、発電課長へ連絡する。</p> <p>⑤ 発電課長は、現場でのホース敷設、接続完了を確認後、発電所対策本部に大容量送水ポンプ（タイプI）による送水開始を依頼する。</p> <p>⑥ 重大事故等対応要員は、現場にて大容量送水ポンプ（タイプI）の起動、燃料プール注水・スプレイ（常設配管）弁及び原子炉建屋東側燃料プール代替注水元弁の開操作を実施し、燃料プール代替注水系（常設配管）による使用済燃料プールへの注水開始を、発電所対策本部へ報告する。また、発電所対策本部は発電課長へ連絡する。</p> <p>⑦ 運転員（中央制御室）Aは、使用済燃料プールへの注水が始まったことを使用済燃料プール水位/温度（ヒートサーモ式）、使用済燃料プール水位/温度（ガイドバルス式）、使用済燃料プール上部空間放射線モニタ（高線量、低線量）及び使用済燃料プール監視カメラにより確認し、発電課長へ報告する。</p> <p>⑧ 発電課長は、使用済燃料プール水位が水位低レベルか</p>		

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>ら水位低レベルより約 300mm 低い位置の間で維持できるよう、発電所対策本部へ大容量送水ポンプ（タイプ I）による間欠注水又は現場での流量調整を依頼する。</p> <p>(c) 操作の成立性</p> <p>作業開始を判断してから燃料プール代替注水系（常設配管）による使用済燃料プールへの注水開始までの必要な要員数及び所要時間は以下のとおり。</p> <p>【燃料プール注水接続口（北）又は燃料プール注水接続口（東）を使用する場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運転員（中央制御室）1名及び重大事故等対応要員9名にて作業を実施した場合、380分以内で可能である。 <p>【燃料プール注水接続口（建屋内）を使用する場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運転員（中央制御室）1名、運転員（現場）2名及び重大事故等対応要員9名にて作業を実施した場合、380分以内で可能である。 <p>【燃料プール注水接続口（建屋内）を使用する場合（故意による大型航空機の衝突その他のテロリズムによる影響がある場合）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運転員（中央制御室）1名、運転員（現場）2名及び重大事故等対応要員10名にて作業を実施した場合、380分以内で可能である。 <p>円滑に作業できるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。大容量送水ポンプ（タイプ I）からのホースの接続は、汎用の結合金具であり、十分な作業スペースを確保していることから、容易に実施可能である。</p> <p>また、車両付属の作業用照明及び可搬型照明（ヘッドライト及び懐中電灯）を用いることで、夜間における作業性についても確保している。</p> <p style="text-align: center;">（添付資料 1.11.3）</p>		

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(1) 燃料取替用水ピットから使用済燃料ピットへの注水</p> <p>使用済燃料ピットの冷却機能喪失時又は使用済燃料ピットに接続する配管が破損し、使用済燃料ピット水の小規模な漏えいが発生した場合に、燃料取替用水ピットから使用済燃料ピットへ注水する手順を整備する。</p> <p>a. 手順着手の判断基準</p> <p>計画外に使用済燃料ピットポンプの全台停止等により冷却機能が喪失した場合若しくは使用済燃料ピット温度が50℃を超える場合、又は使用済燃料ピット水位が計画外にE.L.+33.06m以下まで低下している場合。</p> <p>b. 操作手順</p> <p>燃料取替用水ピットから使用済燃料ピットへの注水手順の概要は以下のとおり。概略系統を第1.11.3図に、タイムチャートを第1.11.4図に示す。</p> <p>① 当直課長は、手順着手の判断基準に基づき、運転員等へ燃料取替用水ピットによる注水の準備を指示する。</p> <p>② 運転員等は、現場で燃料取替用水ピットによる注水の系統構成を実施する。</p> <p>③ 運転員等は、現場で系統構成完了を確認し、当直課長へ報告する。</p> <p>④ 当直課長は、運転員等へ使用済燃料ピットへの注水開始を指示する。ただし、使用済燃料ピットの冷却機能喪失時においては、使用済燃料ピットの水位が低下していることを確認後に実施する。</p>	<p>【比較のため再掲（比較表p.1.11-26より）】</p> <p>a. 燃料プール代替注水系（常設配管）による使用済燃料プールへの注水</p> <p>使用済燃料プールの冷却機能又は注水機能の喪失、又は使用済燃料プールの小規模な水の漏えいが発生した場合に、代替淡水源（淡水貯水槽（No.1）及び淡水貯水槽（No.2））を水源として燃料プール代替注水系（常設配管）を使用した大容量送水ポンプ（タイプI）により使用済燃料プールへ注水する。</p>	<p>a. 燃料取替用水ポンプによる使用済燃料ピットへの注水</p> <p>使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能の喪失、又は使用済燃料ピットの小規模な水の漏えいが発生した場合に、燃料取替用水ピットを水源として燃料取替用水ポンプにより使用済燃料ピットへ注水する。</p> <p>(a) 手順着手の判断基準</p> <p>計画外に使用済燃料ピットポンプの全台停止等により冷却機能が喪失した場合若しくは使用済燃料ピット温度が60℃を超える場合、又は使用済燃料ピット水位が計画外にT.P.32.58m以下まで低下している場合。</p> <p>(b) 操作手順</p> <p>燃料取替用水ポンプによる使用済燃料ピットへの注水手順の概要は以下のとおり。概要図を第1.11.2図に、タイムチャートを第1.11.3図に示す。</p> <p>① 発電課長（当直）は、手順着手の判断基準に基づき、運転員へ燃料取替用水ポンプによる使用済燃料ピットへの注水の準備開始を指示する。</p> <p>② 運転員（中央制御室）A及び運転員（現場）Bは、中央制御室及び現場で燃料取替用水ポンプによる使用済燃料ピットへの注水の系統構成を実施する。</p> <p>③ 運転員（中央制御室）A及び運転員（現場）Bは、中央制御室及び現場で系統構成完了を確認し、発電課長（当直）へ報告する。</p> <p>④ 発電課長（当直）は、運転員へ使用済燃料ピットへの注水開始を指示する。ただし、使用済燃料ピットの冷却機能喪失時においては、使用済燃料ピットの水位が低下していることを確認後に実施する。</p>	<p>【大飯】 記載表現の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【大飯】設備の相違（相違理由⑤）</p> <p>【大飯】 記載表現の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【大飯】 記載方針の相違（女川審査実績の反映）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊は運転員の要員名称に「（中央制御室）」又は「（現場）」と記載し、アルファベットにより識別。 ・以降、同様の相違は、相違理由の記載を省略する。 <p>【大飯】設備の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラント固有の設計による操作場所の相違。 ・燃料取替用水ポンプを中央制御室から速やかに起動できるのは泊3号炉固有の設計。（操作手順⑤も同様）

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>⑤ 運転員等は、現場で燃料取替用水ポンプを起動し、注水を開始する。</p> <p>⑥ 運転員等は、現場で使用済燃料ピット水位等を監視し、注水状態に異常がないことを確認する。</p> <p>c. 操作の成立性 上記の現場対応は1ユニット当たり運転員等1名により作業を実施し、所要時間は約20分と想定する。</p> <p>円滑に作業ができるように、移動経路を確保し、可搬型照明、通信設備等を整備する。作業環境の周囲温度は通常運転状態と同程度である。</p> <p>原子炉停止後に取り出された全炉心分の燃料、以前から貯蔵している使用済燃料が、使用済燃料ピットの熱負荷が最大となるような組合せで貯蔵される場合の崩壊熱を条件として評価した想定事故1及び想定事故2のうち、いずれかが発生した場合であっても、重大事故等への対応操作により、放射線の遮蔽を維持できない水位に達する前に注水を開始でき、かつ蒸発水量以上の流量で注水するため使用済燃料ピットの水位を維持し、貯蔵槽内燃料体等を冷却、放射線を遮蔽する。 (添付資料 1.11.3、1.11.4)</p> <p>(2) No. 3 淡水タンクから使用済燃料ピットへの注水</p> <p>使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能が喪失し、又は使用済燃料ピットに接続する配管が破損し、使用済燃料ピット水の小規模な漏えいが発生した場合に、No. 3 淡水タンクから使用済燃料ピットへ注水する手順を整備する。</p> <p>a. 手順着手の判断基準 計画外に使用済燃料ピットポンプの全台停止等により冷却機能が喪失した場合若しくは使用済燃料ピット温度が50℃を超える場合、又は使用済燃料ピット水位が計画外にE.L.+33.06m以下まで低下している場合。</p>	<p>【比較のため再掲（比較表p.1.11-46,47より）】</p> <p>(c) 操作の成立性 上記の操作は、運転員（中央制御室）1名及び運転員（現場）2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してからろ過水ポンプによる使用済燃料プールへの注水開始まで45分以内で可能である。</p> <p>円滑に作業ができるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。室温は通常運転時と同程度である。</p> <p>【比較のため再掲（比較表p.1.11-26より）】</p> <p>a. 燃料プール代替注水系（常設配管）による使用済燃料プールへの注水 使用済燃料プールの冷却機能又は注水機能の喪失、又は使用済燃料プールの小規模な水の漏えいが発生した場合に、代替淡水源（淡水貯水槽（No.1）及び淡水貯水槽（No.2））を水源として燃料プール代替注水系（常設配管）を使用した大容量送水ポンプ（タイプ1）により使用済燃料プールへ注水する。</p>	<p>⑤ 運転員（中央制御室）Aは、中央制御室で燃料取替用水ポンプを起動し、注水を開始するとともに、燃料取替用水ポンプによる使用済燃料ピットへの注水開始を発電課長（当直）に報告する。</p> <p>⑥ 運転員（現場）Bは、現場で使用済燃料ピット水位等を監視し、注水状態に異常がないことを確認する。</p> <p>(c) 操作の成立性 上記の操作は、運転員（中央制御室）1名、運転員（現場）1名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから燃料取替用水ポンプによる使用済燃料ピットへの注水開始まで35分以内で可能である。</p> <p>円滑に作業ができるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。室温は通常運転時と同程度である。</p> <p>発電用原子炉停止後に取り出された全炉心分の燃料、以前から貯蔵している使用済燃料が、使用済燃料ピットの熱負荷が最大となるような組合せで貯蔵される場合の崩壊熱を条件として評価した想定事故1及び想定事故2のうち、いずれかが発生した場合であっても、重大事故等への対応操作により、放射線の遮蔽を維持できない水位に達する前に注水を開始でき、かつ蒸発水量以上の流量で注水するため使用済燃料ピットの水位を維持し、使用済燃料ピット内の燃料体等を冷却、放射線を遮蔽する。 (添付資料 1.11.4、1.11.5)</p> <p>b. 2次系補給水ポンプによる使用済燃料ピットへの注水 使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能の喪失、又は使用済燃料ピットの小規模な水の漏えいが発生した場合に、2次系純水タンクを水源として2次系補給水ポンプにより使用済燃料ピットへ注水する。</p> <p>(a) 手順着手の判断基準 計画外に使用済燃料ピットポンプの全台停止等により冷却機能が喪失した場合若しくは使用済燃料ピット温度が60℃を超える場合、又は使用済燃料ピット水位が計画外にT.P.32.58m以下まで低下している場合。</p>	<p>【大飯】設備の相違 ・プラント固有の設計による操作場所の相違。 【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】設備の相違（相違理由①）</p> <p>【大飯】 記載表現の相違 (女川審査実績の反映、記載の適正化)</p> <p>【大飯】設備の相違（相違理由⑤）</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>b. 操作手順</p> <p>N o. 3 淡水タンクから使用済燃料ピットへの注水手順の概要は以下のとおり。概略系統を第 1.11.5 図に、タイムチャートを第 1.11.6 図に示す。</p> <p>① 当直課長は、手順着手の判断基準に基づき、運転員等へN o. 3 淡水タンクによる注水の準備を指示する。</p> <p>② 運転員等は、現場でN o. 3 淡水タンクによる注水の系統構成を実施し、当直課長へ報告する。</p> <p>③ 当直課長は、運転員等へ使用済燃料ピットへの注水開始を指示する。ただし、使用済燃料ピットの冷却機能喪失時及び使用済燃料ピットの注水機能喪失時においては、使用済燃料ピットの水位が低下していることを確認後に実施する。</p> <p>④ 運転員等は、現場で使用済燃料ピット補給弁の開操作を行い、水頭圧を利用した重力注水により使用済燃料ピットへの注水を開始する。</p> <p>⑤ 運転員等は、現場で使用済燃料ピット水位等を監視し、注水状態に異常がないことを確認する。</p> <p>c. 操作の成立性</p> <p>上記の現場対応は 1 ユニット当たり運転員等 1 名により作業を実施し、所要時間は約 25 分と想定する。</p> <p>円滑に作業ができるように、移動経路を確保し、可搬型照明、通信設備等を整備する。作業環境の周囲温度は通常運転状態と同程度である。</p> <p>原子炉停止後に取り出された全炉心分の燃料、以前から貯蔵している使用済燃料が、使用済燃料ピットの熱負荷が最大となるような組合せで貯蔵される場合の崩壊熱を条件として評価した想定事故1及び想定事故2のうち、いずれかが発生した場合であっても、重大事故等への対応操作により、放射線の遮蔽を維持できない水位に達する前に注水を開始でき、かつ蒸発水量以上の流量で注水するため使用済燃料ピットの水位を維持し、貯蔵槽内燃料体等を冷却、放射線を遮蔽する。</p>	<p>【比較のため再掲（比較表 p. 1.11-46, 47 より）】</p> <p>(c) 操作の成立性</p> <p>上記の操作は、運転員（中央制御室）1名及び運転員（現場）2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから過水ポンプによる使用済燃料プールへの注水開始まで45分以内で可能である。</p> <p>円滑に作業ができるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。室温は通常運転時と同程度である。</p>	<p>(b) 操作手順</p> <p>2次系補給水ポンプによる使用済燃料ピットへの注水手順の概要は以下のとおり。概要図を第 1.11.4 図に、タイムチャートを第 1.11.5 図に示す。</p> <p>① 発電課長（当直）は、手順着手の判断基準に基づき、運転員へ2次系補給水ポンプによる使用済燃料ピットへの注水準備開始を指示する。</p> <p>② 運転員（中央制御室）Aは、中央制御室で2次系純水タンクを水源として、2次系補給水ポンプが運転中であることを確認する。運転していない場合は、中央制御室で2次系補給水ポンプを起動し、発電課長（当直）へ報告する。</p> <p>③ 運転員（現場）Bは、現場で2次系補給水ポンプによる使用済燃料ピットへの注水の系統構成を実施し、発電課長（当直）へ報告する。</p> <p>④ 発電課長（当直）は、運転員へ使用済燃料ピットへの注水開始を指示する。ただし、使用済燃料ピットの冷却機能喪失時においては、使用済燃料ピットの水位が低下していることを確認後に実施する。</p> <p>⑤ 運転員（現場）Bは、現場で使用済燃料ピットへの注水ラインの弁の開操作により、2次系補給水ポンプによる使用済燃料ピットへの注水を開始し、発電課長（当直）へ報告する。</p> <p>⑥ 運転員（現場）Bは、現場で使用済燃料ピット水位等を監視し、注水状態に異常がないことを確認する。</p> <p>(c) 操作の成立性</p> <p>上記の操作は、運転員（中央制御室）1名、運転員（現場）1名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから2次系補給水ポンプによる使用済燃料ピットへの注水開始まで30分以内で可能である。</p> <p>円滑に作業ができるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。室温は通常運転時と同程度である。</p> <p>発電用原子炉停止後に取り出された全炉心分の燃料、以前から貯蔵している使用済燃料が、使用済燃料ピットの熱負荷が最大となるような組合せで貯蔵される場合の崩壊熱を条件として評価した想定事故1及び想定事故2のうち、いずれかが発生した場合であっても、重大事故等への対応操作により、放射線の遮蔽を維持できない水位に達する前に注水を開始でき、かつ蒸発水量以上の流量で注水するため使用済燃料ピットの水位を維持し、使用済燃料ピット内の燃料体等を冷却、放射線を遮蔽する。</p>	<p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】設備の相違（相違理由①） ・泊は、タンク循環ラインにてポンプを起動した後、注水ラインの手動弁を開とし注水を開始する。 ・大飯の「N o. 3 淡水タンクから使用済燃料ピットへの注水」手順は重力注水。</p> <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】 記載表現の相違（記載の適正化）</p> <p>【大飯】設備の相違（相違理由①） 【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(添付資料 1.11.3、1.11.5)</p> <p>【比較のため1.11.2.1(7)の記載より再掲】</p> <p>(7) 1次系純水タンクから使用済燃料ピットへの注水</p> <p>使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能が喪失し、又は使用済燃料ピットに接続する配管が破損し、使用済燃料ピット水の小規模な漏えいが発生した場合に、1次系純水タンクから使用済燃料ピットへ注水する手順を整備する。</p> <p>a. 手順着手の判断基準</p> <p>計画外に使用済燃料ピットポンプの全台停止等により冷却機能が喪失した場合若しくは使用済燃料ピット温度が50℃を超える場合、又は使用済燃料ピット水位が計画外にE.L.+33.06m以下まで低下している場合。</p> <p>b. 操作手順</p> <p>1次系純水タンクから使用済燃料ピットへの注水手順の概要は以下のとおり。概略系統を第1.11.19図に、タイムチャートを第1.11.20図に示す。</p> <p>① 発電所対策本部長は、手順着手の判断基準に基づき緊急安全対策要員へ1次系純水タンクから使用済燃料ピットへの注水の準備を指示する。</p> <p>② 緊急安全対策要員は、現場で1次系純水タンクから使用済燃料ピットへ注水する系統構成を実施し、準備完了を発電所対策本部長へ報告する。</p> <p>③ 発電所対策本部長は、緊急安全対策要員へ1次系純水タンクから使用済燃料ピットへの注水開始を指示する。</p> <p>④ 緊急安全対策要員は、現場で1次系純水タンクから使用済燃料ピットへの注水を開始する。</p> <p>⑤ 緊急安全対策要員は、現場で使用済燃料ピット水位が通常水位から-1m程度の範囲内になるように注水流量を調整する。</p>	<p>(添付資料 1.11-26より)</p> <p>a. 燃料プール代替注水系（常設配管）による使用済燃料プールへの注水</p> <p>使用済燃料プールの冷却機能又は注水機能の喪失、又は使用済燃料プールの小規模な水の漏えいが発生した場合に、代替淡水源（淡水貯水槽(No.1)及び淡水貯水槽(No.2)）を水源として燃料プール代替注水系（常設配管）を使用した大容量送水ポンプ（タイプ1）により使用済燃料プールへ注水する。</p>	<p>(添付資料 1.11.4、1.11.6)</p> <p>c. 1次系補給水ポンプによる使用済燃料ピットへの注水</p> <p>使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能の喪失、又は使用済燃料ピットの小規模な水の漏えいが発生した場合に、1次系純水タンクを水源として1次系補給水ポンプにより使用済燃料ピットへ注水する。</p> <p>(a) 手順着手の判断基準</p> <p>計画外に使用済燃料ピットポンプの全台停止等により冷却機能が喪失した場合若しくは使用済燃料ピット温度が60℃を超える場合、又は使用済燃料ピット水位が計画外にT.P.32.58m以下まで低下している場合。</p> <p>(b) 操作手順</p> <p>1次系補給水ポンプによる使用済燃料ピットへの注水手順の概要は以下のとおり。概要図を第1.11.6図に、タイムチャートを第1.11.7図に示す。</p> <p>① 発電課長（当直）は、手順着手の判断基準に基づき、運転員へ1次系補給水ポンプによる使用済燃料ピットへの注水の準備開始を指示する。</p> <p>② 運転員（中央制御室）Aは、中央制御室で1次系純水タンクを水源として、1次系補給水ポンプが運転中であることを確認する。運転していない場合は、中央制御室で1次系補給水ポンプを起動し、発電課長（当直）へ報告する。</p> <p>③ 運転員（現場）Bは、現場で1次系補給水ポンプによる使用済燃料ピットへの注水の系統構成を実施し、準備完了を発電課長（当直）へ報告する。</p> <p>④ 発電課長（当直）は、運転員へ1次系補給水ポンプによる使用済燃料ピットへの注水開始を指示する。</p> <p>⑤ 運転員（現場）Bは、現場で1次系補給水ポンプによる使用済燃料ピットへの注水を開始する。</p> <p>⑥ 運転員（現場）Bは、現場で使用済燃料ピット水位が通常水位の範囲内になるように注水流量を調整する。</p>	<p>【大阪】 運用の相違（相違理由①）</p> <p>【大阪】 記載表現の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【大阪】 記載表現の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【大阪】 記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊はタンク循環ラインにてポンプを起動した後、注水ラインの手動弁を開とし注水を開始する手順である。系統構成は大阪3/4号炉と同様。 <p>【大阪】 記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊の「通常水位の範囲内」の具体的な目標値については添付資料 1.11.22 解読一覧に記載する。

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>【比較のため1.11.2.1(7)の記載より再掲】</p> <p>⑥ 緊急安全対策要員は、現場で使用済燃料ピット水位等を確認し、使用済燃料ピットへの注水を開始したことを発電所対策本部長へ報告する。</p> <p>⑦ 発電所対策本部長は、当直課長へ使用済燃料ピット水位等の監視を指示する。</p> <p>⑧ 運転員等は、中央制御室で使用済燃料ピット水位、使用済燃料ピット温度、使用済燃料ピット水位（AM用）、可搬式使用済燃料ピット水位、使用済燃料ピット温度（AM用）のほかに使用済燃料ピット区域エリアモニタ、可搬式使用済燃料ピット区域周辺エリアモニタ及び使用済燃料ピット監視カメラにより監視し、貯蔵槽内燃料体等が冷却状態にあることを確認する。</p> <p>c. 操作の成立性</p> <p>上記の現場対応は1ユニット当たり緊急安全対策要員3名により作業を実施し、所要時間は約60分と想定する。</p> <p>円滑に作業できるように、移動経路を確保し、可搬型照明、通信設備等を整備する。作業環境の周囲温度は通常運転状態と同程度である。</p> <p>原子炉停止後に取り出された全炉心分の燃料、以前から貯蔵している使用済燃料が、使用済燃料ピットの熱負荷が最大となるような組合せで貯蔵される場合の崩壊熱を条件として評価した想定事故1及び想定事故2のうち、いずれかが発生した場合であっても、重大事故等への対応操作により、放射線の遮蔽を維持できない水位に達する前に注水を開始でき、かつ蒸発水量以上の流量で注水するため使用済燃料ピットの水位を維持し、貯蔵槽内燃料体等を冷却、放射線を遮蔽する。</p> <p>(添付資料 1.11.3、1.11.10)</p> <p>(3) No. 2 淡水タンクから使用済燃料ピットへの注水（屋内消火栓）</p> <p>使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能が喪失し、又は使用済燃料ピットに接続する配管が破損し、使用済燃料ピット水の小規模な漏えいが発生した場合に、屋内消火栓を使用し、No. 2 淡水タンクから使用済燃料ピットへ注水する手順を整備する。</p> <p>ただし、No. 2 淡水タンクは、使用済燃料ピット近傍に立ち入ることができ、かつ重大事故等対処に悪影響を与える火災が発生していないことを確認して使用する。</p>	<p>【比較のため再掲（比較表 p. 1.11-46, 47 より）】</p> <p>(c) 操作の成立性</p> <p>上記の操作は、運転員（中央制御室）1名及び運転員（現場）2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してからろ過水ポンプによる使用済燃料プールへの注水開始まで45分以内で可能である。</p> <p>円滑に作業できるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。室温は通常運転時と同程度である。</p> <p>【比較のため再掲（比較表 p. 1.11-26 より）】</p> <p>a. 燃料プール代替注水系（常設配管）による使用済燃料プールへの注水</p> <p>使用済燃料プールの冷却機能又は注水機能の喪失、又は使用済燃料プールの小規模な水の漏えいが発生した場合に、代替淡水源（淡水貯水槽（No. 1）及び淡水貯水槽（No. 2））を水源として燃料プール代替注水系（常設配管）を使用した大容量送水ポンプ（タイプ1）により使用済燃料プールへ注水する。</p>	<p>⑦ 運転員（現場）Bは、現場で使用済燃料ピット水位等を確認し、使用済燃料ピットへの注水を開始したことを発電課長（当直）へ報告する。</p> <p>⑧ 発電課長（当直）は、運転員へ使用済燃料ピット水位等の監視を指示する</p> <p>⑨ 運転員（中央制御室）Aは、中央制御室で使用済燃料ピット水位、使用済燃料ピット温度、使用済燃料ピット水位（AM用）、使用済燃料ピット水位（可搬型）、使用済燃料ピット温度（AM用）のほかに使用済燃料ピットエリアモニタ、使用済燃料ピット可搬型エリアモニタ及び使用済燃料ピット監視カメラにより監視し、使用済燃料ピット内の燃料体等が冷却状態にあることを確認する。</p> <p>(c) 操作の成立性</p> <p>上記の操作は、運転員（中央制御室）1名、運転員（現場）1名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから1次系補給水ポンプによる使用済燃料ピットへの注水開始まで25分以内で可能である。</p> <p>円滑に作業できるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。室温は通常運転時と同程度である。</p> <p>発電用原子炉停止後に取り出された全炉心分の燃料、以前から貯蔵している使用済燃料が、使用済燃料ピットの熱負荷が最大となるような組合せで貯蔵される場合の崩壊熱を条件として評価した想定事故1及び想定事故2のうち、いずれかが発生した場合であっても、重大事故等への対応操作により、放射線の遮蔽を維持できない水位に達する前に注水を開始でき、かつ蒸発水量以上の流量で注水するため使用済燃料ピットの水位を維持し、使用済燃料ピット内の燃料体等を冷却、放射線を遮蔽する。</p> <p>(添付資料 1.11.4、1.11.7)</p> <p>d. 電動機駆動消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプによる使用済燃料ピットへの注水</p> <p>使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能の喪失、又は使用済燃料ピットの小規模な水の漏えいが発生した場合に、ろ過水タンクを水源として屋内消火栓を使用し、電動機駆動消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプにより使用済燃料ピットへ注水する。</p> <p>ただし、ろ過水タンクは、使用済燃料ピット近傍に立ち入ることができ、かつ重大事故等対処に悪影響を与える火災が発生していないことを確認して使用する。</p>	<p>【大阪】 記載表現の相違</p> <p>【大阪】 記載表現の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【大阪】 記載表現の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【大阪】 記載表現の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【大阪】設備の相違（相違理由②）</p> <p>【大阪】 記載表現の相違（女川審査実績の反映）</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>a. 手順着手の判断基準</p> <p>計画外に使用済燃料ピットポンプの全台停止等により冷却機能が喪失した場合若しくは使用済燃料ピット温度が50℃を超える場合、又は使用済燃料ピット水位が計画外にE.L.+33.06m以下まで低下している場合であって、かつ重大事故等対処に悪影響を与える火災が発生していないことを確認した場合。</p> <p>b. 操作手順</p> <p>N o. 2 淡水タンクから使用済燃料ピットへの注水手順（屋内消火栓）の概要は以下のとおり。概略系統を第1.11.7図に、タイムチャートを第1.11.8図に、ホース敷設ルート図を第1.11.9図に示す。</p> <p>① 当直課長は、手順着手の判断基準に基づき発電所対策本部長へ使用済燃料ピットへの注水の準備を指示する。</p> <p>② 発電所対策本部長は、緊急安全対策要員へN o. 2 淡水タンク（屋内消火栓）から使用済燃料ピットへの注水の準備を指示する。</p> <p>③ 緊急安全対策要員は、現場で可搬型ホースを運搬し、使用済燃料ピットまで敷設を行い、準備完了を発電所対策本部長へ報告する。</p> <p>④ 発電所対策本部長は、緊急安全対策要員へN o. 2 淡水タンク（屋内消火栓）から使用済燃料ピットへの注水開始を指示する。</p> <p>⑤ 緊急安全対策要員は、現場で屋内消火栓を使用し、水頭圧を利用した重力注水により使用済燃料ピットへの注水を開始する。</p> <p>⑥ 緊急安全対策要員は、現場で使用済燃料ピット水位が通常水位から-1m程度の範囲内になるように注水流量を調整する。</p> <p>⑦ 緊急安全対策要員は、現場で使用済燃料ピット水位等を確認し、使用済燃料ピットへの注水を開始したことを発電所対策本部長へ報告する。</p> <p>⑧ 発電所対策本部長は、当直課長へ使用済燃料ピット水位等の監視を指示する。</p> <p>⑨ 運転員等は、中央制御室で使用済燃料ピット水位、使用済燃料ピット温度、使用済燃料ピット水位（AM用）、可搬式使用済燃料ピット水位、使用済燃料ピット温度（AM用）のほかに使用済燃料ピット区域エリアモニタ、可搬式使用済燃料ピット区域周辺エリアモニタ及び使用済燃料ピット監視カメラにより監視し、貯蔵槽内燃料体等が冷却状態にあることを確認する。</p>		<p>(a) 手順着手の判断基準</p> <p>計画外に使用済燃料ピットポンプの全台停止等により冷却機能が喪失した場合若しくは使用済燃料ピット温度が60℃を超える場合、又は使用済燃料ピット水位が計画外にT.P.32.58m以下まで低下している場合であって、かつ重大事故等対処に悪影響を与える火災が発生していないことを確認した場合。</p> <p>(b) 操作手順</p> <p>電動機駆動消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプによる使用済燃料ピットへの注水手順の概要は以下のとおり。概要図を第1.11.8図に、タイムチャートを第1.11.9図に、ホース敷設ルート図を第1.11.10図に示す。</p> <p>① 発電課長（当直）は、手順着手の判断基準に基づき、運転員へ電動機駆動消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプによる使用済燃料ピットへの注水準備開始を指示する。</p> <p>② 運転員（現場）Bは、現場で消防ホースを運搬し、使用済燃料ピットまで敷設を行い、準備完了を発電課長（当直）へ報告する。</p> <p>③ 発電課長（当直）は、運転員へ電動機駆動消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプによる使用済燃料ピットへの注水開始を指示する。</p> <p>④ 運転員（現場）Bは、現場で電動機駆動消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプを起動し、使用済燃料ピットへの注水を開始する。</p> <p>⑤ 運転員（現場）Bは、現場で使用済燃料ピット水位が通常水位の範囲内になるように注水流量を調整する。</p> <p>⑥ 運転員（現場）Bは、現場で使用済燃料ピット水位等を確認し、使用済燃料ピットへの注水を開始したことを発電課長（当直）へ報告する。</p> <p>⑦ 発電課長（当直）は、運転員へ使用済燃料ピット水位等の監視を指示する。</p> <p>⑧ 運転員（中央制御室）Aは、中央制御室で使用済燃料ピット水位、使用済燃料ピット温度、使用済燃料ピット水位（AM用）、使用済燃料ピット水位（可搬型）、使用済燃料ピット温度（AM用）のほかに使用済燃料ピットエリアモニタ、使用済燃料ピット可搬型エリアモニタ及び使用済燃料ピット監視カメラにより監視し、使用済燃料ピット内の燃料体等が冷却状態にあることを確認する。</p>	<p>【大阪】設備の相違（相違理由⑤）</p> <p>【大阪】記載表現の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【大阪】記載表現の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【大阪】設備の相違（相違理由②）</p> <p>【大阪】記載表現の相違 ・泊の「通常水位の範囲内」の具体的な目標値については添付資料 1.11.22「解説一覧」に記載する。</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>c. 操作の成立性</p> <p>上記の現場対応は1ユニット当たり緊急安全対策要員2名により作業を実施し、所要時間は、約60分と想定する。</p> <p>円滑に作業できるように、移動経路を確保し、可搬型照明、通信設備等を整備する。作業環境の周囲温度は通常運転状態と同程度である。また、No.2淡水タンク（屋内消火栓）から使用済燃料ピットへの注水時に構内のアクセス状況を考慮して可搬型ホースを敷設し、移送ルートを確認する。</p> <p>原子炉停止後に取り出された全炉心分の燃料、以前から貯蔵している使用済燃料が、使用済燃料ピットの熱負荷が最大となるような組合せで貯蔵される場合の崩壊熱を条件として評価した想定事故1及び想定事故2のうち、いずれかが発生した場合であっても、重大事故等への対応操作により、放射線の遮蔽を維持できない水位に達する前に注水を開始でき、かつ蒸発水量以上の流量で注水するため使用済燃料ピットの水位を維持し、貯蔵槽内燃料体等を冷却、放射線を遮蔽する。</p> <p style="text-align: right;">(添付資料1.11.3、1.11.6)</p> <p>(4) No.2淡水タンクから使用済燃料ピットへの注水（屋外消火栓）</p> <p>使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能が喪失し、又は使用済燃料ピットに接続する配管が破損し、使用済燃料ピット水の小規模な漏えいが発生した場合に、屋外消火栓を使用し、No.2淡水タンクから使用済燃料ピットへ注水する手順を整備する。</p> <p>ただし、No.2淡水タンクは、使用済燃料ピット近傍に立ち入ることができ、かつ重大事故等対処に悪影響を与える火災が発生していないことを確認して使用する。</p> <p>a. 手順着手の判断基準</p> <p>計画外に使用済燃料ピットポンプの全台停止等により冷却機能が喪失した場合若しくは使用済燃料ピット温度が50℃を超える場合、又は使用済燃料ピット水位が計画外にE.L.+33.06m以下まで低下している場合であって、かつ重大事故等対処に悪影響を与える火災が発生していないことを確認した場合。</p> <p>b. 操作手順</p> <p>No.2淡水タンクから使用済燃料ピットへの注水手順</p>	<p>【比較のため再掲（比較表p.1.11-46,47より）】</p> <p>(c) 操作の成立性</p> <p>上記の操作は、運転員（中央制御室）1名及び運転員（現場）2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから過水ポンプによる使用済燃料プールへの注水開始まで45分以内で可能である。</p> <p>円滑に作業できるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。室温は通常運転時と同程度である。</p>	<p>(c) 操作の成立性</p> <p>上記の操作は、運転員（現場）1名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから電動機駆動消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプによる使用済燃料ピットへの注水開始まで30分以内で可能である。</p> <p>円滑に作業できるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。室温は通常運転時と同程度である。また、電動機駆動消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプによる使用済燃料ピットへの注水時に構内のアクセス状況を考慮して消防ホースを敷設し、移送ルートを確認する。</p> <p>発電用原子炉停止後に取り出された全炉心分の燃料、以前から貯蔵している使用済燃料が、使用済燃料ピットの熱負荷が最大となるような組合せで貯蔵される場合の崩壊熱を条件として評価した想定事故1及び想定事故2のうち、いずれかが発生した場合であっても、重大事故等への対応操作により、放射線の遮蔽を維持できない水位に達する前に注水を開始でき、かつ蒸発水量以上の流量で注水するため使用済燃料ピットの水位を維持し、使用済燃料ピット内の燃料体等を冷却、放射線を遮蔽する。</p> <p style="text-align: right;">(添付資料1.11.4、1.11.8)</p>	<p>【大飯】 記載表現の相違</p> <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】設備の相違（相違理由②）</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(屋外消火栓)の概要は以下のとおり。概略系統を第1.11.10図に、タイムチャートを第1.11.11図に、ホース敷設ルート図を第1.11.12図に示す。</p> <p>① 発電所対策本部長は、手順着手の判断基準に基づき緊急安全対策要員へNo. 2淡水タンク(屋外消火栓)から使用済燃料ピットへの注水の準備を指示する。</p> <p>② 屋内及び屋外の緊急安全対策要員は、現場で可搬型ホースを運搬し、使用済燃料ピットまで敷設する。</p> <p>③ 屋内の緊急安全対策要員は、管理区域境界の扉を開放する。</p> <p>④ 屋内の緊急安全対策要員は、現場で屋内及び屋外に敷設された可搬型ホースを接続し、準備完了を発電所対策本部長へ報告する。</p> <p>⑤ 発電所対策本部長は、緊急安全対策要員へNo. 2淡水タンク(屋外消火栓)から使用済燃料ピットへの注水開始を指示する。</p> <p>⑥ 緊急安全対策要員は、現場で屋外消火栓を使用し、水頭圧を利用した重力注水により使用済燃料ピットへの注水を開始する。</p> <p>⑦ 緊急安全対策要員は、現場で使用済燃料ピット水位が通常水位から-1m程度の範囲内になるように注水流量を調整する。</p> <p>⑧ 緊急安全対策要員は、現場で使用済燃料ピット水位等を確認し、使用済燃料ピットへの注水を開始したことを発電所対策本部長へ報告する。</p> <p>⑨ 発電所対策本部長は、当直課長へ使用済燃料ピット水位等の監視を指示する。</p> <p>⑩ 運転員等は、中央制御室で使用済燃料ピット水位、使用済燃料ピット温度、使用済燃料ピット水位(A用)、可搬式使用済燃料ピット水位、使用済燃料ピット温度(A用)のほかに使用済燃料ピット区域エリアモニタ、可搬式使用済燃料ピット区域周辺エリアモニタ及び使用済燃料ピット監視カメラにより監視し、貯蔵槽内燃料体等が冷却状態にあることを確認する。</p> <p>c. 操作の成立性</p> <p>上記の現場対応は1ユニット当たり緊急安全対策要員3名により作業を実施し、所要時間は、約60分と想定する。</p> <p>円滑に作業できるように、移動経路を確保し、可搬型照明、通信設備等を整備する。作業環境の周囲温度は通常運転状態と同程度である。また、No. 2淡水タンク(屋外消火栓)から使用済燃料ピットへの注水時に構内のアクセス状況を考慮して可搬型ホースを敷設し、移送ルートを確認する。</p>			

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>原子炉停止後に取り出された全炉心分の燃料、以前から貯蔵している使用済燃料が、使用済燃料ピットの熱負荷が最大となるような組合せで貯蔵される場合の崩壊熱を条件として評価した想定事故1及び想定事故2のうち、いずれかが発生した場合であっても、重大事故等への対応操作により、放射線の遮蔽を維持できない水位に達する前に注水を開始でき、かつ蒸発水量以上の流量で注水するため使用済燃料ピットの水位を維持し、貯蔵槽内燃料体等を冷却、放射線を遮蔽する。</p> <p>(添付資料 1.11.3、1.11.7)</p> <p>【比較のため、1.11.2.1(8)の記載より再掲】</p> <p>(8) 海水から使用済燃料ピットへの注水</p> <p>使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能が喪失し、又は使用済燃料ピットに接続する配管が破損し、使用済燃料ピット水の小規模な漏えいが発生した場合に、送水車を使用し、海水から使用済燃料ピットへ注水する手順を整備する。</p> <p>a. 手順着手の判断基準</p> <p>計画外に使用済燃料ピットポンプの全台停止等により冷却機能が喪失した場合若しくは使用済燃料ピット温度が50℃を超える場合、又は使用済燃料ピット水位が計画外にE.L.+33.06m以下まで低下している場合であって、かつ燃料取替用水ピット及びNo.3淡水タンクの機能が喪失した場合又は燃料取替用水ピット及びNo.3淡水タンクからの注水を実施しても水位低下が継続する場合。</p>	<p>b. 燃料プール代替注水系（可搬型）による使用済燃料プールへの注水</p> <p>使用済燃料プールの冷却機能又は注水機能の喪失、又は使用済燃料プールの小規模な水の漏えいが発生した場合に、代替淡水源（淡水貯水槽（No.1）及び淡水貯水槽（No.2））を水源とし大容量送水ポンプ（タイプ1）により使用済燃料プールへ注水する。</p> <p>(a) 手順着手の判断基準</p> <p>以下のいずれかの状況に至り、燃料プール代替注水系（常設配管）による使用済燃料プールへの注水ができない場合。ただし、燃料取替床へアクセスできる場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> 燃料プール水位低警報又は燃料プール温度高警報が発生した場合。 使用済燃料プールの冷却機能又は注水機能が喪失し、復旧が見込めない場合。 	<p>e. 海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水</p> <p>使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能の喪失、又は使用済燃料ピットの小規模な水の漏えいが発生した場合に、海を水源として可搬型大型送水ポンプ車により使用済燃料ピットへ注水する。</p> <p>(a) 手順着手の判断基準</p> <p>計画外に使用済燃料ピットポンプの全台停止等により冷却機能が喪失した場合若しくは使用済燃料ピット温度が60℃を超える場合、又は使用済燃料ピット水位が計画外にT.P.32.58m以下まで低下している場合。</p>	<p>【大飯、女川】記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊の可搬型大型送水ポンプ車は、海水と淡水が選択可能なため「海水を用いた」と記載し手段を識別している。 <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【女川】 設計方針の相違（相違理由⑤）</p> <p>【大飯】設備の相違（相違理由⑤）</p> <p>【大飯】運用の相違（相違理由②）</p> <p>【女川】記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は手順着手の判断基準となる使用済燃料ピットの温度及び水位を記載している。(大飯3/4号炉と同様)

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>【比較のため1.11.2.1(8)の記載より再掲】</p> <p>b. 操作手順</p> <p>送水車による海水から使用済燃料ピットへの注水手順の概要は以下のとおり。</p> <p>概略系統を第 1.11.21 図に、タイムチャートを第 1.11.22 図に、ホース敷設ルート図を第 1.11.23 図に示す。</p> <p>① 発電所対策本部長は、手順着手の判断基準に基づき緊急安全対策要員へ海水から使用済燃料ピットへの注水の準備を指示する。</p> <p>② 緊急安全対策要員は、現場で送水車を配置するとともに可搬型ホースを準備し、所定の位置に移動する。</p> <p>③ 緊急安全対策要員は、現場で送水車から使用済燃料ピットへの可搬型ホースの敷設及び接続を行う。</p> <p>④ 緊急安全対策要員は、準備完了を発電所対策本部長へ報告する。</p>	<p>(b) 操作手順</p> <p>燃料プール代替注水系（可搬型）による使用済燃料プールへの注水手順の概要（原子炉建屋大物搬入口経由）は以下のとおり（原子炉建屋扉を経由して使用済燃料プールへ注水する場合も同様。）。</p> <p>なお、ホース敷設ルートとして原子炉建屋大物搬入口経由を優先することとし、使用できない場合は原子炉建屋扉を経由する。手順の対応フローを第 1.11-2 図、第 1.11-3 図及び第 1.11-4 図に、概要図を第 1.11-9 図に、タイムチャートを第 1.11-10 図に示す。</p> <p>① 発電課長は、手順着手の判断基準に基づき、発電所対策本部に燃料プール代替注水系（可搬型）による使用済燃料プールへの注水の準備開始を依頼する。</p> <p>② 発電課長は、運転員に燃料プール代替注水系（可搬型）を使用した使用済燃料プールへの注水の準備開始を指示する。</p> <p>③ 運転員（中央制御室）Aは、中央制御室にて燃料プール代替注水系（可搬型）を使用した使用済燃料プールへの注水に必要な監視計器の電源が確保されていることを状態表示にて確認する。</p> <p>④ 運転員（現場）B、C及び重大事故等対応要員は、現場にて大容量送水ポンプ（タイプ I）の設置及びホースの敷設、接続を実施し、発電所対策本部へ報告する。また、発電所対策本部は、発電課長へ連絡する。</p>	<p>(b) 操作手順</p> <p>海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水手順の概要は以下のとおり。</p> <p>概要図を第 1.11.11 図に、タイムチャートを第 1.11.12 図に、ホース敷設ルート図を第 1.11.13 図に示す。</p> <p>① 発電課長（当直）は、手順着手の判断基準に基づき、災害対策要員及び災害対策要員（支援）に海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水の準備開始を指示する。</p> <p>② 災害対策要員及び災害対策要員（支援）は、現場で資機材の保管場所へ移動し、可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型ホースを所定の位置に移動する。</p> <p>③ 災害対策要員（支援）は、現場で可搬型ホースを使用済燃料ピットまで敷設する。</p> <p>④ 災害対策要員は、現場でホース延長・回収車（送水車用）にて可搬型ホースを敷設する。</p> <p>⑤ 災害対策要員は、現場で海水取水箇所近傍に可搬型大型送水ポンプ車を設置する。</p> <p>⑥ 災害対策要員は、現場で可搬型大型送水ポンプ車から水中ポンプを取り出し、可搬型ホースと接続後、海水取水箇所に水中ポンプを水面より低く、かつ着底しない位置に設置する。</p> <p>⑦ 災害対策要員及び災害対策要員（支援）は、海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水準備が完了したことを発電課長（当直）へ報告する。</p>	<p>【大飯、女川】記載表現の相違</p> <p>【女川】記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊の操作手順は2つあるホース敷設ルート共通の手順を記載している。 <p>【女川】運用の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は発電課長（当直）が手順着手を判断し、作業員に作業開始を指示する。（女川の操作手順⑤、⑥も同様） <p>【大飯】</p> <p>記載表現の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【女川】記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 監視計器を含めた電源の健全性確認は、手順着手の判断前に確認している事項のため、操作手順には記載しない。（大飯 3/4号炉と同様） <p>【大飯、女川】記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 大飯は、送水車の設置、可搬型ホース敷設及び準備完了報告に関する内容を②～④で記載している。 女川は、大容量送水ポンプ（タイプ I）の設置、ホース敷設及び準備完了報告に関する内容を④で記載している。 泊は、可搬型大型送水ポンプ車の設置、可搬型ホース敷設及び注水準備完了報告に関する内容を②～⑦で記載しており、他の審査項目の可搬型大型送水ポンプの手順と記載表現を統一している。

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>【比較のため1.11.2.1(8)の記載より再掲】</p> <p>⑤ 発電所対策本部長は、1次系純水タンクから使用済燃料ピットへの注水ができない場合又は1次系純水タンクから使用済燃料ピットへの注水を実施しても水位低下が継続する場合、緊急安全対策要員へ海水から使用済燃料ピットへの注水開始を指示する。</p> <p>⑥ 緊急安全対策要員は、現場で送水車を起動し、運転状態に異常のないことを確認する。</p> <p>⑦ 緊急安全対策要員は、現場で使用済燃料ピット水位が通常水位から-1m程度の範囲内になるように注水流量を調整する。</p> <p>⑧ 緊急安全対策要員は、現場で送水車の運転状態及び使用済燃料ピット水位を確認し、使用済燃料ピットへの注水を開始したことを発電所対策本部長へ報告する。</p> <p>⑨ 発電所対策本部長は、当直課長へ使用済燃料ピット水位等の監視を指示する。</p> <p>⑩ 運転員等は、中央制御室で使用済燃料ピット水位、使用済燃料ピット温度、使用済燃料ピット水位（AM用）、可搬式使用済燃料ピット水位、使用済燃料ピット温度（AM用）のほかに使用済燃料ピット区域エリアモニタ、可搬式使用済燃料ピット区域周辺エリアモニタ及び使用済燃料ピット監視カメラにより監視し、貯蔵槽内燃料体等が冷却状態にあることを確認する。</p> <p>⑪ 緊急安全対策要員は、現場で送水車の運転状態を継続して監視し、定格負荷運転時における給油間隔を目安に燃料の給油を実施する（燃料を給油しない場合、送水車は約5.4時間の運転が可能。）。</p>	<p>⑤ 発電課長は、現場でのホース敷設、接続完了を確認後、発電所対策本部に大容量送水ポンプ（タイプI）による送水開始を依頼する。</p> <p>⑥ 重大事故等対応要員は、現場にて大容量送水ポンプ（タイプI）の起動及び燃料プール注水・スプレイ弁の開操作を実施し、燃料プール代替注水系（可搬型）による使用済燃料プールへの注水開始を、発電所対策本部へ報告する。また、発電所対策本部は発電課長へ連絡する。</p> <p>⑦ 運転員（中央制御室）Aは、使用済燃料プールへの注水が開始されたことを使用済燃料プール水位／温度（ヒートサーモ式）、使用済燃料プール水位／温度（ガイドバルス式）、使用済燃料プール上部空間放射線モニタ（高線量、低線量）及び使用済燃料プール監視カメラにより確認し、発電課長に報告する。</p> <p>⑧ 発電課長は、使用済燃料プール水位が水位低レベルから水位低レベルより約300mm低い位置の間で維持できるよう、発電所対策本部へ大容量送水ポンプ（タイプI）による間欠注水又は現場での流量調整を依頼する。</p>	<p>⑧ 発電課長（当直）は、電動機駆動消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプによる使用済燃料ピットへの注水ができない場合又は使用済燃料ピットへの注水を実施しても水位低下が継続する場合、災害対策要員へ海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水開始を指示する。</p> <p>⑨ 災害対策要員は、現場で可搬型大型送水ポンプ車を起動し、使用済燃料ピットへの注水を開始するとともに、可搬型大型送水ポンプ車の運転状態に異常がないことを確認する。</p> <p>⑩ 災害対策要員は、現場で使用済燃料ピット水位が通常水位の範囲内になるように注水流量を調整する。</p> <p>⑪ 災害対策要員は、現場で使用済燃料ピット水位を確認し、使用済燃料ピットへの注水を開始したことを発電課長（当直）へ報告する。</p> <p>⑫ 発電課長（当直）は、運転員へ使用済燃料ピット水位等の監視を指示する。</p> <p>⑬ 運転員（中央制御室）Aは、中央制御室で使用済燃料ピット水位、使用済燃料ピット温度、使用済燃料ピット水位（AM用）、使用済燃料ピット水位（可搬型）、使用済燃料ピット温度（AM用）のほかに使用済燃料ピットエリアモニタ、使用済燃料ピット可搬型エリアモニタ及び使用済燃料ピット監視カメラにより監視し、使用済燃料ピット内の燃料体等が冷却状態にあることを確認する。</p> <p>⑭ 災害対策要員は、現場で可搬型大型送水ポンプ車の運転状態を継続して監視し、定格負荷運転時における給油間隔を目安に燃料の給油を実施する。（燃料を給油しない場合、可搬型大型送水ポンプ車は約5.5時間の運転が可能。）</p>	<p>【大阪、女川】記載表現の相違</p> <p>【女川】記載表現の相違 ・泊は可搬型大型送水ポンプ車起動後の運転状態の確認手順を記載している。</p> <p>【大阪】記載表現の相違 ・泊の「通常水位の範囲内」の具体的な目標値については添付資料 1.11.22「解説」一覽に記載する。</p> <p>【女川】記載箇所の相違 ・女川は注水流量調整の手順を⑧に記載している。</p> <p>【大阪】記載表現の相違 ・泊は可搬型大型送水ポンプ車の運転状態確認を操作手順⑨に記載</p> <p>【女川】記載表現の相違 ・監視計器により、使用済燃料ピットの状態を確認する手順に相違なし。</p> <p>【女川】記載方針の相違（記載箇所の相違） ・泊は注水流量調整の手順を⑩に記載している。</p> <p>【女川】記載方針の相違 ・泊は燃料補給が必要な設備に対して燃料補給を実施する手順を記載している。</p> <p>【大阪】設備の相違 ・燃費は相違するが、燃料が枯渇する前に継続して燃料補給を行うことに相違なし。</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>【比較のため1.11.2.1(8)の記載より再掲】</p> <p>c. 操作の成立性</p> <p>上記の現場対応は1ユニット当たり緊急安全対策要員5名により作業を実施し、所要時間は、約2.7時間と想定する。</p> <p>円滑に作業できるように、移動経路を確保し、可搬型照明、通信設備等を整備する。</p> <p>可搬型ホース等の取付けについては速やかに作業ができるよう送水車の保管場所に可搬型ホース等を配備する。</p> <p>作業環境の周囲温度は通常運転状態と同程度である。</p> <p>また、海水から使用済燃料ピットへの注水時に構内のアクセス状況を考慮して可搬型ホースを敷設し、移送ルートを確認する。</p> <p>原子炉停止後に取り出された全炉心分の燃料、以前から貯蔵している使用済燃料が、使用済燃料ピットの熱負荷が最大となるような組合せで貯蔵される場合の崩壊熱を条件として評価した想定事故1及び想定事故2のうち、いずれかが発生した場合であっても、重大事故等への対応操作により、放射線の遮蔽を維持できない水位に達する前に注水を開始でき、かつ蒸発水量以上の流量で注水するため使用済燃料ピットの水位を維持し、貯蔵槽内燃料体等を冷却、放射線を遮蔽する。</p> <p>(添付資料 1.11.3、1.11.11)</p>	<p>(c) 操作の成立性</p> <p>上記の操作は、運転員（中央制御室）1名、運転員（現場）2名及び重大事故等対応要員10名にて作業を実施し、作業開始を判断してから燃料プール代替注水系（可搬型）による使用済燃料プールへの注水開始まで380分以内で可能である。</p> <p>円滑に作業できるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。</p> <p>また、速やかに作業が開始できるよう、原子炉建屋内で使用する資機材は作業場所近傍に配備する。大容量送水ポンプ（タイプI）からのホースの接続は、汎用の結合金具であり、十分な作業スペースを確保していることから、容易に実施可能である。</p> <p>また、車両付属の作業用照明及び可搬型照明（ヘッドライト及び懐中電灯）を用いることで、夜間における作業性についても確保している。</p> <p>(添付資料 1.11.3)</p>	<p>(c) 操作の成立性</p> <p>上記の操作は、災害対策要員3名及び災害対策要員（支援）2名にて作業を実施し、作業開始を判断してから海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水開始まで250分以内で可能である。</p> <p>円滑に作業できるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。</p> <p>また、速やかに作業が開始できるよう、使用する資機材は可搬型大型送水ポンプ車の保管場所及び作業場所近傍に配備する。可搬型大型送水ポンプ車からのホースの接続は、汎用の結合金具であり、十分な作業スペースを確保していることから、容易に実施可能である。</p> <p>また、車両付属の作業用照明及び可搬型照明（ヘッドライト及び懐中電灯）を用いることで、夜間における作業性についても確保している。</p> <p>作業環境の周囲温度は通常運転時と同程度である。</p> <p>また、海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水時に構内のアクセス状況を考慮して可搬型ホースを敷設し、移送ルートを確認する。</p> <p>発電用原子炉停止後に取り出された全炉心分の燃料、以前から貯蔵している使用済燃料が、使用済燃料ピットの熱負荷が最大となるような組合せで貯蔵される場合の崩壊熱を条件として評価した想定事故1及び想定事故2のうち、いずれかが発生した場合であっても、重大事故等への対応操作により、放射線の遮蔽を維持できない水位に達する前に注水を開始でき、かつ蒸発水量以上の流量で注水するため使用済燃料ピットの水位を維持し、使用済燃料ピット内の燃料体等を冷却、放射線を遮蔽する。</p> <p>(添付資料 1.11.4、1.11.9)</p>	<p>【大阪】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大阪】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【女川】記載表現の相違 ・泊は他の審査項目と記載表現を統一</p> <p>【大阪】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p>
<p>(5) ポンプ車によるNo.3淡水タンクから使用済燃料ピットへの注水</p> <p>使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能が喪失し、又は使用済燃料ピットに接続する配管が破損し、使用済燃料ピット水の小規模な漏えいが発生した場合に、ポンプ車を使用し、No.3淡水タンクから使用済燃料ピットへ注水する手順を整備する。</p>	<p>【比較のため再掲（比較表p.1.11-26より）】</p> <p>a. 燃料プール代替注水系（常設配管）による使用済燃料プールへの注水</p> <p>使用済燃料プールの冷却機能又は注水機能の喪失、又は使用済燃料プールの小規模な水の漏えいが発生した場合に、代替淡水源（淡水貯水槽（No.1）及び淡水貯水槽（No.2））を水源として燃料プール代替注水系（常設配管）を使用した大容量送水ポンプ（タイプI）により使用済燃料プールへ注水する。</p>	<p>f. 代替給水ピットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水</p> <p>使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能の喪失、又は使用済燃料ピットの小規模な水の漏えいが発生した場合に、代替給水ピットを水源として可搬型大型送水ポンプ車により使用済燃料ピットへ注水する。</p>	<p>【大阪】設備の相違（相違理由③）</p> <p>【大阪】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>a. 手順着手の判断基準 計画外に使用済燃料ピットポンプの全台停止等により冷却機能が喪失した場合若しくは使用済燃料ピット温度が50℃を超える場合、又は使用済燃料ピット水位が計画外にE.L. +33.06m以下まで低下している場合。</p> <p>b. 操作手順 ポンプ車によるNo. 3淡水タンクから使用済燃料ピットへの注水手順の概要は以下のとおり。概略系統を第1.11.13図に、タイムチャートを第1.11.14図に、ホース敷設ルート図を第1.11.15図に示す。</p> <p>① 発電所対策本部長は、手順着手の判断基準に基づき緊急安全対策要員へポンプ車によるNo. 3淡水タンクから使用済燃料ピットへの注水の準備を指示する。</p> <p>② 緊急安全対策要員は、現場でポンプ車及び可搬型ホースを準備し、所定の位置に移動する。</p> <p>③ 緊急安全対策要員は、現場でポンプ車及び可搬型ホースを配置し、敷設を行い、準備完了を発電所対策本部長へ報告する。</p> <p>④ 発電所対策本部長は、緊急安全対策要員へNo. 3淡水タンクから使用済燃料ピットへの注水開始を指示する。</p> <p>⑤ 緊急安全対策要員は、現場で淡水タンクブロー弁の開操作を行う。</p> <p>⑥ 緊急安全対策要員は、現場でポンプ車を起動し、使用済燃料ピットへの注水を開始する。</p> <p>⑦ 緊急安全対策要員は、現場で使用済燃料ピット水位が通常水位から-1m程度の範囲内になるように注水流量を調整する。</p>		<p>(a) 手順着手の判断基準 計画外に使用済燃料ピットポンプの全台停止等により冷却機能が喪失した場合若しくは使用済燃料ピット温度が60℃を超える場合、又は使用済燃料ピット水位が計画外にT.P. 32.58m以下まで低下している場合。</p> <p>(b) 操作手順 代替給水ピットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水手順の概要は以下のとおり。概要図を第1.11.14図に、タイムチャートを第1.11.15図に、ホース敷設ルート図を第1.11.16図に示す。</p> <p>① 発電課長（当直）は、手順着手の判断基準に基づき、災害対策要員及び災害対策要員（支援）に代替給水ピットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水の準備開始を指示する。</p> <p>② 災害対策要員及び災害対策要員（支援）は、現場で資機材の保管場所へ移動し、可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型ホースを所定の位置に移動する。</p> <p>③ 災害対策要員（支援）は、現場で可搬型ホースを使用済燃料ピットまで敷設する。</p> <p>④ 災害対策要員は、現場でホース延長・回収車（送水車用）にて可搬型ホースを敷設する。</p> <p>⑤ 災害対策要員は、代替給水ピット近傍に可搬型大型送水ポンプ車を設置し、可搬型大型送水ポンプ車の吸管を代替給水ピットへ挿入する。</p> <p>⑥ 災害対策要員及び災害対策要員（支援）は、代替給水ピットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水準備が完了したことを発電課長（当直）へ報告する。</p> <p>⑦ 発電課長（当直）は、災害対策要員へ代替給水ピットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水開始を指示する。</p> <p>⑧ 災害対策要員は、現場で可搬型大型送水ポンプ車を起動し、使用済燃料ピットへの注水を開始するとともに、可搬型大型送水ポンプ車の運転状態に異常がないことを確認する。</p> <p>⑨ 災害対策要員は、現場で使用済燃料ピット水位が通常水位の範囲内になるように注水流量を調整する。</p>	<p>【大阪】設備の相違（相違理由⑤）</p> <p>【大阪】設備の相違（相違理由③）</p> <p>【大阪】記載表現の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【大阪】記載表現の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【大阪】記載表現の相違 ・ポンプ車設置、ホース敷設及びポンプ車起動手順を記載していることに相違なし。</p> <p>【大阪】設備の相違 ・泊は吸管により水を汲み上げるため、弁操作不要。</p> <p>【大阪】記載表現の相違 ・大阪はポンプ車の運転状態確認を操作手順⑧に記載。</p> <p>【大阪】記載表現の相違 ・泊の「通常水位の範囲内」の具体的な目録値については添付資料1.11.22「解釈一覧」に記載する。</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>⑧ 緊急安全対策要員は、現場でポンプ車の運転状態及び使用済燃料ピット水位を確認し、使用済燃料ピットへの注水を開始したことを発電所対策本部長へ報告する。</p> <p>⑨ 発電所対策本部長は、当直課長へ使用済燃料ピット水位等の監視を指示する。</p> <p>⑩ 運転員等は、中央制御室で使用済燃料ピット水位、使用済燃料ピット温度、使用済燃料ピット水位（AM用）、可搬式使用済燃料ピット水位、使用済燃料ピット温度（AM用）のほか使用済燃料ピット区域エリアモニタ、可搬式使用済燃料ピット区域周辺エリアモニタ及び使用済燃料ピット監視カメラにより監視し、貯蔵槽内燃料体等が冷却状態にあることを確認する。</p> <p>c. 操作の成立性 上記の現場対応は1ユニット当たり緊急安全対策要員4名により作業を実施し、所要時間は、約4.8時間と想定する。</p> <p>円滑に作業できるように、移動経路を確保し、可搬型照明、通信設備等を整備する。</p> <p>作業環境の周囲温度は通常運転状態と同程度である。 また、ポンプ車によるNo.3淡水タンクから使用済燃料ピットへの注水時に構内のアクセス状況を考慮して可搬型ホースを敷設し、移送ルートを確認する。</p> <p>原子炉停止後に取り出された全炉心分の燃料、以前から貯蔵している使用済燃料が、使用済燃料ピットの熱負荷が最大となるような組合せで貯蔵される場合の崩壊熱を条件として評価した想定事故1及び想定事故2のうち、いずれかが発生した場合であっても、重大事故等への対応操作</p>		<p>⑩ 災害対策要員は、現場で使用済燃料ピット水位を確認し、使用済燃料ピットへの注水を開始したことを発電課長（当直）へ報告する。</p> <p>⑪ 発電課長（当直）は、運転員へ使用済燃料ピット水位等の監視を指示する。</p> <p>⑫ 運転員（中央制御室）Aは、中央制御室で使用済燃料ピット水位、使用済燃料ピット温度、使用済燃料ピット水位（AM用）、使用済燃料ピット水位（可搬型）、使用済燃料ピット温度（AM用）のほか使用済燃料ピットエリアモニタ、使用済燃料ピット可搬型エリアモニタ及び使用済燃料ピット監視カメラにより監視し、使用済燃料ピット内の燃料体等が冷却状態にあることを確認する。</p> <p>⑬ 災害対策要員は、現場で可搬型大型送水ポンプ車の運転状態を継続して監視し、定格負荷運転時における給油間隔を目安に燃料の給油を実施する。（燃料を給油しない場合、可搬型大型送水ポンプ車は約6.5時間の運転が可能。）</p> <p>(c) 操作の成立性 上記の操作は、災害対策要員3名及び災害対策要員（支援）2名にて作業を実施し、作業開始を判断してから代替給水ピットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水開始まで150分以内で可能である。</p> <p>円滑に作業できるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。 また、速やかに作業を開始できるように、使用する資機材は可搬型大型送水ポンプ車の保管場所及び作業場所近傍に配備する。可搬型大型送水ポンプ車からのホースの接続は、汎用の結合金具であり、十分な作業スペースを確保していることから、容易に実施可能である。 また、車両付属の作業用照明及び可搬型照明（ヘッドライト及び懐中電灯）を用いることで、夜間における作業性についても確保している。 作業環境の周囲温度は通常運転時と同程度である。 また、代替給水ピットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水時に構内のアクセス状況を考慮して可搬型ホースを敷設し、移送ルートを確認する。 発電用原子炉停止後に取り出された全炉心分の燃料、以前から貯蔵している使用済燃料が、使用済燃料ピットの熱負荷が最大となるような組合せで貯蔵される場合の崩壊熱を条件として評価した想定事故1及び想定事故2のうち、いずれかが発生した場合であっても、重大事故等への</p>	<p>【大飯】記載表現の相違 ・泊は可搬型大型送水ポンプ車の運転状態確認を操作手順⑧に記載。</p> <p>【大飯】記載表現の相違</p> <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>により、放射線の遮蔽を維持できない水位に達する前に注水を開始でき、かつ蒸発水量以上の流量で注水するため使用済燃料ピットの水位を維持し、貯蔵槽内燃料体等を冷却、放射線を遮蔽する。</p> <p>(添付資料 1.11.3、1.11.8)</p> <p>(6) ポンプ車によるNo. 2 淡水タンクから使用済燃料ピットへの注水</p> <p>使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能が喪失し、又は使用済燃料ピットに接続する配管が破損し、使用済燃料ピット水の小規模な漏えいが発生した場合に、ポンプ車を使用し、No. 2 淡水タンクから使用済燃料ピットへ注水する手順を整備する。</p> <p>a. 手順着手の判断基準</p> <p>計画外に使用済燃料ピットポンプの全台停止等により冷却機能が喪失した場合若しくは使用済燃料ピット温度が 50℃を超える場合、又は使用済燃料ピット水位が計画外に E.L. +33.06m 以下まで低下している場合。</p> <p>b. 操作手順</p> <p>ポンプ車によるNo. 2 淡水タンクから使用済燃料ピットへの注水手順の概要は以下のとおり。概略系統を第 1.11.16 図に、タイムチャートを第 1.11.17 図に、ホース敷設ルート図を第 1.11.18 図に示す。</p> <p>① 発電所対策本部長は、手順着手の判断基準に基づき緊急安全対策要員へポンプ車によるNo. 2 淡水タンクから使用済燃料ピットへの注水の準備を指示する。</p> <p>② 緊急安全対策要員は、現場でポンプ車及び可搬型ホースを準備し、所定の位置に移動する。</p> <p>③ 緊急安全対策要員は、現場でポンプ車及び可搬型ホースを配置し、敷設を行い、準備完了を発電所対策本部長へ報告する。</p>	<p>【比較のため再掲（比較表 p. 1.11-26 より）】</p> <p>a. 燃料プール代替注水系（常設配管）による使用済燃料プールへの注水</p> <p>使用済燃料プールの冷却機能又は注水機能の喪失、又は使用済燃料プールの小規模な水の漏えいが発生した場合に、代替淡水源（淡水貯水槽（No. 1）及び淡水貯水槽（No. 2））を水源として燃料プール代替注水系（常設配管）を使用した大容量送水ポンプ（タイプ I）により使用済燃料プールへ注水する。</p>	<p>対応操作により、放射線の遮蔽を維持できない水位に達する前に注水を開始でき、かつ蒸発水量以上の流量で注水するため使用済燃料ピットの水位を維持し、使用済燃料ピット内の燃料体等を冷却、放射線を遮蔽する。</p> <p>(添付資料 1.11.4、1.11.10)</p> <p>g. 原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水</p> <p>使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能の喪失、又は使用済燃料ピットの小規模な水の漏えいが発生した場合に、原水槽を水源として可搬型大型送水ポンプ車により使用済燃料ピットへ注水する。</p> <p>(a) 手順着手の判断基準</p> <p>計画外に使用済燃料ピットポンプの全台停止等により冷却機能が喪失した場合若しくは使用済燃料ピット温度が 60℃を超える場合、又は使用済燃料ピット水位が計画外に T.P. 32.58m 以下まで低下している場合。</p> <p>(b) 操作手順</p> <p>原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水手順の概要は以下のとおり。概要図を第 1.11.17 図に、タイムチャートを第 1.11.18 図に、ホース敷設ルート図を第 1.11.19 図に示す。</p> <p>① 発電課長（当直）は、手順着手の判断基準に基づき、災害対策要員及び災害対策要員（支援）に原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水準備開始を指示する。</p> <p>② 災害対策要員及び災害対策要員（支援）は、現場で資機材の保管場所へ移動し、可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型ホースを所定の位置に移動する。</p> <p>③ 災害対策要員（支援）は、現場で可搬型ホースを使用済燃料ピットまで敷設する。</p> <p>④ 災害対策要員は、現場でホース延長・回収車（送水車用）にて可搬型ホースを敷設する。</p> <p>⑤ 災害対策要員は、現場で原水槽マンホール近傍に可搬型大型送水ポンプ車を設置し、可搬型大型送水ポンプ車の吸管を原水槽マンホールへ挿入する。</p> <p>⑥ 災害対策要員及び災害対策要員（支援）は、原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水準備が完了したことを発電課長（当直）へ報告する。</p>	<p>相違理由</p> <p>【大飯】設備の相違（相違理由③）</p> <p>【大飯】記載表現の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【大飯】設備の相違（相違理由⑤）</p> <p>【大飯】設備の相違（相違理由③）</p> <p>【大飯】記載表現の相違（女川審査実績の反映）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大飯は、ポンプ車の設置、可搬型ホース敷設及び準備完了報告に関する内容を②～③で記載している。 ・泊は、可搬型大型送水ポンプ車の設置、可搬型ホース敷設及び注水準備完了報告に関する内容を②～⑥で記載しており、他の審査項目の可搬型大型送水ポンプの手順と記載表現を統一している。

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>④ 発電所対策本部長は、緊急安全対策要員へNo. 2淡水タンクから使用済燃料ピットへの注水開始を指示する。</p> <p>⑤ 緊急安全対策要員は、現場で淡水タンクブロー弁の開操作を行う。</p> <p>⑥ 緊急安全対策要員は、現場でポンプ車を起動し、使用済燃料ピットへの注水を開始する。</p> <p>⑦ 緊急安全対策要員は、現場で使用済燃料ピット水位が通常水位から-1m程度の範囲内になるように注水流量を調整する。</p> <p>⑧ 緊急安全対策要員は、現場でポンプ車の運転状態及び使用済燃料ピット水位を確認し、使用済燃料ピットへの注水を開始したことを発電所対策本部長へ報告する。</p> <p>⑨ 発電所対策本部長は、当直課長へ使用済燃料ピット水位等の監視を指示する。</p> <p>⑩ 運転員等は、中央制御室で使用済燃料ピット水位、使用済燃料ピット温度、使用済燃料ピット水位（AM用）、可搬式使用済燃料ピット水位、使用済燃料ピット温度（AM用）のほかに使用済燃料ピット区域エリアモニタ、可搬式使用済燃料ピット区域周辺エリアモニタ及び使用済燃料ピット監視カメラにより監視し、貯蔵槽内燃料体等が冷却状態にあることを確認する。</p>		<p>⑦ 発電課長（当直）は、災害対策要員へ原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水開始を指示する。</p> <p>⑧ 災害対策要員は、現場で可搬型大型送水ポンプ車を起動し、使用済燃料ピットへの注水を開始するとともに、可搬型大型送水ポンプ車の運転状態に異常がないことを確認する。</p> <p>⑨ 災害対策要員は、現場で使用済燃料ピット水位が通常水位の範囲内になるように注水流量を調整する。</p> <p>⑩ 災害対策要員は、使用済燃料ピット水位を確認し、使用済燃料ピットへの注水を開始したことを発電課長（当直）へ報告する。</p> <p>⑪ 発電課長（当直）は、運転員へ使用済燃料ピット水位等の監視を指示する。</p> <p>⑫ 運転員（中央制御室）Aは、中央制御室で使用済燃料ピット水位、使用済燃料ピット温度、使用済燃料ピット水位（AM用）、使用済燃料ピット水位（可搬型）、使用済燃料ピット温度（AM用）のほかに使用済燃料ピットエリアモニタ、使用済燃料ピット可搬型エリアモニタ及び使用済燃料ピット監視カメラにより監視し、使用済燃料ピット内の燃料体等が冷却状態にあることを確認する。</p> <p>⑬ 発電課長（当直）は、2次系純水タンク又はろ過水タンクから原水槽への補給を発電所対策本部長に依頼する。</p> <p>⑭ 災害対策要員は、現場で可搬型大型送水ポンプ車の運転状態を継続して監視し、定格負荷運転時における給油間隔を目安に燃料の給油を実施する。（燃料を給油しない場合、可搬型大型送水ポンプ車は約5.5時間の運転が可能。）</p>	<p>【大阪】設備の相違 ・泊は吸管により水を汲み上げるため、弁操作不要。</p> <p>【大阪】記載表現の相違 ・大阪はポンプ車の運転状態確認を操作手順⑧に記載。</p> <p>【大阪】記載表現の相違 ・泊の「通常水位の範囲内」の具体的な目標値については添付資料 1.11.22 解釈一覧に記載する。</p> <p>【大阪】記載表現の相違 ・泊は可搬型大型送水ポンプ車の運転状態確認を操作手順⑧に記載。</p> <p>【大阪】設備の相違（相違理由③）</p> <p>【大阪】 記載表現の相違（女川審査実績の反映）</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>c. 操作の成立性</p> <p>上記の現場対応は1ユニット当たり緊急安全対策要員4名により作業を実施し、所要時間は、約4.8時間と想定する。</p> <p>円滑に作業できるように、移動経路を確保し、可搬型照明、通信設備等を整備する。</p> <p>作業環境の周囲温度は通常運転状態と同程度である。</p> <p>また、ポンプ車によるNo. 2淡水タンクから使用済燃料ピットへの注水時に構内のアクセス状況を考慮して可搬型ホースを敷設し、移送ルートを確認する。</p> <p>原子炉停止後に取り出された全炉心分の燃料、以前から貯蔵している使用済燃料が、使用済燃料ピットの熱負荷が最大となるような組合せで貯蔵される場合の崩壊熱を条件として評価した想定事故1及び想定事故2のうち、いずれかが発生した場合であっても、重大事故等への対応操作により、放射線の遮蔽を維持できない水位に達する前に注水を開始でき、かつ蒸発水量以上の流量で注水するため使用済燃料ピットの水位を維持し、貯蔵槽内燃料体等を冷却、放射線を遮蔽する。</p> <p>(添付資料 1.11.3、1.11.9)</p> <p>(7) 1次系純水タンクから使用済燃料ピットへの注水</p> <p>使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能が喪失し、又は使用済燃料ピットに接続する配管が破損し、使用済燃料ピット水の小規模な漏えいが発生した場合に、1次系純水タンクから使用済燃料ピットへ注水する手順を整備する。</p> <p>a. 手順着手の判断基準</p> <p>計画外に使用済燃料ピットポンプの全台停止等により冷却機能が喪失した場合若しくは使用済燃料ピット温度が50℃を超える場合、又は使用済燃料ピット水位が計画外にE.L.+33.06m以下まで低下している場合。</p> <p>b. 操作手順</p> <p>1次系純水タンクから使用済燃料ピットへの注水手順の概要は以下のとおり。概略系統を第1.11.19図に、タイムチャートを第1.11.20図に示す。</p> <p>① 発電所対策本部長は、手順着手の判断基準に基づき緊</p>	<p>c. ろ過水ポンプによる使用済燃料プールへの注水</p> <p>使用済燃料プールの冷却機能又は注水機能の喪失、又は使用済燃料プールの小規模な水の漏えいが発生した場合に、ろ過水タンクを水源として、ろ過水ポンプにより、ろ過水系配管、補給水系配管、残留熱除去系配管及び燃料プール冷却浄化系配管を経由して使用済燃料プールへ注水する。</p> <p>(a) 手順着手の判断基準</p> <p>以下のいずれかの状況に至り、ろ過水ポンプが使用可能な場合※。</p> <ul style="list-style-type: none"> 燃料プール水位低警報又は燃料プール温度高警報が発生した場合。 使用済燃料プールの冷却機能又は注水機能が喪失し、復旧が見込めない場合。 <p>※設備に異常がなく、電源及び水源（ろ過水タンク）が確</p>	<p>(c) 操作の成立性</p> <p>上記の操作は、災害対策要員3名及び災害対策要員(支援)2名にて作業を実施し、作業開始を判断してから原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水開始まで225分以内で可能である。</p> <p>円滑に作業できるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。</p> <p>また、速やかに作業が開始できるように、使用する資機材は可搬型大型送水ポンプ車の保管場所及び作業場所近傍に配備する。可搬型大型送水ポンプ車からのホースの接続は、汎用の結合金具であり、十分な作業スペースを確保していることから、容易に実施可能である。</p> <p>また、車両付属の作業用照明及び可搬型照明（ヘッドライト及び懐中電灯）を用いることで、夜間における作業性についても確保している。</p> <p>作業環境の周囲温度は通常運転時と同程度である。</p> <p>また、原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水時に構内のアクセス状況を考慮して可搬型ホースを敷設し、移送ルートを確認する。</p> <p>発電用原子炉停止後に取り出された全炉心分の燃料、以前から貯蔵している使用済燃料が、使用済燃料ピットの熱負荷が最大となるような組合せで貯蔵される場合の崩壊熱を条件として評価した想定事故1及び想定事故2のうち、いずれかが発生した場合であっても、重大事故等への対応操作により、放射線の遮蔽を維持できない水位に達する前に注水を開始でき、かつ蒸発水量以上の流量で注水するため使用済燃料ピットの水位を維持し、使用済燃料ピット内の燃料体等を冷却、放射線を遮蔽する。</p> <p>(添付資料 1.11.4、1.11.11)</p>	<p>【大阪】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大阪】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大阪】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大阪】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大阪】記載箇所の相違 ・泊の同等の手順は1.11.2.1(1)e.にて整理しており、泊の記載場所にて比較する。(運用の相違(相違理由①)参照)</p> <p>【女川】 ・淡水を注水する機能としては泊の自主対策設備である電動機駆動消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプによる使用済燃料ピットへの注水手段と同様であるが、泊は消火設備を使用する手順であり、女川とは設備構成及び手順が大きく相違することから操作手順の比較は対象外とする。(自主対策設備による対応手段の相違)</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>急安全対策要員へ1次系純水タンクから使用済燃料ピットへの注水の準備を指示する。</p> <p>② 緊急安全対策要員は、現場で1次系純水タンクから使用済燃料ピットへ注水する系統構成を実施し、準備完了を発電所対策本部長へ報告する。</p> <p>③ 発電所対策本部長は、緊急安全対策要員へ1次系純水タンクから使用済燃料ピットへの注水開始を指示する。</p> <p>④ 緊急安全対策要員は、現場で1次系純水タンクから使用済燃料ピットへの注水を開始する。</p> <p>⑤ 緊急安全対策要員は、現場で使用済燃料ピット水位が通常水位から-1m程度の範囲内になるように注水流量を調整する。</p> <p>⑥ 緊急安全対策要員は、現場で使用済燃料ピット水位等を確認し、使用済燃料ピットへの注水を開始したことを発電所対策本部長へ報告する。</p> <p>⑦ 発電所対策本部長は、当直課長へ使用済燃料ピット水位等の監視を指示する。</p> <p>⑧ 運転員等は、中央制御室で使用済燃料ピット水位、使用済燃料ピット温度、使用済燃料ピット水位（AM用）、可搬式使用済燃料ピット水位、使用済燃料ピット温度（AM用）のほかに使用済燃料ピット区域エリアモニタ、可搬式使用済燃料ピット区域周辺エリアモニタ及び使用済燃料ピット監視カメラにより監視し、貯蔵槽内燃料体等が冷却状態にあることを確認する。</p> <p>c. 操作の成立性</p> <p>上記の現場対応は1ユニット当たり緊急安全対策要員3名により作業を実施し、所要時間は約60分と想定する。円滑に作業できるように、移動経路を確保し、可搬型照明、通信設備等を整備する。作業環境の周囲温度は通常運転状態と同程度である。</p> <p>原子炉停止後に取り出された全炉心分の燃料、以前から貯蔵している使用済燃料が、使用済燃料ピットの熱負荷が最大となるような組合せで貯蔵される場合の崩壊熱を条件として評価した想定事故1及び想定事故2のうち、いずれかが発生した場合であっても、重大事故等への対応操作により、放射線の遮蔽を維持できない水位に達する前に注水を開始でき、かつ蒸発水量以上の流量で注水するため使用済燃料ピットの水位を維持し、貯蔵槽内燃料体等を冷却、放射線を遮蔽する。</p> <p style="text-align: right;">（添付資料 1.11.3、1.11.10）</p> <p>(8) 海水から使用済燃料ピットへの注水</p> <p>使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能が喪失し、又は使用済燃料ピットに接続する配管が破損し、使用済燃料ピット水の小規模な漏えいが発生した場合に、送水車を使</p>	<p>保されている場合。</p> <p>(b) 操作手順</p> <p>ろ過水ポンプによる使用済燃料プールへの注水手順の概要（残留熱除去系（A）配管使用）は以下のとおり（残留熱除去系（B）配管を使用して使用済燃料プールへ注水する手順も同様。）。</p> <p>手順の対応フローを第 1.11-2 図、第 1.11-3 図及び第 1.11-4 図に、概要図を第 1.11-11 図に、タイムチャートを第 1.11-12 図に示す。</p> <p>①発電課長は、手順着手の判断基準に基づき、運転員にろ過水ポンプによる使用済燃料プールへの注水準備開始を指示する。</p> <p>②運転員（中央制御室）Aは、ろ過水ポンプによる使用済燃料プールへの注水に必要なポンプ、電動弁及び監視計器の電源並びに電源容量が確保されていることを状態表示にて確認する。</p> <p>③運転員（中央制御室）Aは、復水補給水バイパス流防止として、T/B 緊急時隔離弁、R/BB1F 緊急時隔離弁及び R/B1F 緊急時隔離弁の全開操作を実施する。</p> <p>④運転員（中央制御室）Aは、ろ過水ポンプの起動操作を実施し、ろ過水ポンプ出口圧力が上昇したことを確認する。</p> <p>⑤運転員（中央制御室）Aは、FW 系連絡第一弁及び FW 系連絡第二弁の全開操作を実施する。</p> <p>⑥運転員（現場）B、Cは、RHRA 系 FPC 供給連絡弁及び FPCRHR 戻り連絡弁の全開操作を実施し、発電課長へろ過水ポンプによる使用済燃料プールへの注水の準備完了を報告する。</p> <p>⑦発電課長は、運転員にろ過水ポンプによる使用済燃料プールへの注水開始を指示する。</p> <p>⑧運転員（中央制御室）Aは、RHR ヘッドスプレイライン 洗浄流量調整弁の開操作を実施する。</p> <p>⑨運転員（中央制御室）Aは、ろ過水ポンプによる使用済燃料プールへの注水が開始されたことを使用済燃料プール水位/温度（ヒートサーモ式）、使用済燃料プール水位/温度（ガイドバルブ式）、使用済燃料プール上部空間放射線モニタ（高線量、低線量）及び使用済燃料プール監視カメラにより確認し、発電課長へ報告する。</p> <p>⑩運転員（中央制御室）Aは、使用済燃料プール水位を水位低レベルから水位低レベルより約 300mm 低い位置の間に維持する。</p> <p>(c) 操作の成立性</p> <p>上記の操作は、運転員（中央制御室）1名及び運転員（現場）2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してからろ過水ポンプによる使用済燃料プールへの注水開始ま</p>		<p>【大阪】記載箇所の相違 ・泊の同等の手順は 1.11.2.1(1) e. にて整理しており、泊の記載場所にて比較する。（運用の相違（相違理由②）参照）</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>用し、海水から使用済燃料ピットへ注水する手順を整備する。</p> <p>a. 手順着手の判断基準</p> <p>計画外に使用済燃料ピットポンプの全台停止等により冷却機能が喪失した場合若しくは使用済燃料ピット温度が50℃を超える場合、又は使用済燃料ピット水位が計画外にE.L.+33.06m以下まで低下している場合であって、かつ燃料取替用水ピット及びNo.3淡水タンクの機能が喪失した場合又は燃料取替用水ピット及びNo.3淡水タンクからの注水を実施しても水位低下が継続する場合。</p> <p>b. 操作手順</p> <p>送水車による海水から使用済燃料ピットへの注水手順の概要は以下のとおり。</p> <p>概略系統を第1.11.21図に、タイムチャートを第1.11.22図に、ホース敷設ルート図を第1.11.23図に示す。</p> <p>① 発電所対策本部長は、手順着手の判断基準に基づき緊急安全対策要員へ海水から使用済燃料ピットへの注水の準備を指示する。</p> <p>② 緊急安全対策要員は、現場で送水車を配置するとともに可搬型ホースを準備し、所定の位置に移動する。</p> <p>③ 緊急安全対策要員は、現場で送水車から使用済燃料ピットへの可搬型ホースの敷設及び接続を行う。</p> <p>④ 緊急安全対策要員は、準備完了を発電所対策本部長へ報告する。</p> <p>⑤ 発電所対策本部長は、1次系純水タンクから使用済燃料ピットへの注水ができない場合又は1次系純水タンクから使用済燃料ピットへの注水を実施しても水位低下が継続する場合、緊急安全対策要員へ海水から使用済燃料ピットへの注水開始を指示する。</p> <p>⑥ 緊急安全対策要員は、現場で送水車を起動し、運転状態に異常のないことを確認する。</p> <p>⑦ 緊急安全対策要員は、現場で使用済燃料ピット水位が通常水位から-1m程度の範囲内になるように注水流量を調整する。</p> <p>⑧ 緊急安全対策要員は、現場で送水車の運転状態及び使用済燃料ピット水位を確認し、使用済燃料ピットへの注水を開始したことを発電所対策本部長へ報告する。</p> <p>⑨ 発電所対策本部長は、当直課長へ使用済燃料ピット水位等の監視を指示する。</p> <p>⑩ 運転員等は、中央制御室で使用済燃料ピット水位、使用済燃料ピット温度、使用済燃料ピット水位（AM用）、可搬式使用済燃料ピット水位、使用済燃料ピット温度（AM用）のほか使用済燃料ピット区域エリアモニタ、可搬式使用済燃料ピット区域周辺エリアモニタ及び使用済燃料ピット監視カメラにより監視し、貯蔵槽内燃料体等</p>	<p>で45分以内で可能である。</p> <p>円滑に作業できるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。室温は通常運転時と同程度である。</p> <p>(添付資料1.11.3)</p>		

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>が冷却状態にあることを確認する。</p> <p>① 緊急安全対策要員は、現場で送水車の運転状態を継続して監視し、定格負荷運転時における給油間隔を目安に燃料の給油を実施する（燃料を給油しない場合、送水車は約5.4時間の運転が可能。）。</p> <p>c. 操作の成立性</p> <p>上記の現場対応は1ユニット当たり緊急安全対策要員5名により作業を実施し、所要時間は、約2.7時間と想定する。</p> <p>円滑に作業できるように、移動経路を確保し、可搬型照明、通信設備等を整備する。</p> <p>可搬型ホース等の取付けについては速やかに作業ができるよう送水車の保管場所に可搬型ホース等を配備する。</p> <p>作業環境の周囲温度は通常運転状態と同程度である。</p> <p>また、海水から使用済燃料ビットへの注水時に構内のアクセス状況を考慮して可搬型ホースを敷設し、移送ルートを確保する。</p> <p>原子炉停止後に取り出された全炉心分の燃料、以前から貯蔵している使用済燃料が、使用済燃料ビットの熱負荷が最大となるような組合せで貯蔵される場合の崩壊熱を条件として評価した想定事故1及び想定事故2のうち、いずれかが発生した場合であっても、重大事故等への対応操作により、放射線の遮蔽を維持できない水位に達する前に注水を開始でき、かつ蒸発水量以上の流量で注水するため使用済燃料ビットの水位を維持し、貯蔵槽内燃料体等を冷却、放射線を遮蔽する。</p> <p>(添付資料1.11.3、1.11.11)</p>			

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(9) その他の手順項目にて考慮する手順 送水車への燃料補給に関する手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.4(2)「送水車への燃料補給」にて整備する。</p> <p>(10) 優先順位 使用済燃料ピットへの注水は、ほう酸水でタンク容量が大きく注水までの所要時間が短い燃料取替用水ピットからの注水を優先し、次に純水で注水までの所要時間が短いNo.3淡水タンクからの注水を優先する。その次に淡水で注水までの所要時間が短いNo.2淡水タンク（屋内消火栓、屋外消火栓）からの注水を優先する。その次にポンプ車によるNo.3淡水タンクからの注水、ポンプ車によるNo.2淡水タンクからの注水を優先し、タンク容量の小さい1次系純水タンクからの注水の順に使用する。</p> <p>なお、燃料取替用水ピットについては、原子炉等へ注水する必要がない場合において使用する。No.2淡水タンク（屋内消火栓、屋外消火栓又はポンプ車による注水。）については、構内に火災が発生していない場合に使用する。</p> <p>海水からの注水に使用する送水車は重大事故等対処設備であるが、使用準備に時間を要することから、あらかじめ送水車等の運搬、設置及び接続を行い、燃料取替用水ピット等の機能が喪失した場合又は燃料取替用水ピット等から使用済燃料ピットへの注水を実施しても水位低下が継続する場合に使用する。</p> <p>以上の対応手順のフローチャートを第1.11.24図に示す。</p> <p style="text-align: right;">(添付資料1.11.12)</p>			<p>【大阪】 記載方針の相違(女川審査実績の反映) ・泊は1.11.2.4にて整理しており、泊の記載場所と比較する。</p> <p>【大阪】 記載方針の相違(女川審査実績の反映) ・泊は1.11.2.5にて整理しており、泊の記載場所と比較する。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>1.11.2.2 使用済燃料ピットからの大量の水の漏えい発生時の手順等</p>	<p>1.11.2.2 使用済燃料プールからの大量の水の漏えい発生時の対応手順</p> <p>(1) 燃料プールのスプレイ</p> <p>a. 燃料プールのスプレイ系（常設配管）による使用済燃料プールへのスプレイ</p> <p>使用済燃料プールからの大量の水の漏えいにより使用済燃料プールの水位が異常に低下し、燃料プール代替注水設備による注水を実施しても水位を維持できない場合に、大容量送水ポンプ（タイプI）により、燃料プールのスプレイ系（常設配管）による使用済燃料プールへのスプレイを実施することで使用済燃料プール内の燃料体等の著しい損傷の進行を緩和し、臨界を防止する。</p> <p>(a) 手順着手の判断基準</p> <p>使用済燃料プールの水位が水位低警報レベルまで低下し、さらに以下のいずれかの状況に至った場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用済燃料プールへの注水を行っても水位低下が継続する場合。 ・使用済燃料プールの水位が、使用済燃料貯蔵ラック上端+6,000mmを下回ったことを使用済燃料プール水位/温度にて確認した場合。 <p>(b) 操作手順</p> <p>燃料プールのスプレイ系（常設配管）による使用済燃料プールへのスプレイ手順の概要は以下の通り（燃料プールのスプレイ接続口（北）を使用する場合の手順は、燃料プールのスプレイ接続口（東）を使用する場合の手順と同様）。手順の対応フローを第1.11-2図及び第1.11-4図に、概要図を第1.11-13図に、タイムチャートを第1.11-14図、第1.11-15図及び第1.11-16図に示す。</p> <p>①発電課長は、手順着手の判断基準に基づき、発電所対策本部に燃料プールのスプレイ系（常設配管）による使用済燃料プールへのスプレイの準備開始を依頼する。</p> <p>②^a燃料プールのスプレイ接続口（東）を使用する場合発電課長は、運転員に燃料プールのスプレイ系（常設配管）を使用した使用済燃料プールへのスプレイの準備開始を指示する。</p> <p>②^b燃料プールのスプレイ接続口（建屋内）を使用する場合発電課長は、運転員に燃料プールのスプレイ系（常設配管）を使用した使用済燃料プールへのスプレイの準備開始を指示する。また、運転員にホース敷設のために必要な扉の開放を指示する。</p> <p>②^c燃料プールのスプレイ接続口（建屋内）を使用する場合（故意による大型航空機の衝突その他のテロリズムに</p>	<p>1.11.2.2 使用済燃料ピットからの大量の水の漏えい発生時の対応手順</p> <p>(1) 使用済燃料ピットへのスプレイ</p>	<p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】 記載方針の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【女川】設備の相違(相違理由①)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊は常設配管を使用しない手順であるため比較対象なし。女川と同等の対応手段の比較については、後段の女川「b.燃料プールのスプレイ系（可搬型）による使用済燃料プールへのスプレイ」と泊「a.海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレイノズルによる使用済燃料ピットへのスプレイ」にて実施する。

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>よる影響がある場合) 発電課長は、運転員に燃料プールのスプレー系(常設配管)を使用した使用済燃料プールへのスプレーの準備開始を指示する。また、運転員にホース敷設のために必要な扉の開放及びホース敷設を指示する。</p> <p>③運転員(中央制御室)Aは、中央制御室にて燃料プールのスプレー系(常設配管)を使用した使用済燃料プールへのスプレーに必要な監視計器の電源が確保されていることを状態表示にて確認する。</p> <p>④^a 燃料プールのスプレー接続口(東)を使用する場合重大事故等対応要員は、現場にて大容量送水ポンプ(タイプI)の設置、ホースの敷設及び接続を行い、発電所対策本部へ報告する。また、発電所対策本部は、発電課長へ連絡する。</p> <p>④^b 燃料プールのスプレー接続口(建屋内)を使用する場合運転員(現場)B及びCは、ホース敷設のために必要な扉の開放を実施し、発電課長に報告する。重大事故等対応要員は、現場にて大容量送水ポンプ(タイプI)の設置、ホースの敷設及び接続を行い、発電所対策本部へ報告する。また、発電所対策本部は、発電課長へ連絡する。</p> <p>④^c 燃料プールのスプレー接続口(建屋内)を使用する場合(故意による大型航空機の衝突その他のテロリズムによる影響がある場合)運転員(現場)B及びCは、ホース敷設のために必要な扉の開放を実施する。運転員(現場)B及びC並びに重大事故等対応要員は、現場にて大容量送水ポンプ(タイプI)の設置、ホースの敷設及び接続を行い、発電所対策本部へ報告する。また、発電所対策本部は、発電課長へ連絡する。</p> <p>⑤発電課長は、現場でのホース敷設、接続完了を確認後、発電所対策本部に大容量送水ポンプ(タイプI)による送水開始を依頼する。</p> <p>⑥重大事故等対応要員は、現場にて大容量送水ポンプ(タイプI)の起動、燃料プール注水・スプレー(常設配管)弁及び原子炉建屋東側燃料プールのスプレー元弁の開操作を実施し、燃料プールのスプレー系(常設配管)による使用済燃料プールへのスプレー開始を、発電所対策本部へ報告する。また、発電所対策本部は発電課長へ連絡する。</p> <p>⑦運転員(中央制御室)Aは、使用済燃料プールへのスプレーが開始されたことを使用済燃料プール監視カメラ、使用済燃料プール水位/温度(ヒートサーモ式)及び使用済燃料プール水位/温度(ガイドバルブ式)により確認し、発電課長へ報告する。</p>		

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(1) 送水車による使用済燃料ピットへのスプレー</p> <p>使用済燃料ピットからの大量の水の漏えいが発生した場合に、送水車及びスプレーヘッダにより海水を使用済燃料ピットへスプレーする手順を整備する。</p>	<p>(c) 操作の成立性</p> <p>作業開始を判断してから燃料プールスプレイ系（常設配管）による使用済燃料プールへのスプレー開始までの必要な要員数及び所要時間は以下のとおり。</p> <p>【燃料プールスプレイ接続口（北）又は燃料プールスプレイ接続口（東）を使用する場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運転員（中央制御室）1名及び重大事故等対応要員9名にて作業を実施した場合、380分以内で可能である。 <p>【燃料プールスプレイ接続口（建屋内）を使用する場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運転員（中央制御室）1名、運転員（現場）2名及び重大事故等対応要員9名にて作業を実施した場合、380分以内で可能である。 <p>【燃料プールスプレイ接続口（建屋内）を使用する場合（故意による大型航空機の衝突その他のテロリズムによる影響がある場合）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運転員（中央制御室）1名、運転員（現場）2名及び重大事故等対応要員10名にて作業を実施した場合、380分以内で可能である。 <p>円滑に作業できるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。大容量送水ポンプ（タイプI）からのホースの接続は、汎用の結合金具であり、十分な作業スペースを確保していることから、容易に実施可能である。</p> <p>また、車両付属の作業用照明及び可搬型照明（ヘッドライト及び懐中電灯）を用いることで、夜間における作業性についても確保している。</p> <p style="text-align: center;">（添付資料 1.11.3）</p> <p>b. 燃料プールスプレイ系（可搬型）による使用済燃料プールへのスプレー</p> <p>使用済燃料プールからの大量の水の漏えいにより、使用済燃料プールの水位が異常に低下し、燃料プール代替注水設備による注水を実施しても水位を維持できない場合に、燃料プールスプレイ系（常設配管）による使用済燃料プールへのスプレーを優先して使用するが、これが機能喪失した場合は、燃料プールスプレイ系（可搬型）による使用済燃料プールへのスプレーを実施することで使用済燃料プール内の燃料体等の著しい損傷の進行を緩和し、臨界を防止する。</p>	<p>a. 海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレーノズルによる使用済燃料ピットへのスプレー</p> <p>使用済燃料ピットからの大量の水の漏えいにより、使用済燃料ピットの水位が異常に低下し、使用済燃料ピットへの注水を実施しても水位を維持できない場合に、海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレーノズルによる使用済燃料ピットへのスプレーを実施することで使用済燃料ピット内の燃料体等の著しい損傷の進行を緩和し、臨界を防止する。</p>	<p>【大飯、女川】記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊の可搬型大型送水ポンプ車は、海水と淡水が選択可能なため「海水を用いた」と記載し手段を明確にしている。 <p>【大飯】</p> <p>記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【女川】設備の相違（相違理由①）</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>a. 手順着手の判断基準 使用済燃料ピット水位が使用済燃料ピット出口配管下端 (E.L.+31.79m) 以下まで低下し、かつ水位低下が継続する場合。</p> <p>b. 操作手順 送水車による使用済燃料ピットへのスプレィ手順の概要は以下のとおり。</p> <p>概略系統を第 1.11.25 図に、タイムチャートを第 1.11.26 図に、ホース敷設ルート図を第 1.11.27 図に示す。</p> <p>① 発電所対策本部長は、手順着手の判断基準に基づき緊急安全対策要員へ送水車による使用済燃料ピットへのスプレィの準備を指示する。</p>	<p>(a) 手順着手の判断基準 使用済燃料プールの水位が水位低警報レベルまで低下し、さらに以下のいずれかの状況に至り、燃料プールスプレィ系（常設配管）による使用済燃料プールへのスプレィができない場合。ただし、燃料取替床へアクセスできる場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用済燃料プールへの注水を行っても水位低下が継続する場合。 ・使用済燃料プールの水位が、使用済燃料貯蔵ラック上端+6,000mm を下回ったことを使用済燃料プール水位/温度にて確認した場合。 <p>(b) 操作手順 燃料プールスプレィ系（可搬型）による使用済燃料プールへのスプレィ手順の概要（原子炉建屋大物搬入口経由）は以下のとおり（原子炉建屋扉を経由して使用済燃料プールへスプレィする場合も同様。）。</p> <p>なお、ホース敷設ルートとして原子炉建屋大物搬入口経路を優先することとし、使用できない場合は原子炉建屋扉を経由する。</p> <p>手順の対応フローを第 1.11-2 図及び第 1.11-4 図に、概要図を第 1.11-17 図に、タイムチャートを第 1.11-18 図に示す。</p> <p>① 発電課長は、手順着手の判断基準に基づき、発電所対策本部に燃料プールスプレィ系（可搬型）による使用済燃料プールへのスプレィの準備開始を依頼する。</p> <p>② 発電課長は、運転員に燃料プールスプレィ系（可搬型）を使用した使用済燃料プールへのスプレィの準備開始を指示する。</p> <p>③ 運転員（中央制御室）A は、中央制御室にて燃料プールスプレィ系（可搬型）を使用した使用済燃料プールへのスプレィに必要な監視計器の電源が確保されていることを状態表示にて確認する。</p>	<p>(a) 手順着手の判断基準 使用済燃料ピット水位が使用済燃料ピット水浄化冷却設備入口配管下端 (T.P.31.31m) 以下まで低下し、かつ水位低下が継続する場合。</p> <p>(b) 操作手順 海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレィノズルによる使用済燃料ピットへのスプレィ手順の概要は以下のとおり。</p> <p>概要図を第 1.11.20 図に、タイムチャートを第 1.11.21 図に、ホース敷設ルート図を第 1.11.22 図に示す。</p> <p>① 発電課長（当直）は、手順着手の判断基準に基づき、運転員、災害対策要員及び災害対策要員（支援）に海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレィノズルによる使用済燃料ピットへのスプレィの準備開始を指示する。</p>	<p>【大飯】設備の相違 ・配管設置レベルの相違 【女川】設備の相違（相違理由①）</p> <p>【女川】記載方針の相違 ・泊の操作手順は2つあるホース敷設ルート共通の手順を記載している。</p> <p>【女川】運用の相違 ・泊は発電課長（当直）が手順着手を判断し、作業員に作業開始を指示する。（女川の操作手順⑤、⑥も同様）</p> <p>【大飯】記載表現の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【大飯】記載方針の相違 ・監視計器を含めた電源の健全性確認は、手順着手の判断前に確認している事項のため、操作手順には記載しない。（大飯 3/4号炉と同様）</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>② 緊急安全対策要員は、現場で送水車を配置するとともにスプレイヘッド等を準備し、所定の位置に移動する。</p> <p>③ 緊急安全対策要員は、現場で送水車から使用済燃料ピットへの可搬型ホースの敷設及び接続を行うとともにスプレイヘッドの配置を行う。</p> <p>④ 緊急安全対策要員は、準備完了を発電所対策本部長へ報告する。</p> <p>⑤ 発電所対策本部長は、緊急安全対策要員へスプレイ開始を指示する。</p> <p>⑥ 緊急安全対策要員は、現場で送水車を起動し、運転状態に異常のないことを確認するとともに使用済燃料ピットへのスプレイを開始したことを発電所対策本部長へ報告する。</p> <p>⑦ 運転員等は、中央制御室で使用済燃料ピット水位、使用済燃料ピット温度、使用済燃料ピット水位（AM用）、可搬式使用済燃料ピット水位、使用済燃料ピット温度（AM用）のほかに使用済燃料ピット区域エリアモニタ、可搬式使用済燃料ピット区域周辺エリアモニタ及び使用済燃料ピット監視カメラにより監視し、貯蔵槽内燃料体等が冷却状態にあることを確認する。</p> <p>⑧ 緊急安全対策要員は、現場で送水車の運転状態を継続して監視し、定格負荷運転時における給油間隔を目安に燃料の給油を実施する（燃料を給油しない場合、送水車は約5.4時間の運転が可能。）。</p>	<p>④ 運転員（現場）B、C及び重大事故等対応要員は、現場にて大容量送水ポンプ（タイプI）の設置、ホースの敷設、接続及びスプレイノズルの設置を実施し、発電所対策本部へ報告する。また、発電所対策本部は、発電課長へ連絡する。</p> <p>⑤ 発電課長は、現場でのホース敷設、接続完了を確認後、発電所対策本部に大容量送水ポンプ（タイプI）による送水開始を依頼する。</p> <p>⑥ 重大事故等対応要員は、現場にて大容量送水ポンプ（タイプI）の起動及び燃料プール注水・スプレイ弁の開操作を実施し、燃料プールスプレイ系（可搬型）による使用済燃料プールへのスプレイ開始を、発電所対策本部へ報告する。また、発電所対策本部は発電課長へ連絡する。</p> <p>⑦ 運転員（中央制御室）Aは、使用済燃料プールへのスプレイが開始されたことを使用済燃料プール監視カメラ、使用済燃料プール水位／温度（ヒートサーモ式）及び使用済燃料プール水位／温度（ガイドバルブ式）により確認し、発電課長へ報告する。</p>	<p>② 災害対策要員及び災害対策要員（支援）は、現場で資機材の保管場所へ移動し、可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型ホースを所定の位置に移動する。</p> <p>③ 災害対策要員は、現場で可搬型ホースを使用済燃料ピットまで敷設するとともに可搬型スプレイノズルの配置を行う。</p> <p>④ 災害対策要員及び災害対策要員（支援）は、現場でホース延長・回収車（送水車用）にて可搬型ホースを敷設する。</p> <p>⑤ 災害対策要員は、現場で海水取水箇所近傍に可搬型大型送水ポンプ車を設置する。</p> <p>⑥ 災害対策要員は、現場で可搬型大型送水ポンプ車から水中ポンプを取り出し、可搬型ホースと接続後、海水取水箇所に水中ポンプを水面より低く、かつ着底しない位置に設置する。</p> <p>⑦ 災害対策要員は、海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレイノズルによる使用済燃料ピットへのスプレイ準備が完了したことを発電課長（当直）へ報告する。</p> <p>⑧ 発電課長（当直）は、災害対策要員へ海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレイノズルによる使用済燃料ピットへのスプレイ開始を指示する。</p> <p>⑨ 災害対策要員は、現場で可搬型大型送水ポンプ車を起動し、使用済燃料ピットへのスプレイを開始するとともに、可搬型大型送水ポンプ車の運転状態に異常がないことを確認する。</p> <p>⑩ 災害対策要員は、使用済燃料ピットへのスプレイを開始したことを発電課長（当直）へ報告する。</p> <p>⑪ 運転員（中央制御室）Aは、中央制御室で使用済燃料ピット水位、使用済燃料ピット温度、使用済燃料ピット水位（AM用）、使用済燃料ピット水位（可搬型）、使用済燃料ピット温度（AM用）のほかに使用済燃料ピットエリアモニタ、使用済燃料ピット可搬型エリアモニタ及び使用済燃料ピット監視カメラにより監視し、使用済燃料ピット内の燃料体等が冷却状態にあることを確認する。</p> <p>⑫ 災害対策要員は、現場で可搬型大型送水ポンプ車の運転状態を継続して監視し、定格負荷運転時における給油間隔を目安に燃料の給油を実施する。（燃料を給油しない場合、可搬型大型送水ポンプ車は約5.5時間の運転が可能。）</p>	<p>【大飯、女川】記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大飯は、送水車の設置、可搬型ホース敷設及び準備完了報告に関する内容を②～④で記載している。 ・女川は、大容量送水ポンプ（タイプI）の設置、ホース敷設及び準備完了報告に関する内容を④で記載している。 ・泊は、可搬型大型送水ポンプ車の設置、可搬型ホース敷設及び注水準備完了報告に関する内容を③～⑦で記載しており、他の審査項目の可搬型大型送水ポンプの手順と記載表現を統一している。 <p>【大飯、女川】記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊は使用済燃料ピットへの注水手段と表現を統一。 <p>【女川】記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊は可搬型大型送水ポンプ車起動後の運転状態の確認手順を記載している。 ・泊は使用済燃料ピットへの注水手段と表現を統一。 <p>【女川】記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・監視計器により、使用済燃料ピットの状態を確認する手順に相違なし。 <p>【女川】記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊は燃料補給が必要な設備に対して燃料補給を実施する手順を記載している。 <p>【大飯】設備の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃費は相違するが、燃料が枯渇する前に継続して燃料補給を行うことに相違なし。

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>c. 操作の成立性</p> <p>上記の現場対応は1ユニット当たり緊急安全対策要員7名により作業を実施し、所要時間は約2時間と想定する。</p> <p>円滑に作業できるように、移動経路を確保し、可搬型照明、通信設備等を整備する。</p> <p>可搬型ホース等の取付けについては速やかに作業ができるよう送水車の保管場所に可搬型ホース等を配備する。</p> <p>作業環境の周囲温度は通常運転状態と同程度である。</p> <p>また、送水車による使用済燃料ピットへのスプレー時に構内のアクセス状況を考慮して可搬型ホースを敷設し、移送ルートを確認する。</p> <p>(添付資料 1.11.13、1.11.14)</p>	<p>(c) 操作の成立性</p> <p>上記の操作は、運転員（中央制御室）1名、運転員（現場）2名及び重大事故等対応要員10名にて作業を実施し、作業開始を判断してから燃料プールスプレイ系（可搬型）による使用済燃料プールへのスプレー開始まで380分以内で可能である。</p> <p>円滑に作業できるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。</p> <p>また、速やかに作業が開始できるよう、原子炉建屋内で使用する資機材は作業場所近傍に配備する。大容量送水ポンプ（タイプI）からのホースの接続は、汎用の結合金具であり、十分な作業スペースを確保していることから、容易に実施可能である。</p> <p>また、車両付属の作業用照明及び可搬型照明（ヘッドライト及び懐中電灯）を用いることで、夜間における作業性についても確保している。</p> <p>(添付資料 1.11.3)</p>	<p>(c) 操作の成立性</p> <p>上記の操作は、災害対策要員7名及び災害対策要員（支援）1名にて作業を実施し、作業開始を判断してから海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレーノズルによる使用済燃料ピットへのスプレー開始まで150分以内で可能である。</p> <p>円滑に作業できるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。</p> <p>また、速やかに作業が開始できるよう、使用する資機材は可搬型大型送水ポンプ車の保管場所及び作業場所近傍に配備する。可搬型大型送水ポンプ車からのホースの接続は、汎用の結合金具であり、十分な作業スペースを確保していることから、容易に実施可能である。</p> <p>また、車両付属の作業用照明及び可搬型照明（ヘッドライト及び懐中電灯）を用いることで、夜間における作業性についても確保している。</p> <p>作業環境の周囲温度は通常運転時と同程度である。</p> <p>また、海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレーノズルによる使用済燃料ピットへのスプレー時に構内のアクセス状況を考慮して可搬型ホースを敷設し、移送ルートを確認する。</p> <p>(添付資料 1.11.13、1.11.14)</p> <p>b. 代替給水ピットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレーノズルによる使用済燃料ピットへのスプレー</p> <p>使用済燃料ピットからの大量の水の漏えいにより、使用済燃料ピットの水位が異常に低下し、使用済燃料ピットへの注水を実施しても水位を維持できない場合に、代替給水ピットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレーノズルによる使用済燃料ピットへのスプレーを実施することで使用済燃料ピット内の燃料体等の著しい損傷の進行を緩和し、臨界を防止する。</p> <p>(a) 手順着手の判断基準</p> <p>使用済燃料ピット水位が使用済燃料ピット水浄化冷却設備入口配管下端（T.P.31.31m）以下まで低下し、かつ水位低下が継続する場合。</p> <p>(b) 操作手順</p> <p>代替給水ピットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレーノズルによる使用済燃料ピットへのスプレー手順の概要は以下のとおり。概要図を第1.11.23</p>	<p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【女川】記載表現の相違 ・泊は他の審査項目と記載表現を統一。</p> <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【女川】 記載方針の相違(大飯審査実績の反映)</p> <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】設備の相違（相違理由④）</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>図に、タイムチャートを第1.11.24図に、ホース敷設ルート図を第1.11.25図に示す。</p> <p>① 発電課長（当直）は、手順着手の判断基準に基づき、災害対策要員及び災害対策要員（支援）に代替給水ビットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレインズルによる使用済燃料ビットへのスプレいの準備開始を指示する。</p> <p>② 災害対策要員及び災害対策要員（支援）は、現場で資機材の保管場所へ移動し、可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型ホースを所定の位置に移動する。</p> <p>③ 災害対策要員は、現場で可搬型ホースを使用済燃料ビットまで敷設するとともに可搬型スプレインズルの配置を行う。</p> <p>④ 災害対策要員及び災害対策要員（支援）は、現場でホース延長・回収車（送水車用）にて可搬型ホースを敷設する。</p> <p>⑤ 災害対策要員は、現場で代替給水ビット近傍に可搬型大型送水ポンプ車を設置し、可搬型大型送水ポンプ車の吸管を代替給水ビットへ挿入する。</p> <p>⑥ 災害対策要員は、代替給水ビットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレインズルによる使用済燃料ビットへのスプレい準備が完了したことを発電課長（当直）へ報告する。</p> <p>⑦ 発電課長（当直）は、災害対策要員へ代替給水ビットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレインズルによる使用済燃料ビットへのスプレい開始を指示する。</p> <p>⑧ 災害対策要員は、現場で可搬型大型送水ポンプ車を起動し、使用済燃料ビットへのスプレいを開始するとともに、可搬型大型送水ポンプ車の運転状態に異常がないことを確認する。</p> <p>⑨ 災害対策要員は、使用済燃料ビットへのスプレいを開始したことを発電課長（当直）へ報告する。</p> <p>⑩ 運転員（中央制御室）Aは、中央制御室で使用済燃料ビット水位、使用済燃料ビット温度、使用済燃料ビット水位（AM用）、使用済燃料ビット水位（可搬型）、使用済燃料ビット温度（AM用）のほか、使用済燃料ビットエリアモニタ、使用済燃料ビット可搬型エリアモニタ及び使用済燃料ビット監視カメラにより監視し、使用済燃料ビット内の燃料体等が冷却状態にあることを確認する。</p> <p>⑪ 災害対策要員は、現場で可搬型大型送水ポンプ車の運転状態を継続して監視し、定格負荷運転時における給油間隔を目安に燃料の給油を実施する。（燃料を給油しない場合、可搬型大型送水ポンプ車は約5.5時間の運転が可能。）</p>	

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>(c) 操作の成立性</p> <p>上記の操作は、災害対策要員7名及び災害対策要員（支援）1名により作業を実施し、作業開始を判断してから代替給水ビットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレインノズルによる使用済燃料ビットへのスプレイ開始まで110分以内で可能である。</p> <p>円滑に作業できるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。</p> <p>また、速やかに作業が開始できるよう、使用する資機材は可搬型大型送水ポンプ車の保管場所及び作業場所近傍に配備する。可搬型大型送水ポンプ車からのホースの接続は、汎用の結合金具であり、十分な作業スペースを確保していることから、容易に実施可能である。</p> <p>また、車両付属の作業用照明及び可搬型照明（ヘッドライト及び懐中電灯）を用いることで、夜間における作業性についても確保している。</p> <p>作業環境の周囲温度は通常運転時と同程度である。</p> <p>また、代替給水ビットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレインノズルによる使用済燃料ビットへのスプレイ時に構内のアクセス状況を考慮して可搬型ホースを敷設し、移送ルートを確認する。</p> <p>(添付資料1.11.13, 1.11.15)</p> <p>c. 原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレインノズルによる使用済燃料ビットへのスプレイ</p> <p>使用済燃料ビットからの大量の水の漏えいにより、使用済燃料ビットの水位が異常に低下し、使用済燃料ビットへの注水を実施しても水位を維持できない場合に、原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレインノズルによる使用済燃料ビットへのスプレイを実施することで使用済燃料ビット内の燃料体等の著しい損傷の進行を緩和し、臨界を防止する。</p> <p>(a) 手順着手の判断基準</p> <p>使用済燃料ビット水位が使用済燃料ビット水浄化冷却設備入口配管下端（T.P.31.31m）以下まで低下し、かつ水位低下が継続する場合。</p> <p>(b) 操作手順</p> <p>原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレインノズルによる使用済燃料ビットへのスプレイ手順の概要は以下のとおり。概要図を第1.11.26図に、タイムチャートを第1.11.27図に、ホース敷設ルート図を第</p>	<p>【大阪】設備の相違（相違理由④）</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>1.11.28 図に示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 発電課長（当直）は、手順着手の判断基準に基づき、災害対策要員及び災害対策要員（支援）に原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ビットへのスプレイの準備開始を指示する。 ② 災害対策要員及び災害対策要員（支援）は、現場で資機材の保管場所へ移動し、可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型ホースを所定の位置に移動する。 ③ 災害対策要員は、現場で可搬型ホース等を使用済燃料ビットまで敷設するとともに可搬型スプレイノズルの配置を行う。 ④ 災害対策要員及び災害対策要員（支援）は、現場でホース延長・回収車（送水車用）にて可搬型ホース等を敷設する。 ⑤ 災害対策要員は、現場で原水槽マンホール近傍に可搬型大型送水ポンプ車を設置し、可搬型大型送水ポンプ車の吸管を原水槽マンホールへ挿入する。 ⑥ 災害対策要員は、原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレイノズルによる使用済燃料ビットへのスプレイ準備が完了したことを発電課長（当直）へ報告する。 ⑦ 発電課長（当直）は、災害対策要員へ原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレイノズルによる使用済燃料ビットへのスプレイ開始を指示する。 ⑧ 災害対策要員は、現場で可搬型大型送水ポンプ車を起動し、使用済燃料ビットへのスプレイを開始するとともに、可搬型大型送水ポンプ車の運転状態に異常がないことを確認する。 ⑨ 災害対策要員は、使用済燃料ビットへのスプレイを開始したことを発電課長（当直）へ報告する。 ⑩ 運転員（中央制御室）Aは、中央制御室で使用済燃料ビット水位、使用済燃料ビット温度、使用済燃料ビット水位（AM用）、使用済燃料ビット水位（可搬型）、使用済燃料ビット温度（AM用）のほか使用済燃料ビットエリアモニタ、使用済燃料ビット可搬型エリアモニタ及び使用済燃料ビット監視カメラにより監視し、使用済燃料ビット内の燃料体等が冷却状態にあることを確認する。 ⑪ 発電課長（当直）は、2次系純水タンク又はろ過水タンクから原水槽への補給を発電所対策本部長に依頼する。 ⑫ 災害対策要員は、現場で可搬型大型送水ポンプ車の運転状態を継続して監視し、定格負荷運転時における給油間隔を目安に燃料の給油を実施する。（燃料を給油しない場合、可搬型大型送水ポンプ車は約5.5時間の運転が 	

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>c. 化学消防自動車及び大型化学高所放水車による燃料プールスプレイ系（常設配管）を用いた使用済燃料プールへのスプレイ</p> <p>使用済燃料プールからの大量の水の漏えいにより使用済燃料プールの水位が異常に低下した場合に、化学消防自動車及び大型化学高所放水車による燃料プールスプレイ系（常設配管）を用いた使用済燃料プールへのスプレイを実施することで使用済燃料プール内の燃料体等の著しい損傷の進行を緩和し、臨界を防止する。</p> <p>(a) 手順着手の判断基準</p> <p>化学消防自動車及び大型化学高所放水車による燃料プールスプレイ系（常設配管）を用いた使用済燃料プールへのスプレイが使用可能※であり、使用済燃料プールの水位が水位低警報レベルまで低下し、さらに以下のいずれかの状況に至った場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用済燃料プールへの注水を行っても水位低下が継続する場合。 ・使用済燃料プールの水位が、使用済燃料貯蔵ラック上端+6,000mmを下回ったことを使用済燃料プール水位/温度にて確認した場合。 	<p>可能。)</p> <p>(c) 操作の成立性</p> <p>上記の操作は、災害対策要員7名及び災害対策要員（支援）1名により作業を実施し、作業開始を判断してから原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレイノズルによる使用済燃料ピットへのスプレイ開始まで150分以内で可能である。</p> <p>円滑に作業できるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。</p> <p>また、速やかに作業が開始できるよう、使用する資機材は可搬型大型送水ポンプ車の保管場所及び作業場所近傍に配備する。可搬型大型送水ポンプ車からのホースの接続は、汎用の結合金具であり、十分な作業スペースを確保していることから、容易に実施可能である。</p> <p>また、車両付属の作業用照明及び可搬型照明（ヘッドライト及び懐中電灯）を用いることで、夜間における作業性についても確保している。</p> <p>作業環境の周囲温度は通常運転時と同程度である。</p> <p>また、原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへのスプレイ時に構内のアクセス状況を考慮して可搬型ホースを敷設し、移送ルートを確認する。</p> <p>(添付資料1.11.13, 1.11.16)</p>	<p>【女川】設備相違（相違理由③）</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>※ 設備に異常がなく、電源及び水源（ろ過水タンク）が確保されており、消火を必要とする火災が発生していない場合で、大容量送水ポンプ（タイプI）の設置完了時間より早い場合。</p> <p>(b) 操作手順</p> <p>化学消防自動車及び大型化学高所放水車による燃料プールスプレイ系（常設配管）を用いた使用済燃料プールへのスプレイ手順の概要は以下の通り。</p> <p>手順の対応フローを第1.11-2図及び第1.11-4図に、概要図を第1.11-19図に、タイムチャートを第1.11-20図に示す。</p> <p>①発電課長は、手順着手の判断基準に基づき、発電所対策本部に化学消防自動車及び大型化学高所放水車による燃料プールスプレイ系（常設配管）を用いた使用済燃料プールへのスプレイの準備開始を依頼する。</p> <p>②発電課長は、運転員に化学消防自動車及び大型化学高所放水車による燃料プールスプレイ系（常設配管）を用いた使用済燃料プールへのスプレイの準備開始を指示する。</p> <p>③運転員（中央制御室）Aは、中央制御室にて化学消防自動車及び大型化学高所放水車による燃料プールスプレイ系（常設配管）を用いた使用済燃料プールへのスプレイに必要な監視計器の電源が確保されていることを状態表示にて確認する。</p> <p>④初期消火要員（消防車隊）は、現場にて化学消防自動車及び大型化学高所放水車の設置並びにホースの敷設及び接続を行い、発電所対策本部へ報告する。また、発電所対策本部は、発電課長へ連絡する。</p> <p>⑤発電課長は、現場でのホース敷設、接続完了を確認後、発電所対策本部に化学消防自動車及び大型化学高所放水車による送水開始を依頼する。</p> <p>⑥初期消火要員（消防車隊）は、現場にて原子炉建屋北側燃料プールスプレイ元弁の開操作並びに化学消防自動車及び大型化学高所放水車の起動を実施する。初期消火要員（消防車隊）は、化学消防自動車及び大型化学高所放水車による燃料プールスプレイ系（常設配管）を用いた使用済燃料プールへのスプレイ開始を発電所対策本部へ報告する。また、発電所対策本部は発電課長へ連絡する。</p> <p>⑦運転員（中央制御室）Aは、使用済燃料プールへのスプレイが開始されたことを使用済燃料プール監視カメラ、使用済燃料プール水位/温度（ヒートサーモ式）及び使用済燃料プール水位/温度（ガイドバルブ式）により確認し、発電課長へ報告する。</p>		

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(2) 大容量ポンプ（放水砲用）及び放水砲による原子炉周辺建屋（貯蔵槽内燃料体等）への放水 使用済燃料ピットからの大量の水の漏えいが発生した場合において、大容量ポンプ（放水砲用）及び放水砲により海水を原子炉周辺建屋（貯蔵槽内燃料体等）へ放水する手順を整備する。</p> <p>a. 手順着手の判断基準 使用済燃料ピット水位が使用済燃料ピット出口配管下端（E.L.+31.79m）以下まで低下し、かつ水位低下が継続する場合において、原子炉周辺建屋（貯蔵槽内燃料体等）の損壊又は使用済燃料ピット区域エリアモニタの指示上昇により原子炉周辺建屋（貯蔵槽内燃料体等）に近づけない場合。</p> <p>b. 操作手順 操作手順は、「1.12 工場等外への放射性物質の拡散を抑制するための手順等」のうち、1.12.2.2(1)b.「大容量ポンプ（放水砲用）及び放水砲による大気への拡散抑制」にて整備する。</p>	<p>(c) 操作の成立性 上記の操作は、運転員（中央制御室）1名及び初期消火要員（消防車隊）6名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから化学消防自動車及び大型化学高所放水車による燃料プールスプレイ系（常設配管）を用いた使用済燃料プールへのスプレイ開始まで125分以内で可能である。 円滑に作業できるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。化学消防自動車及び大型化学高所放水車からのホースの接続は、汎用の結合金具であり、十分な作業スペースを確保していることから、容易に実施可能である。 また、車両付属の作業用照明及び可搬型照明（ヘッドライト及び懐中電灯）を用いることで、夜間における作業性についても確保している。</p> <p style="text-align: right;">（添付資料1.11.3）</p>	<p>d. 可搬型大容量海水送水ポンプ車及び放水砲による燃料取扱棟（使用済燃料ピット内の燃料体等）への放水 使用済燃料ピットからの大量の水の漏えいが発生した場合において、可搬型大容量海水送水ポンプ車及び放水砲により海水を燃料取扱棟（使用済燃料ピット内の燃料体等）へ放水する。</p> <p>(a) 手順着手の判断基準 使用済燃料ピット水位が使用済燃料ピット水浄化冷却設備入口配管下端（T.P.31.31m）以下まで低下し、かつ水位低下が継続する場合において、燃料取扱棟（使用済燃料ピット内の燃料体等）の破損又は使用済燃料ピットエリアモニタの指示値上昇により燃料取扱棟（使用済燃料ピット内の燃料体等）に近づけない場合。</p> <p>(b) 操作手順 操作手順は「1.12 発電所外への放射性物質の拡散を抑制するための手順等」のうち、1.12.2.2(1)d.「可搬型大容量海水送水ポンプ車及び放水砲による大気への放射性物質の拡散抑制」の操作手順と同様である。</p> <p>(c) 操作の成立性 上記(b)の現場の操作は、災害対策要員6名にて実施し、所要時間は280分以内で大気への放射性物質の拡散抑制の準備を完了することとしている。</p>	<p>【女川】記載方針の相違 ・女川は「1.11.2.5 その他の手順項目について考慮する手順」にて大気への拡散抑制の手順を技術的能力1.12へリンクさせる記載としている。 ・泊は手順着手の判断基準までを本審査項目に記載し操作手順を技術的能力1.12へリンクさせる構成としており、技術的能力1.12でも手順着手の判断基準を含めて手順を整理している。（大飯3/4号炉と同様）</p> <p>【大飯】記載表現の相違 ・泊は建屋の被害状況の記載について「破損」に統一。 ・泊はエリアモニタの値を確認する記載において、他の審査項目と記載を統一し、「指示値」と記載している。</p> <p>【大飯】 記載表現の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【大飯】 記載表現の相違（女川審査実績の反映）</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(3) 使用済燃料ピットからの漏えい緩和</p> <p>使用済燃料ピットからの大量の水の漏えいが発生した場合において、あらかじめ準備している漏えい緩和のための設備を用いて、使用済燃料ピット内側からの漏えいを緩和する手順を整備する。</p> <p>a. 手順着手の判断基準</p> <p>使用済燃料ピット水位が使用済燃料ピット出口配管下端 (E.L.+31.79m) 以下まで低下し、かつ水位低下が継続する場合に使用済燃料ピット近傍へ近づける場合。</p> <p>b. 操作手順</p> <p>使用済燃料ピットからの漏えい緩和の手順の概要は以下のとおり。タイムチャートを第1.11.28図に示す。</p> <p>① 発電所対策本部長は、手順着手の判断基準に基づき緊急安全対策要員へ設備を用いた使用済燃料ピットからの漏えい緩和の準備を指示する。</p> <p>② 緊急安全対策要員は、現場で銅板、ゴムシート及びロープ（吊り降ろし用）等を準備する。</p> <p>③ 緊急安全対策要員は、現場で銅板、ゴムシートにロープ（吊り降ろし用）を取り付け、使用済燃料ピットの貫通穴付近まで吊り下げる。</p> <p>④ 緊急安全対策要員は、現場で銅板、ゴムシートが貫通穴からの流路を塞ぎ、使用済燃料ピットからの漏えいが緩和されたことを使用済燃料ピット水位により確認する。</p> <p>⑤ 緊急安全対策要員は、現場で漏えいが緩和された位置でロープ（吊り降ろし用）を固縛、固定する。</p> <p>⑥ 緊急安全対策要員は、現場で防水テープ、吸水性ポリマー、補修材を用いて、配管等の漏えい箇所の補修を行う。</p>	<p>(2) 漏えい緩和</p> <p>a. 使用済燃料プール漏えい緩和</p> <p>使用済燃料プールからの大量の水の漏えいが発生している場合において、あらかじめ準備している漏えい抑制のための資機材を用いて、使用済燃料プール内側からの漏えいを緩和する。</p> <p>(a) 手順着手の判断基準</p> <p>使用済燃料プールの水位が水位低警報レベルまで低下し、さらに以下のいずれかの状況に至り、燃料取替床へアクセスできる場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用済燃料プールへの注水を行っても水位低下が継続する場合。 ・使用済燃料貯蔵ラック上端+6,000mmを下回る水位低下を使用済燃料プール水位/温度にて確認した場合。 <p>(b) 操作手順</p> <p>使用済燃料プールからの漏えい緩和手順の概要は以下のとおり。概要図を第1.11-21図に、タイムチャートを第1.11-22図に示す。</p> <p>① 発電課長は、手順着手の判断基準に基づき、発電所対策本部に使用済燃料プールからの漏えい緩和の実施を依頼する。</p> <p>② 発電所対策本部は、保修班員に使用済燃料プールからの漏えい緩和の実施を指示する。</p> <p>③ 保修班員は、ステンレス銅板にシール材を接着させ、吊り降ろし用のロープを取り付けた後、貫通穴付近まで吊り下げ、手すり等に固縛・固定し、漏えい緩和措置が完了したことを発電所対策本部へ報告する。また、発電所対策本部は発電課長へ連絡する。</p>	<p>(2) 漏えい緩和</p> <p>a. 使用済燃料ピット漏えい緩和</p> <p>使用済燃料ピットからの大量の水の漏えいが発生している場合において、あらかじめ準備している漏えい抑制のための資機材を用いて、使用済燃料ピット内側からの漏えいを緩和する。</p> <p>(a) 手順着手の判断基準</p> <p>使用済燃料ピット水位が使用済燃料ピット水浄化冷却設備入口配管下端 (T.P.31.31m) 以下まで低下し、かつ水位低下が継続する場合に使用済燃料ピット近傍へ近づける場合。</p> <p>(b) 操作手順</p> <p>使用済燃料ピットからの漏えい緩和手順の概要は以下のとおり。概要図を第1.11.29図に、タイムチャートを第1.11.30図に示す。</p> <p>① 発電課長（当直）は、手順着手の判断基準に基づき、災害対策要員に使用済燃料ピットからの漏えい緩和の実施を指示する。</p> <p>② 災害対策要員は、現場でステンレス銅板、ガスケット材及び吊り下ろしロープ等を準備する。</p> <p>③ 災害対策要員は、現場でステンレス銅板にガスケット材及び吊り下ろしロープを取り付け、使用済燃料ピットの貫通穴付近まで吊り下げる。</p> <p>④ 災害対策要員は、現場でステンレス銅板、ガスケット材が貫通穴から流路を塞ぎ、使用済燃料ピットから漏えいが緩和されたことを使用済燃料ピット水位により確認する。</p> <p>⑤ 災害対策要員は、現場で漏えいが緩和された位置で吊り下ろしロープを固縛、固定し、漏えい緩和措置が完了したことを発電課長（当直）へ報告する。</p>	<p>【大阪】 記載方針の相違(女川審査実績の反映) 【大阪】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大阪】設備の相違 ・配管設置レベルの相違 【女川】記載表現の相違</p> <p>【大阪】 記載方針の相違(女川審査実績の反映) ・泊は概要図を新たに記載した 【女川】運用の相違 ・泊は発電課長(当直)が手順着手を判断し、作業員に作業開始を指示する。 (女川の操作手順②、③も同様)</p> <p>【大阪】 記載表現の相違(女川審査実績の反映) 【大阪】設備の相違(相違理由⑥)</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>c. 操作の成立性</p> <p>上記の現場対応は1ユニット当たり緊急安全対策要員4名により作業を実施し、所要時間は約2時間と想定する。</p> <p>円滑に作業できるように、移動経路を確保し、可搬型照明及び通信設備等を整備する。作業環境の周囲温度は通常運転状態と同程度である。</p> <p>使用済燃料ビットからの漏えい緩和については速やかに作業ができるよう使用済燃料ビット近傍に設備を配備する。</p> <p>(添付資料 1.11.15)</p> <p>(4) その他の手順項目にて考慮する手順</p> <p>送水車及び大容量ポンプ（放水砲用）への燃料補給に関する手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.4(2)「送水車への燃料補給」及び1.6.2.4(1)「電源車（可搬式代替低圧注水ポンプ用）、大容量ポンプへの燃料補給」にて整備する。</p> <p>(5) 優先順位</p> <p>使用済燃料ビットからの大量の水の漏えいその他の要因により使用済燃料ビットの水位が異常に低下した場合は、送水車による使用済燃料ビットへのスプレイを優先する。また、原子炉周辺建屋（貯蔵槽内燃料体等）に損壊がある場合又は原子炉周辺建屋（貯蔵槽内燃料体等）に近づけない場合は、スプレイヘッドよりも射程距離が長い大容量ポンプ（放水砲用）及び放水砲による原子炉周辺建屋（貯蔵槽内燃料体等）への放水を優先する。</p> <p>以上の対応手順のフローチャートを第 1.11.29 図に示す。</p>	<p>④運転員（中央制御室）Aは、使用済燃料プールからの漏えい量が減少したことを使用済燃料プール水位／温度（ヒートサーモ式）、使用済燃料プール水位／温度（ガイドバルス式）にて確認し、発電課長へ報告する。</p> <p>⑤発電課長は、運転員（中央制御室）Aからの報告に基づき、使用済燃料プールからの漏えい量が減少したことを発電所対策本部へ連絡する。</p> <p>(c) 操作の成立性</p> <p>上記の操作は、運転員（中央制御室）1名及び保修班員2名にて作業を実施する。作業開始を判断してから使用済燃料プールからの漏えい緩和措置完了まで180分以内で可能である。</p> <p>円滑に作業できるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。</p> <p>また、速やかに作業が開始できるよう、使用する資機材は作業場所近傍に配備する。</p>	<p>⑥ 運転員（中央制御室）Aは、中央制御室で使用済燃料ビットからの漏えい量が減少したことを使用済燃料ビット水位、使用済燃料ビット水位（AM用）及び使用済燃料ビット水位（可搬型）にて確認し、発電課長（当直）へ報告する。</p> <p>(c) 操作の成立性</p> <p>上記の操作は、災害対策要員2名にて作業を実施し、作業開始を判断してから使用済燃料ビットからの漏えい緩和措置完了まで120分以内で可能である。</p> <p>円滑に作業できるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。室温は通常運転時と同程度である。</p> <p>また、速やかに作業が開始できるよう、使用する資機材は作業場所近傍に配備する。</p> <p>(添付資料 1.11.17)</p>	<p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】 記載方針の相違(女川審査実績の反映) ・泊は1.11.2.4にて整理しており、泊の記載場所と比較する。</p> <p>【大飯】 記載方針の相違(女川審査実績の反映) ・泊は1.11.2.5にて整理しており、泊の記載場所と比較する。</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>1.11.2.3 重大事故等時における使用済燃料ピットの監視時の手順等</p> <p>使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能が喪失し、又は使用済燃料ピット水の小規模な漏えい発生時又は使用済燃料ピットからの大量の水の漏えい発生時において、使用済燃料ピット水の沸騰による蒸散が継続し、高温（大気圧下であり、100℃以上に達することはない。）高湿度の環境での使用も考えられるが、検出器取付構造及び設置位置により、発生直後の蒸気が直接検出器の電気回路部等に接しない構造であることから、監視計器は事故時環境下でも使用可能である。</p> <p>なお、使用済燃料ピット監視カメラについては、冷却装置により耐環境性の向上を図る。</p> <p>使用済燃料ピットの監視は、常設設備により行うが、計器の計測範囲を超えた場合は、可搬型設備により監視を行う。</p> <p>重大事故等時においては、これらの可搬型設備の計器を用いることで変動する可能性のある範囲を、各計器がオーバーラップして監視する。また、各計器の計測範囲を把握した上で、使用済燃料ピットの水位、水温、空間線量率、状態監視を行う。</p> <p>また、使用済燃料ピットの温度、水位、上部の空間線量率の監視設備及び監視カメラは、非常用所内電源から給電され、交流又は直流電源が必要な場合には、代替電源設備から電力供給が可能である。これらの監視設備を用いた使用済燃料ピットの監視は運転員等又は緊急安全対策要員が行う。</p> <p>(添付資料 1.11.16、1.11.17、1.11.18)</p> <p>(1) 常設設備による使用済燃料ピットの状態監視</p> <p>通常時の使用済燃料ピットの状態監視は、使用済燃料ピット水位、使用済燃料ピット温度、使用済燃料ピット区域エリアモニタ、使用済燃料ピット監視カメラにより実施する。</p>	<p>1.11.2.3 重大事故等時における使用済燃料プールの監視のための対応手順</p> <p>使用済燃料プールの冷却機能又は注水機能が喪失時、又は使用済燃料プール水の小規模な漏えい発生時又は使用済燃料プールからの大量の水の漏えいが発生した場合、使用済燃料プール監視計器の環境条件は、使用済燃料プール水の沸騰による蒸散が継続し、高温（大気圧下のため100℃を超えることはない。）、高湿度の環境が考えられるが、監視計器の構造及び位置により直接検出器の電気回路部等に接しないことから、監視計器を事故時環境下においても使用できる。</p> <p>使用済燃料プールの監視は、想定される重大事故等時においては、これらの計器を用いることで変動する可能性のある範囲を各計器がオーバーラップして監視する。また、各計器の計測範囲を把握した上で使用済燃料プールの水位、水温、上部空間線量率及び状態監視を行う。</p> <p>また、使用済燃料プールの温度、水位及び上部空間線量率の監視設備並びに監視カメラは、非常用所内電源から給電され、交流又は直流電源が必要な場合には、代替電源設備から電源が給電される。これらの監視設備を用いた使用済燃料プールの監視は運転員（中央制御室）が行う。</p> <p>(1) 使用済燃料プールの状態監視</p> <p>通常時の使用済燃料プールの状態監視は、燃料貯蔵プール水位、使用済燃料プール水位/温度（ヒートサーモ式）、使用済燃料プール水位/温度（ガイドパルス式）、燃料貯蔵プール水温度、FPCポンプ入口温度及び燃料交換フロア放射線モニタ、原子炉建屋原子炉棟排気放射線モニタ、燃料取替エリア放射線モニタにより実施する。</p>	<p>1.11.2.3 重大事故等時における使用済燃料ピットの監視のための対応手順</p> <p>使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能が喪失時、又は使用済燃料ピット水の小規模な漏えい発生時又は使用済燃料ピットからの大量の水の漏えいが発生した場合、使用済燃料ピット監視計器の環境条件は、使用済燃料ピット水の沸騰による蒸散が継続し、高温（大気圧下のため100℃を超えることはない。）、高湿度の環境が考えられるが、監視計器の構造及び位置により直接検出器の電気回路部等に接しないことから、監視計器を事故時環境下においても使用できる。</p> <p>また、使用済燃料ピット監視カメラについては、空冷装置により耐環境性の向上を図る。</p> <p>使用済燃料ピットの監視は、常設設備により行うが、計器の計測範囲を超えた場合は、可搬型設備により監視を行う。</p> <p>重大事故等時においては、これらの可搬型設備の計器を用いることで変動する可能性のある範囲を、各計器がオーバーラップして監視する。また、各計器の計測範囲を把握した上で、使用済燃料ピットの水位、水温、上部空間線量率及び状態監視を行う。</p> <p>また、使用済燃料ピットの温度、水位及び上部空間線量率の監視設備並びに監視カメラは、非常用所内電源から給電され、交流又は直流電源が必要な場合には、代替電源設備から電源が給電される。これらの監視設備を用いた使用済燃料ピットの監視は運転員（中央制御室）が行う。</p> <p>(添付資料 1.11.18)</p> <p>(1) 使用済燃料ピットの状態監視</p> <p>a. 常設設備による使用済燃料ピットの状態監視</p> <p>通常時の使用済燃料ピットの状態監視は、使用済燃料ピット水位、使用済燃料ピット温度、使用済燃料ピットエリアモニタ及び使用済燃料ピット監視カメラにより実施する。</p>	<p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】 記載表現の相違</p> <p>【女川】設備の相違 ・泊は常設と可搬の監視計器により状態監視する手順（大飯 3/4号炉と同様）。女川は常設の計器により状態監視する手順である。</p> <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】記載方針の相違 ・泊の添付資料 1.11.18 は、大飯の添付資料 1.11.16～1.11.18 の内容をすべて網羅している。</p> <p>【大飯】 記載方針の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【女川】設備の相違 ・泊は常設と可搬の監視計器により状態監視する手順（大飯 3/4号炉と同様）。女川は常設の計器により状態監視する手順であるため項目分けが不要。</p> <p>【女川】設備の相違（相違理由⑤）</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>重大事故等発生時においては、重大事故等対処設備である使用済燃料ピット水位（AM用）、使用済燃料ピット温度（AM用）、使用済燃料ピット監視カメラにより、使用済燃料ピットの水位、水温及び状態監視を行う。</p> <p>上記の監視計器は常設設備であり設置等^①を必要としないため、継続的に監視を実施する。</p> <p>(2) 可搬型設備による使用済燃料ピットの状態監視</p> <p>使用済燃料ピットの冷却機能喪失時又は配管の漏えいにより使用済燃料ピットの水位が低下した場合に、可搬型設備である可搬式使用済燃料ピット水位、可搬式使用済燃料ピット区域周辺エリアモニタ及び使用済燃料ピット監視カメラ冷却装置を配置し中央制御室で使用済燃料ピットの状態監視を実施する手順を整備する。</p> <p>可搬式使用済燃料ピット区域周辺エリアモニタは、複数の設置場所での線量率の相関（減衰率）関係を評価し、各設置場所間での関係性を把握し、指示値の傾向を確認することで使用済燃料ピット区域の空間線量率を推定する。</p> <p>また、携帯型水温計、携帯型水位計及び携帯型水位・水温計を用いて、現場で使用済燃料ピットの状態監視を実施する。</p>	<p>重大事故等時においては、重大事故等対処設備である使用済燃料プール水位/温度（ヒートサーモ式）、使用済燃料プール水位/温度（ガイドパルス式）、使用済燃料プール上部空間放射線モニタ（高線量、低線量）及び使用済燃料プール監視カメラにより、使用済燃料プール水位、水温、上部空間線量率及び状態監視を行う。</p> <p>上記の重大事故等対処設備による監視計器は、常設設備であり設置を必要としない。また、通常時から常時監視が可能な設備であり、継続的に監視を実施する。</p> <p>【比較のため、伊方3号炉 SA54 条まとめ資料 2.11.1(3)(ii)より引用】</p> <p>可搬型使用済燃料ピットエリアモニタは、取付けを想定する複数の場所の線量率と使用済燃料ピット区域の空間線量率の相関（減衰率）をあらかじめ評価しておくことで、使用済燃料ピット区域の空間線量率を推定できる設計とする。</p> <p>【比較のため、伊方3号炉技術的能力 1.11 まとめ資料 1.11.2.3(2)より引用】</p> <p>可搬型使用済燃料ピットエリアモニタは、使用済燃料ピット外側の定点2箇所を設置し、使用済燃料ピットエリアモニタが機能している場合は、使用済燃料ピット外側に設置するモニタとの空間線量率の比較を行うことで使用済燃料ピット内の空間線量率を推定する。使用済燃料ピットエリアモニタの機能が喪失している場合は、あらかじめ評価し把握した相関関係により使用済燃料ピット空間線量率を指示値の傾向で確認して推定する。</p>	<p>重大事故等時においては、重大事故等対処設備である使用済燃料ピット水位（AM用）、使用済燃料ピット温度（AM用）及び使用済燃料ピット監視カメラにより使用済燃料ピットの水位、水温及び状態監視を行う。</p> <p>上記の重大事故等対処設備による監視計器は、常設設備であり設置を必要としない。また、通常時から常時監視が可能な設備であり、継続的に監視を実施する。概要図を第1.11.31図及び第1.11.32図に示す。</p> <p>b. 可搬型設備による使用済燃料ピットの状態監視</p> <p>使用済燃料ピットの冷却機能喪失時又は配管の漏えいにより使用済燃料ピットの水位が低下した場合に、可搬型設備である使用済燃料ピット水位（可搬型）、使用済燃料ピット可搬型エリアモニタ及び使用済燃料ピット監視カメラ空冷装置を配置し中央制御室にて使用済燃料ピットの状態監視を実施する。</p> <p>使用済燃料ピット可搬型エリアモニタは、取付けを想定する複数の場所の線量率と使用済燃料ピット区域の空間線量率の相関（減衰率）をあらかじめ評価しておくことで、使用済燃料ピット区域の空間線量率を推定する。</p> <p>また、携帯型水温計、携帯型水位計及び携帯型水位・水温計を用いて、現場で使用済燃料ピットの状態監視を実施する。</p>	<p>【大阪】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【女川】記載箇所の相違 ・泊は本項で常設の監視計器を整理しているため、可搬の監視計器は後段の項目に整理している。(大阪 3/4号炉と同様)</p> <p>【大阪】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大阪、女川】記載方針の相違 ・泊は自主対策設備である常設の監視計器について手順の系統概要を確認できるように概要図を整理している。</p> <p>【女川】設備の相違（相違理由④） ・泊は常設と可搬による状態監視の手段を整備しているため、項目を分けて手順を整理している。(大阪 3/4号炉と同様)</p> <p>【大阪】 記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大阪】 記載方針の相違（相違理由③） ・泊欄の記載は泊の SA54 条より引用しており、この記載内容は伊方の SA54 条と同じである。</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>a. 手順着手の判断基準</p> <p>計画外に使用済燃料ピットポンプの全台停止等により冷却機能が喪失した場合若しくは使用済燃料ピット温度が50℃を超える場合、又は使用済燃料ピット水位が計画外にE.L. +33.06m以下まで低下している場合。</p> <p>b. 操作手順</p> <p>可搬型設備による使用済燃料ピットの状態監視手順の概要は以下のとおり。概略系統を第1.11.30図に、タイムチャートを第1.11.31図に示す。</p> <p>① 発電所対策本部長は、手順着手の判断基準に基づき緊急安全対策要員へ可搬型設備の使用済燃料ピット監視設備の設置を指示する。</p> <p>② 緊急安全対策要員は、現場で使用済燃料ピット監視カメラ冷却装置を運搬、設置し、電源及びホースを接続後起動する。</p> <p>③ 緊急安全対策要員は、現場で保管場所から可搬式使用済燃料ピット区域周辺エリアモニタ及び可搬式使用済燃料ピット水位の吊込装置等（フロート、シンカーを含む。）を運搬、現場へ配置し、電源、信号ケーブル及びワイヤーの接続を行う。</p> <p>④ 緊急安全対策要員は、中央制御室で可搬式使用済燃料ピット区域周辺エリアモニタの測定モジュール及び監視パソコンを設置し、電源及び信号ケーブルの接続を行う。</p> <p>⑤ 緊急安全対策要員は、中央制御室で可搬式使用済燃料ピット区域周辺エリアモニタの測定モジュール及び監視パソコンを起動し、中央制御室で使用済燃料ピット区域エリアモニタと可搬式使用済燃料ピット区域周辺エリアモニタの指示を確認する。使用済燃料ピット区域エリアモニタが監視可能な場合は、双方の相関関係を確認しながら監視を継続する。使用済燃料ピット区域エリアモニタが監視不能の場合は、評価して把握した相関関係により、使用済燃料ピット上部の空間線量率を推定する。</p>	<p>燃料交換フロア放射線モニタ、原子炉建屋原子炉棟排気放射線モニタ、燃料取替エリア放射線モニタ及び使用済燃料プール上部空間放射線モニタ（高線量、低線量）の機能が喪失している場合は、あらかじめ評価（使用済燃料配置変更ごとに行う空間線量率評価）し把握した相関（減衰率）関係により使用済燃料プール空間線量率を推定する。</p> <p>【比較のため、伊方3号炉技術的能力 1.11 まとめ資料 1.11.2.3(2)より引用】</p> <p>① 当直長と発電所災害対策本部は連携を密にし、手順着手の判断基準に基づき、発電所災害対策本部要員に可搬型設備による使用済燃料ピットの監視設備の設置を指示する。</p>	<p>(a) 手順着手の判断基準</p> <p>計画外に使用済燃料ピットポンプの全台停止等により冷却機能が喪失した場合若しくは使用済燃料ピット温度が60℃を超える場合、又は使用済燃料ピット水位が計画外にT.P. 32.58m以下まで低下している場合。</p> <p>(b) 操作手順</p> <p>可搬型設備による使用済燃料ピットの状態監視手順の概要は以下のとおり。概要図を第1.11.32図に、タイムチャートを第1.11.33図に示す。</p> <p>① 発電課長（当直）は、手順着手の判断基準に基づき、災害対策要員へ可搬型設備による使用済燃料ピットの監視設備の設置を指示する。</p> <p>② 災害対策要員は、現場で保管場所から使用済燃料ピット水位（可搬型）の吊込装置等（フロート、シンカーを含む。）を運搬、現場へ配置し、電源、信号ケーブル及びワイヤーの接続を行う。</p> <p>③ 災害対策要員は、現場で保管場所から使用済燃料ピット可搬型エリアモニタを運搬、現場へ配置し、鉛遮蔽の設置及び検出器用ケーブルの接続を行い、使用済燃料ピット水位（可搬型）及び使用済燃料ピット可搬型エリアモニタの設置完了を発電課長（当直）に報告する。</p> <p>④ 運転員（中央制御室）Aは、中央制御室で使用済燃料ピットエリアモニタと使用済燃料ピット可搬型エリアモニタの指示値を確認する。</p> <p>使用済燃料ピットエリアモニタが監視可能な場合は、双方の相関関係を確認しながら監視を継続する。使用済燃料ピットエリアモニタが監視不能の場合は、評価して把握した相関関係により、使用済燃料ピット上部の空間線量率を推定する。</p>	<p>【女川】 設備の相違（相違理由④、⑤）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女川は常設の使用済燃料プール監視設備が機能喪失した場合の対応を記載。 ・泊を含むPWRはSA設備である可搬型の使用済燃料ピット監視設備にて対応。 <p>【大飯】設備の相違（相違理由⑤）</p> <p>【大飯】記載表現の相違（女川審査実績の反映）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊の記載表現は伊方3号炉と同様。 ・泊は操作手順⑤にて空冷装置を準備する。 <p>【大飯】記載表現の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【大飯】設備の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泊は中央制御室のAM設備監視操作盤にて監視可能であるため、監視パソコンの設置は必要なし。

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>【比較のため、操作手順②より再掲】</p> <p>② 緊急安全対策要員は、現場で使用済燃料ピット監視カメラ冷却装置を運搬、設置し、電源及びホースを接続後起動する。</p> <p>⑥ 緊急安全対策要員は、中央制御室で可搬式使用済燃料ピット水位を起動し、指示を確認する。</p> <p>⑦ 運転員等は、中央制御室で可搬式使用済燃料ピット水位、可搬式使用済燃料ピット区域周辺エリアモニタ、使用済燃料ピット監視カメラにより使用済燃料ピットの状態監視を実施する。また、全交流動力電源又は直流電源が喪失している場合は、代替電源設備から給電されていることを確認後、可搬型設備の指示を確認する。</p> <p>c. 操作の成立性 上記の現場対応は1ユニット当たり緊急安全対策要員4名により作業を実施し、所要時間は約2時間と想定する。</p> <p>円滑に作業できるように、移動経路を確保し、可搬型照明、通信設備等を整備する。作業環境の周囲温度は通常運転状態と同程度である。</p> <p>常設及び可搬型の使用済燃料ピット水位計、温度計が故障した場合は、携帯型水温計、携帯型水位計及び携帯型水位、水温計を使用する。</p> <p>(添付資料 1.11.19、1.11.20)</p>	<p>【比較のため、伊方3号炉技術的能力 1.11 まとめ資料 1.11.2.3(2)より引用】</p> <p>⑦ 発電所災害対策本部要員は、使用済燃料ピット監視カメラと監視カメラ冷却装置とをフレキシブルホースで接続し、フレキシブルホースに保温材を取付ける。</p> <p>⑧ 発電所災害対策本部要員は、監視カメラ冷却装置の電源を接続し、冷却装置を起動する。</p> <p>⑨ 運転員は、中央制御室にて使用済燃料ピット広域水位計(AM)、使用済燃料ピット監視カメラ、可搬型使用済燃料ピットエリアモニタにより使用済燃料ピットの状態監視を行う。また、直流電源が喪失している場合は、代替電源設備から給電されていることを確認後、可搬型設備の指示を確認する。</p>	<p>⑤ 災害対策要員は、現場で使用済燃料ピット監視カメラ空冷装置と冷却用空気配管をフレキシブルホースで接続、使用済燃料ピット監視カメラ空冷装置のドレンホースの準備及び電源の接続等を行う。</p> <p>⑥ 災害対策要員は、現場で使用済燃料ピット監視カメラ空冷装置による冷却空気送風のための系統構成を実施し、空気冷却設備を起動し、使用済燃料ピット監視カメラ空冷装置の設置完了を発電課長(当直)に報告する。</p> <p>⑦ 運転員(中央制御室)Aは、中央制御室で使用済燃料ピット水位(可搬型)、使用済燃料ピット可搬型エリアモニタ及び使用済燃料ピット監視カメラにより使用済燃料ピットの状態監視を実施する。また、全交流動力電源又は直流電源が喪失している場合は、代替電源設備から給電されていることを確認後、可搬型設備の指示を確認する。</p> <p>(c) 操作の成立性 上記の操作は、災害対策要員4名にて作業を実施し、作業開始を判断してから可搬型設備による使用済燃料ピットの状態監視開始まで120分以内で可能である。</p> <p>円滑に作業できるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。室温は通常運転時と同程度である。</p> <p>常設及び可搬型の使用済燃料ピット水位計及び使用済燃料ピット温度計が故障した場合は、携帯型水温計、携帯型水位計及び使用済燃料ピット監視用携帯型ロープ式水位計を使用する。</p> <p>(添付資料 1.11.19、1.11.20)</p>	<p>【大飯】記載箇所の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は可搬型エリアモニタ設置後に、使用済燃料ピット監視カメラ空冷装置の準備を実施する。(伊方3号炉と同様) <p>【大飯】設備の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は操作手順②の完了にて指示確認が可能なため起動操作は不要。 <p>【大飯】記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】記載表現の相違(女川審査実績の反映)</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>1.11.2.4 使用済燃料ピット監視計器の電源（交流又は直流）を代替電源設備から給電する手順等</p> <p>全交流動力電源又は直流電源が喪失した場合に、使用済燃料ピットの状態を監視するため、代替電源設備により使用済燃料ピット監視計器へ給電する手順を整備する。</p> <p>代替電源設備により使用済燃料ピット監視計器へ給電する手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」のうち、1.14.2.1「代替電源（交流）による給電手順等」及び1.14.2.2「代替電源（直流）による給電手順等」にて整備する。</p>	<p>a. 代替電源による給電</p> <p>全交流動力電源又は直流電源が喪失した場合、使用済燃料プールの状態を監視するため、代替電源により使用済燃料プール監視計器へ給電する手順を整備する。</p> <p>代替電源により使用済燃料プール監視計器へ給電する手順については、「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。</p>	<p>c. 代替電源による給電</p> <p>全交流動力電源又は直流電源が喪失した場合、使用済燃料ピットの状態を監視するため、代替電源により使用済燃料ピット監視計器へ給電する手順を整備する。</p> <p>代替電源により使用済燃料ピット監視計器へ給電する手順については、「1.14 電源の確保に関する手順等」のうち、1.14.2.1「代替電源（交流）による対応手順」及び1.14.2.2「代替電源（直流）による対応手順」にて整備する。</p>	<p>【大飯】 記載方針の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】 記載表現の相違(女川審査実績の反映) 泊の技術的能力1.14まとめ資料の資料構成修正を反映。</p> <p>【女川】 記載表現の相違(大飯審査実績の反映)</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>1.11.2.4 使用済燃料プールから発生する水蒸気による悪影響を防止するための対応手順</p> <p>(1) 燃料プール冷却浄化系による使用済燃料プールの除熱</p> <p>全交流動力電源の喪失及び原子炉補機冷却水系（原子炉補機冷却海水系を含む）の機能喪失により、燃料プール冷却浄化系による使用済燃料プールの除熱ができず、使用済燃料プールから発生する水蒸気が重大事故等対処設備に悪影響を及ぼす可能性がある場合は、常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備により燃料プール冷却浄化系の電源を確保し、原子炉補機代替冷却水系により冷却水を確保することで、燃料プール冷却浄化系による使用済燃料プールの除熱を実施する。</p> <p>なお、水源であるスキマサージタンクへの補給については、「1.11.2.1(1) a. 燃料プール代替注水系（常設配管）による使用済燃料プールへの注水」、「1.11.2.1(1) b. 燃料プール代替注水系（可搬型）による使用済燃料プールへの注水」又は「1.11.2.1(1) c. ろ過水ポンプによる使用済燃料プールへの注水」と同様の手順にて実施する。また、常設代替交流電源設備及び可搬型代替交流電源設備に関する手順等は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。</p> <p>a. 手順着手の判断基準</p> <p>全交流動力電源喪失及び原子炉補機冷却水系の機能喪失時、常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備により非常用高圧母線の受電が完了し、原子炉補機代替冷却水系及び燃料プール冷却浄化系が使用可能な状態[※]である場合。</p> <p>※設備に異常がなく、電源、水源（スキマサージタンク）及び原子炉補機代替冷却水系による補機冷却水が確保されている状態。</p> <p>b. 操作手順</p> <p>燃料プール冷却浄化系による使用済燃料プールの除熱手順の概要（燃料プール冷却浄化系(A)系を使用）は以下のとおり（燃料プール冷却浄化系(B)系を使用して使用済燃料プールを除熱する場合も同様。）。</p> <p>手順の対応フローを第1.11-2図及び第1.11-3図に、概要図を第1.11-23図に、タイムチャートを第1.11-24図に示す。</p> <p>①発電課長は、手順着手の判断基準に基づき、発電所対策本部に燃料プール冷却浄化系による使用済燃料プールの除熱の準備開始を依頼する。</p> <p>②発電課長は、運転員に燃料プール冷却浄化系による使用済燃料プールの除熱の準備開始を指示する。</p> <p>③運転員（中央制御室）Aは、中央制御室にて燃料プール</p>		<p>【女川】 BWR 固有の対応手段(KK6/7 審査知見の反映)</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>冷却浄化系による使用済燃料プールの除熱に必要なポンプ、電動弁及び監視計器の電源が確保されていることを状態表示にて確認する。</p> <p>④運転員（中央制御室）Aは、燃料プール冷却浄化系ポンプの起動に必要な補機冷却水が確保されていることをパラメータにて確認する。</p> <p>⑤運転員（中央制御室）Aは、燃料プール冷却浄化系の系統構成のため、FPCろ過脱塩装置入口第一弁、FPCろ過脱塩装置入口第二弁、FPCろ過脱塩装置出口弁、FPC熱交換器（B）入口弁の全開操作並びにFPC熱交換器（A）入口弁の全開操作を実施する。</p> <p>⑥発電課長は、燃料プール冷却浄化系の系統構成完了を確認後、運転員に、燃料プール冷却浄化系による使用済燃料プールの除熱の開始を指示する。</p> <p>⑦運転員（中央制御室）Aは、燃料プール冷却浄化系ポンプの起動操作を実施する。</p> <p>③運転員（中央制御室）Aは、ポンプ起動後速やかにFPCろ過脱塩装置バイパス弁（A）の開操作を実施し、燃料プール冷却浄化系の系統流量の上昇及び使用済燃料プール水の温度の下降により使用済燃料プールの除熱が開始されたことを確認し、発電課長へ報告する。</p> <p>c. 操作の成立性 上記の操作は、運転員（中央制御室）1名にて作業を実施し、作業開始を判断してから燃料プール冷却浄化系による使用済燃料プールの除熱開始まで20分以内で可能である。</p>		

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>【比較のため、1.11.2.1(9)の記載より再掲】 (9) その他の手順項目にて考慮する手順 送水車への燃料補給に関する手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.4(2)「送水車への燃料補給」にて整備する。</p> <p>【比較のため、1.11.2.2(4)の記載より再掲】 送水車及び大容量ポンプ（放水砲用）への燃料補給に関する手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.4(2)「送水車への燃料補給」及び1.6.2.4(1)「電源車（可搬式代替低圧注水ポンプ用）、大容量ポンプへの燃料補給」にて整備する。</p>	<p>1.11.2.5 その他の手順項目について考慮する手順</p> <p>電動弁及び中央制御室監視計器類への電源供給手順並びに大容量送水ポンプ（タイプI）への燃料補給手順については、「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。</p> <p>代替淡水源（淡水貯水槽（No.1）及び淡水貯水槽（No.2））への水の補給手順及び水源から接続口までの大容量送水ポンプ（タイプI）による送水手順については、「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。</p> <p>大気への放射性物質の拡散抑制手順については、「1.12 発電所外への放射性物質の拡散を抑制するための手順等」にて整備する。</p> <p>燃料プール冷却浄化系への原子炉補機代替冷却水系による補機冷却水確保手順は、「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。</p> <p>操作の判断、確認に係る計装設備に関する手順については、「1.15 事故時の計装に関する手順等」にて整備する。</p>	<p>1.11.2.4 その他の手順項目について考慮する手順</p> <p>中央制御室監視計器類への電源供給手順並びに可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型大容量海水送水ポンプ車への燃料補給手順については、「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。</p> <p>大気への放射性物質の拡散抑制手順については、「1.12 発電所外への放射性物質の拡散を抑制するための手順等」にて整備する。</p> <p>操作の判断、確認に係る計装設備に関する手順については、「1.15 事故時の計装に関する手順等」にて整備する。</p>	<p>【大飯】 記載方針の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【大飯】 記載方針の相違(相違理由②)</p> <p>【女川】 設備の相違 ・女川は「燃料プール冷却浄化系による使用済燃料プールの除熱」の手順にて電動弁の操作が必要。</p> <p>【女川】 設備の相違(相違理由②)</p> <p>【大飯】 記載方針の相違(女川審査実績の反映)</p> <p>【女川】 BWR固有の対応手段</p> <p>【大飯】 記載方針の相違(女川審査実績の反映)</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>1.11.2.6 重大事故等時の対応手段の選択</p> <p>重大事故等時の対応手順の選択方法は以下のとおり。対応手順の選択フローチャートを第1.11-25図、第1.11-26図及び第1.11-27図に示す。</p> <p>使用済燃料プールの冷却機能又は注水機能の喪失時、又は使用済燃料プール水の漏えいが発生した場合は、燃料プール水位低下又は温度高警報の発生により事象を把握するとともに、使用済燃料プール水位/温度（ヒートサーモ式）、使用済燃料プール水位/温度（ガイドバルス式）、使用済燃料プール上部空間放射線モニタ（高線量、低線量）及び使用済燃料プール監視カメラにて状態の監視を行う。</p> <p>【比較のため1.11.2.1(10)の記載より再掲】 (10) 優先順位</p> <p>使用済燃料ピットへの注水は、ほう酸水でタンク容量が大きく注水までの所要時間が短い燃料取替用ピットからの注水を優先し、次に純水で注水までの所要時間が短いNo.3淡水タンクからの注水を優先する。その次に淡水で注水までの所要時間が短いNo.2淡水タンク（屋内消火栓、屋外消火栓）からの注水を優先する。その次にポンプ車によるNo.3淡水タンクからの注水、ポンプ車によるNo.2淡水タンクからの注水を優先し、タンク容量の小さい1次系純水タンクからの注水の順に使用する。</p> <p>なお、燃料取替用ピットについては、原子炉等へ注水する必要がない場合において使用する。No.2淡水タンク（屋内消火栓、屋外消火栓又はポンプ車による注水。）については、構内に火災が発生していない場合に使用する。</p> <p>海水からの注水に使用する送水車は重大事故等対処設備であるが、使用準備に時間を要することから、あらかじめ送水車等の運搬、設置及び接続を行い、燃料取替用ピット等の機能が喪失した場合又は燃料取替用ピット等から使用済燃料ピットへの注水を実施しても水位低下が継続する場合に使用する。</p> <p>以上の対応手順のフローチャートを第1.11.24図に示す。</p> <p style="text-align: right;">（添付資料1.11.12）</p>	<p>1.11.2.6 重大事故等時の対応手段の選択</p> <p>重大事故等時の対応手順の選択方法は以下のとおり。対応手順の選択フローチャートを第1.11-25図、第1.11-26図及び第1.11-27図に示す。</p> <p>使用済燃料プールの冷却機能又は注水機能の喪失時、又は使用済燃料プール水の漏えいが発生した場合は、ろ過水ポンプによる使用済燃料プールへの注水を行うとともに、その程度によらず、大容量送水ポンプ（タイプI）を使用した使用済燃料プールへの注水又はスプレーが可能となるように準備する。</p> <p>大容量送水ポンプ（タイプI）による使用済燃料プールへの注水又はスプレーを実施する際は、代替淡水源（淡水貯水槽（No.1）及び淡水貯水槽（No.2））を水源として使用し、代替淡水源の枯渇により淡水が使用できない場合には、代替淡水源に補給した海水を使用する。また、燃料プール代替注水系（可搬型）又は燃料プールスプレー系（可搬型）よりも系統構成が容易で使用済燃料プール近傍での現場操作がなく、スロッシング等により使用済燃料プールの水位が低下しても被ばくを低減できることから、燃料プール代替注水系（常設配管）又は燃料プールスプレー系（常設配管）の使用を優先する。</p>	<p>1.11.2.5 重大事故等時の対応手段の選択</p> <p>重大事故等時の対応手順の選択方法は以下のとおり。対応手順の選択フローチャートを1.11.34図に示す。</p> <p>使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能の喪失時、又は使用済燃料ピット水の漏えいが発生した場合は、使用済燃料ピット水位（AM用）、使用済燃料ピット温度（AM用）及び使用済燃料ピット監視カメラにより事象を把握するとともに、使用済燃料ピット水位（可搬型）、使用済燃料ピット可搬型エリアモニタ及び使用済燃料ピット監視カメラ空冷装置を設置し、使用済燃料ピットの水位、水温及び状態監視を行う。</p> <p>使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能の喪失時、又は使用済燃料ピットの水位が低下した場合は、使用済燃料ピットへの注水は、ほう酸水でタンク容量が大きく注水までの所要時間が短い燃料取替用ピットによる燃料取替用ピットの注水を優先し、次に純水である2次系補給水ポンプによる2次系純水タンクの注水を優先する。その次に純水であり準備時間が早い1次系補給水ポンプによる1次系純水タンクの注水を優先する。電動機駆動消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプによるろ過水タンクの注水は1次系補給水ポンプによる注水の次に使用する。</p> <p>なお、燃料取替用ピットについては、原子炉容器等へ注水する必要がない場合において使用する。ろ過水タンク（電動機駆動消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプによる注水）については、構内に火災が発生していない場合に使用する。</p> <p>海水の注水に使用する可搬型大型送水ポンプ車は重大事故等対処設備であるが、使用準備に時間を要することから、あらかじめ可搬型大型送水ポンプ車等の運搬、設置及び接続を行い、燃料取替用ピット等の機能が喪失した場合又は燃料取替用ピット等から使用済燃料ピットへの注水を実施しても水位低下が継続する場合に使用する。</p>	<p>【大飯】 記載方針の相違（女川審査実績の反映） ・大飯は1.11.2.1(10)及び1.11.2.2(5)にて同等の内容を整理している。</p> <p>【大飯】 記載箇所の相違（女川審査実績の反映） ・大飯は文章の最後にフローチャートの参照先を記載している。</p> <p>【大飯】 記載方針の相違（女川審査実績の反映） 【女川】設備の相違（相違理由④） ・泊は常設と可搬の監視計器により状態監視する手順（大飯3/4号炉と同様）。女川は常設の計器により状態監視する手順である。</p> <p>【大飯】 記載方針の相違（女川審査実績の反映） 【女川】記載表現の相違 ・設備の相違による記載表現の相違</p> <p>【大飯】記載表現の相違 ・使用済燃料ピットへの注水手段において、淡水源による注水手段を優先し、淡水源による注水手段がない場合に海水を注水する方針としていることに相違なし。</p> <p>【大飯】設備の相違（相違理由①、②） 【大飯】運用の相違（相違理由①）</p> <p>【大飯】 記載表現の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【女川】設備の相違（相違理由①、②、⑥） 【大飯】設備の相違（相違理由③）</p> <p>【大飯】 記載表現の相違 ・手順名称の相違による表現の相違。</p> <p>【大飯】 記載箇所の相違（女川審査実績の反映） ・泊及び女川は文章の冒頭にフローチャートの参照先を記載している。</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>【比較のため1.11.2.2(5)の記載より再掲】</p> <p>(5) 優先順位 使用済燃料ピットからの大量の水の漏えいその他の要因により使用済燃料ピットの水位が異常に低下した場合は、送水車による使用済燃料ピットへのスプレイを優先する。</p> <p>また、原子炉周辺建屋（貯蔵槽内燃料体等）に損壊がある場合又は原子炉周辺建屋（貯蔵槽内燃料体等）に近づけない場合は、スプレイヘッドよりも射程距離が長い大容量ポンプ（放水砲用）及び放水砲による原子炉周辺建屋（貯蔵槽内燃料体等）への放水を優先する。</p> <p>以上の対応手順のフローチャートを第1.11.29図に示す。</p>	<p>使用済燃料プールへの注水を実施しても使用済燃料プールの水位の低下が継続する場合は、漏えい量が緩和できればその後の対応に余裕が生じることから、漏えい緩和を実施する。ただし、漏えい緩和には不確定要素が多いことから、使用済燃料プールへのスプレイを実施する。</p> <p>使用済燃料プールへのスプレイが実施できない場合は、大気への放射性物質の拡散を抑制するための対応を実施する。全交流動力電源の喪失及び原子炉補機冷却水系（原子炉補機冷却海水系を含む）の機能喪失により、燃料プール冷却浄化系による使用済燃料プールの除熱ができず、使用済燃料プールから発生する水蒸気が重大事故等対処設備に悪影響を及ぼす可能性がある場合は、常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備により燃料プール冷却浄化系の電源を確保し、原子炉補機代替冷却水系により冷却水を確保することで、燃料プール冷却浄化系による使用済燃料プールの除熱を実施する。</p>	<p>可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水のための水源は、水源の切替えによる使用済燃料ピットへの注水の中断が発生しない海水を優先して使用し、海水取水箇所へのアクセスに時間を要する場合には、準備時間が最も短い代替給水ピットを使用する。海水の取水ができない場合は、保有水量が大きい原水槽を使用する。原水槽への補給は、2次系純水タンク又はろ過水タンクから移送することにより行う。ただし、ろ過水タンクは、重大事故等対処に悪影響を与える火災の発生がない場合に使用する。</p> <p>使用済燃料ピットへの注水を実施しても使用済燃料ピットの水位の低下が継続する場合は、漏えい量が緩和できればその後の対応に余裕が生じることから、漏えい緩和を実施する。ただし、漏えい緩和には不確定要素が多いことから、使用済燃料ピットへのスプレイを実施する。</p> <p>使用済燃料ピットからの大量の水の漏えい、その他の要因により使用済燃料ピットの水位が異常に低下した場合は、可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレイノズルによる使用済燃料ピットへのスプレイを優先する。</p> <p>また、燃料取扱棟（使用済燃料ピット内の燃料体等）に破損がある場合又は燃料取扱棟（使用済燃料ピット内の燃料体等）に近づけない場合は、可搬型スプレイノズルよりも射程距離が長い可搬型大容量海水送水ポンプ車及び放水砲による燃料取扱棟（使用済燃料ピット内の燃料体等）への放水を優先する。</p> <p>可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへのスプレイのための水源は、水源の切替えによる使用済燃料ピットへのスプレイの中断が発生しない海水を優先して使用し、海水取水箇所へのアクセスに時間を要する場合には、準備時間が最も短い代替給水ピットを使用する。海水の取水ができない場合は、保有水量が大きい原水槽を使用する。原水槽への補給は、2次系純水タンク又はろ過水タンクから移送することにより行う。ただし、ろ過水タンクは、重大事故等対処に悪影響を与える火災の発生がない場合に使用する。</p>	<p>【大飯】設備の相違（相違理由③） 【女川】設備の相違（相違理由②） ・泊の可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水のための水源は、複数の水源を選択できることから使用する水源の優先順位を記載する。</p> <p>【大飯】 記載方針の相違（女川審査実績の反映）</p> <p>【女川】記載表現の相違 ・泊及び大飯は優先順位の考え方を記載している。</p> <p>【大飯】記載表現の相違 ・泊は建屋の被害状況の記載について「破損」に統一。</p> <p>【女川】 BWR固有の対応手段(KK6/7 審査知見の反映)</p> <p>【大飯】 記載箇所の相違（女川審査実績の反映） ・泊及び女川は文章の冒頭にフローチャートの参照先を記載している。</p> <p>【大飯】設備の相違（相違理由③） 【女川】設備の相違（相違理由②） ・泊の可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへのスプレイのための水源は、淡水である代替給水ピット及び原水槽又は海を選択できることから、使用する水源の優先順位を記載する</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大阪発電所3/4号炉

【比較のため、比較表P1.11-74より再掲】

第1.11.1表 重大事故等における対応手段と整備する手順
(使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能の喪失時、使用済燃料ピット水の小規模な漏えい発生時)

分類	機能喪失を想定する設計基準事故対応設備	対応手段	対応設備	手順書	整備する手順書	手順の分類
使用済燃料ピットの水の小規模な漏えい発生時	燃料貯蔵槽ピットからの使用済燃料ピットへの注水	燃料貯蔵槽ピットからの使用済燃料ピットへの注水	燃料貯蔵槽用水ポンプ	非常時操作手順書「燃料貯蔵槽用水ポンプ」	燃料貯蔵槽用水ポンプ	S/A所定*
		N ₀ 、3級水タンクから使用済燃料ピットへの注水	N ₀ 、3級水タンク	非常時操作手順書「N ₀ 、3級水タンク」	N ₀ 、3級水タンク	
		N ₀ 、2級水タンクから使用済燃料ピットへの注水	N ₀ 、2級水タンク	非常時操作手順書「N ₀ 、2級水タンク」	N ₀ 、2級水タンク	
		ポンプ室によるN ₀ 、3級水タンクから使用済燃料ピットへの注水	ポンプ室	非常時操作手順書「ポンプ室」	ポンプ室	
		ポンプ室によるN ₀ 、2級水タンクから使用済燃料ピットへの注水	ポンプ室	非常時操作手順書「ポンプ室」	ポンプ室	
		1次系給水タンクから使用済燃料ピットへの注水	1次系給水タンク	非常時操作手順書「1次系給水タンク」	1次系給水タンク	
		1次系給水ポンプ	非常時操作手順書「1次系給水ポンプ」	1次系給水ポンプ	1次系給水ポンプ	
		貯水から使用済燃料ピットへの注水	貯水	非常時操作手順書「貯水」	貯水	
		起湧ドラム	非常時操作手順書「起湧ドラム」	起湧ドラム	起湧ドラム	
		注水ポンプ	非常時操作手順書「注水ポンプ」	注水ポンプ	注水ポンプ	

*1：大阪発電所 重大事故等発生時に必要となる水の供給手順等にて整備する。
*2：注水ポンプの稼働に使用可能な注水ポンプは、*1と同様。*3：原子力発電所貯蔵槽の冷却等のための手順等にて整備する。
*4：重大事故等発生時に使用する設備の分類
*5：自動運転に適合する重大事故等対応設備 *6：37号に適合する重大事故等対応設備 *7：自主的対策として整備する重大事故等対応設備

女川原子力発電所2号炉

対応手段、対処設備、手順書一覧 (2/3)

分類	機能喪失を想定する設計基準事故対応設備	対応手段	対処設備	手順書	整備する手順書	手順の分類
使用済燃料ピットからの大量の水の漏えい発生時	燃料貯蔵槽ピットからの使用済燃料ピットへの注水	燃料貯蔵槽用水ポンプ	燃料貯蔵槽用水ポンプ	非常時操作手順書「燃料貯蔵槽用水ポンプ」	燃料貯蔵槽用水ポンプ	重大事故等対応設備
		N ₀ 、2級水タンクから使用済燃料ピットへの注水	N ₀ 、2級水タンク	非常時操作手順書「N ₀ 、2級水タンク」	N ₀ 、2級水タンク	
		ポンプ室によるN ₀ 、2級水タンクから使用済燃料ピットへの注水	ポンプ室	非常時操作手順書「ポンプ室」	ポンプ室	
化学消防自動車及び大型化学消防車	化学消防自動車及び大型化学消防車	化学消防自動車	化学消防自動車	非常時操作手順書「化学消防自動車」	化学消防自動車	自主的対策設備
		大型化学消防車	大型化学消防車	非常時操作手順書「大型化学消防車」	大型化学消防車	
シールド材	シールド材	シールド材	シールド材	非常時操作手順書「シールド材」	シールド材	自主的対策設備
		ステンレス鋼板	ステンレス鋼板	非常時操作手順書「ステンレス鋼板」	ステンレス鋼板	

*1：1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等にて整備する。
*2：手順は、1.14 漏洩の確保に関する手順等にて整備する。
*3：手順は、1.12 貯蔵槽内への放射性物質の拡散を抑制するための手順等にて整備する。
*4：手順は、1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等にて整備する。
*5：手順は、1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等にて整備する。

泊発電所3号炉

対応手段、対処設備、手順書一覧 (2/4)

分類	機能喪失を想定する設計基準事故対応設備	対応手段	対処設備	手順書	整備する手順書	手順の分類
使用済燃料ピットからの大量の水の漏えい発生時	燃料貯蔵槽ピットからの使用済燃料ピットへの注水	燃料貯蔵槽用水ポンプ	燃料貯蔵槽用水ポンプ	非常時操作手順書「燃料貯蔵槽用水ポンプ」	燃料貯蔵槽用水ポンプ	重大事故等対応設備
		N ₀ 、3級水タンクから使用済燃料ピットへの注水	N ₀ 、3級水タンク	非常時操作手順書「N ₀ 、3級水タンク」	N ₀ 、3級水タンク	
		N ₀ 、2級水タンクから使用済燃料ピットへの注水	N ₀ 、2級水タンク	非常時操作手順書「N ₀ 、2級水タンク」	N ₀ 、2級水タンク	
		ポンプ室によるN ₀ 、3級水タンクから使用済燃料ピットへの注水	ポンプ室	非常時操作手順書「ポンプ室」	ポンプ室	
化学消防自動車	化学消防自動車	化学消防自動車	化学消防自動車	非常時操作手順書「化学消防自動車」	化学消防自動車	自主的対策設備
		大型化学消防車	大型化学消防車	非常時操作手順書「大型化学消防車」	大型化学消防車	

*1：手順は、1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等にて整備する。
*2：手順は、1.14 漏洩の確保に関する手順等にて整備する。
*3：手順は、1.12 貯蔵槽内への放射性物質の拡散を抑制するための手順等にて整備する。
*4：手順は、1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等にて整備する。
*5：手順は、1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等にて整備する。

相違理由

【大阪】記載方針の相違（女川審査実績の反映）

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大阪発電所3/4号炉

第1.11.4表 重大事故等対処にかかる監視計器

監視計器一覧（1/11）

対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器
1.11.2.1 使用済燃料ビットの冷却機能又は注水機能の喪失時、使用済燃料ビット水の小規模な漏えい発生時の手順等		
(1)燃料取替用水ビットから使用済燃料ビットへの注水	補機監視機能	・原子炉補機冷却水供給母管流量計 ・原子炉補機冷却水冷却器海水流量計
	使用済燃料ビットの温度	・使用済燃料ビット温度計*1 ・使用済燃料ビット温度計（AM用）*2
制御基準	使用済燃料ビットの温度	・使用済燃料ビット温度計*1 ・使用済燃料ビット温度計（AM用）*2
	使用済燃料ビットの温度	・使用済燃料ビット温度計*1 ・使用済燃料ビット温度計（AM用）*2
操作	使用済燃料ビットの温度	・使用済燃料ビット温度計*1 ・使用済燃料ビット温度計（AM用）*2
	使用済燃料ビットの温度	・使用済燃料ビット温度計*1 ・使用済燃料ビット温度計（AM用）*2
水源の確保	使用済燃料ビットの温度	・使用済燃料ビット温度計*1 ・使用済燃料ビット温度計（AM用）*2
	使用済燃料ビットの温度	・使用済燃料ビット温度計*1 ・使用済燃料ビット温度計（AM用）*2

*1：通常時使用する計器
 *2：重大事故等時使用する計器

監視計器一覧（2/11）

対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器
1.11.2.1 使用済燃料ビットの冷却機能又は注水機能の喪失時、使用済燃料ビット水の小規模な漏えい発生時の手順等		
(2)N o. 3淡水タンクから使用済燃料ビットへの注水	補機監視機能	・原子炉補機冷却水供給母管流量計 ・原子炉補機冷却水冷却器海水流量計
	使用済燃料ビットの温度	・使用済燃料ビット温度計*1 ・使用済燃料ビット温度計（AM用）*2
制御基準	使用済燃料ビットの温度	・使用済燃料ビット温度計*1 ・使用済燃料ビット温度計（AM用）*2
	使用済燃料ビットの温度	・使用済燃料ビット温度計*1 ・使用済燃料ビット温度計（AM用）*2
操作	使用済燃料ビットの温度	・使用済燃料ビット温度計*1 ・使用済燃料ビット温度計（AM用）*2
	使用済燃料ビットの温度	・使用済燃料ビット温度計*1 ・使用済燃料ビット温度計（AM用）*2
水源の確保	使用済燃料ビットの温度	・使用済燃料ビット温度計*1 ・使用済燃料ビット温度計（AM用）*2
	使用済燃料ビットの温度	・使用済燃料ビット温度計*1 ・使用済燃料ビット温度計（AM用）*2

*1：通常時使用する計器
 *2：重大事故等時使用する計器

女川原子力発電所2号炉

第1.11-2表 重大事故等対処設備に係る監視計器
 監視計器一覧（1/5）

手順書	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視パラメータ（計器）
1.11.2 重大事故等時の手順		
1.11.2.1 使用済燃料プールの冷却機能又は注水機能の喪失時、又は使用済燃料プール水の小規模な漏えい発生時の対応手順		
(1) 燃料プール代替注水		
a. 燃料プール代替注水系（常設配管）による使用済燃料プールへの注水		
b. 燃料プール代替注水系（可搬型）による使用済燃料プールへの注水		
非常時操作手順書（整備ベース） 「SFP水位・温度制御」	使用済燃料プールの監視	燃料プール水位低 警報 燃料プール温度高 警報 使用済燃料プール水位/温度（ヒートサーモ式） 使用済燃料プール水位/温度（ガイドバルブ式） 使用済燃料プール上部空間放射線モニタ（高線量、低線量） 使用済燃料プール監視カメラ
非常時操作手順書（プラント停止中） 「燃料プール冷却機能喪失」 「燃料プール冷却材喪失」		125V直流主母線 2A 電圧 125V直流主母線 2B 電圧 125V直流主母線 2A-1 電圧 125V直流主母線 2B-1 電圧
重大事故等対応要領書 「大容量送水ポンプ（タイプ1）による使用済燃料プール注水（可搬型）」	電源の確保	125V直流主母線 2A 電圧 125V直流主母線 2B 電圧 125V直流主母線 2A-1 電圧 125V直流主母線 2B-1 電圧
重大事故等対応要領書 「大容量送水ポンプ（タイプ1）による使用済燃料プール注水（可搬型）」	水源の確保	取水貯水槽（No.1） 取水貯水槽（No.2）
重大事故等対応要領書 「大容量送水ポンプ（タイプ1）による使用済燃料プール注水（可搬型）」 「大容量送水ポンプによる送水」	使用済燃料プールの監視	使用済燃料プール水位/温度（ヒートサーモ式） 使用済燃料プール水位/温度（ガイドバルブ式） 使用済燃料プール上部空間放射線モニタ（高線量、低線量）
	水源の確保	取水貯水槽（No.1） 取水貯水槽（No.2）

泊発電所3号炉

第1.11.2表 重大事故等対処設備に係る監視計器

監視計器一覧（1/13）

対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器	
1.11.2.1 使用済燃料ビットの冷却機能又は注水機能の喪失時、又は使用済燃料ビット水の小規模な漏えい発生時の対応手順			
(1) 使用済燃料ビットへの注水			
a. 燃料取替用水ポンプによる使用済燃料ビットへの注水	制御基準	補機監視機能	・原子炉補機冷却水供給母管流量計 ・原子炉補機冷却水供給母管流量（AM用） ・原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量 ・原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量（AM用）
		使用済燃料ビットの温度	・使用済燃料ビット温度*1 ・使用済燃料ビット温度（AM用）*2
操作	使用済燃料ビットの温度	使用済燃料ビットの温度	・使用済燃料ビット温度*1 ・使用済燃料ビット温度（AM用）*2
		使用済燃料ビットの温度	・使用済燃料ビット温度*1 ・使用済燃料ビット温度（AM用）*2
水源の確保	使用済燃料ビットの温度	使用済燃料ビットの温度	・使用済燃料ビット温度*1 ・使用済燃料ビット温度（AM用）*2
		使用済燃料ビットの温度	・使用済燃料ビット温度*1 ・使用済燃料ビット温度（AM用）*2
水源の確保	使用済燃料ビットの温度	使用済燃料ビットの温度	・使用済燃料ビット温度*1 ・使用済燃料ビット温度（AM用）*2
		使用済燃料ビットの温度	・使用済燃料ビット温度*1 ・使用済燃料ビット温度（AM用）*2

*1：通常時使用する計器
 *2：重大事故等時使用する計器

監視計器一覧（2/13）

対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器	
1.11.2.1 使用済燃料ビットの冷却機能又は注水機能の喪失時、又は使用済燃料ビット水の小規模な漏えい発生時の対応手順			
(1) 使用済燃料ビットへの注水			
b. 2次系補給水ポンプによる使用済燃料ビットへの注水	制御基準	補機監視機能	・原子炉補機冷却水供給母管流量計 ・原子炉補機冷却水供給母管流量（AM用） ・原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量 ・原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量（AM用）
		使用済燃料ビットの温度	・使用済燃料ビット温度*1 ・使用済燃料ビット温度（AM用）*2
操作	使用済燃料ビットの温度	使用済燃料ビットの温度	・使用済燃料ビット温度*1 ・使用済燃料ビット温度（AM用）*2
		使用済燃料ビットの温度	・使用済燃料ビット温度*1 ・使用済燃料ビット温度（AM用）*2
水源の確保	使用済燃料ビットの温度	使用済燃料ビットの温度	・使用済燃料ビット温度*1 ・使用済燃料ビット温度（AM用）*2
		使用済燃料ビットの温度	・使用済燃料ビット温度*1 ・使用済燃料ビット温度（AM用）*2

*1：通常時使用する計器
 *2：重大事故等時使用する計器

相違理由

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																							
<p style="text-align: center;">【比較のため掲載順序入替え】</p> <p>監視計器一覧（6/11）</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>対応手段</th> <th>重大事故等の対応に必要な対応項目</th> <th>監視計器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">1.11.2.1 使用済燃料ビットの冷却機能又は注水機能の喪失時、使用済燃料ビット水の小規模な漏えい発生時の手順等</td> </tr> <tr> <td rowspan="10"> (7)1次系純水タンクから使用済燃料ビットへの注水 </td> <td rowspan="5"> 補機監視機能 使用済燃料ビットの温度 使用済燃料ビットの水位 水源の確保 </td> <td>・原子炉補機冷却水供給母管流量計</td> </tr> <tr> <td>・原子炉補機冷却水冷却器海水流量計</td> </tr> <tr> <td>・使用済燃料ビット温度計*1</td> </tr> <tr> <td>・使用済燃料ビット温度計（AM用）*2</td> </tr> <tr> <td>・使用済燃料ビット水位計*1</td> </tr> <tr> <td rowspan="5"> 操作 使用済燃料ビットの温度 使用済燃料ビットの水位 水源の確保 使用済燃料ビットの周辺の放射線量率 使用済燃料ビットの状態監視 </td> <td>・使用済燃料ビット温度計*3</td> </tr> <tr> <td>・使用済燃料ビット温度計（AM用）*2</td> </tr> <tr> <td>・携帯型水温計</td> </tr> <tr> <td>・携帯型水位、水温計</td> </tr> <tr> <td>・使用済燃料ビット水位計*1</td> </tr> <tr> <td rowspan="10"> 監視計器一覧（3/13） </td> <td rowspan="10"> 相違理由 【大飯】運用の相違（相違理由①） 【大飯】設備の相違（相違理由⑤） ・使用済燃料ビットの温度について、大飯のロープ式計器は、水位及び水温の測定が可能であるため、携帯型水位、水温計も記載している。 ・泊のロープ式計器は、水位のみ測定できる計器であるため記載していないが、携帯型水温計で水温の測定が可能である。設計方針は相違するが、使用済燃料ビットの温度を把握するための監視計器を整備していることに相違なく、いずれも自主対策設備による対応手段の相違。 </td> </tr> </tbody> </table> <p>*1：通常時使用する計器 *2：重大事故等時使用する計器 *3：可搬型設備</p>	対応手段	重大事故等の対応に必要な対応項目	監視計器	1.11.2.1 使用済燃料ビットの冷却機能又は注水機能の喪失時、使用済燃料ビット水の小規模な漏えい発生時の手順等			(7)1次系純水タンクから使用済燃料ビットへの注水	補機監視機能 使用済燃料ビットの温度 使用済燃料ビットの水位 水源の確保	・原子炉補機冷却水供給母管流量計	・原子炉補機冷却水冷却器海水流量計	・使用済燃料ビット温度計*1	・使用済燃料ビット温度計（AM用）*2	・使用済燃料ビット水位計*1	操作 使用済燃料ビットの温度 使用済燃料ビットの水位 水源の確保 使用済燃料ビットの周辺の放射線量率 使用済燃料ビットの状態監視	・使用済燃料ビット温度計*3	・使用済燃料ビット温度計（AM用）*2	・携帯型水温計	・携帯型水位、水温計	・使用済燃料ビット水位計*1	監視計器一覧（3/13）	相違理由 【大飯】運用の相違（相違理由①） 【大飯】設備の相違（相違理由⑤） ・使用済燃料ビットの温度について、大飯のロープ式計器は、水位及び水温の測定が可能であるため、携帯型水位、水温計も記載している。 ・泊のロープ式計器は、水位のみ測定できる計器であるため記載していないが、携帯型水温計で水温の測定が可能である。設計方針は相違するが、使用済燃料ビットの温度を把握するための監視計器を整備していることに相違なく、いずれも自主対策設備による対応手段の相違。	<p>泊3号炉との比較対象なし</p>	<p>監視計器一覧（3/13）</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>対応手段</th> <th>重大事故等の対応に必要な監視項目</th> <th>監視計器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">1.11.2.1 使用済燃料ビットの冷却機能又は注水機能の喪失時、又は使用済燃料ビット水の小規模な漏えい発生時の対応手順 (1) 使用済燃料ビットへの注水</td> </tr> <tr> <td rowspan="10"> c. 1次系補給水ポンプによる使用済燃料ビットへの注水 </td> <td rowspan="5"> 補機監視機能 使用済燃料ビットの温度 使用済燃料ビットの水位 水源の確保 </td> <td>・原子炉補機冷却水供給母管流量計</td> </tr> <tr> <td>・原子炉補機冷却水供給母管流量計（AM用）</td> </tr> <tr> <td>・原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量計</td> </tr> <tr> <td>・原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量計（AM用）</td> </tr> <tr> <td>・使用済燃料ビット温度計*1</td> </tr> <tr> <td rowspan="5"> 操作 使用済燃料ビットの温度 使用済燃料ビットの水位 水源の確保 使用済燃料ビット周辺の放射線量率 使用済燃料ビットの状態監視 </td> <td>・使用済燃料ビット温度（AM用）*2</td> </tr> <tr> <td>・使用済燃料ビット水位*1</td> </tr> <tr> <td>・使用済燃料ビット水位（AM用）*2</td> </tr> <tr> <td>・携帯型水温計</td> </tr> <tr> <td>・携帯型水位、水温計</td> </tr> </tbody> </table> <p>*1：通常時使用する計器 *2：重大事故等時使用する計器 *3：可搬型設備</p>	対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器	1.11.2.1 使用済燃料ビットの冷却機能又は注水機能の喪失時、又は使用済燃料ビット水の小規模な漏えい発生時の対応手順 (1) 使用済燃料ビットへの注水			c. 1次系補給水ポンプによる使用済燃料ビットへの注水	補機監視機能 使用済燃料ビットの温度 使用済燃料ビットの水位 水源の確保	・原子炉補機冷却水供給母管流量計	・原子炉補機冷却水供給母管流量計（AM用）	・原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量計	・原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量計（AM用）	・使用済燃料ビット温度計*1	操作 使用済燃料ビットの温度 使用済燃料ビットの水位 水源の確保 使用済燃料ビット周辺の放射線量率 使用済燃料ビットの状態監視	・使用済燃料ビット温度（AM用）*2	・使用済燃料ビット水位*1	・使用済燃料ビット水位（AM用）*2	・携帯型水温計	・携帯型水位、水温計
対応手段	重大事故等の対応に必要な対応項目	監視計器																																								
1.11.2.1 使用済燃料ビットの冷却機能又は注水機能の喪失時、使用済燃料ビット水の小規模な漏えい発生時の手順等																																										
(7)1次系純水タンクから使用済燃料ビットへの注水	補機監視機能 使用済燃料ビットの温度 使用済燃料ビットの水位 水源の確保	・原子炉補機冷却水供給母管流量計																																								
		・原子炉補機冷却水冷却器海水流量計																																								
		・使用済燃料ビット温度計*1																																								
		・使用済燃料ビット温度計（AM用）*2																																								
		・使用済燃料ビット水位計*1																																								
	操作 使用済燃料ビットの温度 使用済燃料ビットの水位 水源の確保 使用済燃料ビットの周辺の放射線量率 使用済燃料ビットの状態監視	・使用済燃料ビット温度計*3																																								
		・使用済燃料ビット温度計（AM用）*2																																								
		・携帯型水温計																																								
		・携帯型水位、水温計																																								
		・使用済燃料ビット水位計*1																																								
監視計器一覧（3/13）	相違理由 【大飯】運用の相違（相違理由①） 【大飯】設備の相違（相違理由⑤） ・使用済燃料ビットの温度について、大飯のロープ式計器は、水位及び水温の測定が可能であるため、携帯型水位、水温計も記載している。 ・泊のロープ式計器は、水位のみ測定できる計器であるため記載していないが、携帯型水温計で水温の測定が可能である。設計方針は相違するが、使用済燃料ビットの温度を把握するための監視計器を整備していることに相違なく、いずれも自主対策設備による対応手段の相違。																																									
		対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器																																						
		1.11.2.1 使用済燃料ビットの冷却機能又は注水機能の喪失時、又は使用済燃料ビット水の小規模な漏えい発生時の対応手順 (1) 使用済燃料ビットへの注水																																								
		c. 1次系補給水ポンプによる使用済燃料ビットへの注水	補機監視機能 使用済燃料ビットの温度 使用済燃料ビットの水位 水源の確保	・原子炉補機冷却水供給母管流量計																																						
				・原子炉補機冷却水供給母管流量計（AM用）																																						
				・原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量計																																						
				・原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量計（AM用）																																						
				・使用済燃料ビット温度計*1																																						
			操作 使用済燃料ビットの温度 使用済燃料ビットの水位 水源の確保 使用済燃料ビット周辺の放射線量率 使用済燃料ビットの状態監視	・使用済燃料ビット温度（AM用）*2																																						
				・使用済燃料ビット水位*1																																						
・使用済燃料ビット水位（AM用）*2																																										
・携帯型水温計																																										
・携帯型水位、水温計																																										

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉		女川原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉		相違理由		
監視計器一覧 (3/11)		監視計器一覧 (2/5)		監視計器一覧 (4/13)				
対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	手順書	重大事故等の対応に必要な監視項目	対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目			
1.11.2.1 使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能の喪失時、使用済燃料ピット水の小規模な漏えい発生時の手順等		1.11.2 重大事故等時の手順 1.11.2.1 使用済燃料プールの冷却機能又は注水機能の喪失時、又は使用済燃料プール水の小規模な漏えい発生時の対応手順 (1) 燃料プール代替注水 e. ろ過水ポンプによる使用済燃料プールへの注水		1.11.2.1 使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能の喪失時、又は使用済燃料ピット水の小規模な漏えい発生時の対応手順 (1) 使用済燃料ピットへの注水				
(3)(4)No. 2 淡水タンクから使用済燃料ピットへの注水	補機監視機能	非常時操作手順書 (巻替ベース)「SPF水位・流量制御」 「燃料プール冷却機能喪失」 「燃料プール冷却材喪失」 非常時操作手順書 (設備別)「ろ過水ポンプによる使用済燃料プール注水」	使用済燃料プールの監視 電源の確保 水源の確保 使用済燃料プールの監視 水源の確保	判断基準 操作	補機監視機能	・ 原子炉補機冷却水供給母管流量 ・ 原子炉補機冷却水冷却器海水流量計 ・ 原子炉補機冷却水供給母管流量 (AM用) ・ 原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量 ・ 原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量 (AM用) ・ 原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量 (AM用)	【大飯】設備の相違 (相違理由⑤) ・ 使用済燃料ピットの温度について、大飯のロープ式計器は、水位及び水温の測定が可能であるため、携帯型水位、水温計も記載している。 ・ 泊のロープ式計器は、水位のみ測定できる計器であるため記載していないが、携帯型水温計で水温の測定が可能である。設計方針は相違するが、使用済燃料ピットの温度を把握するための監視計器を整備していることに相違なく、いずれも自主対策設備による対応手段の相違。	
	使用済燃料ピットの温度				燃料プール水位低 警報 燃料プール温度高 警報 使用済燃料プール水位/温度 (ヒートサーモ式) 使用済燃料プール水位/温度 (ガイドバルブ式) 使用済燃料プール上部空間放射線モニタ (轟撃量、低線量) 使用済燃料プール監視カメラ	使用済燃料ピットの温度		・ 使用済燃料ピット温度 ^{*1} ・ 使用済燃料ピット温度 (AM用) ^{*2}
	使用済燃料ピットの水位				5/C 6空 母線電圧 F/C 4空 母線電圧 125V 直流主母線 2A 電圧 125V 直流主母線 2B 電圧 125V 直流主母線 2A+1 電圧 125V 直流主母線 2B+1 電圧	使用済燃料ピットの水位		・ 使用済燃料ピット水位 ^{*1} ・ 使用済燃料ピット水位 (AM用) ^{*2} ・ 携帯型水位計
	水源の確保				ろ過水タンク水位	水源の確保		・ ろ過水タンク水位 ・ 使用済燃料ピット水位 ^{*1} ・ 使用済燃料ピット温度 (AM用) ^{*2} ・ 携帯型水位計
	使用済燃料ピットの温度				ろ過水タンク水位	使用済燃料ピットの温度		・ 使用済燃料ピット温度 ^{*1} ・ 使用済燃料ピット温度 (AM用) ^{*2} ・ 携帯型水温計
	使用済燃料ピットの水位				ろ過水タンク水位	使用済燃料ピットの水位		・ 使用済燃料ピット水位 ^{*1} ・ 使用済燃料ピット水位 (AM用) ^{*2} ・ 携帯型水位計
	水源の確保				ろ過水タンク水位	水源の確保		・ ろ過水タンク水位 ・ 使用済燃料ピット水位 (可搬型) ^{*2} ^{*3} ・ 携帯型水位計
	使用済燃料ピットの周辺の放射線量率				ろ過水タンク水位	使用済燃料ピットの周辺の放射線量率		・ 携帯型水位・水温計 ・ ろ過水タンク水位 ・ 使用済燃料ピットエリアモニタ ^{*1}
	使用済燃料ピットの状態監視				ろ過水タンク水位	使用済燃料ピットの状態監視		・ 非気筒ガスモニタ ・ 可搬型使用済燃料ピット区域周辺エリアモニタ ^{*2} ^{*3} ・ 可搬型使用済燃料ピット監視カメラ ^{*2}

*1：通常時使用する計器
 *2：重大事故等時使用する計器
 *3：可搬型設備

*1：通常時使用する計器
 *2：重大事故等時使用する計器
 *3：可搬型設備

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																
<p style="text-align: center;">【比較のため掲載順序入替え】</p> <p>監視計器一覧（7/11）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対応手段</th> <th>重大事故等の対応に必要な監視項目</th> <th>監視計器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.11.2.1 使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能の喪失時、使用済燃料ピット水の小規模な漏えい発生時の手順等</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="10">(8)海水から使用済燃料ピットへの注水</td> <td rowspan="2">補機監視機能</td> <td>・原子炉補機冷却水供給母管流量計</td> </tr> <tr> <td>・原子炉補機冷却水冷却器海水流量計</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">使用済燃料ピットの温度</td> <td>・使用済燃料ピット温度計*1</td> </tr> <tr> <td>・使用済燃料ピット温度計（AM用）*2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">使用済燃料ピットの水位</td> <td>・使用済燃料ピット水位計*1</td> </tr> <tr> <td>・使用済燃料ピット水位計（AM用）*2</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">使用済燃料ピットの温度</td> <td>・使用済燃料ピット温度計*1</td> </tr> <tr> <td>・使用済燃料ピット温度計（AM用）*2</td> </tr> <tr> <td>・携帯型水温計</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">使用済燃料ピットの水位</td> <td>・携帯型水位、水漏計</td> </tr> <tr> <td>・使用済燃料ピット水位計*1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">使用済燃料ピットの温度</td> <td>・可搬式使用済燃料ピット水位計*2*3</td> </tr> <tr> <td>・携帯型水位計</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">使用済燃料ピットの周辺の放射線量率</td> <td>・携帯型水位、水漏計</td> </tr> <tr> <td>・使用済燃料ピット区域エアモニタ*1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">使用済燃料ピットの状態監視</td> <td>・非気筒ガスモニタ</td> </tr> <tr> <td>・可搬式使用済燃料ピット区域周辺エアモニタ*2*3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・使用済燃料ピット監視カメラ*2</td> </tr> </tbody> </table> <p>*1：通常時使用する計器 *2：重大事故等時使用する計器 *3：可搬型設備</p>	対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器	1.11.2.1 使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能の喪失時、使用済燃料ピット水の小規模な漏えい発生時の手順等			(8)海水から使用済燃料ピットへの注水	補機監視機能	・原子炉補機冷却水供給母管流量計	・原子炉補機冷却水冷却器海水流量計	使用済燃料ピットの温度	・使用済燃料ピット温度計*1	・使用済燃料ピット温度計（AM用）*2	使用済燃料ピットの水位	・使用済燃料ピット水位計*1	・使用済燃料ピット水位計（AM用）*2	使用済燃料ピットの温度	・使用済燃料ピット温度計*1	・使用済燃料ピット温度計（AM用）*2	・携帯型水温計	使用済燃料ピットの水位	・携帯型水位、水漏計	・使用済燃料ピット水位計*1	使用済燃料ピットの温度	・可搬式使用済燃料ピット水位計*2*3	・携帯型水位計	使用済燃料ピットの周辺の放射線量率	・携帯型水位、水漏計	・使用済燃料ピット区域エアモニタ*1	使用済燃料ピットの状態監視	・非気筒ガスモニタ	・可搬式使用済燃料ピット区域周辺エアモニタ*2*3		・使用済燃料ピット監視カメラ*2	<p style="text-align: center;">【比較のため、監視計器一覧（1/5）を再掲】</p> <p>第1.11-2表 重大事故等対応設備に係る監視計器 監視計器一覧（1/5）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>手順書</th> <th>重大事故等の対応に必要な監視項目</th> <th>監視パラメータ（計器）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.11.2 重大事故等時の手順 1.11.2.1 使用済燃料プールの冷却機能又は注水機能の喪失時、又は使用済燃料プール水の小規模な漏えい発生時の対応手順 (1) 燃料プール代替注水 a. 燃料プール代替注水系（常設配管）による使用済燃料プールへの注水 b. 燃料プール代替注水系（可搬型）による使用済燃料プールへの注水</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">非常時操作手順書（備前ベース） 「BFP水位・温度制御」</td> <td rowspan="2">使用済燃料プールの監視</td> <td>燃料プール水位低 警報</td> </tr> <tr> <td>燃料プール温度高 警報</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">非常時操作手順書（プラント停止中） 「燃料プール冷却機能喪失」 「燃料プール冷却材喪失」</td> <td rowspan="2">電源の確保</td> <td>使用済燃料プール水位/温度（ヒートサーモ式）</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料プール水位/温度（ライドバルブ式）</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">重大事故等対応要領書 「大容量送水ポンプ（タイプ1）による使用済燃料プール注水（可搬型）」</td> <td rowspan="2">水源の確保</td> <td>使用済燃料プール上部空間放射線モニタ（高線量、低線量）</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料プール監視カメラ</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">重大事故等対応要領書 「大容量送水ポンプ（タイプ1）による使用済燃料プール注水（常設配管）」 「大容量送水ポンプによる送水」</td> <td rowspan="2">使用済燃料プールの監視</td> <td>125V 直流主母線 2A 電圧</td> </tr> <tr> <td>125V 直流主母線 2B 電圧</td> </tr> <tr> <td></td> <td rowspan="2">水源の確保</td> <td>125V 直流主母線 2B-1 電圧</td> </tr> <tr> <td></td> <td>125V 直流主母線 2B-1 電圧</td> </tr> <tr> <td></td> <td rowspan="2">水源の確保</td> <td>海水貯水槽（No.1）</td> </tr> <tr> <td></td> <td>海水貯水槽（No.2）</td> </tr> <tr> <td></td> <td rowspan="2">使用済燃料プールの監視</td> <td>使用済燃料プール水位/温度（ヒートサーモ式）</td> </tr> <tr> <td></td> <td>使用済燃料プール水位/温度（ライドバルブ式）</td> </tr> <tr> <td></td> <td rowspan="2">水源の確保</td> <td>使用済燃料プール上部空間放射線モニタ（高線量、低線量）</td> </tr> <tr> <td></td> <td>海水貯水槽（No.1）</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>海水貯水槽（No.2）</td> </tr> </tbody> </table>	手順書	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視パラメータ（計器）	1.11.2 重大事故等時の手順 1.11.2.1 使用済燃料プールの冷却機能又は注水機能の喪失時、又は使用済燃料プール水の小規模な漏えい発生時の対応手順 (1) 燃料プール代替注水 a. 燃料プール代替注水系（常設配管）による使用済燃料プールへの注水 b. 燃料プール代替注水系（可搬型）による使用済燃料プールへの注水			非常時操作手順書（備前ベース） 「BFP水位・温度制御」	使用済燃料プールの監視	燃料プール水位低 警報	燃料プール温度高 警報	非常時操作手順書（プラント停止中） 「燃料プール冷却機能喪失」 「燃料プール冷却材喪失」	電源の確保	使用済燃料プール水位/温度（ヒートサーモ式）	使用済燃料プール水位/温度（ライドバルブ式）	重大事故等対応要領書 「大容量送水ポンプ（タイプ1）による使用済燃料プール注水（可搬型）」	水源の確保	使用済燃料プール上部空間放射線モニタ（高線量、低線量）	使用済燃料プール監視カメラ	重大事故等対応要領書 「大容量送水ポンプ（タイプ1）による使用済燃料プール注水（常設配管）」 「大容量送水ポンプによる送水」	使用済燃料プールの監視	125V 直流主母線 2A 電圧	125V 直流主母線 2B 電圧		水源の確保	125V 直流主母線 2B-1 電圧		125V 直流主母線 2B-1 電圧		水源の確保	海水貯水槽（No.1）		海水貯水槽（No.2）		使用済燃料プールの監視	使用済燃料プール水位/温度（ヒートサーモ式）		使用済燃料プール水位/温度（ライドバルブ式）		水源の確保	使用済燃料プール上部空間放射線モニタ（高線量、低線量）		海水貯水槽（No.1）			海水貯水槽（No.2）	<p>監視計器一覧（5/13）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対応手段</th> <th>重大事故等の対応に必要な監視項目</th> <th>監視計器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.11.2.1 使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能の喪失時、又は使用済燃料ピット水の小規模な漏えい発生時の対応手順 (1) 使用済燃料ピットへの注水</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="10">e. 海水を用いた可搬型大容量送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水</td> <td rowspan="2">補機監視機能</td> <td>・原子炉補機冷却水供給母管流量計</td> </tr> <tr> <td>・原子炉補機冷却水冷却器母管流量計（AM用）</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">使用済燃料ピットの温度</td> <td>・原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量計</td> </tr> <tr> <td>・原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量計（AM用）</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">使用済燃料ピットの温度</td> <td>・使用済燃料ピット温度*2</td> </tr> <tr> <td>・使用済燃料ピット温度（AM用）*2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">使用済燃料ピットの水位</td> <td>・使用済燃料ピット水位*1</td> </tr> <tr> <td>・使用済燃料ピット水位（AM用）*2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">使用済燃料ピットの温度</td> <td>・使用済燃料ピット温度*1</td> </tr> <tr> <td>・使用済燃料ピット温度（AM用）*2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">使用済燃料ピットの水位</td> <td>・使用済燃料ピット水位*1</td> </tr> <tr> <td>・使用済燃料ピット水位（AM用）*2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">使用済燃料ピットの温度</td> <td>・携帯型水位計</td> </tr> <tr> <td>・携帯型水位、水温計</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">使用済燃料ピット周辺の放射線量率</td> <td>・使用済燃料ピットエアモニタ*1</td> </tr> <tr> <td>・使用済燃料ピット可搬型エアモニタ*2*3</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">使用済燃料ピットの状態監視</td> <td>・使用済燃料ピット監視カメラ*2</td> </tr> </tbody> </table> <p>*1：通常時使用する計器 *2：重大事故等時使用する計器 *3：可搬型設備</p>	対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器	1.11.2.1 使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能の喪失時、又は使用済燃料ピット水の小規模な漏えい発生時の対応手順 (1) 使用済燃料ピットへの注水			e. 海水を用いた可搬型大容量送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水	補機監視機能	・原子炉補機冷却水供給母管流量計	・原子炉補機冷却水冷却器母管流量計（AM用）	使用済燃料ピットの温度	・原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量計	・原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量計（AM用）	使用済燃料ピットの温度	・使用済燃料ピット温度*2	・使用済燃料ピット温度（AM用）*2	使用済燃料ピットの水位	・使用済燃料ピット水位*1	・使用済燃料ピット水位（AM用）*2	使用済燃料ピットの温度	・使用済燃料ピット温度*1	・使用済燃料ピット温度（AM用）*2	使用済燃料ピットの水位	・使用済燃料ピット水位*1	・使用済燃料ピット水位（AM用）*2	使用済燃料ピットの温度	・携帯型水位計	・携帯型水位、水温計	使用済燃料ピット周辺の放射線量率	・使用済燃料ピットエアモニタ*1	・使用済燃料ピット可搬型エアモニタ*2*3	使用済燃料ピットの状態監視	・使用済燃料ピット監視カメラ*2	<p>【女川】設備の相違（相違理由④）</p> <p>【大飯】設備の相違（相違理由⑤）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用済燃料ピットの温度について、大飯のロープ式計器は、水位及び水温の測定が可能であるため、携帯型水位、水温計も記載している。 ・泊のロープ式計器は、水位のみ測定できる計器であるため記載していないが、携帯型水温計で水温の測定が可能である。設計方針は相違するが、使用済燃料ピットの温度を把握するための監視計器を整備していることに相違なく、いずれも自主対策設備による対応手段の相違。
対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器																																																																																																																	
1.11.2.1 使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能の喪失時、使用済燃料ピット水の小規模な漏えい発生時の手順等																																																																																																																			
(8)海水から使用済燃料ピットへの注水	補機監視機能	・原子炉補機冷却水供給母管流量計																																																																																																																	
		・原子炉補機冷却水冷却器海水流量計																																																																																																																	
	使用済燃料ピットの温度	・使用済燃料ピット温度計*1																																																																																																																	
		・使用済燃料ピット温度計（AM用）*2																																																																																																																	
	使用済燃料ピットの水位	・使用済燃料ピット水位計*1																																																																																																																	
		・使用済燃料ピット水位計（AM用）*2																																																																																																																	
	使用済燃料ピットの温度	・使用済燃料ピット温度計*1																																																																																																																	
		・使用済燃料ピット温度計（AM用）*2																																																																																																																	
		・携帯型水温計																																																																																																																	
	使用済燃料ピットの水位	・携帯型水位、水漏計																																																																																																																	
・使用済燃料ピット水位計*1																																																																																																																			
使用済燃料ピットの温度	・可搬式使用済燃料ピット水位計*2*3																																																																																																																		
	・携帯型水位計																																																																																																																		
使用済燃料ピットの周辺の放射線量率	・携帯型水位、水漏計																																																																																																																		
	・使用済燃料ピット区域エアモニタ*1																																																																																																																		
使用済燃料ピットの状態監視	・非気筒ガスモニタ																																																																																																																		
	・可搬式使用済燃料ピット区域周辺エアモニタ*2*3																																																																																																																		
	・使用済燃料ピット監視カメラ*2																																																																																																																		
手順書	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視パラメータ（計器）																																																																																																																	
1.11.2 重大事故等時の手順 1.11.2.1 使用済燃料プールの冷却機能又は注水機能の喪失時、又は使用済燃料プール水の小規模な漏えい発生時の対応手順 (1) 燃料プール代替注水 a. 燃料プール代替注水系（常設配管）による使用済燃料プールへの注水 b. 燃料プール代替注水系（可搬型）による使用済燃料プールへの注水																																																																																																																			
非常時操作手順書（備前ベース） 「BFP水位・温度制御」	使用済燃料プールの監視	燃料プール水位低 警報																																																																																																																	
		燃料プール温度高 警報																																																																																																																	
非常時操作手順書（プラント停止中） 「燃料プール冷却機能喪失」 「燃料プール冷却材喪失」	電源の確保	使用済燃料プール水位/温度（ヒートサーモ式）																																																																																																																	
		使用済燃料プール水位/温度（ライドバルブ式）																																																																																																																	
重大事故等対応要領書 「大容量送水ポンプ（タイプ1）による使用済燃料プール注水（可搬型）」	水源の確保	使用済燃料プール上部空間放射線モニタ（高線量、低線量）																																																																																																																	
		使用済燃料プール監視カメラ																																																																																																																	
重大事故等対応要領書 「大容量送水ポンプ（タイプ1）による使用済燃料プール注水（常設配管）」 「大容量送水ポンプによる送水」	使用済燃料プールの監視	125V 直流主母線 2A 電圧																																																																																																																	
		125V 直流主母線 2B 電圧																																																																																																																	
	水源の確保	125V 直流主母線 2B-1 電圧																																																																																																																	
		125V 直流主母線 2B-1 電圧																																																																																																																	
	水源の確保	海水貯水槽（No.1）																																																																																																																	
		海水貯水槽（No.2）																																																																																																																	
	使用済燃料プールの監視	使用済燃料プール水位/温度（ヒートサーモ式）																																																																																																																	
		使用済燃料プール水位/温度（ライドバルブ式）																																																																																																																	
	水源の確保	使用済燃料プール上部空間放射線モニタ（高線量、低線量）																																																																																																																	
		海水貯水槽（No.1）																																																																																																																	
		海水貯水槽（No.2）																																																																																																																	
対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器																																																																																																																	
1.11.2.1 使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能の喪失時、又は使用済燃料ピット水の小規模な漏えい発生時の対応手順 (1) 使用済燃料ピットへの注水																																																																																																																			
e. 海水を用いた可搬型大容量送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水	補機監視機能	・原子炉補機冷却水供給母管流量計																																																																																																																	
		・原子炉補機冷却水冷却器母管流量計（AM用）																																																																																																																	
	使用済燃料ピットの温度	・原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量計																																																																																																																	
		・原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量計（AM用）																																																																																																																	
	使用済燃料ピットの温度	・使用済燃料ピット温度*2																																																																																																																	
		・使用済燃料ピット温度（AM用）*2																																																																																																																	
	使用済燃料ピットの水位	・使用済燃料ピット水位*1																																																																																																																	
		・使用済燃料ピット水位（AM用）*2																																																																																																																	
	使用済燃料ピットの温度	・使用済燃料ピット温度*1																																																																																																																	
		・使用済燃料ピット温度（AM用）*2																																																																																																																	
使用済燃料ピットの水位	・使用済燃料ピット水位*1																																																																																																																		
	・使用済燃料ピット水位（AM用）*2																																																																																																																		
使用済燃料ピットの温度	・携帯型水位計																																																																																																																		
	・携帯型水位、水温計																																																																																																																		
使用済燃料ピット周辺の放射線量率	・使用済燃料ピットエアモニタ*1																																																																																																																		
	・使用済燃料ピット可搬型エアモニタ*2*3																																																																																																																		
使用済燃料ピットの状態監視	・使用済燃料ピット監視カメラ*2																																																																																																																		

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																											
<p>監視計器一覧（4 / 11）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対応手段</th> <th>重大事故等の対応に必要となる監視項目</th> <th>監視計器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.11.2.1 使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能の喪失時、使用済燃料ピット水の小規模な漏えい発生時の手順等</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="10">判断基準</td> <td>補機監視機能</td> <td> ・原子炉補機冷却水供給母管流量計 ・原子炉補機冷却水冷却器海水流量計 ・使用済燃料ピットの温度 ・使用済燃料ピット温度計（AM用）*2 ・使用済燃料ピットの水位 ・使用済燃料ピット水位計*1 水源の確保 ・N₀、3 淡水タンク水位計 ・使用済燃料ピット温度計*1 </td> </tr> <tr> <td rowspan="10">操作</td> <td>使用済燃料ピットの温度</td> <td> ・使用済燃料ピット温度計（AM用）*2 ・携帯型水温計 </td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットの水位</td> <td> ・使用済燃料ピット水位計*1 ・可搬式使用済燃料ピット水位計**2 ・携帯型水位計 ・携帯型水位、水温計 </td> </tr> <tr> <td>水源の確保</td> <td> ・N₀、3 淡水タンク水位計 ・使用済燃料ピット区域エアモニタ*1 </td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットの周辺の放射線量率</td> <td> ・排気筒ガスモニタ ・可搬式使用済燃料ピット区域周辺エアモニタ**3 </td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットの状態監視</td> <td> ・使用済燃料ピット監視カメラ*2 </td> </tr> </tbody> </table> <p>*1：通常時使用する計器 *2：重大事故等時使用する計器 *3：可搬型設備</p>	対応手段	重大事故等の対応に必要となる監視項目	監視計器	1.11.2.1 使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能の喪失時、使用済燃料ピット水の小規模な漏えい発生時の手順等			判断基準	補機監視機能	・原子炉補機冷却水供給母管流量計 ・原子炉補機冷却水冷却器海水流量計 ・使用済燃料ピットの温度 ・使用済燃料ピット温度計（AM用）*2 ・使用済燃料ピットの水位 ・使用済燃料ピット水位計*1 水源の確保 ・N ₀ 、3 淡水タンク水位計 ・使用済燃料ピット温度計*1	操作	使用済燃料ピットの温度	・使用済燃料ピット温度計（AM用）*2 ・携帯型水温計	使用済燃料ピットの水位	・使用済燃料ピット水位計*1 ・可搬式使用済燃料ピット水位計**2 ・携帯型水位計 ・携帯型水位、水温計	水源の確保	・N ₀ 、3 淡水タンク水位計 ・使用済燃料ピット区域エアモニタ*1	使用済燃料ピットの周辺の放射線量率	・排気筒ガスモニタ ・可搬式使用済燃料ピット区域周辺エアモニタ**3	使用済燃料ピットの状態監視	・使用済燃料ピット監視カメラ*2	<p>泊3号炉との比較対象なし</p>	<p>監視計器一覧（6/13）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対応手段</th> <th>重大事故等の対応に必要な監視項目</th> <th>監視計器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.11.2.1 使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能の喪失時、又は使用済燃料ピット水の小規模な漏えい発生時の対応手順 (1) 使用済燃料ピットへの注水</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="10">判断基準</td> <td>補機監視機能</td> <td> ・原子炉補機冷却水供給母管流量計 ・原子炉補機冷却水供給母管流量（AM用） ・原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量計 ・原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量（AM用） </td> </tr> <tr> <td rowspan="10">操作</td> <td>使用済燃料ピットの温度</td> <td> ・使用済燃料ピット温度*1 ・使用済燃料ピット温度（AM用）*2 </td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットの水位</td> <td> ・使用済燃料ピット水位*1 ・使用済燃料ピット水位（AM用）*2 </td> </tr> <tr> <td rowspan="4">代替給水ピットを水源とした可搬型大等圧水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水</td> <td>使用済燃料ピットの温度</td> <td> ・使用済燃料ピット温度*1 ・使用済燃料ピット温度（AM用）*2 ・携帯型水温計 </td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットの水位</td> <td> ・使用済燃料ピット水位*1 ・使用済燃料ピット水位（AM用）*2 ・使用済燃料ピット水位（可搬型）*2① ・携帯型水位計 ・携帯型水位・水温計 </td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピット周辺の放射線量率</td> <td> ・排気筒ガスモニタ ・使用済燃料ピット可搬型エアモニタ*2① </td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットの状態監視</td> <td> ・使用済燃料ピット監視カメラ*2 </td> </tr> </tbody> </table> <p>*1：通常時使用する計器 *2：重大事故等時使用する計器 *3：可搬型設備</p>	対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器	1.11.2.1 使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能の喪失時、又は使用済燃料ピット水の小規模な漏えい発生時の対応手順 (1) 使用済燃料ピットへの注水			判断基準	補機監視機能	・原子炉補機冷却水供給母管流量計 ・原子炉補機冷却水供給母管流量（AM用） ・原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量計 ・原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量（AM用）	操作	使用済燃料ピットの温度	・使用済燃料ピット温度*1 ・使用済燃料ピット温度（AM用）*2	使用済燃料ピットの水位	・使用済燃料ピット水位*1 ・使用済燃料ピット水位（AM用）*2	代替給水ピットを水源とした可搬型大等圧水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水	使用済燃料ピットの温度	・使用済燃料ピット温度*1 ・使用済燃料ピット温度（AM用）*2 ・携帯型水温計	使用済燃料ピットの水位	・使用済燃料ピット水位*1 ・使用済燃料ピット水位（AM用）*2 ・使用済燃料ピット水位（可搬型）*2① ・携帯型水位計 ・携帯型水位・水温計	使用済燃料ピット周辺の放射線量率	・排気筒ガスモニタ ・使用済燃料ピット可搬型エアモニタ*2①	使用済燃料ピットの状態監視	・使用済燃料ピット監視カメラ*2	<p>【大阪】設備の相違（相違理由⑤） ・使用済燃料ピットの温度について、大阪のロープ式計器は、水位及び水温の測定が可能であるため、携帯型水位、水温計も記載している。 ・泊のロープ式計器は、水位のみ測定できる計器であるため記載していないが、携帯型水温計で水温の測定が可能である。設計方針は相違するが、使用済燃料ピットの温度を把握するための監視計器を整備していることに相違なく、いずれも自主対策設備による対応手段の相違。</p>
対応手段	重大事故等の対応に必要となる監視項目	監視計器																																												
1.11.2.1 使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能の喪失時、使用済燃料ピット水の小規模な漏えい発生時の手順等																																														
判断基準	補機監視機能	・原子炉補機冷却水供給母管流量計 ・原子炉補機冷却水冷却器海水流量計 ・使用済燃料ピットの温度 ・使用済燃料ピット温度計（AM用）*2 ・使用済燃料ピットの水位 ・使用済燃料ピット水位計*1 水源の確保 ・N ₀ 、3 淡水タンク水位計 ・使用済燃料ピット温度計*1																																												
	操作	使用済燃料ピットの温度	・使用済燃料ピット温度計（AM用）*2 ・携帯型水温計																																											
		使用済燃料ピットの水位	・使用済燃料ピット水位計*1 ・可搬式使用済燃料ピット水位計**2 ・携帯型水位計 ・携帯型水位、水温計																																											
		水源の確保	・N ₀ 、3 淡水タンク水位計 ・使用済燃料ピット区域エアモニタ*1																																											
		使用済燃料ピットの周辺の放射線量率	・排気筒ガスモニタ ・可搬式使用済燃料ピット区域周辺エアモニタ**3																																											
		使用済燃料ピットの状態監視	・使用済燃料ピット監視カメラ*2																																											
		対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器																																										
		1.11.2.1 使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能の喪失時、又は使用済燃料ピット水の小規模な漏えい発生時の対応手順 (1) 使用済燃料ピットへの注水																																												
		判断基準	補機監視機能	・原子炉補機冷却水供給母管流量計 ・原子炉補機冷却水供給母管流量（AM用） ・原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量計 ・原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量（AM用）																																										
			操作	使用済燃料ピットの温度	・使用済燃料ピット温度*1 ・使用済燃料ピット温度（AM用）*2																																									
使用済燃料ピットの水位				・使用済燃料ピット水位*1 ・使用済燃料ピット水位（AM用）*2																																										
代替給水ピットを水源とした可搬型大等圧水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水	使用済燃料ピットの温度			・使用済燃料ピット温度*1 ・使用済燃料ピット温度（AM用）*2 ・携帯型水温計																																										
	使用済燃料ピットの水位			・使用済燃料ピット水位*1 ・使用済燃料ピット水位（AM用）*2 ・使用済燃料ピット水位（可搬型）*2① ・携帯型水位計 ・携帯型水位・水温計																																										
	使用済燃料ピット周辺の放射線量率			・排気筒ガスモニタ ・使用済燃料ピット可搬型エアモニタ*2①																																										
	使用済燃料ピットの状態監視			・使用済燃料ピット監視カメラ*2																																										

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																												
<p>監視計器一覧（5/11）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対応手段</th> <th>重大事故等の対応に必要な対応となる監視項目</th> <th>監視計器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.11.2.1 使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能の喪失時、使用済燃料ピット水の小規模な漏えい発生時の手順等</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="12">(6)ポンプ車によるNo.2淡水タンクから使用済燃料ピットへの注水</td> <td rowspan="6">判断基準</td> <td>補機監視機能</td> <td> ・原子炉補機冷却水供給母管流量計 ・原子炉補機冷却水冷却器海水流量計 ・使用済燃料ピット温度計*1 ・使用済燃料ピット温度計（AM用）*2 ・使用済燃料ピット水位計*1 ・使用済燃料ピット水位計（AM用）*2 水源の確保 ・No.2淡水タンク水位計 ・使用済燃料ピット温度計*1 </td> </tr> <tr> <td rowspan="6">操作</td> <td>使用済燃料ピットの温度</td> <td> ・使用済燃料ピット温度計（AM用）*2 ・携帯型水温計 ・携帯型水位、水温計 ・使用済燃料ピット水位計*1 </td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットの水質</td> <td> ・使用済燃料ピット水位計（AM用）*2 ・可搬式使用済燃料ピット水位計**3 ・携帯型水位計 ・携帯型水位、水温計 </td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットの水質</td> <td> ・使用済燃料ピット水位計*1 ・使用済燃料ピット水位計（AM用）*2 ・可搬式使用済燃料ピット水位計**3 ・携帯型水位計 ・携帯型水位、水温計 </td> </tr> <tr> <td>水源の確保</td> <td> ・No.2淡水タンク水位計 ・使用済燃料ピット区域エアモニタ*1 </td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットの周辺の放射線基準</td> <td> ・排気筒ガスモニタ ・可搬式使用済燃料ピット区域周辺エアモニタ**3 </td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットの状態監視</td> <td> ・使用済燃料ピット監視カメラ*2 </td> </tr> </tbody> </table> <p>*1：通常時使用する計器 *2：重大事故等時使用する計器 *3：可搬型設備</p>	対応手段	重大事故等の対応に必要な対応となる監視項目	監視計器	1.11.2.1 使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能の喪失時、使用済燃料ピット水の小規模な漏えい発生時の手順等			(6)ポンプ車によるNo.2淡水タンクから使用済燃料ピットへの注水	判断基準	補機監視機能	・原子炉補機冷却水供給母管流量計 ・原子炉補機冷却水冷却器海水流量計 ・使用済燃料ピット温度計*1 ・使用済燃料ピット温度計（AM用）*2 ・使用済燃料ピット水位計*1 ・使用済燃料ピット水位計（AM用）*2 水源の確保 ・No.2淡水タンク水位計 ・使用済燃料ピット温度計*1	操作	使用済燃料ピットの温度	・使用済燃料ピット温度計（AM用）*2 ・携帯型水温計 ・携帯型水位、水温計 ・使用済燃料ピット水位計*1	使用済燃料ピットの水質	・使用済燃料ピット水位計（AM用）*2 ・可搬式使用済燃料ピット水位計**3 ・携帯型水位計 ・携帯型水位、水温計	使用済燃料ピットの水質	・使用済燃料ピット水位計*1 ・使用済燃料ピット水位計（AM用）*2 ・可搬式使用済燃料ピット水位計**3 ・携帯型水位計 ・携帯型水位、水温計	水源の確保	・No.2淡水タンク水位計 ・使用済燃料ピット区域エアモニタ*1	使用済燃料ピットの周辺の放射線基準	・排気筒ガスモニタ ・可搬式使用済燃料ピット区域周辺エアモニタ**3	使用済燃料ピットの状態監視	・使用済燃料ピット監視カメラ*2	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">泊3号炉との比較対象なし</p>	<p>監視計器一覧（7/13）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対応手段</th> <th>重大事故等の対応に必要な対応となる監視項目</th> <th>監視計器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.11.2.1 使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能の喪失時、又は使用済燃料ピット水の小規模な漏えい発生時の対応手順 (1) 使用済燃料ピットへの注水</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="12">⑤ 原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水</td> <td rowspan="6">判断基準</td> <td>補機監視機能</td> <td> ・原子炉補機冷却水供給母管流量計 ・原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量計 ・原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量計（AM用） ・使用済燃料ピット温度計*1 ・使用済燃料ピット温度計（AM用）*2 ・使用済燃料ピット水位計*1 ・使用済燃料ピット水位計（AM用）*2 </td> </tr> <tr> <td rowspan="6">操作</td> <td>使用済燃料ピットの温度</td> <td> ・使用済燃料ピット温度計*1 ・使用済燃料ピット温度計（AM用）*2 ・携帯型水温計 </td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットの水質</td> <td> ・使用済燃料ピット水位計*1 ・使用済燃料ピット水位計（AM用）*2 ・使用済燃料ピット水位（可搬型）*2*3 ・携帯型水位計 ・携帯型水位・水温計 ・使用済燃料ピットエアモニタ*1 </td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピット周辺の放射線基準</td> <td> ・排気筒ガスモニタ ・使用済燃料ピット可搬型エアモニタ*2*3 </td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットの状態監視</td> <td> ・使用済燃料ピット監視カメラ*2 </td> </tr> <tr> <td>水源の確保</td> <td> ・2次系純水タンク水位 ・ろ過水タンク水位 </td> </tr> </tbody> </table> <p>*1：通常時使用する計器 *2：重大事故等時使用する計器 *3：可搬型設備</p>	対応手段	重大事故等の対応に必要な対応となる監視項目	監視計器	1.11.2.1 使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能の喪失時、又は使用済燃料ピット水の小規模な漏えい発生時の対応手順 (1) 使用済燃料ピットへの注水			⑤ 原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水	判断基準	補機監視機能	・原子炉補機冷却水供給母管流量計 ・原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量計 ・原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量計（AM用） ・使用済燃料ピット温度計*1 ・使用済燃料ピット温度計（AM用）*2 ・使用済燃料ピット水位計*1 ・使用済燃料ピット水位計（AM用）*2	操作	使用済燃料ピットの温度	・使用済燃料ピット温度計*1 ・使用済燃料ピット温度計（AM用）*2 ・携帯型水温計	使用済燃料ピットの水質	・使用済燃料ピット水位計*1 ・使用済燃料ピット水位計（AM用）*2 ・使用済燃料ピット水位（可搬型）*2*3 ・携帯型水位計 ・携帯型水位・水温計 ・使用済燃料ピットエアモニタ*1	使用済燃料ピット周辺の放射線基準	・排気筒ガスモニタ ・使用済燃料ピット可搬型エアモニタ*2*3	使用済燃料ピットの状態監視	・使用済燃料ピット監視カメラ*2	水源の確保	・2次系純水タンク水位 ・ろ過水タンク水位	<p>【大飯】設備の相違（相違理由③） ・操作「水源の確保」について、泊は原水槽への補給に使用するため、2次系純水タンク水位及びろ過水タンク水位を記載。</p>
対応手段	重大事故等の対応に必要な対応となる監視項目	監視計器																																													
1.11.2.1 使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能の喪失時、使用済燃料ピット水の小規模な漏えい発生時の手順等																																															
(6)ポンプ車によるNo.2淡水タンクから使用済燃料ピットへの注水	判断基準	補機監視機能	・原子炉補機冷却水供給母管流量計 ・原子炉補機冷却水冷却器海水流量計 ・使用済燃料ピット温度計*1 ・使用済燃料ピット温度計（AM用）*2 ・使用済燃料ピット水位計*1 ・使用済燃料ピット水位計（AM用）*2 水源の確保 ・No.2淡水タンク水位計 ・使用済燃料ピット温度計*1																																												
		操作	使用済燃料ピットの温度	・使用済燃料ピット温度計（AM用）*2 ・携帯型水温計 ・携帯型水位、水温計 ・使用済燃料ピット水位計*1																																											
			使用済燃料ピットの水質	・使用済燃料ピット水位計（AM用）*2 ・可搬式使用済燃料ピット水位計**3 ・携帯型水位計 ・携帯型水位、水温計																																											
			使用済燃料ピットの水質	・使用済燃料ピット水位計*1 ・使用済燃料ピット水位計（AM用）*2 ・可搬式使用済燃料ピット水位計**3 ・携帯型水位計 ・携帯型水位、水温計																																											
			水源の確保	・No.2淡水タンク水位計 ・使用済燃料ピット区域エアモニタ*1																																											
			使用済燃料ピットの周辺の放射線基準	・排気筒ガスモニタ ・可搬式使用済燃料ピット区域周辺エアモニタ**3																																											
	使用済燃料ピットの状態監視		・使用済燃料ピット監視カメラ*2																																												
	対応手段	重大事故等の対応に必要な対応となる監視項目	監視計器																																												
	1.11.2.1 使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能の喪失時、又は使用済燃料ピット水の小規模な漏えい発生時の対応手順 (1) 使用済燃料ピットへの注水																																														
	⑤ 原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水	判断基準	補機監視機能	・原子炉補機冷却水供給母管流量計 ・原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量計 ・原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量計（AM用） ・使用済燃料ピット温度計*1 ・使用済燃料ピット温度計（AM用）*2 ・使用済燃料ピット水位計*1 ・使用済燃料ピット水位計（AM用）*2																																											
			操作	使用済燃料ピットの温度	・使用済燃料ピット温度計*1 ・使用済燃料ピット温度計（AM用）*2 ・携帯型水温計																																										
				使用済燃料ピットの水質	・使用済燃料ピット水位計*1 ・使用済燃料ピット水位計（AM用）*2 ・使用済燃料ピット水位（可搬型）*2*3 ・携帯型水位計 ・携帯型水位・水温計 ・使用済燃料ピットエアモニタ*1																																										
使用済燃料ピット周辺の放射線基準				・排気筒ガスモニタ ・使用済燃料ピット可搬型エアモニタ*2*3																																											
使用済燃料ピットの状態監視				・使用済燃料ピット監視カメラ*2																																											
水源の確保				・2次系純水タンク水位 ・ろ過水タンク水位																																											

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																											
<p>監視計器一覧（8/11）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対応手段</th> <th>重大事故等の対応に必要なとなる監視項目</th> <th>監視計器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">1.11.2.2 使用済燃料ピットからの大量の水の漏えい発生時の手順等</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">(D)送水車による使用済燃料ピットへのスプレー</td> <td rowspan="2">判断基準</td> <td>使用済燃料ピットの温度 ・使用済燃料ピット温度計^{*1} ・使用済燃料ピット温度計（AM用）^{*2}</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットの水位 ・使用済燃料ピット水位計^{*1} ・使用済燃料ピット水位計（AM用）^{*2} ・可搬式使用済燃料ピット水位計^{*2*3}</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">操作</td> <td>使用済燃料ピットの温度 ・使用済燃料ピット温度計^{*1} ・使用済燃料ピット温度計（AM用）^{*2}</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットの水位 ・使用済燃料ピット水位計^{*1} ・使用済燃料ピット水位計（AM用）^{*2} ・可搬式使用済燃料ピット水位計^{*2*3}</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットの周辺放射線量率 ・使用済燃料ピット区域エリアモニタ^{*1} ・非気筒ガスモニタ ・可搬式使用済燃料ピット区域周辺エリアモニタ^{*2*3}</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットの状態監視 ・使用済燃料ピット監視カメラ^{*2}</td> </tr> </tbody> </table> <p>*1：通常時使用する計器 *2：重大事故等時使用する計器 *3：可搬型設備</p>	対応手段	重大事故等の対応に必要なとなる監視項目	監視計器	1.11.2.2 使用済燃料ピットからの大量の水の漏えい発生時の手順等			(D)送水車による使用済燃料ピットへのスプレー	判断基準	使用済燃料ピットの温度 ・使用済燃料ピット温度計 ^{*1} ・使用済燃料ピット温度計（AM用） ^{*2}	使用済燃料ピットの水位 ・使用済燃料ピット水位計 ^{*1} ・使用済燃料ピット水位計（AM用） ^{*2} ・可搬式使用済燃料ピット水位計 ^{*2*3}	操作	使用済燃料ピットの温度 ・使用済燃料ピット温度計 ^{*1} ・使用済燃料ピット温度計（AM用） ^{*2}	使用済燃料ピットの水位 ・使用済燃料ピット水位計 ^{*1} ・使用済燃料ピット水位計（AM用） ^{*2} ・可搬式使用済燃料ピット水位計 ^{*2*3}	使用済燃料ピットの周辺放射線量率 ・使用済燃料ピット区域エリアモニタ ^{*1} ・非気筒ガスモニタ ・可搬式使用済燃料ピット区域周辺エリアモニタ ^{*2*3}	使用済燃料ピットの状態監視 ・使用済燃料ピット監視カメラ ^{*2}	<p>泊3号炉との比較対象なし</p> <p>監視計器一覧（3/5）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>手順書</th> <th>重大事故等の対応に必要なとなる監視項目</th> <th>監視パラメータ（計器）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">1.11.2 重大事故等時の手順</td> </tr> <tr> <td colspan="3">1.11.2.2 使用済燃料プールからの大量の水の漏えい発生時の対応手順</td> </tr> <tr> <td colspan="3">(1) 燃料プールのスプレー</td> </tr> <tr> <td colspan="3">a. 燃料プールのスプレー系（常設配管）による使用済燃料プールへのスプレー</td> </tr> <tr> <td colspan="3">b. 燃料プールのスプレー系（可搬型）による使用済燃料プールへのスプレー</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">非常時操作手順書（継続ベーク） 「SFP水位・風速制御」</td> <td rowspan="2">判断基準</td> <td>使用済燃料プールの監視 使用済燃料プール水位/温度（ヒートサーモ式） 使用済燃料プール水位/温度（ガイドバルブ式） 使用済燃料プール上部空間放射線モニタ（高線量、低線量） 使用済燃料プール監視カメラ</td> </tr> <tr> <td>電源の確保 125V 直流主母線 2A 電圧 125V 直流主母線 2B 電圧 125V 直流主母線 2A-1 電圧 125V 直流主母線 2B-1 電圧</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">操作</td> <td>水源の確保 炭水貯水槽 (No. 1) 炭水貯水槽 (No. 2)</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料プールの監視 使用済燃料プール水位/温度（ヒートサーモ式） 使用済燃料プール水位/温度（ガイドバルブ式） 使用済燃料プール監視カメラ</td> </tr> <tr> <td>水源の確保 炭水貯水槽 (No. 1) 炭水貯水槽 (No. 2)</td> </tr> </tbody> </table>	手順書	重大事故等の対応に必要なとなる監視項目	監視パラメータ（計器）	1.11.2 重大事故等時の手順			1.11.2.2 使用済燃料プールからの大量の水の漏えい発生時の対応手順			(1) 燃料プールのスプレー			a. 燃料プールのスプレー系（常設配管）による使用済燃料プールへのスプレー			b. 燃料プールのスプレー系（可搬型）による使用済燃料プールへのスプレー			非常時操作手順書（継続ベーク） 「SFP水位・風速制御」	判断基準	使用済燃料プールの監視 使用済燃料プール水位/温度（ヒートサーモ式） 使用済燃料プール水位/温度（ガイドバルブ式） 使用済燃料プール上部空間放射線モニタ（高線量、低線量） 使用済燃料プール監視カメラ	電源の確保 125V 直流主母線 2A 電圧 125V 直流主母線 2B 電圧 125V 直流主母線 2A-1 電圧 125V 直流主母線 2B-1 電圧	操作	水源の確保 炭水貯水槽 (No. 1) 炭水貯水槽 (No. 2)	使用済燃料プールの監視 使用済燃料プール水位/温度（ヒートサーモ式） 使用済燃料プール水位/温度（ガイドバルブ式） 使用済燃料プール監視カメラ	水源の確保 炭水貯水槽 (No. 1) 炭水貯水槽 (No. 2)	<p>監視計器一覧（8/13）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対応手段</th> <th>重大事故等の対応に必要なとなる監視項目</th> <th>監視計器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">1.11.2.2 使用済燃料ピットからの大量の水の漏えい発生時の対応手順</td> </tr> <tr> <td colspan="3">(1) 使用済燃料ピットへのスプレー</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">* 海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレイズルによる使用済燃料ピットへのスプレー</td> <td rowspan="2">判断基準</td> <td>使用済燃料ピットの温度 ・使用済燃料ピット温度^{*1} ・使用済燃料ピット温度（AM用）^{*2}</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットの水位 ・使用済燃料ピット水位^{*1} ・使用済燃料ピット水位（AM用）^{*2} ・使用済燃料ピット水位（可搬型）^{*2*3}</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">操作</td> <td>使用済燃料ピットの温度 ・使用済燃料ピット温度^{*1} ・使用済燃料ピット温度（AM用）^{*2}</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットの水位 ・使用済燃料ピット水位（AM用）^{*2} ・使用済燃料ピット水位（可搬型）^{*2*3} ・使用済燃料ピットエリアモニタ^{*1}</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットの周辺放射線量率 ・使用済燃料ピット可搬型エリアモニタ^{*2*3}</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットの状態監視 ・使用済燃料ピット監視カメラ^{*2}</td> </tr> </tbody> </table> <p>*1：通常時使用する計器 *2：重大事故等時使用する計器 *3：可搬型設備</p> <p>女川2号炉との比較対象なし</p>	対応手段	重大事故等の対応に必要なとなる監視項目	監視計器	1.11.2.2 使用済燃料ピットからの大量の水の漏えい発生時の対応手順			(1) 使用済燃料ピットへのスプレー			* 海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレイズルによる使用済燃料ピットへのスプレー	判断基準	使用済燃料ピットの温度 ・使用済燃料ピット温度 ^{*1} ・使用済燃料ピット温度（AM用） ^{*2}	使用済燃料ピットの水位 ・使用済燃料ピット水位 ^{*1} ・使用済燃料ピット水位（AM用） ^{*2} ・使用済燃料ピット水位（可搬型） ^{*2*3}	操作	使用済燃料ピットの温度 ・使用済燃料ピット温度 ^{*1} ・使用済燃料ピット温度（AM用） ^{*2}	使用済燃料ピットの水位 ・使用済燃料ピット水位（AM用） ^{*2} ・使用済燃料ピット水位（可搬型） ^{*2*3} ・使用済燃料ピットエリアモニタ ^{*1}	使用済燃料ピットの周辺放射線量率 ・使用済燃料ピット可搬型エリアモニタ ^{*2*3}	使用済燃料ピットの状態監視 ・使用済燃料ピット監視カメラ ^{*2}	<p>【女川】設備の相違（相違理由①）</p>
対応手段	重大事故等の対応に必要なとなる監視項目	監視計器																																																												
1.11.2.2 使用済燃料ピットからの大量の水の漏えい発生時の手順等																																																														
(D)送水車による使用済燃料ピットへのスプレー	判断基準	使用済燃料ピットの温度 ・使用済燃料ピット温度計 ^{*1} ・使用済燃料ピット温度計（AM用） ^{*2}																																																												
		使用済燃料ピットの水位 ・使用済燃料ピット水位計 ^{*1} ・使用済燃料ピット水位計（AM用） ^{*2} ・可搬式使用済燃料ピット水位計 ^{*2*3}																																																												
	操作	使用済燃料ピットの温度 ・使用済燃料ピット温度計 ^{*1} ・使用済燃料ピット温度計（AM用） ^{*2}																																																												
		使用済燃料ピットの水位 ・使用済燃料ピット水位計 ^{*1} ・使用済燃料ピット水位計（AM用） ^{*2} ・可搬式使用済燃料ピット水位計 ^{*2*3}																																																												
使用済燃料ピットの周辺放射線量率 ・使用済燃料ピット区域エリアモニタ ^{*1} ・非気筒ガスモニタ ・可搬式使用済燃料ピット区域周辺エリアモニタ ^{*2*3}																																																														
使用済燃料ピットの状態監視 ・使用済燃料ピット監視カメラ ^{*2}																																																														
手順書	重大事故等の対応に必要なとなる監視項目	監視パラメータ（計器）																																																												
1.11.2 重大事故等時の手順																																																														
1.11.2.2 使用済燃料プールからの大量の水の漏えい発生時の対応手順																																																														
(1) 燃料プールのスプレー																																																														
a. 燃料プールのスプレー系（常設配管）による使用済燃料プールへのスプレー																																																														
b. 燃料プールのスプレー系（可搬型）による使用済燃料プールへのスプレー																																																														
非常時操作手順書（継続ベーク） 「SFP水位・風速制御」	判断基準	使用済燃料プールの監視 使用済燃料プール水位/温度（ヒートサーモ式） 使用済燃料プール水位/温度（ガイドバルブ式） 使用済燃料プール上部空間放射線モニタ（高線量、低線量） 使用済燃料プール監視カメラ																																																												
		電源の確保 125V 直流主母線 2A 電圧 125V 直流主母線 2B 電圧 125V 直流主母線 2A-1 電圧 125V 直流主母線 2B-1 電圧																																																												
	操作	水源の確保 炭水貯水槽 (No. 1) 炭水貯水槽 (No. 2)																																																												
		使用済燃料プールの監視 使用済燃料プール水位/温度（ヒートサーモ式） 使用済燃料プール水位/温度（ガイドバルブ式） 使用済燃料プール監視カメラ																																																												
水源の確保 炭水貯水槽 (No. 1) 炭水貯水槽 (No. 2)																																																														
対応手段	重大事故等の対応に必要なとなる監視項目	監視計器																																																												
1.11.2.2 使用済燃料ピットからの大量の水の漏えい発生時の対応手順																																																														
(1) 使用済燃料ピットへのスプレー																																																														
* 海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレイズルによる使用済燃料ピットへのスプレー	判断基準	使用済燃料ピットの温度 ・使用済燃料ピット温度 ^{*1} ・使用済燃料ピット温度（AM用） ^{*2}																																																												
		使用済燃料ピットの水位 ・使用済燃料ピット水位 ^{*1} ・使用済燃料ピット水位（AM用） ^{*2} ・使用済燃料ピット水位（可搬型） ^{*2*3}																																																												
	操作	使用済燃料ピットの温度 ・使用済燃料ピット温度 ^{*1} ・使用済燃料ピット温度（AM用） ^{*2}																																																												
		使用済燃料ピットの水位 ・使用済燃料ピット水位（AM用） ^{*2} ・使用済燃料ピット水位（可搬型） ^{*2*3} ・使用済燃料ピットエリアモニタ ^{*1}																																																												
使用済燃料ピットの周辺放射線量率 ・使用済燃料ピット可搬型エリアモニタ ^{*2*3}																																																														
使用済燃料ピットの状態監視 ・使用済燃料ピット監視カメラ ^{*2}																																																														

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																						
<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">泊3号炉との比較対象なし</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">泊3号炉との比較対象なし</p>	<p>監視計器一覧 (9/13)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">対応手段</th> <th style="width: 20%;">重大事故等の対応に必要な監視項目</th> <th style="width: 50%;">監視計器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">1.11.2.2 使用済燃料ビットからの大量の水の漏えい発生時の対応手順 (1) 使用済燃料ビットへのスプレイ</td> </tr> <tr> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">判断基準</td> <td>使用済燃料ビットの温度 ・ 使用済燃料ビット温度^{※1} ・ 使用済燃料ビット温度 (AM用)^{※2}</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ビットの水位 ・ 使用済燃料ビット水位^{※1} ・ 使用済燃料ビット水位 (AM用)^{※2} ・ 使用済燃料ビット水位 (可搬型)^{※2③}</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">b. 代替給水ビットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレインズルによる使用済燃料ビットへのスプレイ</td> <td rowspan="2">操作</td> <td>使用済燃料ビットの温度 ・ 使用済燃料ビット温度^{※1} ・ 使用済燃料ビット温度 (AM用)^{※2}</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ビットの水位 ・ 使用済燃料ビット水位 (AM用)^{※2} ・ 使用済燃料ビット水位 (可搬型)^{※2③} ・ 使用済燃料ビットエアモニタ^{※1}</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ビット周辺の放射線量率 ・ 排気筒ガスモニタ ・ 使用済燃料ビット可搬型エアモニタ^{※2③}</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ビットの状態監視 ・ 使用済燃料ビット監視カメラ^{※2}</td> </tr> <tr> <td colspan="3"> ※1：通常時使用する計器 ※2：重大事故等時使用する計器 ※3：可搬型設備 </td> </tr> </tbody> </table> <p>監視計器一覧 (10/13)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">対応手段</th> <th style="width: 20%;">重大事故等の対応に必要な監視項目</th> <th style="width: 50%;">監視計器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">1.11.2.2 使用済燃料ビットからの大量の水の漏えい発生時の対応手順 (1) 使用済燃料ビットへのスプレイ</td> </tr> <tr> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">判断基準</td> <td>使用済燃料ビットの温度 ・ 使用済燃料ビット温度^{※1} ・ 使用済燃料ビット温度 (AM用)^{※2}</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ビットの水位 ・ 使用済燃料ビット水位^{※1} ・ 使用済燃料ビット水位 (AM用)^{※2} ・ 使用済燃料ビット水位 (可搬型)^{※2③}</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">c. 原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレインズルによる使用済燃料ビットへのスプレイ</td> <td rowspan="2">操作</td> <td>使用済燃料ビットの温度 ・ 使用済燃料ビット温度^{※1} ・ 使用済燃料ビット温度 (AM用)^{※2}</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ビットの水位 ・ 使用済燃料ビット水位 (AM用)^{※2} ・ 使用済燃料ビット水位 (可搬型)^{※2③} ・ 使用済燃料ビットエアモニタ^{※1}</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ビット周辺の放射線量率 ・ 排気筒ガスモニタ ・ 使用済燃料ビット可搬型エアモニタ^{※2③}</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ビットの状態監視 ・ 使用済燃料ビット監視カメラ^{※2} ・ 2次系純水タンク水位 ・ ろ過水タンク水位</td> </tr> <tr> <td colspan="3"> ※1：通常時使用する計器 ※2：重大事故等時使用する計器 ※3：可搬型設備 </td> </tr> </tbody> </table>	対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器	1.11.2.2 使用済燃料ビットからの大量の水の漏えい発生時の対応手順 (1) 使用済燃料ビットへのスプレイ				判断基準	使用済燃料ビットの温度 ・ 使用済燃料ビット温度 ^{※1} ・ 使用済燃料ビット温度 (AM用) ^{※2}	使用済燃料ビットの水位 ・ 使用済燃料ビット水位 ^{※1} ・ 使用済燃料ビット水位 (AM用) ^{※2} ・ 使用済燃料ビット水位 (可搬型) ^{※2③}	b. 代替給水ビットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレインズルによる使用済燃料ビットへのスプレイ	操作	使用済燃料ビットの温度 ・ 使用済燃料ビット温度 ^{※1} ・ 使用済燃料ビット温度 (AM用) ^{※2}	使用済燃料ビットの水位 ・ 使用済燃料ビット水位 (AM用) ^{※2} ・ 使用済燃料ビット水位 (可搬型) ^{※2③} ・ 使用済燃料ビットエアモニタ ^{※1}	使用済燃料ビット周辺の放射線量率 ・ 排気筒ガスモニタ ・ 使用済燃料ビット可搬型エアモニタ ^{※2③}	使用済燃料ビットの状態監視 ・ 使用済燃料ビット監視カメラ ^{※2}	※1：通常時使用する計器 ※2：重大事故等時使用する計器 ※3：可搬型設備			対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器	1.11.2.2 使用済燃料ビットからの大量の水の漏えい発生時の対応手順 (1) 使用済燃料ビットへのスプレイ				判断基準	使用済燃料ビットの温度 ・ 使用済燃料ビット温度 ^{※1} ・ 使用済燃料ビット温度 (AM用) ^{※2}	使用済燃料ビットの水位 ・ 使用済燃料ビット水位 ^{※1} ・ 使用済燃料ビット水位 (AM用) ^{※2} ・ 使用済燃料ビット水位 (可搬型) ^{※2③}	c. 原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレインズルによる使用済燃料ビットへのスプレイ	操作	使用済燃料ビットの温度 ・ 使用済燃料ビット温度 ^{※1} ・ 使用済燃料ビット温度 (AM用) ^{※2}	使用済燃料ビットの水位 ・ 使用済燃料ビット水位 (AM用) ^{※2} ・ 使用済燃料ビット水位 (可搬型) ^{※2③} ・ 使用済燃料ビットエアモニタ ^{※1}	使用済燃料ビット周辺の放射線量率 ・ 排気筒ガスモニタ ・ 使用済燃料ビット可搬型エアモニタ ^{※2③}	使用済燃料ビットの状態監視 ・ 使用済燃料ビット監視カメラ ^{※2} ・ 2次系純水タンク水位 ・ ろ過水タンク水位	※1：通常時使用する計器 ※2：重大事故等時使用する計器 ※3：可搬型設備			<p>【女川】設備の相違 (相違理由②)</p> <p>【大飯】設備の相違 (相違理由④)</p> <ul style="list-style-type: none"> 泊は自主対策設備による対応手段として、代替給水ビットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレインズルによる使用済燃料ビットへのスプレイ手段を整備。 【大飯】設備の相違 (相違理由④) 泊は自主対策設備による対応手段として、原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレインズルによる使用済燃料ビットへのスプレイ手段を整備。
対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器																																							
1.11.2.2 使用済燃料ビットからの大量の水の漏えい発生時の対応手順 (1) 使用済燃料ビットへのスプレイ																																									
	判断基準	使用済燃料ビットの温度 ・ 使用済燃料ビット温度 ^{※1} ・ 使用済燃料ビット温度 (AM用) ^{※2}																																							
		使用済燃料ビットの水位 ・ 使用済燃料ビット水位 ^{※1} ・ 使用済燃料ビット水位 (AM用) ^{※2} ・ 使用済燃料ビット水位 (可搬型) ^{※2③}																																							
b. 代替給水ビットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレインズルによる使用済燃料ビットへのスプレイ	操作	使用済燃料ビットの温度 ・ 使用済燃料ビット温度 ^{※1} ・ 使用済燃料ビット温度 (AM用) ^{※2}																																							
		使用済燃料ビットの水位 ・ 使用済燃料ビット水位 (AM用) ^{※2} ・ 使用済燃料ビット水位 (可搬型) ^{※2③} ・ 使用済燃料ビットエアモニタ ^{※1}																																							
	使用済燃料ビット周辺の放射線量率 ・ 排気筒ガスモニタ ・ 使用済燃料ビット可搬型エアモニタ ^{※2③}																																								
	使用済燃料ビットの状態監視 ・ 使用済燃料ビット監視カメラ ^{※2}																																								
※1：通常時使用する計器 ※2：重大事故等時使用する計器 ※3：可搬型設備																																									
対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器																																							
1.11.2.2 使用済燃料ビットからの大量の水の漏えい発生時の対応手順 (1) 使用済燃料ビットへのスプレイ																																									
	判断基準	使用済燃料ビットの温度 ・ 使用済燃料ビット温度 ^{※1} ・ 使用済燃料ビット温度 (AM用) ^{※2}																																							
		使用済燃料ビットの水位 ・ 使用済燃料ビット水位 ^{※1} ・ 使用済燃料ビット水位 (AM用) ^{※2} ・ 使用済燃料ビット水位 (可搬型) ^{※2③}																																							
c. 原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレインズルによる使用済燃料ビットへのスプレイ	操作	使用済燃料ビットの温度 ・ 使用済燃料ビット温度 ^{※1} ・ 使用済燃料ビット温度 (AM用) ^{※2}																																							
		使用済燃料ビットの水位 ・ 使用済燃料ビット水位 (AM用) ^{※2} ・ 使用済燃料ビット水位 (可搬型) ^{※2③} ・ 使用済燃料ビットエアモニタ ^{※1}																																							
	使用済燃料ビット周辺の放射線量率 ・ 排気筒ガスモニタ ・ 使用済燃料ビット可搬型エアモニタ ^{※2③}																																								
	使用済燃料ビットの状態監視 ・ 使用済燃料ビット監視カメラ ^{※2} ・ 2次系純水タンク水位 ・ ろ過水タンク水位																																								
※1：通常時使用する計器 ※2：重大事故等時使用する計器 ※3：可搬型設備																																									

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																														
<p>監視計器一覧（9/11）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対応手段</th> <th>重大事故等の対応に必要な対応となる監視項目</th> <th>監視計器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">1.11.2.2 使用済燃料ピットからの大量の水の漏えい発生時の手順等</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">(2)大容量ポンプ（放水用）及び放水砲による原子炉周辺建屋（貯蔵槽内燃料体等）への放水</td> <td>使用済燃料ピットの温度</td> <td>・使用済燃料ピット温度計*1 ・使用済燃料ピット温度計（AM用）*2</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットの水位</td> <td>・使用済燃料ピット水位計*1 ・使用済燃料ピット水位計（AM用）*2 ・可搬式使用済燃料ピット水位計*2*3</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットの周辺の放射線量率</td> <td>・使用済燃料ピット区域エリアモニタ*1 ・排気筒ガスモニタ ・可搬式使用済燃料ピット区域周辺エリアモニタ*2*3</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットの状態監視</td> <td>・使用済燃料ピット監視カメラ*2</td> </tr> <tr> <td>周辺環境の放射線量率</td> <td>・モニタポスト ・モニタ車</td> </tr> <tr> <td>操作</td> <td colspan="2">「1.12 工場等外への放射性物質の拡散を抑制するための手順等」のうち1.12.2(1)h、「大容量ポンプ（放水用）及び放水砲による大気への拡散抑制」にて整備する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>*1：通常時使用する計器 *2：重大事故等時使用する計器 *3：可搬型設備</p>	対応手段	重大事故等の対応に必要な対応となる監視項目	監視計器	1.11.2.2 使用済燃料ピットからの大量の水の漏えい発生時の手順等			(2)大容量ポンプ（放水用）及び放水砲による原子炉周辺建屋（貯蔵槽内燃料体等）への放水	使用済燃料ピットの温度	・使用済燃料ピット温度計*1 ・使用済燃料ピット温度計（AM用）*2	使用済燃料ピットの水位	・使用済燃料ピット水位計*1 ・使用済燃料ピット水位計（AM用）*2 ・可搬式使用済燃料ピット水位計*2*3	使用済燃料ピットの周辺の放射線量率	・使用済燃料ピット区域エリアモニタ*1 ・排気筒ガスモニタ ・可搬式使用済燃料ピット区域周辺エリアモニタ*2*3	使用済燃料ピットの状態監視	・使用済燃料ピット監視カメラ*2	周辺環境の放射線量率	・モニタポスト ・モニタ車	操作	「1.12 工場等外への放射性物質の拡散を抑制するための手順等」のうち1.12.2(1)h、「大容量ポンプ（放水用）及び放水砲による大気への拡散抑制」にて整備する。		<p>女川原子力発電所2号炉</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">泊3号炉との比較対象なし</p> <p>監視計器一覧（5/5）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>手順書</th> <th>重大事故等の対応に必要な対応となる監視項目</th> <th>監視パラメータ（計器）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">1.11.2 重大事故等時の手順</td> </tr> <tr> <td colspan="3">1.11.2.4 使用済燃料プールから発生する水蒸気による悪影響を防止するための対応手順</td> </tr> <tr> <td colspan="3">(1) 燃料プール冷却浄化系による使用済燃料プールの除熱</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">非常時操作手順書（燃料ベース） 「SFP水位・温度監視」</td> <td rowspan="3">燃料プールの監視</td> <td>燃料プール温度系 監視</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料プールの監視</td> </tr> <tr> <td>燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">最終ヒートシンクの確保</td> <td>使用済燃料プール水位・温度（ガイドバルブ式）</td> </tr> <tr> <td>スキマサージタンク水位</td> </tr> <tr> <td>原子炉補機冷却水系(A)系統流量</td> </tr> <tr> <td>原子炉補機冷却水系(B)系統流量</td> </tr> <tr> <td>M/C 6-2V 母線電圧</td> </tr> <tr> <td>M/C 6-2B 母線電圧</td> </tr> <tr> <td>P/C 4-2V 母線電圧</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">非常時操作手順書（プラント停止中） 「燃料プール冷却機能喪失」</td> <td rowspan="5">電線の確保</td> <td>125V 直流主母線 2A 電圧</td> </tr> <tr> <td>125V 直流主母線 3B 電圧</td> </tr> <tr> <td>125V 直流主母線 2A-1 電圧</td> </tr> <tr> <td>125V 直流主母線 3B-1 電圧</td> </tr> <tr> <td>125V 直流主母線 3B-1 電圧</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">重大事故等対応要領書 「原子炉補機冷却浄化系による補機冷却水確保」</td> <td rowspan="7">使用済燃料プールの監視</td> <td>使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料プール水位・温度（ガイドバルブ式）</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料プール上部空間放射線モニタ（高線量、低線量）</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料プール監視カメラ</td> </tr> <tr> <td>スキマサージタンク水位</td> </tr> <tr> <td>P/C ポンプ(A) 出口流量</td> </tr> <tr> <td>P/C ポンプ(B) 出口流量</td> </tr> </tbody> </table>	手順書	重大事故等の対応に必要な対応となる監視項目	監視パラメータ（計器）	1.11.2 重大事故等時の手順			1.11.2.4 使用済燃料プールから発生する水蒸気による悪影響を防止するための対応手順			(1) 燃料プール冷却浄化系による使用済燃料プールの除熱			非常時操作手順書（燃料ベース） 「SFP水位・温度監視」	燃料プールの監視	燃料プール温度系 監視	使用済燃料プールの監視	燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）	最終ヒートシンクの確保	使用済燃料プール水位・温度（ガイドバルブ式）	スキマサージタンク水位	原子炉補機冷却水系(A)系統流量	原子炉補機冷却水系(B)系統流量	M/C 6-2V 母線電圧	M/C 6-2B 母線電圧	P/C 4-2V 母線電圧	非常時操作手順書（プラント停止中） 「燃料プール冷却機能喪失」	電線の確保	125V 直流主母線 2A 電圧	125V 直流主母線 3B 電圧	125V 直流主母線 2A-1 電圧	125V 直流主母線 3B-1 電圧	125V 直流主母線 3B-1 電圧	重大事故等対応要領書 「原子炉補機冷却浄化系による補機冷却水確保」	使用済燃料プールの監視	使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）	使用済燃料プール水位・温度（ガイドバルブ式）	使用済燃料プール上部空間放射線モニタ（高線量、低線量）	使用済燃料プール監視カメラ	スキマサージタンク水位	P/C ポンプ(A) 出口流量	P/C ポンプ(B) 出口流量	<p>監視計器一覧（11/13）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対応手段</th> <th>重大事故等の対応に必要な対応となる監視項目</th> <th>監視計器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">1.11.2.2 使用済燃料ピットからの大量の水の漏えい発生時の対応手順</td> </tr> <tr> <td colspan="3">(1) 使用済燃料ピットへのスプレイ</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">d. 可搬型大容量海水送水ポンプ車及び放水砲による燃料取扱機（使用済燃料ピット内の燃料体等）への放水</td> <td rowspan="2">判断基準</td> <td>使用済燃料ピットの温度</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットの水位</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">操作</td> <td>使用済燃料ピット周辺の放射線量率</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットの状態監視</td> </tr> <tr> <td>周辺環境の放射線量率</td> </tr> </tbody> </table> <p>*1：通常時使用する計器 *2：重大事故等時使用する計器 *3：可搬型設備</p>	対応手段	重大事故等の対応に必要な対応となる監視項目	監視計器	1.11.2.2 使用済燃料ピットからの大量の水の漏えい発生時の対応手順			(1) 使用済燃料ピットへのスプレイ			d. 可搬型大容量海水送水ポンプ車及び放水砲による燃料取扱機（使用済燃料ピット内の燃料体等）への放水	判断基準	使用済燃料ピットの温度	使用済燃料ピットの水位	操作	使用済燃料ピット周辺の放射線量率	使用済燃料ピットの状態監視	周辺環境の放射線量率	<p>相違理由</p> <p>【女川】 BWR 固有の対応手段(KK6/7 審査知見の反映)</p>
対応手段	重大事故等の対応に必要な対応となる監視項目	監視計器																																																																															
1.11.2.2 使用済燃料ピットからの大量の水の漏えい発生時の手順等																																																																																	
(2)大容量ポンプ（放水用）及び放水砲による原子炉周辺建屋（貯蔵槽内燃料体等）への放水	使用済燃料ピットの温度	・使用済燃料ピット温度計*1 ・使用済燃料ピット温度計（AM用）*2																																																																															
	使用済燃料ピットの水位	・使用済燃料ピット水位計*1 ・使用済燃料ピット水位計（AM用）*2 ・可搬式使用済燃料ピット水位計*2*3																																																																															
	使用済燃料ピットの周辺の放射線量率	・使用済燃料ピット区域エリアモニタ*1 ・排気筒ガスモニタ ・可搬式使用済燃料ピット区域周辺エリアモニタ*2*3																																																																															
	使用済燃料ピットの状態監視	・使用済燃料ピット監視カメラ*2																																																																															
	周辺環境の放射線量率	・モニタポスト ・モニタ車																																																																															
操作	「1.12 工場等外への放射性物質の拡散を抑制するための手順等」のうち1.12.2(1)h、「大容量ポンプ（放水用）及び放水砲による大気への拡散抑制」にて整備する。																																																																																
手順書	重大事故等の対応に必要な対応となる監視項目	監視パラメータ（計器）																																																																															
1.11.2 重大事故等時の手順																																																																																	
1.11.2.4 使用済燃料プールから発生する水蒸気による悪影響を防止するための対応手順																																																																																	
(1) 燃料プール冷却浄化系による使用済燃料プールの除熱																																																																																	
非常時操作手順書（燃料ベース） 「SFP水位・温度監視」	燃料プールの監視	燃料プール温度系 監視																																																																															
		使用済燃料プールの監視																																																																															
		燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）																																																																															
	最終ヒートシンクの確保	使用済燃料プール水位・温度（ガイドバルブ式）																																																																															
		スキマサージタンク水位																																																																															
		原子炉補機冷却水系(A)系統流量																																																																															
		原子炉補機冷却水系(B)系統流量																																																																															
		M/C 6-2V 母線電圧																																																																															
		M/C 6-2B 母線電圧																																																																															
		P/C 4-2V 母線電圧																																																																															
非常時操作手順書（プラント停止中） 「燃料プール冷却機能喪失」	電線の確保	125V 直流主母線 2A 電圧																																																																															
		125V 直流主母線 3B 電圧																																																																															
		125V 直流主母線 2A-1 電圧																																																																															
		125V 直流主母線 3B-1 電圧																																																																															
		125V 直流主母線 3B-1 電圧																																																																															
重大事故等対応要領書 「原子炉補機冷却浄化系による補機冷却水確保」	使用済燃料プールの監視	使用済燃料プール水位・温度（ヒートサーモ式）																																																																															
		使用済燃料プール水位・温度（ガイドバルブ式）																																																																															
		使用済燃料プール上部空間放射線モニタ（高線量、低線量）																																																																															
		使用済燃料プール監視カメラ																																																																															
		スキマサージタンク水位																																																																															
		P/C ポンプ(A) 出口流量																																																																															
		P/C ポンプ(B) 出口流量																																																																															
対応手段	重大事故等の対応に必要な対応となる監視項目	監視計器																																																																															
1.11.2.2 使用済燃料ピットからの大量の水の漏えい発生時の対応手順																																																																																	
(1) 使用済燃料ピットへのスプレイ																																																																																	
d. 可搬型大容量海水送水ポンプ車及び放水砲による燃料取扱機（使用済燃料ピット内の燃料体等）への放水	判断基準	使用済燃料ピットの温度																																																																															
		使用済燃料ピットの水位																																																																															
	操作	使用済燃料ピット周辺の放射線量率																																																																															
		使用済燃料ピットの状態監視																																																																															
		周辺環境の放射線量率																																																																															

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																													
<p>監視計器一覧（10/11）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対応手段</th> <th>重大事故等の対応に必要な対応となる監視項目</th> <th>監視計器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">1.11.2.2 使用済燃料ピットからの大量の水の漏えい発生時の手順等</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">(3) 使用済燃料ピットからの漏えい緩和</td> <td rowspan="2">使用済燃料ピットの温度</td> <td>・使用済燃料ピット温度計*1</td> </tr> <tr> <td>・使用済燃料ピット温度計（AM用）*2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">使用済燃料ピットの水位</td> <td>・使用済燃料ピット水位計*1</td> </tr> <tr> <td>・使用済燃料ピット水位計（AM用）*2 ・可搬式使用済燃料ピット水位計*2*3</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">使用済燃料ピットの周辺の放射線量率</td> <td>・使用済燃料ピット区域エアモニタ*1</td> </tr> <tr> <td>・排気筒ガスモニタ ・可搬式使用済燃料ピット区域周辺エアモニタ*2*3</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットの状態監視</td> <td>・使用済燃料ピット監視カメラ*2</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">操作</td> <td rowspan="3">使用済燃料ピットの水位</td> <td>・使用済燃料ピット水位計*1</td> </tr> <tr> <td>・使用済燃料ピット水位計（AM用）*2</td> </tr> <tr> <td>・可搬式使用済燃料ピット水位計*2*3</td> </tr> </tbody> </table> <p>*1：通常時使用する計器 *2：重大事故等時使用する計器 *3：可搬型設備</p>	対応手段	重大事故等の対応に必要な対応となる監視項目	監視計器	1.11.2.2 使用済燃料ピットからの大量の水の漏えい発生時の手順等			(3) 使用済燃料ピットからの漏えい緩和	使用済燃料ピットの温度	・使用済燃料ピット温度計*1	・使用済燃料ピット温度計（AM用）*2	使用済燃料ピットの水位	・使用済燃料ピット水位計*1	・使用済燃料ピット水位計（AM用）*2 ・可搬式使用済燃料ピット水位計*2*3	使用済燃料ピットの周辺の放射線量率	・使用済燃料ピット区域エアモニタ*1	・排気筒ガスモニタ ・可搬式使用済燃料ピット区域周辺エアモニタ*2*3	使用済燃料ピットの状態監視	・使用済燃料ピット監視カメラ*2	操作	使用済燃料ピットの水位	・使用済燃料ピット水位計*1	・使用済燃料ピット水位計（AM用）*2	・可搬式使用済燃料ピット水位計*2*3	<p>泊3号炉との比較対象なし</p>	<p>監視計器一覧（12/13）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対応手段</th> <th>重大事故等の対応に必要な監視項目</th> <th>監視計器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">1.11.2.2 使用済燃料ピットからの大量の水の漏えい発生時の対応手順(2) 漏えい緩和</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">* 使用済燃料ピット漏えい緩和</td> <td rowspan="2">使用済燃料ピットの温度</td> <td>・使用済燃料ピット温度*1</td> </tr> <tr> <td>・使用済燃料ピット温度（AM用）*2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">使用済燃料ピットの水位</td> <td>・使用済燃料ピット水位*1</td> </tr> <tr> <td>・使用済燃料ピット水位（AM用）*2 ・使用済燃料ピット水位（可搬型）*2*3</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピット周辺の放射線量率</td> <td>・排気筒ガスモニタ ・使用済燃料ピット可搬型エアモニタ*2*3</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットの状態監視</td> <td>・使用済燃料ピット監視カメラ*2</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">操作</td> <td rowspan="3">使用済燃料ピットの水位</td> <td>・使用済燃料ピット水位*1</td> </tr> <tr> <td>・使用済燃料ピット水位（AM用）*2</td> </tr> <tr> <td>・使用済燃料ピット水位（可搬型）*2*3</td> </tr> </tbody> </table> <p>*1：通常時使用する計器 *2：重大事故等時使用する計器 *3：可搬型設備</p>	対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器	1.11.2.2 使用済燃料ピットからの大量の水の漏えい発生時の対応手順(2) 漏えい緩和			* 使用済燃料ピット漏えい緩和	使用済燃料ピットの温度	・使用済燃料ピット温度*1	・使用済燃料ピット温度（AM用）*2	使用済燃料ピットの水位	・使用済燃料ピット水位*1	・使用済燃料ピット水位（AM用）*2 ・使用済燃料ピット水位（可搬型）*2*3	使用済燃料ピット周辺の放射線量率	・排気筒ガスモニタ ・使用済燃料ピット可搬型エアモニタ*2*3	使用済燃料ピットの状態監視	・使用済燃料ピット監視カメラ*2	操作	使用済燃料ピットの水位	・使用済燃料ピット水位*1	・使用済燃料ピット水位（AM用）*2	・使用済燃料ピット水位（可搬型）*2*3	
対応手段	重大事故等の対応に必要な対応となる監視項目	監視計器																																														
1.11.2.2 使用済燃料ピットからの大量の水の漏えい発生時の手順等																																																
(3) 使用済燃料ピットからの漏えい緩和	使用済燃料ピットの温度	・使用済燃料ピット温度計*1																																														
		・使用済燃料ピット温度計（AM用）*2																																														
	使用済燃料ピットの水位	・使用済燃料ピット水位計*1																																														
		・使用済燃料ピット水位計（AM用）*2 ・可搬式使用済燃料ピット水位計*2*3																																														
使用済燃料ピットの周辺の放射線量率	・使用済燃料ピット区域エアモニタ*1																																															
	・排気筒ガスモニタ ・可搬式使用済燃料ピット区域周辺エアモニタ*2*3																																															
使用済燃料ピットの状態監視	・使用済燃料ピット監視カメラ*2																																															
操作	使用済燃料ピットの水位	・使用済燃料ピット水位計*1																																														
		・使用済燃料ピット水位計（AM用）*2																																														
		・可搬式使用済燃料ピット水位計*2*3																																														
対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器																																														
1.11.2.2 使用済燃料ピットからの大量の水の漏えい発生時の対応手順(2) 漏えい緩和																																																
* 使用済燃料ピット漏えい緩和	使用済燃料ピットの温度	・使用済燃料ピット温度*1																																														
		・使用済燃料ピット温度（AM用）*2																																														
	使用済燃料ピットの水位	・使用済燃料ピット水位*1																																														
		・使用済燃料ピット水位（AM用）*2 ・使用済燃料ピット水位（可搬型）*2*3																																														
	使用済燃料ピット周辺の放射線量率	・排気筒ガスモニタ ・使用済燃料ピット可搬型エアモニタ*2*3																																														
使用済燃料ピットの状態監視	・使用済燃料ピット監視カメラ*2																																															
操作	使用済燃料ピットの水位	・使用済燃料ピット水位*1																																														
		・使用済燃料ピット水位（AM用）*2																																														
		・使用済燃料ピット水位（可搬型）*2*3																																														

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																									
<p>監視計器一覧（11/11）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対応手段</th> <th>重大事故等の対応に必要な となる監視項目</th> <th>監視計器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">1.11.2.3 重大事故等時における使用済燃料ピットの監視等の手順等</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">(1)常設設備による使用済燃料ピットの状態監視</td> <td>使用済燃料ピットの温度</td> <td>・使用済燃料ピット温度計*1 ・使用済燃料ピット温度計（AM用）*2</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットの水位</td> <td>・使用済燃料ピット水位計*1 ・使用済燃料ピット水位計（AM用）*2</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピット周辺の放射線量率</td> <td>・使用済燃料ピット区域エアモニタ*1 ・排気筒ガスモニタ</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットの状態監視</td> <td>・使用済燃料ピット監視カメラ*2</td> </tr> <tr> <td>補機監視機能</td> <td>・原子炉補機冷却水供給母管流量計 ・原子炉補機冷却水冷却器補機冷却水流量計</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">(2)可搬型設備による使用済燃料ピットの状態監視</td> <td>使用済燃料ピットの温度</td> <td>・使用済燃料ピット温度計*1 ・使用済燃料ピット温度計（AM用）*2</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットの水位</td> <td>・使用済燃料ピット水位計*1 ・使用済燃料ピット水位計（AM用）*2</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">使用済燃料ピットの温度</td> <td>・使用済燃料ピット温度計*1</td> </tr> <tr> <td>・携帯型水温計</td> </tr> <tr> <td>・携帯型水位、水温計</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">使用済燃料ピットの水位</td> <td>・使用済燃料ピット水位計*1</td> </tr> <tr> <td>・使用済燃料ピット水位計（AM用）*2</td> </tr> <tr> <td>・可搬式使用済燃料ピット水位計***</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">使用済燃料ピットの状態監視</td> <td>・携帯型水位、水温計</td> </tr> <tr> <td>・可搬式使用済燃料ピット区域周辺エアモニタ*1*2</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットの状態監視</td> <td>・使用済燃料ピット監視カメラ*2</td> </tr> </tbody> </table> <p>*1：通常時使用する計器 *2：重大事故等時使用する計器 *3：可搬型設備</p>	対応手段	重大事故等の対応に必要な となる監視項目	監視計器	1.11.2.3 重大事故等時における使用済燃料ピットの監視等の手順等			(1)常設設備による使用済燃料ピットの状態監視	使用済燃料ピットの温度	・使用済燃料ピット温度計*1 ・使用済燃料ピット温度計（AM用）*2	使用済燃料ピットの水位	・使用済燃料ピット水位計*1 ・使用済燃料ピット水位計（AM用）*2	使用済燃料ピット周辺の放射線量率	・使用済燃料ピット区域エアモニタ*1 ・排気筒ガスモニタ	使用済燃料ピットの状態監視	・使用済燃料ピット監視カメラ*2	補機監視機能	・原子炉補機冷却水供給母管流量計 ・原子炉補機冷却水冷却器補機冷却水流量計	(2)可搬型設備による使用済燃料ピットの状態監視	使用済燃料ピットの温度	・使用済燃料ピット温度計*1 ・使用済燃料ピット温度計（AM用）*2	使用済燃料ピットの水位	・使用済燃料ピット水位計*1 ・使用済燃料ピット水位計（AM用）*2	使用済燃料ピットの温度	・使用済燃料ピット温度計*1	・携帯型水温計	・携帯型水位、水温計	使用済燃料ピットの水位	・使用済燃料ピット水位計*1	・使用済燃料ピット水位計（AM用）*2	・可搬式使用済燃料ピット水位計***	使用済燃料ピットの状態監視	・携帯型水位、水温計	・可搬式使用済燃料ピット区域周辺エアモニタ*1*2	使用済燃料ピットの状態監視	・使用済燃料ピット監視カメラ*2	<p>女川2号炉との比較対象なし</p>	<p>監視計器一覧（13/13）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対応手段</th> <th>重大事故等の対応に必要な 監視項目</th> <th>監視計器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">1.11.2.3 重大事故等時における使用済燃料ピットの状態監視</td> </tr> <tr> <td colspan="3">(1) 使用済燃料ピットの状態監視</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">a. 常設設備による使用済燃料ピットの状態監視</td> <td>使用済燃料ピットの温度</td> <td>・使用済燃料ピット温度*1 ・使用済燃料ピット温度（AM用）*2</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットの水位</td> <td>・使用済燃料ピット水位*1 ・使用済燃料ピット水位（AM用）*2</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピット周辺の放射線量率</td> <td>・使用済燃料ピットエアモニタ*1 ・排気筒ガスモニタ</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットの状態監視</td> <td>・使用済燃料ピット監視カメラ*2</td> </tr> <tr> <td>補機監視機能</td> <td>・原子炉補機冷却水供給母管流量計 ・原子炉補機冷却水冷却器補機冷却水流量計 ・原子炉補機冷却水冷却器補機冷却水流量計（AM用）</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">b. 可搬型設備による使用済燃料ピットの状態監視</td> <td>使用済燃料ピットの温度</td> <td>・使用済燃料ピット温度*1 ・使用済燃料ピット温度（AM用）*2</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットの水位</td> <td>・使用済燃料ピット水位*1 ・使用済燃料ピット水位（AM用）*2</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">使用済燃料ピットの温度</td> <td>・使用済燃料ピット温度*1</td> </tr> <tr> <td>・使用済燃料ピット温度（AM用）*2</td> </tr> <tr> <td>・携帯型水温計</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">使用済燃料ピットの水位</td> <td>・使用済燃料ピット水位*1</td> </tr> <tr> <td>・使用済燃料ピット水位（AM用）*2</td> </tr> <tr> <td>・可搬式使用済燃料ピット水位計***</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">使用済燃料ピットの状態監視</td> <td>・携帯型水位、水温計</td> </tr> <tr> <td>・可搬式使用済燃料ピット区域周辺エアモニタ*1*2</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピットの状態監視</td> <td>・使用済燃料ピット監視カメラ*2</td> </tr> </tbody> </table> <p>*1：通常時使用する計器 *2：重大事故等時使用する計器 *3：可搬型設備</p>	対応手段	重大事故等の対応に必要な 監視項目	監視計器	1.11.2.3 重大事故等時における使用済燃料ピットの状態監視			(1) 使用済燃料ピットの状態監視			a. 常設設備による使用済燃料ピットの状態監視	使用済燃料ピットの温度	・使用済燃料ピット温度*1 ・使用済燃料ピット温度（AM用）*2	使用済燃料ピットの水位	・使用済燃料ピット水位*1 ・使用済燃料ピット水位（AM用）*2	使用済燃料ピット周辺の放射線量率	・使用済燃料ピットエアモニタ*1 ・排気筒ガスモニタ	使用済燃料ピットの状態監視	・使用済燃料ピット監視カメラ*2	補機監視機能	・原子炉補機冷却水供給母管流量計 ・原子炉補機冷却水冷却器補機冷却水流量計 ・原子炉補機冷却水冷却器補機冷却水流量計（AM用）	b. 可搬型設備による使用済燃料ピットの状態監視	使用済燃料ピットの温度	・使用済燃料ピット温度*1 ・使用済燃料ピット温度（AM用）*2	使用済燃料ピットの水位	・使用済燃料ピット水位*1 ・使用済燃料ピット水位（AM用）*2	使用済燃料ピットの温度	・使用済燃料ピット温度*1	・使用済燃料ピット温度（AM用）*2	・携帯型水温計	使用済燃料ピットの水位	・使用済燃料ピット水位*1	・使用済燃料ピット水位（AM用）*2	・可搬式使用済燃料ピット水位計***	使用済燃料ピットの状態監視	・携帯型水位、水温計	・可搬式使用済燃料ピット区域周辺エアモニタ*1*2	使用済燃料ピットの状態監視	・使用済燃料ピット監視カメラ*2	
対応手段	重大事故等の対応に必要な となる監視項目	監視計器																																																																										
1.11.2.3 重大事故等時における使用済燃料ピットの監視等の手順等																																																																												
(1)常設設備による使用済燃料ピットの状態監視	使用済燃料ピットの温度	・使用済燃料ピット温度計*1 ・使用済燃料ピット温度計（AM用）*2																																																																										
	使用済燃料ピットの水位	・使用済燃料ピット水位計*1 ・使用済燃料ピット水位計（AM用）*2																																																																										
	使用済燃料ピット周辺の放射線量率	・使用済燃料ピット区域エアモニタ*1 ・排気筒ガスモニタ																																																																										
	使用済燃料ピットの状態監視	・使用済燃料ピット監視カメラ*2																																																																										
	補機監視機能	・原子炉補機冷却水供給母管流量計 ・原子炉補機冷却水冷却器補機冷却水流量計																																																																										
(2)可搬型設備による使用済燃料ピットの状態監視	使用済燃料ピットの温度	・使用済燃料ピット温度計*1 ・使用済燃料ピット温度計（AM用）*2																																																																										
	使用済燃料ピットの水位	・使用済燃料ピット水位計*1 ・使用済燃料ピット水位計（AM用）*2																																																																										
	使用済燃料ピットの温度	・使用済燃料ピット温度計*1																																																																										
		・携帯型水温計																																																																										
		・携帯型水位、水温計																																																																										
	使用済燃料ピットの水位	・使用済燃料ピット水位計*1																																																																										
		・使用済燃料ピット水位計（AM用）*2																																																																										
		・可搬式使用済燃料ピット水位計***																																																																										
	使用済燃料ピットの状態監視	・携帯型水位、水温計																																																																										
		・可搬式使用済燃料ピット区域周辺エアモニタ*1*2																																																																										
使用済燃料ピットの状態監視	・使用済燃料ピット監視カメラ*2																																																																											
対応手段	重大事故等の対応に必要な 監視項目	監視計器																																																																										
1.11.2.3 重大事故等時における使用済燃料ピットの状態監視																																																																												
(1) 使用済燃料ピットの状態監視																																																																												
a. 常設設備による使用済燃料ピットの状態監視	使用済燃料ピットの温度	・使用済燃料ピット温度*1 ・使用済燃料ピット温度（AM用）*2																																																																										
	使用済燃料ピットの水位	・使用済燃料ピット水位*1 ・使用済燃料ピット水位（AM用）*2																																																																										
	使用済燃料ピット周辺の放射線量率	・使用済燃料ピットエアモニタ*1 ・排気筒ガスモニタ																																																																										
	使用済燃料ピットの状態監視	・使用済燃料ピット監視カメラ*2																																																																										
	補機監視機能	・原子炉補機冷却水供給母管流量計 ・原子炉補機冷却水冷却器補機冷却水流量計 ・原子炉補機冷却水冷却器補機冷却水流量計（AM用）																																																																										
b. 可搬型設備による使用済燃料ピットの状態監視	使用済燃料ピットの温度	・使用済燃料ピット温度*1 ・使用済燃料ピット温度（AM用）*2																																																																										
	使用済燃料ピットの水位	・使用済燃料ピット水位*1 ・使用済燃料ピット水位（AM用）*2																																																																										
	使用済燃料ピットの温度	・使用済燃料ピット温度*1																																																																										
		・使用済燃料ピット温度（AM用）*2																																																																										
		・携帯型水温計																																																																										
	使用済燃料ピットの水位	・使用済燃料ピット水位*1																																																																										
		・使用済燃料ピット水位（AM用）*2																																																																										
		・可搬式使用済燃料ピット水位計***																																																																										
	使用済燃料ピットの状態監視	・携帯型水位、水温計																																																																										
		・可搬式使用済燃料ピット区域周辺エアモニタ*1*2																																																																										
使用済燃料ピットの状態監視	・使用済燃料ピット監視カメラ*2																																																																											

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																
<p>第 1.11.5 表 審査基準における要求事項ごとの給電対象設備</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象条文</th> <th>供給対象設備</th> <th>給電元</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">【1.11】 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等</td> <td>使用済燃料ピット水位（AM用）</td> <td>B、C計装用電源</td> </tr> <tr> <td>可搬式使用済燃料ピット水位</td> <td>B計装用電源</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピット温度（AM用）</td> <td>B、C計装用電源</td> </tr> <tr> <td>可搬式使用済燃料ピット区域周辺エリアモニタ</td> <td>B計装用電源</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピット監視カメラ</td> <td>A1原子炉コントロールセンタ</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料ピット監視カメラ冷却装置</td> <td>A2原子炉コントロールセンタ</td> </tr> </tbody> </table>	対象条文	供給対象設備	給電元	【1.11】 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等	使用済燃料ピット水位（AM用）	B、C計装用電源	可搬式使用済燃料ピット水位	B計装用電源	使用済燃料ピット温度（AM用）	B、C計装用電源	可搬式使用済燃料ピット区域周辺エリアモニタ	B計装用電源	使用済燃料ピット監視カメラ	A1原子炉コントロールセンタ	使用済燃料ピット監視カメラ冷却装置	A2原子炉コントロールセンタ	<p>第 1.11-3 表 「審査基準」における要求事項ごとの給電対象設備</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">対象条文</th> <th rowspan="2">供給対象設備</th> <th colspan="2">供給元</th> </tr> <tr> <th>設 備</th> <th>母 線</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="12">【1.11】 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等</td> <td rowspan="6">燃料プール冷却浄化系ポンプ</td> <td rowspan="2">常設代替交流電源</td> <td>非常用低圧母線 MCC 2C</td> </tr> <tr> <td>非常用低圧母線 MCC 2D</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">可搬型代替交流電源</td> <td>非常用低圧母線 MCC 2E</td> </tr> <tr> <td>非常用低圧母線 MCC 2D</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">燃料プール冷却浄化系 弁</td> <td rowspan="2">常設代替交流電源</td> <td>非常用低圧母線 MCC 2C</td> </tr> <tr> <td>非常用低圧母線 MCC 2D</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">可搬型代替交流電源</td> <td>非常用低圧母線 MCC 2C</td> </tr> <tr> <td>非常用低圧母線 MCC 2D</td> </tr> <tr> <td rowspan="12">使用済燃料プール監視設備（監視計器）</td> <td rowspan="6">常設代替交流電源</td> <td>非常用低圧母線 MCC 2C</td> </tr> <tr> <td>非常用低圧母線 MCC 2D</td> </tr> <tr> <td>可搬型代替交流電源</td> <td>非常用低圧母線 MCC 2D</td> </tr> <tr> <td>125V 充電器 2A</td> </tr> <tr> <td>125V 充電器 2B</td> </tr> <tr> <td>所内常設蓄電式直流電源設備</td> <td>125V 充電器 2A-1</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">常設代替直流電源設備</td> <td>125V 充電器 2B-1</td> </tr> <tr> <td>125V 充電器 2A</td> </tr> <tr> <td>125V 充電器 2B</td> </tr> <tr> <td>125V 充電器 2A-1</td> </tr> <tr> <td>125V 充電器 2B-1</td> </tr> <tr> <td>125V 充電器 2A</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">可搬型代替直流電源設備</td> <td>125V 充電器 2B</td> </tr> <tr> <td>125V 充電器 2A-1</td> </tr> <tr> <td>125V 充電器 2B-1</td> </tr> <tr> <td>125V 充電器 2A</td> </tr> <tr> <td>125V 充電器 2B</td> </tr> <tr> <td>125V 充電器 2A-1</td> </tr> </tbody> </table>	対象条文	供給対象設備	供給元		設 備	母 線	【1.11】 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等	燃料プール冷却浄化系ポンプ	常設代替交流電源	非常用低圧母線 MCC 2C	非常用低圧母線 MCC 2D	可搬型代替交流電源	非常用低圧母線 MCC 2E	非常用低圧母線 MCC 2D	燃料プール冷却浄化系 弁	常設代替交流電源	非常用低圧母線 MCC 2C	非常用低圧母線 MCC 2D	可搬型代替交流電源	非常用低圧母線 MCC 2C	非常用低圧母線 MCC 2D	使用済燃料プール監視設備（監視計器）	常設代替交流電源	非常用低圧母線 MCC 2C	非常用低圧母線 MCC 2D	可搬型代替交流電源	非常用低圧母線 MCC 2D	125V 充電器 2A	125V 充電器 2B	所内常設蓄電式直流電源設備	125V 充電器 2A-1	常設代替直流電源設備	125V 充電器 2B-1	125V 充電器 2A	125V 充電器 2B	125V 充電器 2A-1	125V 充電器 2B-1	125V 充電器 2A	可搬型代替直流電源設備	125V 充電器 2B	125V 充電器 2A-1	125V 充電器 2B-1	125V 充電器 2A	125V 充電器 2B	125V 充電器 2A-1	<p>第 1.11.3 表 「審査基準」における要求事項ごとの給電対象設備</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">対象条文</th> <th rowspan="2">供給対象設備</th> <th colspan="2">給電元</th> </tr> <tr> <th>設 備</th> <th>母 線</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">【1.11】 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等</td> <td rowspan="5">使用済燃料ピット監視設備（監視計器）</td> <td>常設代替交流電源設備</td> <td>3F監視設備電源盤</td> </tr> <tr> <td>可搬型代替交流電源設備</td> <td>3F監視設備電源盤</td> </tr> <tr> <td>所内常設蓄電式直流電源設備</td> <td>日一A設備直流電源分機盤 日一B設備交流電源分機盤</td> </tr> <tr> <td>可搬型代替直流電源設備</td> <td>日一A設備直流電源分機盤 日一B設備交流電源分機盤</td> </tr> <tr> <td>計装用電源*</td> <td>非常用交流電源設備 非常用直流電源設備</td> <td>日二ー計装用交流分機盤</td> </tr> </tbody> </table> <p>※：供給元内は審査対象</p>	対象条文	供給対象設備	給電元		設 備	母 線	【1.11】 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等	使用済燃料ピット監視設備（監視計器）	常設代替交流電源設備	3F監視設備電源盤	可搬型代替交流電源設備	3F監視設備電源盤	所内常設蓄電式直流電源設備	日一A設備直流電源分機盤 日一B設備交流電源分機盤	可搬型代替直流電源設備	日一A設備直流電源分機盤 日一B設備交流電源分機盤	計装用電源*	非常用交流電源設備 非常用直流電源設備	日二ー計装用交流分機盤	<p>【大阪】記載方針の相違（女川審査実績の反映）</p>
対象条文	供給対象設備	給電元																																																																																	
【1.11】 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等	使用済燃料ピット水位（AM用）	B、C計装用電源																																																																																	
	可搬式使用済燃料ピット水位	B計装用電源																																																																																	
	使用済燃料ピット温度（AM用）	B、C計装用電源																																																																																	
	可搬式使用済燃料ピット区域周辺エリアモニタ	B計装用電源																																																																																	
	使用済燃料ピット監視カメラ	A1原子炉コントロールセンタ																																																																																	
	使用済燃料ピット監視カメラ冷却装置	A2原子炉コントロールセンタ																																																																																	
対象条文	供給対象設備	供給元																																																																																	
		設 備	母 線																																																																																
【1.11】 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等	燃料プール冷却浄化系ポンプ	常設代替交流電源	非常用低圧母線 MCC 2C																																																																																
			非常用低圧母線 MCC 2D																																																																																
		可搬型代替交流電源	非常用低圧母線 MCC 2E																																																																																
			非常用低圧母線 MCC 2D																																																																																
		燃料プール冷却浄化系 弁	常設代替交流電源	非常用低圧母線 MCC 2C																																																																															
				非常用低圧母線 MCC 2D																																																																															
	可搬型代替交流電源		非常用低圧母線 MCC 2C																																																																																
			非常用低圧母線 MCC 2D																																																																																
	使用済燃料プール監視設備（監視計器）		常設代替交流電源	非常用低圧母線 MCC 2C																																																																															
				非常用低圧母線 MCC 2D																																																																															
		可搬型代替交流電源		非常用低圧母線 MCC 2D																																																																															
		125V 充電器 2A																																																																																	
125V 充電器 2B																																																																																			
所内常設蓄電式直流電源設備		125V 充電器 2A-1																																																																																	
常設代替直流電源設備		125V 充電器 2B-1																																																																																	
		125V 充電器 2A																																																																																	
		125V 充電器 2B																																																																																	
		125V 充電器 2A-1																																																																																	
		125V 充電器 2B-1																																																																																	
		125V 充電器 2A																																																																																	
可搬型代替直流電源設備	125V 充電器 2B																																																																																		
	125V 充電器 2A-1																																																																																		
	125V 充電器 2B-1																																																																																		
	125V 充電器 2A																																																																																		
	125V 充電器 2B																																																																																		
	125V 充電器 2A-1																																																																																		
対象条文	供給対象設備	給電元																																																																																	
		設 備	母 線																																																																																
【1.11】 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等	使用済燃料ピット監視設備（監視計器）	常設代替交流電源設備	3F監視設備電源盤																																																																																
		可搬型代替交流電源設備	3F監視設備電源盤																																																																																
		所内常設蓄電式直流電源設備	日一A設備直流電源分機盤 日一B設備交流電源分機盤																																																																																
		可搬型代替直流電源設備	日一A設備直流電源分機盤 日一B設備交流電源分機盤																																																																																
		計装用電源*	非常用交流電源設備 非常用直流電源設備	日二ー計装用交流分機盤																																																																															

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

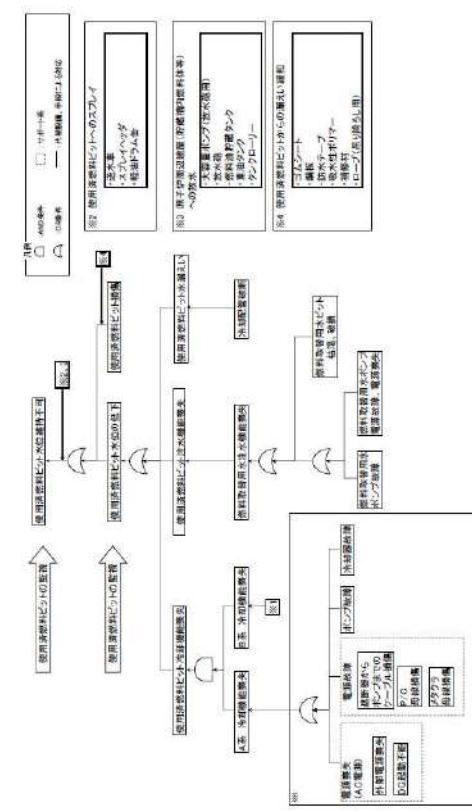
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>大阪発電所3/4号炉</p> <p>第 1.11.1.1 図 機能喪失原因対策分析（使用済燃料ピットの冷却機能又は注水機能の喪失時、使用済燃料ピット水の小規模な漏えい発生時）</p>	<p>女川原子力発電所2号炉</p> <p>第 1.11-1 図 機能喪失原因対策分析</p>	<p>泊発電所3号炉</p> <p>第 1.11.1 図 機能喪失原因対策分析</p>	<p>相違理由</p> <p>【大阪】記載方針の相違（女川審査実績の反映）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フロントライン系の故障等を赤点線、サポート系の故障等を青点線で枠囲い。 ・対応手段を緑枠（実線、点線）とした。 ・故障想定箇所を×印で記載。

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p>第 1.11.2 図 機能喪失原因対策分析（使用済燃料ピットからの大量の水の漏えい発生時）</p>	<p>（この欄は空欄です）</p>	<p>大飯3/4号炉との比較対象は泊3号炉の第1.11.1図参照</p>	<p>【大飯】記載方針の相違 ・泊は、小規模な漏えい発生時と大量の水の漏えい発生時の機能喪失原因対策分析を第1.11.1図に記載することで女川に合わせた整理とした。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="741 416 1352 1059" style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> <p data-bbox="741 1086 1317 1134">第1.11-2図 非常時操作手順書(微候ベース)「SFP水位・温度制御」における対応フロー</p> <div data-bbox="992 1145 1352 1174" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p data-bbox="992 1145 1335 1174">枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p> </div>	<div data-bbox="1464 767 1912 815" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> <p data-bbox="1464 767 1912 815">女川2号炉との比較対象なし</p> </div>	<p data-bbox="2018 667 2085 691">【女川】</p> <p data-bbox="2018 695 2141 719">記載方針の相違</p> <ul data-bbox="2018 724 2166 895" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="2018 724 2166 751">・ 泊の対応手順フローは重大事故等時の対応手段選択フローチャートにて示す。 <li data-bbox="2018 756 2166 783">(大飯と同様)

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

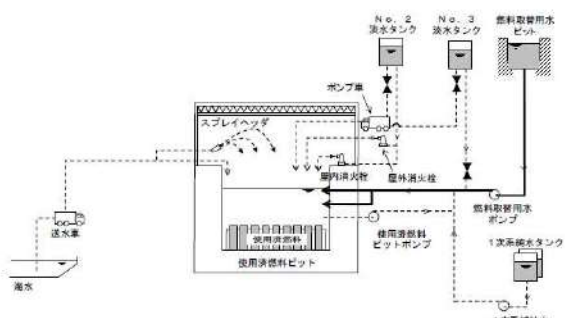
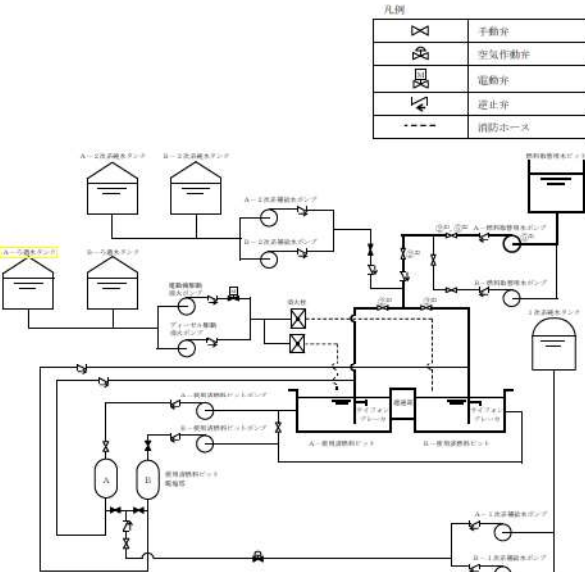
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="840 167 1243 686" style="border: 1px solid black; height: 325px; width: 180px; margin: 0 auto;"></div> <div data-bbox="840 694 1243 734" style="font-size: small; text-align: center;"> 第1.11-3(3) 非常時操作手順書（プラント停止中）「燃料プール冷却機能喪失（SEP）」における対応フロー </div> <div data-bbox="1008 750 1321 774" style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 2px;"> 特選みの内容は商業機密の観点から公開できません。 </div> <div data-bbox="840 821 1243 1332" style="border: 1px solid black; height: 320px; width: 180px; margin: 0 auto;"></div> <div data-bbox="840 1332 1243 1364" style="font-size: small; text-align: center;"> 第1.11-4(3) 非常時操作手順書（プラント停止中）「燃料プール冷却機能喪失（SEP）」における対応フロー </div> <div data-bbox="1008 1388 1321 1412" style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 2px;"> 特選みの内容は商業機密の観点から公開できません。 </div>	<div data-bbox="1467 766 1915 805" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 女川2号炉との比較対象なし </div>	<p>【女川】 記載方針の相違 ・泊の対応手順フローは重大事故等時の対応手段選択フローチャートにて示す。（大阪と同様）</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																															
 <p data-bbox="112 909 694 957">第 1.11.3 図 燃料取替用水ピットから使用済燃料ピットへの注水 概略系統</p>	<p data-bbox="828 766 1254 813" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">泊3号炉との比較対象なし</p>	 <table border="1" data-bbox="1747 399 1971 542"> <caption>凡例</caption> <tr> <td></td> <td>手動弁</td> </tr> <tr> <td></td> <td>空気作動弁</td> </tr> <tr> <td></td> <td>電動弁</td> </tr> <tr> <td></td> <td>逆止弁</td> </tr> <tr> <td></td> <td>消防ホース</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="1411 989 1948 1117"> <thead> <tr> <th>操作手順</th> <th>操作対象機器</th> <th>状態の変化</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①^{※1}</td> <td>A-燃料取替用水ポンプ出口弁</td> <td>全開→全閉</td> </tr> <tr> <td>②^{※2}</td> <td>使用済燃料ピット燃料取替用水ピット水補給弁</td> <td>全開→全開</td> </tr> <tr> <td>③^{※2}</td> <td>A-使用済燃料ピット補給弁^{※1}</td> <td>全開→全開</td> </tr> <tr> <td>④^{※2}</td> <td>B-使用済燃料ピット補給弁^{※1}</td> <td>全開→全開</td> </tr> <tr> <td>⑤^{※1}</td> <td>A-燃料取替用水ポンプ</td> <td>停止→起動</td> </tr> <tr> <td>⑥^{※2}</td> <td>A-燃料取替用水ポンプ出口弁</td> <td>全開→調整開</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1411 1117 1948 1149">※1～：同一操作手順番号内に複数の操作又は確認を実施する機器があることを示す。 ※2：どちらか一方を全開とする。</p> <p data-bbox="1388 1157 1971 1181">第 1.11.2 図 燃料取替用水ポンプによる使用済燃料ピットへの注水 概要図</p>		手動弁		空気作動弁		電動弁		逆止弁		消防ホース	操作手順	操作対象機器	状態の変化	① ^{※1}	A-燃料取替用水ポンプ出口弁	全開→全閉	② ^{※2}	使用済燃料ピット燃料取替用水ピット水補給弁	全開→全開	③ ^{※2}	A-使用済燃料ピット補給弁 ^{※1}	全開→全開	④ ^{※2}	B-使用済燃料ピット補給弁 ^{※1}	全開→全開	⑤ ^{※1}	A-燃料取替用水ポンプ	停止→起動	⑥ ^{※2}	A-燃料取替用水ポンプ出口弁	全開→調整開	<p data-bbox="2016 654 2150 861">【大飯】記載方針の相違（女川審査実績の反映） ・凡例を修正。 ・操作手順、操作対象機器、状態の変化を記載。</p>
	手動弁																																	
	空気作動弁																																	
	電動弁																																	
	逆止弁																																	
	消防ホース																																	
操作手順	操作対象機器	状態の変化																																
① ^{※1}	A-燃料取替用水ポンプ出口弁	全開→全閉																																
② ^{※2}	使用済燃料ピット燃料取替用水ピット水補給弁	全開→全開																																
③ ^{※2}	A-使用済燃料ピット補給弁 ^{※1}	全開→全開																																
④ ^{※2}	B-使用済燃料ピット補給弁 ^{※1}	全開→全開																																
⑤ ^{※1}	A-燃料取替用水ポンプ	停止→起動																																
⑥ ^{※2}	A-燃料取替用水ポンプ出口弁	全開→調整開																																

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

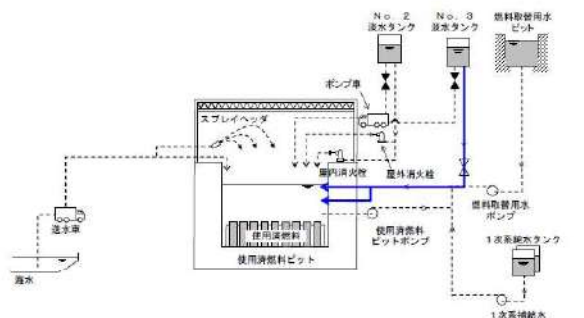
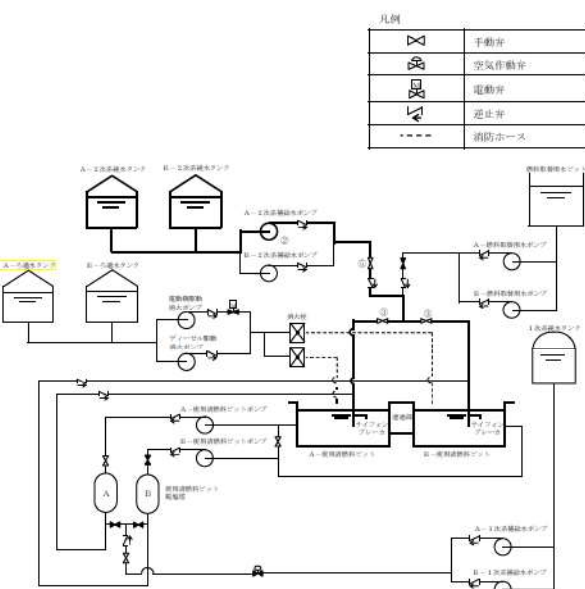
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>大飯発電所3/4号炉</p> <p>第 1.11.4 図 燃料取替用水ビットから使用済燃料ビットへの注水 タイムチャート</p>	<p>女川原子力発電所2号炉</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">泊3号炉との比較対象なし</p>	<p>泊発電所3号炉</p> <p>第 1.11.3 図 燃料取替用水ポンプによる使用済燃料ビットへの注水 タイムチャート</p>	<p>相違理由</p> <p>【大飯】記載方針の相違（女川審査実績の反映）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・操作手順と紐づけた。 ・各作業、操作の時間に余裕を見込んでいることを注記（※）として記載。 ・備考枠を追加。

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																									
 <p>第 1.11.5 図 No. 3 淡水タンクから使用済燃料ピットへの注水 概略系統</p>	<p>泊3号炉との比較対象なし</p>	 <table border="1" data-bbox="1747 430 1971 558"> <caption>凡例</caption> <tr><td>✕</td><td>手動弁</td></tr> <tr><td>⊠</td><td>空気作動弁</td></tr> <tr><td>⊡</td><td>電動弁</td></tr> <tr><td>⊢</td><td>遮断弁</td></tr> <tr><td>---</td><td>消防ホース</td></tr> </table> <table border="1" data-bbox="1411 1021 1937 1117"> <thead> <tr> <th>操作手順</th> <th>操作対象機器</th> <th>状態の変化</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>②</td> <td>A-2 次系補給水ポンプ</td> <td>起動確認</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>A-使用済燃料ピット補給弁*</td> <td>全開→全開</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>B-使用済燃料ピット補給弁*</td> <td>全開→全開</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>使用済燃料ピット配塩水補給弁</td> <td>全開→全閉</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 どちらか一方を全開とする。</p> <p>第 1.11.4 図 2 次系補給水ポンプによる使用済燃料ピットへの注水 概要図</p>	✕	手動弁	⊠	空気作動弁	⊡	電動弁	⊢	遮断弁	---	消防ホース	操作手順	操作対象機器	状態の変化	②	A-2 次系補給水ポンプ	起動確認	③	A-使用済燃料ピット補給弁*	全開→全開	④	B-使用済燃料ピット補給弁*	全開→全開	⑤	使用済燃料ピット配塩水補給弁	全開→全閉	<p>【大飯】記載方針の相違（女川審査実績の反映）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・凡例を修正。 ・操作手順、操作対象機器、状態の変化を記載。
✕	手動弁																											
⊠	空気作動弁																											
⊡	電動弁																											
⊢	遮断弁																											
---	消防ホース																											
操作手順	操作対象機器	状態の変化																										
②	A-2 次系補給水ポンプ	起動確認																										
③	A-使用済燃料ピット補給弁*	全開→全開																										
④	B-使用済燃料ピット補給弁*	全開→全開																										
⑤	使用済燃料ピット配塩水補給弁	全開→全閉																										

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>第 1.11.6 図 No. 3 淡水タンクから使用済燃料ピットへの注水 タイムチャート</p> <p>※1：稼働時間には防保員員専用時間を含む。</p>	<p>泊3号炉との比較対象なし</p>	<p>第 1.11.5 図 2次系補給水ポンプによる使用済燃料ピットへの注水 タイムチャート</p> <p>※1：稼働の稼働時間及び稼働時間に見込んだ時間 ※2：中央制御室から稼働操作場までの稼働時間及び稼働の稼働時間に見込んだ時間</p>	<p>【大飯】記載方針の相違（女川審査実績の反映）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・操作手順と紐づけた。 ・各作業、操作の時間に余裕を見込んでいることを注記(※)として記載。 ・備考枠を追加。

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉

【比較のため掲載順序入替え】

第 1.11.19 図 1次系純水タンクから使用済燃料ビットへの注水概略系統

手順の項目	要員(数)	経過時間(分)										備考		
		10	20	30	40	50	60	70	80	90	100			
1次系純水タンクから使用済燃料ビットへの注水	緊急安全対策要員(中央制御室) 1 緊急安全対策要員(現場) 2													

注：移動時間には防振器具着脱時間を含む。

第 1.11.20 図 1次系純水タンクから使用済燃料ビットへの注水タイムチャート

女川原子力発電所2号炉

泊3号炉との比較対象なし

泊発電所3号炉

相違理由

凡例

手動弁
空気作動弁
電動弁
逆止弁
消防ホース

第 1.11.6 図 1次系補給水ポンプによる使用済燃料ビットへの注水 概要図

操作手順	操作対象機器	状態の変化
②	A-1次系補給水ポンプ	起動確認
③ ¹⁾	A-使用済燃料ビット脱塩塔入口弁	全開→全閉
④ ²⁾	B-使用済燃料ビット脱塩塔入口弁	全開→全閉
⑤ ²⁾	使用済燃料ビット脱塩塔逆洗水絞り弁	調整閉確認
⑥ ²⁾	A-使用済燃料ビット脱塩塔逆洗水弁	全閉→全開
⑦ ²⁾	B-使用済燃料ビット脱塩塔逆洗水弁	全閉→全開
⑧ ²⁾	A-使用済燃料ビットフィルタ出口絞り弁	調整閉確認
⑨ ²⁾	B-使用済燃料ビットフィルタ出口絞り弁	調整閉確認
⑩	脱塩塔補給水止め弁	全閉→全開

①～：同一操作手順番号内に複数の操作又は確認を実施する機器があることを示す。

第 1.11.7 図 1次系補給水ポンプによる使用済燃料ビットへの注水 タイムチャート

手順の項目	要員(数)	経過時間(分)										備考		
		10	20	30	40	50	60	70	80	90	100			
1次系補給水ポンプによる使用済燃料ビットへの注水	運転員(現場) B													

注1：観測の操作時間及び動作時間には余裕を見込んだ時間
 注2：中央制御室から遠隔操作場所までの移動時間及び帰還の操作時間には余裕を見込んだ時間

【大阪】運用の相違(相違理由①)

【大阪】記載方針の相違(女川審査実績の反映)

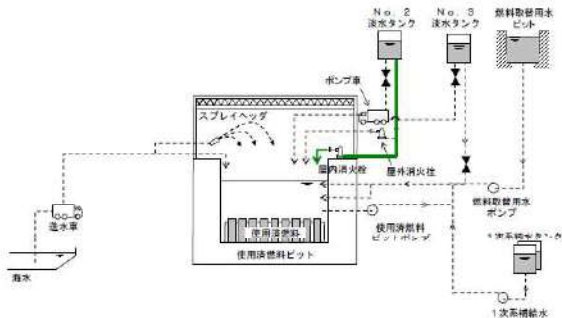
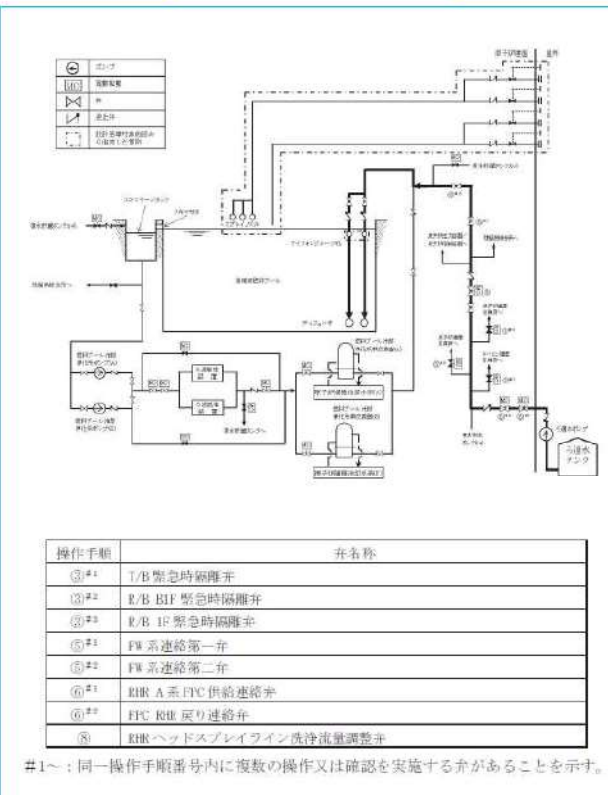
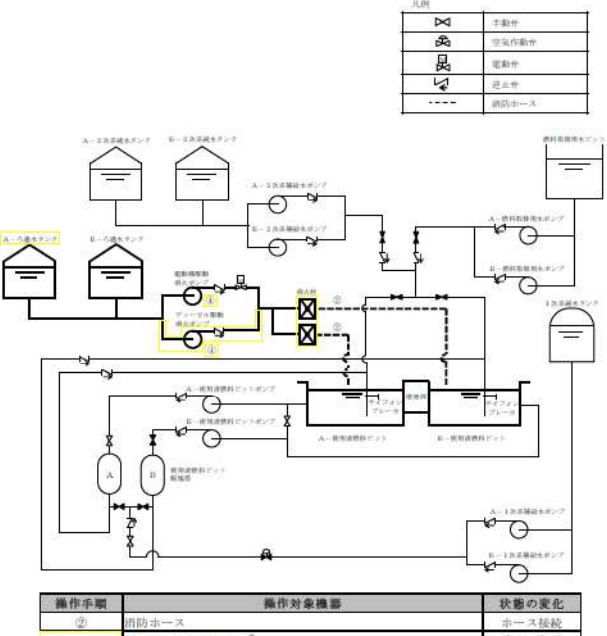
- ・凡例を修正。
- ・操作手順、操作対象機器、状態の変化を記載。

【大阪】記載方針の相違(女川審査実績の反映)

- ・操作手順と紐づけた。
- ・各作業、操作の時間に余裕を見込んでいることを注記(※)として記載。
- ・備考性を追加。

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																														
 <p>第 1.11.7 図 No. 2 淡水タンクから使用済燃料ピットへの注水（屋内消火栓） 概略系統</p>	<p style="text-align: center;">【比較のため掲載順序入替え】</p>  <table border="1" data-bbox="784 861 1321 1069"> <thead> <tr> <th>操作手順</th> <th>弁名称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①#1</td> <td>T/B 緊急時隔離弁</td> </tr> <tr> <td>②#2</td> <td>E/B BIF 緊急時隔離弁</td> </tr> <tr> <td>③#3</td> <td>E/B IF 緊急時隔離弁</td> </tr> <tr> <td>④#1</td> <td>FW 系連絡第一弁</td> </tr> <tr> <td>④#2</td> <td>FW 系連絡第二弁</td> </tr> <tr> <td>⑤#1</td> <td>RHR A 系 FIC 供給連絡弁</td> </tr> <tr> <td>⑥#2</td> <td>FIC RB 戻り連絡弁</td> </tr> <tr> <td>⑦</td> <td>RHRヘッドスプレイライン洗浄流量調整弁</td> </tr> </tbody> </table> <p>#1～：同一操作手順番号内に複数の操作又は確認を実施する弁があることを示す。</p> <p>第 1.11-11 図 ろ過水ポンプによる使用済燃料プールへの注水 概要図 残留熱除去系 (A) を経由して注水する場合</p>	操作手順	弁名称	①#1	T/B 緊急時隔離弁	②#2	E/B BIF 緊急時隔離弁	③#3	E/B IF 緊急時隔離弁	④#1	FW 系連絡第一弁	④#2	FW 系連絡第二弁	⑤#1	RHR A 系 FIC 供給連絡弁	⑥#2	FIC RB 戻り連絡弁	⑦	RHRヘッドスプレイライン洗浄流量調整弁	 <table border="1" data-bbox="1411 989 1971 1069"> <thead> <tr> <th>操作手順</th> <th>操作対象機器</th> <th>状態の変化</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>②</td> <td>消防ホース</td> <td>ホース接続</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>電動機駆動消火ポンプ*</td> <td>停止→起動</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディーゼル駆動消火ポンプ*</td> <td>停止→起動</td> </tr> </tbody> </table> <p>*：どちらか一方を起動する。</p> <p>第 1.11.8 図 電動機駆動消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプによる使用済燃料ピットへの注水 概要図</p>	操作手順	操作対象機器	状態の変化	②	消防ホース	ホース接続	④	電動機駆動消火ポンプ*	停止→起動		ディーゼル駆動消火ポンプ*	停止→起動	<p>【大飯】記載方針の相違（女川審査実績の反映） ・凡例を修正。 ・操作手順、操作対象機器、状態の変化を記載。</p>
操作手順	弁名称																																
①#1	T/B 緊急時隔離弁																																
②#2	E/B BIF 緊急時隔離弁																																
③#3	E/B IF 緊急時隔離弁																																
④#1	FW 系連絡第一弁																																
④#2	FW 系連絡第二弁																																
⑤#1	RHR A 系 FIC 供給連絡弁																																
⑥#2	FIC RB 戻り連絡弁																																
⑦	RHRヘッドスプレイライン洗浄流量調整弁																																
操作手順	操作対象機器	状態の変化																															
②	消防ホース	ホース接続																															
④	電動機駆動消火ポンプ*	停止→起動																															
	ディーゼル駆動消火ポンプ*	停止→起動																															

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="114 691 698 817" data-label="Figure"> </div> <div data-bbox="114 853 698 906" data-label="Caption"> <p>第 1.11.8 図 No. 2 冷水タンクから使用済燃料ピットへの注水（屋内消火栓） タイムチャート</p> </div>	<div data-bbox="741 671 1346 817" data-label="Figure"> </div> <div data-bbox="741 890 1346 911" data-label="Caption"> <p>第 1.11-12 図 水道ポンプによる使用済燃料プールへの注水 タイムチャート</p> </div>	<div data-bbox="1379 660 2004 831" data-label="Figure"> </div> <div data-bbox="1379 895 2004 954" data-label="Caption"> <p>第 1.11.9 図 電動機駆動消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプによる使用済燃料ピットへの注水 タイムチャート</p> </div>	<div data-bbox="2018 635 2168 949" data-label="Text"> <p>【大阪】 記載方針の相違（女川審査実績の反映） ・操作手順と紐づけた。 ・各作業、操作の時間に余裕を見込んでいることを注記（※）として記載。 ・備考枠を追加。</p> </div>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

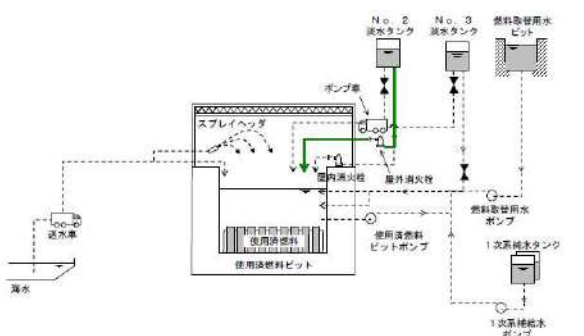
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="116 481 694 1008" style="border: 2px solid black; height: 330px; width: 258px; margin: 0 auto;"></div> <div data-bbox="107 1013 654 1093" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> <p>図面の範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。 第 1.11.9 図 No. 2 淡水タンクから使用済燃料ピットへのホース敷設ルート図（屋内消火栓）(2/2)</p> </div>	<div data-bbox="840 766 1249 810" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>泊3号炉との比較対象なし</p> </div>	<div data-bbox="1500 438 1818 1241" style="border: 2px solid black; height: 503px; width: 142px; margin: 0 auto;"></div> <div data-bbox="1870 459 1915 1279" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;"> <p>第 1.11.10 図 電動機駆動消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプによる使用済燃料ピットへの注水ホース敷設ルート図</p> </div>	<div data-bbox="1960 370 1993 837" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;"> <p>図面みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> </div>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																								
 <p>第 1.11.10 図 No. 2 淡水タンクから使用済燃料ビットへの注水（屋外消火栓） 概略系統</p> <table border="1" data-bbox="112 941 694 1069"> <thead> <tr> <th rowspan="2">手順の項目</th> <th rowspan="2">要員（数）</th> <th colspan="8">経過時間〔分〕</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>10</th> <th>20</th> <th>30</th> <th>40</th> <th>50</th> <th>60</th> <th>70</th> <th>80</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">No. 2 淡水タンクから使用済燃料ビットへの注水（屋外消火栓）</td> <td>緊急安全対策要員</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>稼働</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>注水開始</td> </tr> <tr> <td>要員</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>ホースの準備、設置</td> </tr> </tbody> </table> <p>※：稼働時間には防振器具着脱時間を含む。</p> <p>第 1.11.11 図 No. 2 淡水タンクから使用済燃料ビットへの注水（屋外消火栓） タイムチャート</p>	手順の項目	要員（数）	経過時間〔分〕								備考	10	20	30	40	50	60	70	80	No. 2 淡水タンクから使用済燃料ビットへの注水（屋外消火栓）	緊急安全対策要員					稼働				注水開始	要員									ホースの準備、設置		<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">大飯3/4号炉との比較対象なし</p>	<p>【大飯】設備の相違（相違理由②）</p>
手順の項目			要員（数）	経過時間〔分〕								備考																															
	10	20		30	40	50	60	70	80																																		
No. 2 淡水タンクから使用済燃料ビットへの注水（屋外消火栓）	緊急安全対策要員					稼働				注水開始																																	
	要員									ホースの準備、設置																																	

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

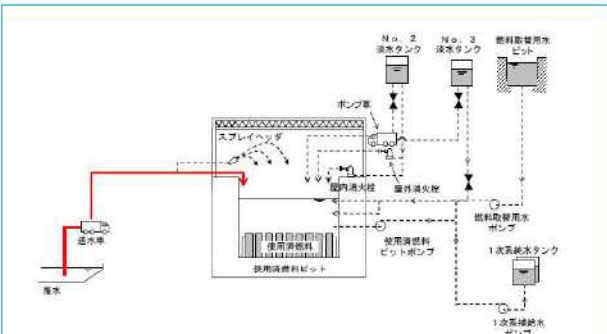
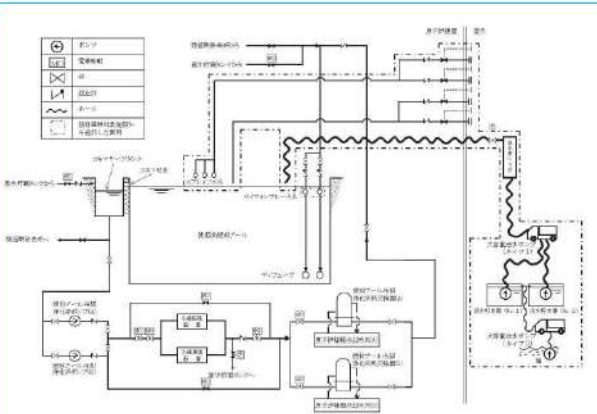
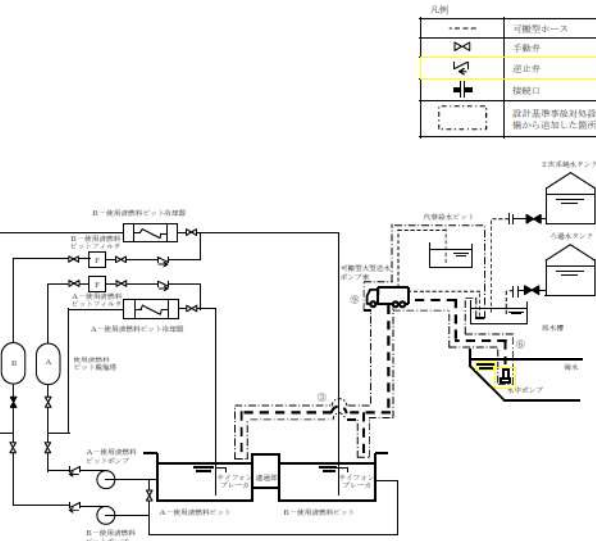
1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="129 162 685 673" style="border: 2px solid black; height: 320px; width: 248px;"></div> <div data-bbox="129 699 654 721" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 特開みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。 </div> <div data-bbox="129 727 654 778"> 第1.11.12図 No. 2 淡水タンクから使用済燃料ピットへのホース敷設ルート図（屋外消火栓）(1/2) </div> <div data-bbox="129 826 685 1343" style="border: 2px solid black; height: 324px; width: 248px;"></div> <div data-bbox="129 1347 654 1369" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 特開みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。 </div> <div data-bbox="129 1375 654 1426"> 第1.11.12図 No. 2 淡水タンクから使用済燃料ピットへのホース敷設ルート図（屋外消火栓）(2/2) </div>		<div data-bbox="1429 769 1944 810" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 大飯3/4号炉との比較対象なし </div>	<div data-bbox="2020 753 2168 804" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 【大飯】 設備の相違（相違理由②） </div>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																												
<p style="text-align: center;">【比較のため、掲載順序入れ替え】</p>  <p style="text-align: center;">第 1.11.21 図 海水から使用済燃料ピットへの注水 概略系統</p>	<p style="text-align: center;">【比較のため、掲載順序入れ替え】</p>  <table border="1" data-bbox="772 981 1299 1037"> <thead> <tr> <th>操作手順</th> <th>予名称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>燃料ボール注水・スプレイ（可搬型）弁</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">第 1.11-9 図 燃料ボール代替注水系（可搬型） 概要図</p>	操作手順	予名称	①	燃料ボール注水・スプレイ（可搬型）弁	 <table border="1" data-bbox="1803 446 1993 574"> <thead> <tr> <th colspan="2">凡例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>---</td> <td>可搬型ホース</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>手動弁</td> </tr> <tr> <td>△</td> <td>逆止弁</td> </tr> <tr> <td>+</td> <td>接続口</td> </tr> <tr> <td>---</td> <td>設計基準準拠対応設備から追加した箇所</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1411 997 1960 1077"> <thead> <tr> <th>操作手順</th> <th>操作対象機器</th> <th>状態の変化</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>可搬型ホース</td> <td>ホース接続</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>可搬型ホース</td> <td>ホース接続</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>可搬型大型送水ポンプ車</td> <td>停止→起動</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">第 1.11.11 図 海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水 概要図</p>	凡例		---	可搬型ホース	○	手動弁	△	逆止弁	+	接続口	---	設計基準準拠対応設備から追加した箇所	操作手順	操作対象機器	状態の変化	①	可搬型ホース	ホース接続	②	可搬型ホース	ホース接続	③	可搬型大型送水ポンプ車	停止→起動	<p>【大飯】記載方針の相違（女川審査実績の反映）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・凡例を修正。 ・操作手順、操作対象機器、状態の変化を記載。
操作手順	予名称																														
①	燃料ボール注水・スプレイ（可搬型）弁																														
凡例																															
---	可搬型ホース																														
○	手動弁																														
△	逆止弁																														
+	接続口																														
---	設計基準準拠対応設備から追加した箇所																														
操作手順	操作対象機器	状態の変化																													
①	可搬型ホース	ホース接続																													
②	可搬型ホース	ホース接続																													
③	可搬型大型送水ポンプ車	停止→起動																													

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉

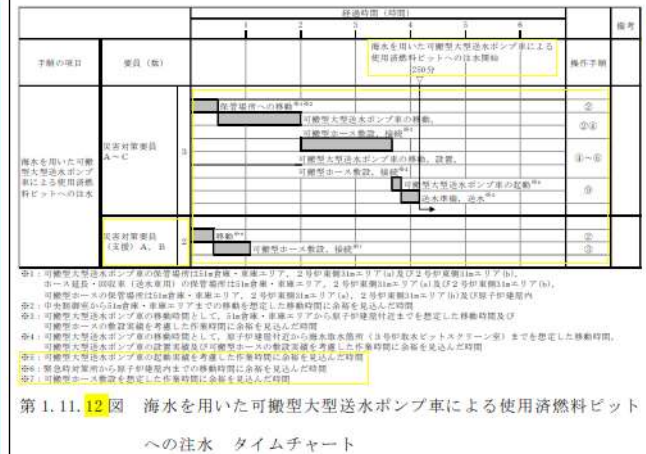
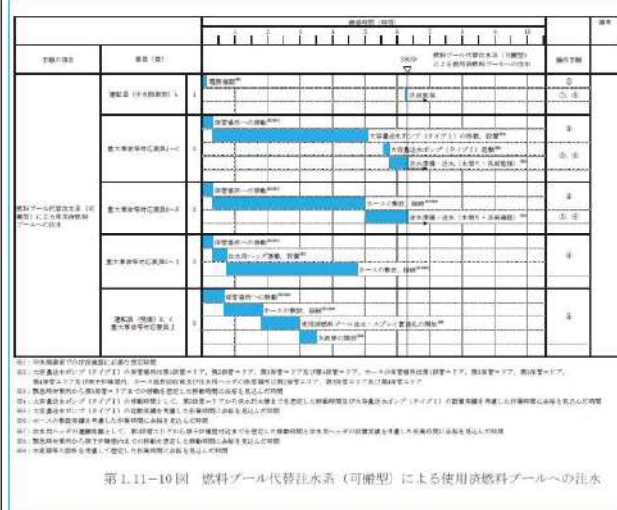
女川原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

相違理由

【比較のため、掲載順序入れ替え】

【比較のため、掲載順序入れ替え】



【大飯】記載方針の相違（女川審査実績の反映）

- ・操作手順と紐づけた。
- ・各作業、操作の時間に余裕を見込んでいることを注記（※）として記載。
- ・可搬型設備の保管場所を注記（※）として記載。
- ・備考枠を追加。

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: center;">【比較のため、掲載順序入れ替え】</p> <div style="border: 2px solid black; width: 90%; margin: 20px auto; height: 400px;"></div> <p style="font-size: small;">枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p> <p>第1.11.28図 海水から使用済燃料ピットへのホース敷設ルート図（1/6）</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">泊3号炉との比較対象なし</div>	<div style="border: 2px solid black; width: 90%; margin: 20px auto; height: 400px;"></div> <p style="font-size: small;">第1.11.13図 海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水 ホース敷設ルート図（1/2）</p>	<div style="border: 1px solid black; width: 15px; height: 15px; margin: 0 auto;"></div> <p style="font-size: x-small;">：枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: center;">【比較のため、掲載順序入れ替え】</p> <div style="border: 2px solid black; width: 100%; height: 100%; margin: 10px 0;"></div> <p style="font-size: small;">特開みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p> <p>第1.11.23図 海水から使用済燃料ピットへのホース敷設ルート図（2/6）</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 50%; margin: auto;"> 泊3号炉との比較対象なし </div>	<div style="border: 2px solid black; width: 100%; height: 100%; margin: 10px 0;"></div> <p style="font-size: small; text-align: right;">第1.11.13図 海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水 ホース敷設ルート図（2/2）</p>	<p style="font-size: small;">特開みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: center;">【比較のため、掲載順序入れ替え】</p> <div style="border: 2px solid black; width: 250px; height: 450px; margin: 20px auto;"></div> <p style="font-size: small;">枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。 第 1.11.23 図 海水から使用済燃料ピットへのホース敷設ルート 図 (3/6)</p>		<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 20px auto;"> 大飯3/4号炉との比較対象は 泊3号炉の第 1.11.13 図参照 </div>	

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: center;">【比較のため、掲載順序入れ替え】</p> <div style="border: 2px solid black; width: 100%; height: 100%; margin: 10px 0;"></div> <p style="font-size: small;">枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。 第 1.11.23 図 海水から使用済燃料ピットへのホース敷設ルート 図 (4/6)</p>		<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;"> 大飯3/4号炉との比較対象は 泊3号炉の第 1.11.13 図参照 </div>	

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: center;">【比較のため、掲載順序入れ替え】</p> <div style="border: 2px solid black; width: 250px; height: 450px; margin: 20px auto;"></div> <p>枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p> <p>第1.11.23図 海水から使用済燃料ピットへのホース敷設ルート 図（5/6）</p>		<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 20px auto;"> 大飯3/4号炉との比較対象は 泊3号炉の第1.11.13図参照 </div>	

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: center;">【比較のため、掲載順序入れ替え】</p> <div style="border: 2px solid black; width: 250px; height: 450px; margin: 20px auto;"></div> <p style="font-size: small;">枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p> <p style="font-size: small;">第 1.11.23 図 海水から使用済燃料ピットへのホース敷設ルート 図 (6/6)</p>		<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 20px auto;"> 大飯3/4号炉との比較対象は 泊3号炉の第 1.11.13 図参照 </div>	

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）



1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																				
<p>第 1.11.13 図 ポンプ車による No. 3 淡水タンクから使用済燃料ピットへの注水 概略系統</p>	<p>泊3号炉との比較対象なし</p>	<table border="1" data-bbox="1803 438 2004 574"> <tr> <td>止弁</td> <td>止弁</td> </tr> <tr> <td>可搬型ホース</td> <td>可搬型ホース</td> </tr> <tr> <td>接続口</td> <td>接続口</td> </tr> <tr> <td>設計基準事故対応設備から追加した装置</td> <td>設計基準事故対応設備から追加した装置</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="1411 1013 1960 1093"> <thead> <tr> <th>操作手順</th> <th>操作対象機器</th> <th>状態の変化</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>②</td> <td>可搬型ホース</td> <td>ホース接続</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>可搬型ホース</td> <td>ホース接続</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>可搬型大型送水ポンプ車</td> <td>停止→起動</td> </tr> </tbody> </table> <p>第 1.11.14 図 代替給水ピットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水 概要図</p>	止弁	止弁	可搬型ホース	可搬型ホース	接続口	接続口	設計基準事故対応設備から追加した装置	設計基準事故対応設備から追加した装置	操作手順	操作対象機器	状態の変化	②	可搬型ホース	ホース接続	③	可搬型ホース	ホース接続	④	可搬型大型送水ポンプ車	停止→起動	<p>【大飯】記載方針の相違（女川審査実績の反映）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・凡例を修正。 ・操作手順、操作対象機器、状態の変化を記載。
止弁	止弁																						
可搬型ホース	可搬型ホース																						
接続口	接続口																						
設計基準事故対応設備から追加した装置	設計基準事故対応設備から追加した装置																						
操作手順	操作対象機器	状態の変化																					
②	可搬型ホース	ホース接続																					
③	可搬型ホース	ホース接続																					
④	可搬型大型送水ポンプ車	停止→起動																					

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p>第 1.11.14 図 ポンプ車による No. 3 淡水タンクから使用済燃料ビットへの注水 タイムチャート</p>	<p>泊3号炉との比較対象なし</p>	 <p>第 1.11.15 図 代替給水ビットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ビットへの注水 タイムチャート</p>	<p>【大飯】記載方針の相違（女川審査実績の反映）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・操作手順と紐づけた。 ・各作業、操作の時間に余裕を見込んでいることを注記（※）として記載。 ・可搬型設備の保管場所を注記（※）として記載。 ・備考枠を追加。

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="114 360 701 1114" style="border: 2px solid black; height: 472px; width: 262px;"></div> <p data-bbox="141 1114 658 1136">特開みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p> <p data-bbox="141 1142 658 1193">第1.11.15図 ポンプ車によるNo.3淡水タンクから使用済燃料ビットへのホース敷設ルート図（1/2）</p>	<p data-bbox="837 770 1245 810" style="border: 1px solid black; text-align: center;">泊3号炉との比較対象なし</p>	<div data-bbox="1379 376 1883 1118" style="border: 2px solid black; height: 465px; width: 225px;"></div> <p data-bbox="1906 352 1951 1145" style="writing-mode: vertical-rl;">第1.11.16図 代替給水ビットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ビットへの注水ホース敷設ルート図（1/2）</p> <p data-bbox="1966 300 1995 743" style="writing-mode: vertical-rl;">特開みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

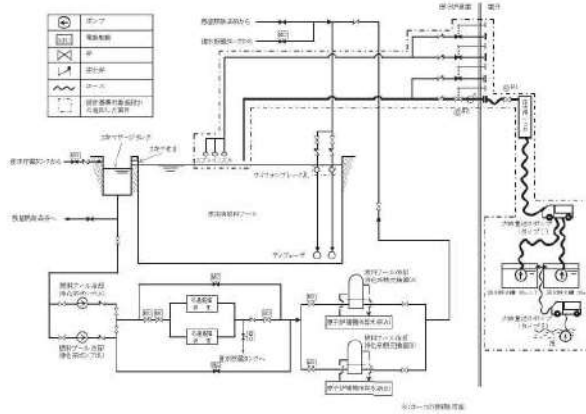
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="112 375 698 1125" style="border: 2px solid black; height: 470px; width: 262px;"></div> <div data-bbox="138 1129 651 1150" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。 </div> <div data-bbox="138 1158 651 1209"> 第1.11.15 図 ポンプ車によるNo. 3 淡水タンクから使用済燃料ピットへのホース敷設ルート図（2/2） </div>	<div data-bbox="837 767 1247 810" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 泊3号炉との比較対象なし </div>	<div data-bbox="1469 379 1809 1121" style="border: 2px solid black; height: 465px; width: 152px;"></div> <div data-bbox="1865 367 1912 1185" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;"> 第1.11.16 図 代替給水ピットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水ホース敷設ルート図（2/2） </div>	<div data-bbox="1962 308 1989 767" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; border: 1px solid black; padding: 2px;"> 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。 </div>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																		
	 <table border="1" data-bbox="784 686 1321 766"> <thead> <tr> <th>操作手順</th> <th>弁名称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①^{※1}</td> <td>燃料ゾール注水・スアレイ（常設配管）弁</td> </tr> <tr> <td>②^{※2}</td> <td>原子炉建屋東側燃料ゾール代替注水弁弁</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1～：同一操作手順番号内に複数の操作又は確認を実施する弁があることを示す。</p> <p>第 1.11-5 図 燃料ゾール代替注水系（常設配管） 概要図</p> <table border="1" data-bbox="750 909 1355 1197"> <thead> <tr> <th rowspan="2">手順の項目</th> <th rowspan="2">実行（時）</th> <th colspan="12">作業時間（分）</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th>6</th><th>7</th><th>8</th><th>9</th><th>10</th><th>11</th><th>12</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">燃料ゾール代替注水系（常設配管）による燃料貯蔵槽への注水</td> <td>燃料貯蔵槽への注水開始</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵槽への注水停止</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵槽への注水再開</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵槽への注水再開</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> <td>④</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵槽への注水再開</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> <td>⑤</td> </tr> </tbody> </table> <p>第 1.11-6 図 燃料ゾール代替注水系（常設配管）による使用済燃料貯蔵槽への注水タイムチャート</p>	操作手順	弁名称	① ^{※1}	燃料ゾール注水・スアレイ（常設配管）弁	② ^{※2}	原子炉建屋東側燃料ゾール代替注水弁弁	手順の項目	実行（時）	作業時間（分）												備考	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	燃料ゾール代替注水系（常設配管）による燃料貯蔵槽への注水	燃料貯蔵槽への注水開始															①	燃料貯蔵槽への注水停止															②	燃料貯蔵槽への注水再開															③	燃料貯蔵槽への注水再開															④	燃料貯蔵槽への注水再開															⑤	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">女川2号炉との比較対象なし</p>	<p>【女川】設備の相違（相違理由①）</p>
操作手順	弁名称																																																																																																																				
① ^{※1}	燃料ゾール注水・スアレイ（常設配管）弁																																																																																																																				
② ^{※2}	原子炉建屋東側燃料ゾール代替注水弁弁																																																																																																																				
手順の項目	実行（時）	作業時間（分）												備考																																																																																																							
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12																																																																																																								
燃料ゾール代替注水系（常設配管）による燃料貯蔵槽への注水	燃料貯蔵槽への注水開始															①																																																																																																					
	燃料貯蔵槽への注水停止															②																																																																																																					
	燃料貯蔵槽への注水再開															③																																																																																																					
	燃料貯蔵槽への注水再開															④																																																																																																					
	燃料貯蔵槽への注水再開															⑤																																																																																																					

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

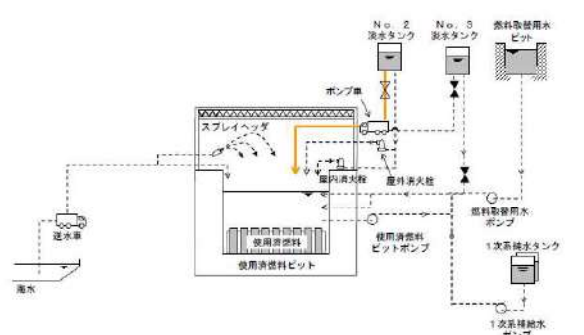
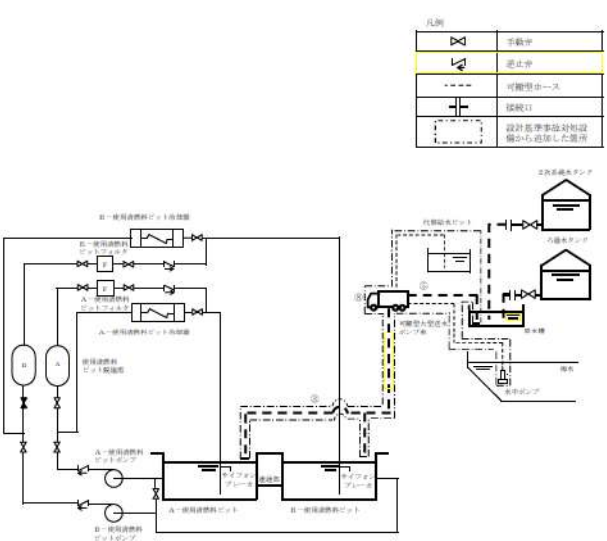
大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>第1.11-7図 燃料プール代替注水系（常設配管）による使用済燃料プールへの注水タイムチャート</p>		
	<p>第1.11-8図 燃料プール代替注水系（常設配管）による使用済燃料プールへの注水タイムチャート</p>	<p>【女川】設備の相違（相違理由①）</p>	

女川2号炉との比較対象なし

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）



1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																						
 <p>第 1.11.16 図 ポンプ車による No. 2 淡水タンクから使用済燃料ピットへの注水 概略系統</p>	<p>泊3号炉との比較対象なし</p>	 <table border="1" data-bbox="1780 446 1982 582"> <caption>凡例</caption> <tr><td></td><td>手動で</td></tr> <tr><td></td><td>停止弁</td></tr> <tr><td></td><td>可搬型ホース</td></tr> <tr><td></td><td>接続口</td></tr> <tr><td></td><td>設計基準等とは別記述から追加した箇所</td></tr> </table> <table border="1" data-bbox="1411 1005 1948 1085"> <thead> <tr> <th>操作手順</th> <th>操作対象機器</th> <th>状態の変化</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>②</td> <td>可搬型ホース</td> <td>ホース接続</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>可搬型ホース</td> <td>ホース接続</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>可搬型大型送水ポンプ車</td> <td>停止→起動</td> </tr> </tbody> </table> <p>第 1.11.17 図 原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水 概要図</p>		手動で		停止弁		可搬型ホース		接続口		設計基準等とは別記述から追加した箇所	操作手順	操作対象機器	状態の変化	②	可搬型ホース	ホース接続	③	可搬型ホース	ホース接続	④	可搬型大型送水ポンプ車	停止→起動	<p>【大飯】記載方針の相違（女川審査実績の反映）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・凡例を修正。 ・操作手順、操作対象機器、状態の変化を記載。
	手動で																								
	停止弁																								
	可搬型ホース																								
	接続口																								
	設計基準等とは別記述から追加した箇所																								
操作手順	操作対象機器	状態の変化																							
②	可搬型ホース	ホース接続																							
③	可搬型ホース	ホース接続																							
④	可搬型大型送水ポンプ車	停止→起動																							

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p>第1.11.17図 ポンプ車によるNo. 2淡水タンクから使用済燃料ピットへの注水 タイムチャート</p>	<p>泊3号炉との比較対象なし</p>	 <p>第1.11.18図 原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水 タイムチャート</p>	<p>【大飯】記載方針の相違（女川審査実績の反映）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・操作手順と紐づけた。 ・各作業、操作の時間に余裕を見込んでいることを注記（※）として記載。 ・可搬型設備の保管場所を注記（※）として記載。 ・備考枠を追加。

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="112 391 698 1141" style="border: 2px solid black; height: 470px; width: 262px;"></div> <div data-bbox="138 1145 656 1222" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>特囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。 第1.11.18図 ポンプ車によるNo.2淡水タンクから使用済燃料ピットへのホース敷設ルート図（1/2）</p> </div>	<div data-bbox="842 767 1252 810" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>泊3号炉との比較対象なし</p> </div>	<div data-bbox="1384 391 1904 1184" style="border: 2px solid black; height: 497px; width: 232px;"></div> <div data-bbox="1899 416 1948 1166" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>第1.11.19図 原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水ホース敷設ルート図（1/2）</p> </div>	<div data-bbox="1966 323 1989 783" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>特囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> </div>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

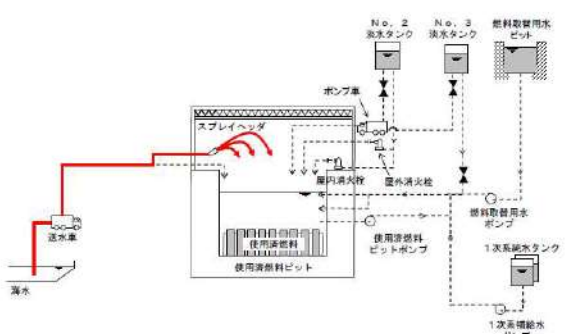
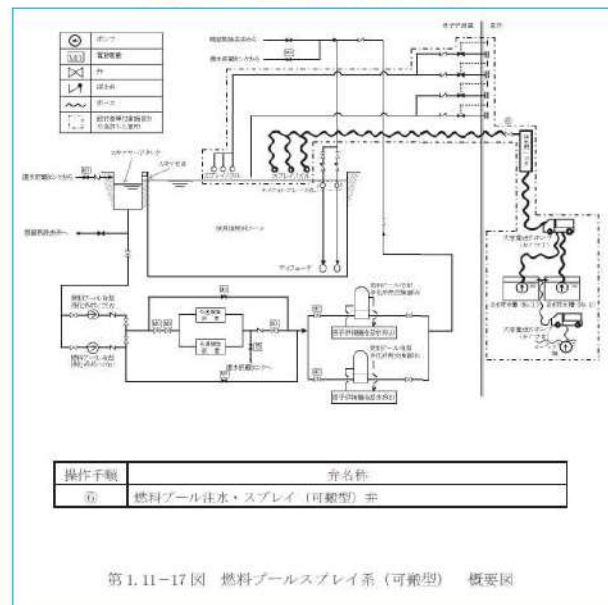
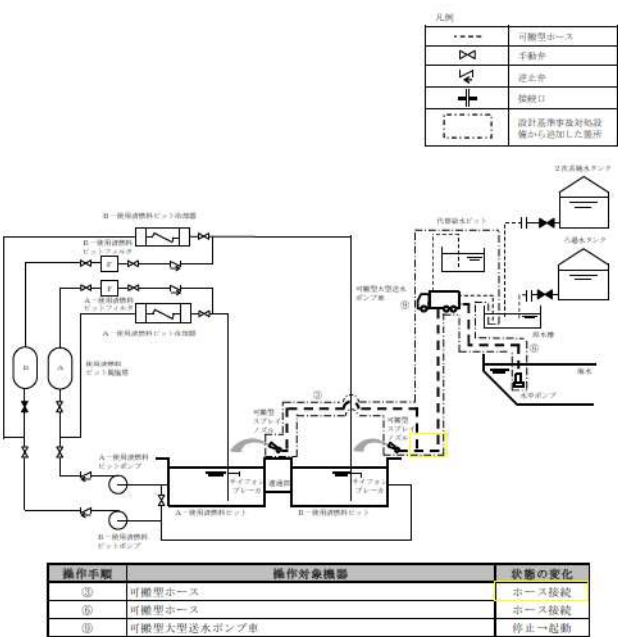
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="120 395 696 1145" style="border: 2px solid black; height: 470px; width: 257px;"></div> <div data-bbox="152 1145 672 1225" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。 第1.11.18図 ポンプ車によるNo.2淡水タンクから使用済燃料ピットへのホース敷設ルート図(2/2)</p> </div>	<div data-bbox="842 770 1252 813" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>泊3号炉との比較対象なし</p> </div>	<div data-bbox="1464 411 1800 1161" style="border: 2px solid black; height: 470px; width: 150px;"></div> <div data-bbox="1868 421 1921 1171" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>第1.11.19図 原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ピットへの注水ホース敷設ルート図(2/2)</p> </div> <div data-bbox="1966 325 1998 785" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> </div>	

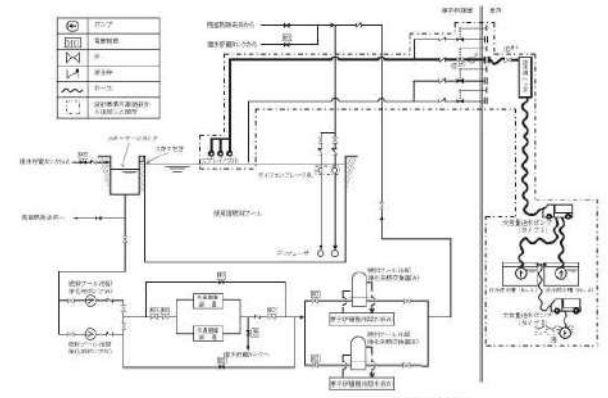

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																												
 <p>第 1.11.25 図 送水車による使用済燃料ピットへのスプレイ 概略系統</p>	<p style="text-align: center;">【比較のため、掲載順序入れ替え】</p>  <table border="1" data-bbox="784 925 1299 989"> <thead> <tr> <th>操作手順</th> <th>弁名称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>⑦</td> <td>燃料プール注水・スプレイ（可搬型）弁</td> </tr> </tbody> </table> <p>第 1.11-17 図 燃料プールのスプレイ系（可搬型） 概要図</p>	操作手順	弁名称	⑦	燃料プール注水・スプレイ（可搬型）弁	 <table border="1" data-bbox="1792 446 1982 574"> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>---</td> <td>可搬型ホース</td> </tr> <tr> <td>△</td> <td>手動弁</td> </tr> <tr> <td>▽</td> <td>遠止弁</td> </tr> <tr> <td>+</td> <td>接続口</td> </tr> <tr> <td>□</td> <td>設計基準中並対応設備から追加した箇所</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1411 989 1960 1069"> <thead> <tr> <th>操作手順</th> <th>操作対象機器</th> <th>状態の変化</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>③</td> <td>可搬型ホース</td> <td>ホース接続</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>可搬型ホース</td> <td>ホース接続</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>可搬型大型送水ポンプ車</td> <td>停止→起動</td> </tr> </tbody> </table> <p>第 1.11.20 図 海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレイノズルによる使用済燃料ピットへのスプレイ 概要図</p>	凡例		---	可搬型ホース	△	手動弁	▽	遠止弁	+	接続口	□	設計基準中並対応設備から追加した箇所	操作手順	操作対象機器	状態の変化	③	可搬型ホース	ホース接続	④	可搬型ホース	ホース接続	⑤	可搬型大型送水ポンプ車	停止→起動	<p>【大飯】記載方針の相違（女川審査実績の反映）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・凡例を修正。 ・操作手順、操作対象機器、状態の変化を記載。
操作手順	弁名称																														
⑦	燃料プール注水・スプレイ（可搬型）弁																														
凡例																															
---	可搬型ホース																														
△	手動弁																														
▽	遠止弁																														
+	接続口																														
□	設計基準中並対応設備から追加した箇所																														
操作手順	操作対象機器	状態の変化																													
③	可搬型ホース	ホース接続																													
④	可搬型ホース	ホース接続																													
⑤	可搬型大型送水ポンプ車	停止→起動																													

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由						
	 <table border="1" data-bbox="784 686 1299 766"> <thead> <tr> <th>操作手順</th> <th>平名称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①¹⁾</td> <td>燃料プール注水・スプレー（常設配管）弁</td> </tr> <tr> <td>②²⁾</td> <td>原子炉建屋車側燃料プールスプレー元弁</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="750 774 1321 798">#1～：同一操作手順番号内に複数の操作又は確認を実施する弁があることを示す。</p> <p data-bbox="828 853 1254 877">第1.11-13図 燃料プールスプレー系（常設配管） 概要図</p>  <p data-bbox="828 1308 1299 1348">第1.11-14図 燃料プールスプレー系（常設配管）による使用済燃料プールへのスプレータイムチャート</p>	操作手順	平名称	① ¹⁾	燃料プール注水・スプレー（常設配管）弁	② ²⁾	原子炉建屋車側燃料プールスプレー元弁	<p data-bbox="1456 766 1904 813" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">女川2号炉との比較対象なし</p>	<p data-bbox="2016 750 2161 805">【女川】設備の相違（相違理由①）</p>
操作手順	平名称								
① ¹⁾	燃料プール注水・スプレー（常設配管）弁								
② ²⁾	原子炉建屋車側燃料プールスプレー元弁								

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="739 311 1332 614"> </div> <div data-bbox="739 614 1332 710"> <p>①：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ②：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ③：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ④：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ⑤：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ⑥：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ⑦：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ⑧：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ⑨：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ⑩：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ⑪：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ⑫：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ⑬：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ⑭：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ⑮：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ⑯：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ⑰：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ⑱：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ⑲：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ⑳：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ㉑：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ㉒：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ㉓：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ㉔：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ㉕：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ㉖：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ㉗：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ㉘：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ㉙：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ㉚：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ㉛：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ㉜：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ㉝：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ㉞：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ㉟：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ㊱：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ㊲：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ㊳：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ㊴：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ㊵：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ㊶：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ㊷：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ㊸：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ㊹：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ㊺：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ㊻：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ㊼：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ㊽：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ㊾：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る ㊿：燃料貯蔵槽内の燃料貯蔵槽に冷却水を送る</p> </div> <div data-bbox="739 710 1332 758"> <p>第1.11-15図 横断ブールスプレイ系（常設配管）による使用済燃料プールへのスプレイタイムチャート</p> </div>	<div data-bbox="1456 766 1904 813" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>女川2号炉との比較対象なし</p> </div>	<p>【女川】設備の相違（相違理由①）</p>

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="107 571 696 758"> </div> <div data-bbox="107 790 638 853"> <p>第 1.11.26 図 送水車による使用済燃料ピットへのスプレイ タイムチャート</p> </div>	<div data-bbox="750 550 1348 890"> </div> <div data-bbox="772 997 1288 1045"> <p>第 1.11-18 図 燃料プールのスプレイ系（可搬型）による使用済燃料プールへのスプレイ タイムチャート</p> </div>	<div data-bbox="1377 502 1993 837"> </div> <div data-bbox="1377 1013 1993 1077"> <p>第 1.11.21 図 海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレインゾルによる使用済燃料ピットへのスプレイ タイムチャート</p> </div>	<p>【大飯】記載方針の相違（女川審査実績の反映）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・操作手順と組つけた。 ・各作業、操作の時間に余裕を見込んでいることを注記（※）として記載。 ・可搬型設備の保管場所を注記（※）として記載。 ・備考欄を追加。

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="116 379 698 1125" style="border: 2px solid black; height: 467px; width: 260px; margin: 0 auto;"></div> <p data-bbox="116 1129 654 1152">枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p> <p data-bbox="116 1158 654 1209">第1.11.27図 送水車による使用済燃料ピットへのスプレイへのホース敷設ルート図（1/12）</p>	<div data-bbox="846 767 1252 810" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 0 auto;"> 泊3号炉との比較対象なし </div>	<div data-bbox="1384 379 1899 1161" style="border: 2px solid black; height: 490px; width: 230px; margin: 0 auto;"></div> <p data-bbox="1899 400 1951 1094" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;"> 第1.11.22図 海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレイノズルによる使用済燃料ピットへのスプレイホース敷設ルート図（1/2） </p>	<p data-bbox="1966 284 1989 746" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;"> 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。 </p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="114 373 696 1126" style="border: 2px solid black; height: 472px; width: 260px; margin: 0 auto;"></div> <div data-bbox="109 1129 651 1150" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> 枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。 </div> <div data-bbox="109 1158 651 1211" style="margin-top: 5px;"> 第 1.11.27 図 送水車による使用済燃料ピットへのスプレーへのホース敷設ルート図 (2/12) </div>	<div data-bbox="842 767 1252 810" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 泊3号炉との比較対象なし </div>	<div data-bbox="1442 424 1794 1190" style="border: 2px solid black; height: 480px; width: 157px; margin: 0 auto;"></div> <div data-bbox="1865 475 1921 1169" style="text-align: center; margin-top: 10px;"> 第 1.11.22 図 海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレーノズルによる使用済燃料ピットへのスプレー ホース敷設ルート図 (2/2) </div>	<div data-bbox="1962 346 1995 807" style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。 </div>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="114 371 703 1129" style="border: 2px solid black; height: 475px; width: 263px; margin: 0 auto;"></div> <p data-bbox="114 1129 656 1153">枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p> <p data-bbox="114 1161 656 1209">第1.11.27図 送水車による使用済燃料ピットへのスプレイへのホース敷設ルート図（8/12）</p>		<div data-bbox="1424 738 1964 871" style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> 大飯3/4号炉との比較対象は 泊3号炉の第1.11.22図参照 </div>	

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="120 371 698 1129" style="border: 2px solid black; height: 475px; width: 258px;"></div> <p data-bbox="114 1134 663 1155">枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p> <p data-bbox="114 1166 663 1217">第1.11.27図 送水車による使用済燃料ピットへのスプレイへのホース敷設ルート図（4/12）</p>		<div data-bbox="1422 683 1962 813" style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> 大飯3/4号炉との比較対象は 泊3号炉の第1.11.22図参照 </div>	

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="120 384 696 1129" style="border: 2px solid black; height: 467px; width: 257px;"></div> <p data-bbox="114 1129 654 1152">枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p> <p data-bbox="114 1158 654 1209">第1.11.27図 送水車による使用済燃料ピットへのスプレイへのホース敷設ルート図（5/12）</p>		<div data-bbox="1417 719 1957 852" style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> 大飯3/4号炉との比較対象は 泊3号炉の第1.11.22図参照 </div>	

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="120 379 696 1123" style="border: 2px solid black; height: 466px; width: 257px;"></div> <div data-bbox="116 1129 651 1209" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。 第1.11.27図 送水車による使用済燃料ピットへのスプレイへのホース敷設ルート図（6/12）</p> </div>		<div data-bbox="1424 743 1964 871" style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>大飯3/4号炉との比較対象は 泊3号炉の第1.11.22図参照</p> </div>	

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="120 384 696 1123" style="border: 2px solid black; height: 463px; width: 257px;"></div> <div data-bbox="112 1123 649 1149" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p> </div> <div data-bbox="112 1152 649 1208" style="padding: 2px;"> <p>第 1.11.27 図 送水車による使用済燃料ピットへのスプレイへのホース敷設ルート図（7/12）</p> </div>		<div data-bbox="1420 730 1960 860" style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>大飯3/4号炉との比較対象は 泊3号炉の第 1.11.22 図参照</p> </div>	

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="120 379 698 1129" style="border: 2px solid black; height: 470px; width: 258px; margin: 10px auto;"></div> <div data-bbox="112 1129 654 1152" style="font-size: small; border: 1px solid black; padding: 2px;"> 枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。 </div> <div data-bbox="112 1161 654 1216" style="font-size: small;"> 第1.11.27図 送水車による使用済燃料ピットへのスプレイへのホース敷設ルート図 (S/12) </div>		<div data-bbox="1420 721 1960 853" style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> 大飯3/4号炉との比較対象は 泊3号炉の第1.11.22図参照 </div>	

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="116 376 698 1129" style="border: 2px solid black; height: 472px; width: 260px; margin: 0 auto;"></div> <p data-bbox="116 1134 654 1153">特図みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p> <p data-bbox="116 1163 654 1214">第 1.11.27 図 送水車による使用済燃料ピットへのスプレイへのホース敷設ルート図 (9/12)</p>		<div data-bbox="1413 743 1951 871" style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> 大飯3/4号炉との比較対象は 泊3号炉の第 1.11.22 図参照 </div>	

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="114 376 696 1129" style="border: 2px solid black; height: 472px; width: 260px; margin: 0 auto;"></div> <p data-bbox="114 1134 651 1153">枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p> <p data-bbox="114 1163 651 1214">第1.11.27図 送水車による使用済燃料ピットへのスプレイへのホース敷設ルート図（10/12）</p>		<div data-bbox="1429 711 1964 842" style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> 大飯3/4号炉との比較対象は 泊3号炉の第1.11.22図参照 </div>	

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="120 379 696 1125" style="border: 2px solid black; height: 467px; width: 257px; margin: 0 auto;"></div> <div data-bbox="114 1125 656 1150" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> <p>枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p> </div> <div data-bbox="114 1155 656 1209" style="margin-top: 5px;"> <p>第1.11.27図 送水車による使用済燃料ピットへのスプレイへのホース敷設ルート図（11/12）</p> </div>		<div data-bbox="1420 719 1962 852" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 0 auto; text-align: center;"> <p>大飯3/4号炉との比較対象は 泊3号炉の第1.11.22図参照</p> </div>	

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

灰色：女川2号炉の記載のうち、BWR固有の設備や対応手段であり、泊3号炉と比較対象とならない記載内容

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="120 379 698 1125" style="border: 2px solid black; height: 467px; width: 258px; margin: 0 auto;"></div> <p data-bbox="120 1129 654 1150">枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p> <p data-bbox="120 1158 654 1209">第1.11.27図 送水車による使用済燃料ピットへのスプレイへのホース敷設ルート図 (12/12)</p>		<div data-bbox="1429 721 1964 853" style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> 大飯3/4号炉との比較対象は 泊3号炉の第1.11.22図参照 </div>	